

る者と雖も代位相続を爲すことを得るや  
 長子相続の起源  
 相続法上に於ける胎兒の地位  
 家族に非ずして相続人に指定せられたる者の戸主権の取得  
 留保と遺留分  
 家族制度と長子相続  
 婿養子の相続権に就て  
 被相続人を死に致したる者の刑の確定前爲したる行為の效力  
 被相続人を死に致したる者の刑の確定前爲したる行為の效力  
 遺留分の規定に違反したる財産留保の效力  
 代位相続に就て  
 民法第九七三條の意義  
 法定推定家督相続人の復縁と廢除の取消  
 復縁と廢除取消との關係を

- 森 榮〔新聞〕四三六 年 卷 三二九
- 岡村 司〔京法〕四四〇 二 一 二
- 牧野菊之助〔法政〕四四〇 二 三
- 牧野菊之助〔志林〕四四二 一〇
- 掛下重次郎〔明學〕四四二 一 二 一
- 石阪音四郎〔京法〕四四二 三 二 二
- 大原 早利〔新聞〕四四二 一 四九二
- 乃川 覺治〔新聞〕四四二 一 四九四
- 阪口 去水〔新聞〕四四二 一 四九六
- 杉野菊之助〔志林〕四四二 二 一〇
- 梅 謙次郎〔志林〕四四二 二 一三
- 島田 鐵吉〔新聞〕四四二 二 一
- A S 生〔新聞〕四四二 一 六九四

論ず  
 復縁と廢除取消との關係論に付て  
 家督相続人の指定に付て  
 承祖相続  
 家督相続人たる胎兒を論ず  
 家督相続回復請求權拋棄の契約  
 家督相続回復請求權は拋棄することを得ざる乎  
 仲繼相続に付て  
 相続人選定の必要と戸主たる親族一人のみ存する場合  
 法定推定家督相続人の廢除及他家入籍後に於ける廢除の取消及復縁と相続權の回復  
 家督相続人選定の爲めの親族會に就て  
 分家より復縁せし者その他の卑屬との相続争  
 分家より復縁したる者その他の卑屬間の相続順位

- 齋藤 巖〔新聞〕四四二 一 七〇六
- 渡邊菊之助〔新聞〕四四二 一 七五
- 牧野菊之助〔評論〕六二二 一〇
- 柳川 勝二〔評論〕六三三 一三
- 松本 丞治〔新聞〕六三三 二四 一
- 牧野菊之助〔新聞〕六三三 二四 八
- 横山勝太郎〔辯協〕六三三 一八 一九
- 牧野菊之助〔評論〕六四四 四
- 牧野菊之助〔新聞〕六四二 五 八
- 牧野菊之助〔新聞〕六四二 五 九
- 大橋 誠一〔新聞〕六四二 一〇〇八 一
- 大橋 誠一〔辯協〕六五二 一〇九四

家督相続人排斥の方法及效力  
 相続權回復、後見人免職、親族會決議の無効又は取消、身分關係確定の訴と事物の管轄  
 他人の養子たると同時に被相続人の家族たる直系卑屬と家督相続の順位  
 我が家督相続法と英國の 一八八二年の Settled Land Act  
 民法施行前法定の推定家督相続人他家に入り其後該單身戸主死亡して家督相続開始したるも絶家と爲らざる場合と家及財産の處分方  
 家督相続人たる婿養子の離縁と其效力に就て  
 胎兒と代位相続  
 胎兒と代位承相続論を讀み大橋君に質す  
 推定家督相続人たる身分を

- 菱川 憲正〔新聞〕六五 年 卷 二二四 號 二二五
- 牧野菊之助〔新報〕六六二 七
- 乾 政彦〔志林〕六六一 七
- 松崎藏之助〔國家〕六六三 一八九
- 牧野菊之助〔新報〕六六二 九
- 神谷 健夫〔法論〕六七 一 八
- 大橋 誠一〔新聞〕六七 一 四五四
- 三 枝 生〔新聞〕六七 一 四六二

回復せざる廢除取消の訴に就て  
 家督相続人選定の親族會の存続を論ず  
 代位相続法沿革一斑  
 家督相続開始と相続人選定との間に於ける權義の歸屬  
 被相続人の爲したる納税と家督相続人の公民資格との關係  
 胎兒の家督相続に關する地位  
 家督相続と胎兒  
 法定の推定家督相続人たる婿養子なる者は男子を養子と爲すことを得ざるや  
 女戸主の法定推定家督相続人たる私生子と認知  
 被廢除者の指定及び選定に就て  
 相続缺格とその宥恕  
 推定家督相続人廢除の效力  
 朝鮮の慣習上男子なき者死

- 齋藤 巖〔新聞〕六七 一 三三三
- 齋藤 巖〔新聞〕六七 一 三三二
- 中田 薰〔法協〕六七 三 二
- 穂積 重遠〔新報〕六八二 二
- 關口健一郎〔國家〕六九三 二
- 長島 毅〔新報〕六九三 三
- 白旗 文一〔新聞〕六九 一 一六七四
- 鈴木 久作〔新聞〕六九 一 四一七 一 四一八
- 島田 鐵吉〔新報〕六〇三 一 八
- 中川善之助〔法政〕六〇二 一 八
- 中川善之助〔法協〕六二四 一 五六
- 鬼澤藏之助〔法政〕六一九 九



亡したる場合に於ける  
相續順位に就いて  
私生子の認知と女戸主の法定推定家督相續人に就て  
民法第九八六條と同第一〇  
〇一條との解釋に付き通説に反す  
法定の推定家督相續人は認知に因りて父の家に入るか  
農業嫌忌と廢除に關する東京控訴院判決の批評  
民法第九八六條と倫理との調和  
未成年者と相續人の指定及轉籍の能力に關する宮城控訴院判例批判  
家督相續回復請求權  
分家の法定推定家督相續人が本家相續を爲す場合に於ける廢除手續の要否  
相續人廢除に關する裁判管轄權に就て  
最近の一大審院判決に對す

金 膺 植	〔朝司〕大二年二卷五號
藤井 清治	〔新聞〕大二年二二〇
藤井 清治	〔新聞〕大二年二二〇
藤井 清治	〔新聞〕大二年二二〇
長島 毅	〔法曹〕大二年一
荒木 櫻洲	〔新聞〕大二年一三三二
松倉慶三郎	〔新聞〕大二年一三三三
荒木 櫻洲	〔新聞〕大二年一三三三
中島 玉吉	〔法叢〕大四年二
三谷錦太郎	〔正義〕大四年一六
福井才一郎	〔新聞〕大四年一三四七

る疑問（相續人指定の遺言を無視せる親族會議の效力に付いて）  
相續人指定の遺言を無視せる親族會議の效力に就て  
廢嫡の原因止みたるの意義に就いて  
家督相續權の順位に就いて  
福井才一郎〔新聞〕大五年一三五七

【家内工業】 參照 苦汗制度。  
勞働問題の上より見たる家内工業  
家内工業と工場工業  
英國家内工業制度の變遷の現況  
家中工業に就て  
家内工業管見

中川善之助	〔法政〕大五年三三
菰淵 清雄	〔法政〕大五年三三
中川善之助	〔法曹〕大五年四
福井才一郎	〔新聞〕大五年一三五七
氣賀 勘重	〔國經〕明四年二二三
河津 遼	〔日經〕明四年二七
關 一	〔國經〕明四年七一
瀧本 誠一	〔經叢〕大五年二
上田貞次郎	〔商經〕大六年一七
杉山 義夫	〔洋經〕大九年一四九〇
土屋 喬雄	〔經論〕大五年一四

【加奈陀】

朽内學士著「舊加賀藩地制制度」を讀みての雜感  
南亞憲法草案と加奈陀及瀛洲聯邦憲法  
加奈陀の移民問題  
加奈陀排日案の運命  
加奈陀の異民族問題  
加奈陀現時の移民  
加奈陀下院總選舉の意義  
聯邦加奈陀の研究  
加奈陀の國際的地位  
刮目すべき加奈陀の經濟的發展  
米加互惠協定の過去未來  
加奈陀の保險業法改正案  
加奈陀に於ける生命保險事業の現況及其概評  
加奈陀保險法の綱領  
加奈陀に於ける最近經濟事情

福田 德三	〔國經〕大元年三三號
江木 翼	〔法協〕明四年二七
米田 實	〔外時〕大三年二〇
渡邊 誠吾	〔外時〕大四年二二五三
米田 實	〔國經〕大七年一〇
高田 熊雄	〔國經〕大八年二六
臘山 政道	〔新報〕大二年三三
森口 繁治	〔法叢〕大二年一〇
小山精一郎	〔外時〕大三年三六
田中 穂積	〔外時〕明四年一三
田中 穂積	〔外時〕明四年一四
麻生義一郎	〔保雜〕明四年一六九
武井 俊夫	〔保評〕大六年一〇
武井 俊次	〔保評〕大六年一〇
原田 龍平	〔長彙〕大二年三十四

【金】

加奈陀銀行制度の概要  
加奈陀工業紛議調査法實績  
社會政策より觀たる加奈陀官營年金制度  
英領加奈陀に於ける勞働組合運動概況  
加奈陀製鋼職工罷業の顛末  
印度に於ける金貨業者  
高利貸業の新現象  
札差に就きて

青木 一夫	〔銀叢〕大四年四六
堀江 歸一	〔三學〕大三年六
松崎 壽	〔三學〕大五年一〇
水上鐵治郎	〔社政〕大二年一三六
大江 武男	〔社政〕大三年一四五
津島 壽一	〔法協〕明四年二九
黒澤 和雄	〔東經〕明五年六六
幸田 成友	〔三學〕大四年九八

【株】 株式を見よ  
【金】 株式を見よ  
【株】 株式を見よ



【株式】

参照 株式會社。株主總會。株式取引所。社債。優先株。利益配當。

株式の性質  
株金の拂戻を論ず  
株金の拂込に就て  
株式競賣に因りて生じたる  
餘剰金の歸屬權利者に就  
て  
競賣に依り株式を取得した  
る者か次回の拂込を爲さ  
ざる場合に於ける前株主  
及其讓渡人の擔保義務に  
就て  
記名株式の質入  
株式の消却  
株式讓渡人の責任消滅を防  
ぐ方法  
株金の拂込は必ず金錢を以  
てするを要することを論  
ず  
株金不拂に因る株主の失權  
に就て  
會社の自己の株式の取得を

論ず  
記名株式に付き設定したる  
質權實行方法如何  
商法第一五三條の競賣  
株金拂込に就て  
株式讓渡人の責任に就て  
株金の拂込に就て  
記名株式讓渡の禁止  
株式の競賣  
所謂權利株賣の無効  
株式競賣に就て  
「一時に株金の金額を拂込  
むべき場合に限り株式の  
金額を二十圓までに下す  
ことを得」との條文の意  
義  
株金の拂込に就て  
記名株式の擔保に就て  
所謂權利株の賣買に就て  
相續に因る株式の取得は果  
して會社の定款を以て禁  
止するを得べき乎  
株式の性質並に會社存在中  
の株式と會社解散後の株

- 松本 丞治 [志林] 四七 六 五五
- 櫻 蔭 [新聞] 四七 一 二〇五
- 清家 宇吉 [新聞] 四八 一 二八六
- 三橋 久美 [法協] 四九 一〇 九
- 毛戸 勝元 [法政] 四九 一〇 九
- 三橋 久美 [明學] 四九 一〇 一
- 松波仁一郎 [明學] 四九 一〇 三
- 平井彦三郎 [新聞] 四九 一 三五八
- 松波仁一郎 [新聞] 四九 一 三五八
- 飯島 喬平 [法協] 四九 二 二

- 志田鈿太郎 [國經] 四〇 三 二
- 岩井 尊文 [法協] 四〇 二 五 八
- 石原 三郎 [志林] 四〇 九 一〇
- 原 嘉道 [辯協] 四〇 一 一〇九

- 一柳 貞吉 [新聞] 四〇 一 四一六

式との差異  
募集設立に於ける有價物の  
出資  
定款の規定により奪ふ事を  
得る株主權と然らざる株  
主權  
株式會社破産後に於ける株  
金の拂込  
商法第一五三條第三項の場  
合にも第四四條第二項の  
適用ありや  
記名株式を目的とする質權  
の實行に就て  
會社の合併と株主の權利  
株券と債券  
權利株の賣買は果して株式  
讓渡の豫約なりや  
株式消却の爲めにする權利  
株の賣買は有効なりや  
株式社債の發行及引受  
株主の固有權を論ず  
優先株主の優先權は均一な  
ることを要するや  
優先株に就て

權利株の賣買と不法原因の  
給付に就て  
大株主の壓迫に對する小株  
主權利の保全  
株式投資の理由  
株式法産業組合法萬國會議  
混水株の弊害を論ず  
株式會社の自己の株式の取  
得に就て  
約束手形を以てする株式の  
拂込  
商法第一五三條第二項の二  
週間は發着何れの日より  
起算すべき歟  
權利株の賣買と民法第七〇  
八條の適用に就て  
會社解散の際に於ける未拂  
込金を對する處置  
株式讓渡人は會社の資本減  
少の決議に對して第三者  
に非ず  
無記名株券に就て  
優先株の種類及性質  
株主の拂込に益金を充當す

- 梅 謙次郎 [志林] 四一 二 二
- 和仁 貞吉 [志林] 四一 一〇 三
- 和仁 貞吉 [志林] 四一 一〇 六
- 加藤 正治 [志林] 四一 一〇 二〇
- 西脇 晋 [志林] 四二 一〇 二
- 飯島 喬平 [法協] 四二 三六 二
- 森 作太郎 [新聞] 四二 一 四七四
- 雨 夜 亨 [東經] 四二 五七 一四二
- 山口 弘一 [國經] 四二 六 五
- 西脇 晋 [志林] 四二 一一 五
- 戸田 海市 [國經] 四二 九 一三
- 竹田 省 [京法] 四二 五 七
- 和仁 貞吉 [志林] 四二 二 七
- 鳩山 一郎 [辯協] 四二 三 一三
- 西脇 晋 [志林] 四三 二 九
- ロジャリス [新聞] 四三 一 六六二
- 服部 春一 [東經] 四三 六 一五六
- 毛戸 勝元 [京法] 四三 六 二
- 海老原竹之助 [國經] 四三 二 四
- 西脇 晋 [志林] 四三 三 八九
- 黒澤 龍濱 [東經] 四三 三 一五九
- 松澤常四郎 [新聞] 四四 一 七二
- 吉野千代吉 [新聞] 四四 一 七二
- 花岡 敏夫 [新聞] 四四 一 七四七
- 森 作太郎 [新聞] 四四 一 七四八
- 佐藤 雄能 [東經] 四四 六 五
- 佐藤 雄能 [東經] 四四 六 五
- 佐藤 雄能 [東經] 四四 六 五



る方法

國民經濟上に於ける株式界の地位を論ず

株式名義書換に關する委任

狀全廢論に就て

株式放棄論

記名株の譲渡に付て

株式の種類

株式の消却

株券未發行の株式の譲渡に付て

白紙委任狀附株券の流通を論じて株券の裏書に及ぶ

拂込未済株金の整理法

第一回及資本増加の場合の拂込株金

我商法に於ける株金拂込請求權と株式質權との關係を論じ英國會社の Lien on shares の觀念に及ぶ

株式會社の自己株式取得の禁止に就て

佐藤 雄能〔東經〕四四五 六六 一六五 號

丹羽 豊〔東經〕四四五 六六 一六七

大橋萬太郎〔東經〕四四五 六六 一六七

黒澤 和雄〔東經〕四四五 六六 一六七

竹田 省〔新報〕六二二 三三 八

上田貞次郎〔國經〕六二二 三三 八

西本辰之助〔三學〕六二二 三三 八

松本 丞治〔志林〕六二二 三三 八

毛戸 勝元〔京法〕六二二 三三 八

佐藤 雄能〔東經〕六二二 三三 八

佐藤 雄能〔東經〕六二二 三三 八

花岡 敏夫〔新報〕六三二 四六 六

烏賀陽然良〔京法〕六三二 四六 六

白紙委任狀附株券譲渡と株主の失權

白紙委任狀附記名株譲渡無効論に就き石坂博士に質す

株式の金額を論ず

株式會社應募超過額分當法

株式の消却

株式會社發行證券の性質

株式の消却

工的企業に於ける株式資本と株式資本と株式發行相場

記名株式の質權と失權の效果

記名株式の質權と失權の效果との關係に付商法の不備を論ず

株式失權後競賣手續完了前從前株主より株金拂込の申出ありたる時會社之を受領して失權株を從前株主に復活せしむることを

松本 丞治〔新聞〕六三二 一九三

猪股 洪清〔新聞〕六三二 一九三

佐藤 雄能〔東經〕六三二 一九三

佐藤 雄能〔東經〕六三二 一九三

富永藤兵衛〔東經〕六三二 一九三

丹羽 豊〔東經〕六三二 一九三

烏賀陽然良〔京法〕六三二 一九三

高垣寅次郎〔國經〕六四二 三六

花岡 敏夫〔新聞〕六四二 三六

花岡 敏夫〔新聞〕六四二 三六

花岡 敏夫〔國經〕六四二 三六

花岡 敏夫〔辯協〕六四二 三六

松波仁一郎〔法政〕六八二 一七

高根 義人〔辯協〕六八二 一七

原 嘉道〔辯協〕六九二 一七

佐藤 雄能〔會計〕六九二 一七

中村 茂男〔會計〕六九二 一七

增嶋 信吉〔會計〕六九二 一七

武田貞之助〔新聞〕六九二 一七

沙見 三郎〔經叢〕六九二 一七

武藤 山治〔經叢〕六九二 一七

眞野 毅〔辯協〕六九二 一七

大崎 範一〔會計〕六九二 一七

安田與四郎〔洋經〕六九二 一七

水口 吉藏〔新報〕六九二 一七

水口 吉藏〔新報〕六九二 一七

水口 吉藏〔新報〕六九二 一七

小池 國三〔東經〕六九二 一七

小池 國三〔東經〕六九二 一七

小池 國三〔東經〕六九二 一七

小池 國三〔東經〕六九二 一七

小池 國三〔東經〕六九二 一七

小池 國三〔東經〕六九二 一七

小池 國三〔東經〕六九二 一七

小池 國三〔東經〕六九二 一七

小池 國三〔東經〕六九二 一七

小池 國三〔東經〕六九二 一七

小池 國三〔東經〕六九二 一七

小池 國三〔東經〕六九二 一七

小池 國三〔東經〕六九二 一七

小池 國三〔東經〕六九二 一七

小池 國三〔東經〕六九二 一七

小池 國三〔東經〕六九二 一七

小池 國三〔東經〕六九二 一七

小池 國三〔東經〕六九二 一七

小池 國三〔東經〕六九二 一七

小池 國三〔東經〕六九二 一七

小池 國三〔東經〕六九二 一七

小池 國三〔東經〕六九二 一七

小池 國三〔東經〕六九二 一七

小池 國三〔東經〕六九二 一七

小池 國三〔東經〕六九二 一七

得るや

商法第一五一條と簿記計算

株式名義の書換

株主の株金拂込義務と消滅時効を論ず

株式の消却に就て

株券發行前に於ける株式の譲渡

額面以上の株式發行を論ず

株式の額面超過額と所得税

株式の額面超過額と所得税に關する普國、索遜及伊國の判例

新株のプレミアムに就て

額面以上の株式發行を論ず

株金第一回の拂込を論ず

株金拂込の延滞日歩に就て

株式募集及引受

記名株式の移轉と名義變換

株券發行前の株式の譲渡に就て

株式に就いて

白紙委任狀附株券の譲渡に就て

柳田宗一郎〔新聞〕六四二 一〇七 號

下野直太郎〔國經〕六五二 〇四

水口 吉藏〔國經〕六五二 〇四

谷口 嘉雄〔新聞〕六五二 〇四

竹田 省〔新報〕六六二 〇七

有賀 成可〔辯協〕六六二 〇七

眞野 毅〔法協〕六六二 〇七

毛戸 勝元〔京法〕六六二 〇七

毛戸 勝元〔京法〕六六二 〇七

中村 茂男〔國國〕六六二 〇七

佐藤 雄能〔東經〕六六二 〇七

佐藤 雄能〔東經〕六六二 〇七

富永藤兵衛〔東經〕六六二 〇七

佐藤 雄能〔東經〕六六二 〇七

西本辰五助〔三學〕六六二 〇七

泉田吉次郎〔新聞〕六七二 一四五 九

佐藤 雄能〔會計〕六七二 一四五 九

入江眞太郎〔新報〕六八二 二

入江眞太郎〔新報〕六八二 二

入江眞太郎〔新報〕六八二 二

入江眞太郎〔新報〕六八二 二

入江眞太郎〔新報〕六八二 二

入江眞太郎〔新報〕六八二 二

入江眞太郎〔新報〕六八二 二

入江眞太郎〔新報〕六八二 二

入江眞太郎〔新報〕六八二 二

入江眞太郎〔新報〕六八二 二

入江眞太郎〔新報〕六八二 二

入江眞太郎〔新報〕六八二 二

入江眞太郎〔新報〕六八二 二



他人名義株式擔保に就て  
株式打歩を準備金となすべ  
き時期  
株式發行割増金を論ず  
取締役の供託したる株券の  
性質  
株式金融論  
株式金融の研究  
議決權株  
株式市價と金融内景氣との  
關係  
株式の消却と資本との關係  
に就いて(松本博士の所  
論を駁す)  
銀爲替と株式と金融  
株式金融の方法及批判  
株式の消却を論ず  
株式の消却と資本との關係  
に就て(佐藤雄能君の所  
論に答ふ)  
名義株の配當は誰に課税さ  
れるか、及之に對する判  
例  
株式發行前に於ける株式讓

草島定太郎	〔銀研〕	六二	三	二
中島 精二	〔會計〕	六二	一〇	一
下野直太郎	〔商研〕	六二	〇	一
三谷錦太郎	〔辯協〕	六二	二七	一
荒木 秀一	〔銀研〕	六二	四	一
荒木 秀一	〔銀叢〕	六二	一	一六
西本辰之助	〔法研〕	六二	二	二四
池田 龍藏	〔銀研〕	六二	四	三
佐藤 雄能	〔會計〕	六二	三	三
丹羽 豊	〔銀叢〕	六二	一	三
荒木 秀一	〔銀叢〕	六二	一	三
吉川信太郎	〔法政〕	六二	二〇	四
松本 丞治	〔會計〕	六二	三	四
松野健太郎	〔會計〕	六二	三	四

渡の對抗條件  
白紙委任狀附株券の危險  
債務の擔保を目的として自  
社株式に付き締結する契  
約  
株金を拂込まざる株式引受  
人も他の者と等しく權利  
を行使することを得るや  
白紙委任狀附株券の危險を  
讀む  
金融統計の種類と株式  
被合併會社の清算所得と其  
株主の取得する拂込濟株  
式金額  
株式金融とコルマナー  
株式擔保に就て  
白紙委任狀附記各株式の讓  
渡性  
記名株券の喪失と公示催告  
株式金融政策  
大株整理問題  
株券法論  
株主責任に關する判例の研  
究

猪股 洪清	〔法治〕	六三	二	一
片山 千里	〔銀叢〕	六三	二	一
溪 淵 生	〔新聞〕	六三	一	二〇八九
齋藤 巖	〔新聞〕	六三	一	二五五
高木武比古	〔銀叢〕	六三	二	一
石卷 良夫	〔銀研〕	六三	六	二
織田 吉藏	〔會計〕	六三	二四	三
荒木 秀一	〔銀叢〕	六三	二	五
牧野清一郎	〔銀叢〕	六三	三	五
小野 久	〔辯協〕	六三	二八	五
太田 義繁	〔銀研〕	六三	七	六
荒木 秀一	〔銀叢〕	六三	三	一
長永 義正	〔財經〕	六三	二	一六
赤尾 元彦	〔早法〕	六三	三	一
濱田 德海	〔會計〕	六四	一六	一

利益を以てする株式の消却  
に就て  
無額面株式及轉化社債に就  
て  
本邦株式金融市場の構成  
商法第一五一條の研究(銀  
行が自己株を擔保として  
受領することに就て)  
株主の二重責任  
失權豫告附株金拂込催告に  
於ける拂込期間の起算點  
株配當の課税を論ず  
株主の失權と其株式の所屬  
株式現物業者の所得税改正  
希望  
投資物として公債、株券並  
に社債の優劣  
債券及び株券の保護預り業  
務  
新株の價格を論ず  
歳末株式の高潮と警戒要

三邊 金藏	〔三學〕	六四	一九	三
山本 俊麿	〔正義〕	六四	一	四
加藤 和根	〔銀叢〕	六四	四	二五
多田 喜一	〔法叢〕	六四	三	五
濱田 德海	〔會計〕	六四	一六	五
竹田 省	〔法叢〕	六四	二	六
稻森 實	〔經研〕	六四	二	二
岡村 玄治	〔法曹〕	六四	三	二〇
神戸 正雄	〔時經〕	六四	一	三〇
高城仙次郎	〔法研〕	六五	五	一
栗栖 越夫	〔イン〕	六五	三	二一六
原口 亮平	〔國經〕	六五	四〇	三
神戸 正雄	〔時經〕	六五	一	三三

社會問題の解決として株式  
會社を論ず  
現今經濟社會に於ける株式  
會社を論ず  
英國の有限責任會社(株式  
會社)に關する新法律  
發起人團體論  
株式會社組織の弊害に就て  
株式會社を論ず  
株式會社の支店に備付くへ  
き定款及總會の決議に付  
て  
株式會社の發達及立法  
經濟上の株式會社  
株式會社と營利事業  
株式會社の通弊  
株式會社の統計的研究  
株式會社の形式と實質  
株式會社に關する上田教授  
の論説を讀みて、附松波  
青木兩博士の起源論に就  
て  
獨逸に於ける株式會社利潤  
統計調査に就て

伊吹山徳司	〔國家〕	四三	一四	一六四
甲野 吉藏	〔明學〕	四三	一	三四
セリム	〔法記〕	四三	一五	一六〇
松波仁一郎	〔法政〕	四三	一〇	二
河津 暹	〔日經〕	四四	一	三一四
佐野 善作	〔國經〕	四四	四	三
河西善太郎	〔新聞〕	四四	一	四七九
松波仁一郎	〔國經〕	四四	七	二
福田 德三	〔東經〕	四四	三六〇	一五九
黒澤 龍濱	〔東經〕	四四	三六	一五四
久米 良作	〔新報〕	四四	二	五
福田 德三	〔統集〕	四五	一	三六七
上田貞次郎	〔國經〕	六二	一五	三
福田 德三	〔國經〕	六二	一五	五六
福田 德三	〔統集〕	六二	一	三九一



株式會社の三大奇觀	兒林百合松	〔東經〕六二六七	一六八
株式會社の起源に關して福田博士の教を請ふ	花岡 敏夫	〔國家〕六三二八	二
獨逸の有限責任會社と株式會社の比較並に其設立に就て	渡邊 鐵藏	〔法協〕六三三三	四
株式會社の起源に關する花岡學士の所説を讀む	松崎 壽	〔國家〕六三三八	四
株式會社論に就て福田博士に答ふ	上田貞次郎	〔國經〕六三一六	四
株式會社に於ける有限責任主義の經濟上の價值	關 一	〔新報〕六三二四	五
變態株式會社を論じて三井物産會社に及ぶ	福田 德三	〔財經〕六三一	五
花岡松崎兩氏の論文に就て株式會社の有限責任制度に就きて關博士に答ふ	福田 德三	〔國經〕六三一六	五
獨逸株式會社の營業成績	上田貞次郎	〔新報〕六三二四	九
大正三年下半年株式會社營業成績	本庄榮治郎	〔京法〕六三九	一〇
本邦株式會社企業の利潤に就て	渡邊 鐵藏	〔國家〕六四二九	九
獨逸株式會社の營業成績	渡邊 鐵藏	〔統集〕六四一	四〇七
	渡邊 鐵藏	〔國家〕六五三〇	一

株式會社整理論	毛戸 勝元	〔京法〕六五二一	一
株式會社の整理に就て	荒井誠一郎	〔法協〕六五三四	四
株式會社課税問題	町田 成美	〔國家〕六六三二	一三
支那に於て設立する日本株式會社に就て	柏田 忠一	〔亞經〕六六一	二
近世株式會社の起源に關する Lehmann の所説	小栗橋國道	〔京法〕六七三三	一
株式會社の起源に就て	上田貞次郎	〔國經〕六八二七	一
發起人團體の性質及設立行為との關係	猪股 洪清	〔國國〕六八七	六
株式會社起源考	阿部 秀助	〔三學〕六八三	二
株式會社法の改造	猪股 洪清	〔國國〕六八九	一
株式會社實務法	橋本 良平	〔商事〕六二二	一
株式會社資本組織の缺陷	兒林百合松	〔會計〕六一九	五
株式會社の起原及沿革と株式會社法の發達	平野義太郎	〔新報〕六一二	三
近世初期の英國株式會社に對するスコットの觀察	高木 壽一	〔三學〕六二七	一
株式會社の概念	猪股 洪清	〔辯協〕六二七	七
日本に於ける株式會社の起源	上田貞次郎	〔商研〕六二二	三
株式會社の一觀察	小林 茂	〔金融〕六三三	一

佛蘭西法に於ける勞働參加株式會社	西島彌太郎	〔法叢〕六三二	三
ミード氏著、株式會社財政論(第五版)	佐々木道雄	〔經論〕六三三	一
株式會社法と比例代表制度	田中 誠二	〔國家〕六三三六	一〇
米國に行はるゝ使用人を株主とする株式會社の政策に就て	吉川 義弘	〔商事〕六四四	五
株式會社の人格	前田卯之助	〔企社〕六四五	三
株式會社は其定款中に先取株に關する規定を設けることを得るや否を論ず	N N	〔法記〕四二七	四
株金の拂戻を論ず	杉本貞治郎	〔志林〕四三三	二
株金の拂込に就て	和仁 貞吉	〔志林〕四三四	三
株式引受の法律上の性質	松本 悉治	〔新報〕四三八	一
發起人の地位を論ず	鈴木雄次郎	〔新聞〕四三六	一
株式會社に於ける現物出資論	鈴木雄次郎	〔新聞〕四三八	一
株金の拂込に就て	三橋 久美	〔法協〕四三九	二
株金の拂込に就て	岩井 尊文	〔法協〕四四〇	二
株式會社不成立の場合に於ける發起人の責任	柏木 山人	〔志林〕四四〇	九

株式會社の發起行為に關する疑義	飯島 喬平	〔法協〕四四二	六
募集設立に於ける有價物の出資	和仁 貞吉	〔志林〕四四二	一〇
商法第三五條但書の注意(財産出資の場合)	和仁 貞吉	〔志林〕四四二	一〇
創立總會に於ける資本額變更の決議	片山 義勝	〔新報〕四四二	一八
發起人の性質及責任	西脇 晋	〔志林〕四四二	二〇
各株式に付き四分の一株金拂込は創立總會開催の前提條件なりや	和仁 貞吉	〔志林〕四四二	二二
設立前の株式會社の性質	石阪音四郎	〔京法〕四四二	四
無能力者による株式引受取消の會社設立に及ぼす効力	岡野敬次郎	〔新報〕四四二	一九
發起人論	服部 春一	〔東經〕四四二	六
株式會社發起人の責任に就て	竹田 省	〔京法〕四四二	五
株式會社の財産の評価に就て	岡野敬次郎	〔新報〕四四二	二
株式會社の機關と實際的運用に就て	上田貞次郎	〔國經〕四四二	一〇
株式會社發起人の利得を論ず			三



約束手形を以てする株式の拂込

有價物の出資に就て

株式會社の設立費用

發起人に此惡弊あり

會社の發起人に經營の責任ありや

英國會社法に於ける目論見書に關する發起人の責任

創立總會の權限に關する定款の規定

株式會社の現物出資を論ず

發起人の形式

株式會社の機關と其作用

株式會社の發起人が受くる特別の利益及報酬に就て

株式會社の現物出資を論ず

株式會社發起人の責任に就て

株式會社の創立總會の權限を論ず

出資義務に就て

株式會社に於ける金錢以外

上田貞次郎〔國經〕	四四二	五
黒澤 龍濱〔東經〕	四四六	一五九
高根 義人〔辯協〕	四四五	一六四
佐藤 雄能〔東經〕	四四五	一六六
海老原竹之助〔日經〕	六六二	一六七
丹羽 豊〔日經〕	六二二	一八
花岡 敏夫〔評論〕	六二二	一八
池田 秀雄〔新聞〕	六二二	一八八
鈴木富士彌〔辯協〕	六三二	一九〇
猪股 淇清〔新聞〕	六三二	一九二
渡邊 二郎〔國經〕	六四二	一九七
佐藤 雄能〔東經〕	六四二	一九八
佐藤 雄能〔東經〕	六四二	一九八
松波仁一郎〔新聞〕	六四二	一九七
松波仁一郎〔新報〕	六五二	一九六
烏賀陽然良〔京法〕	六六二	一九

の財産を以て出資の目的とする場合の會計問題

株式引受及第一回株金拂込の欠缺と創立總會終結

株式の引受又は拂込の欠缺と會社の成立

株式會社發起人の責任を論ず

株金第一回の拂込を論ず

株式の引受又は第一回拂込の未済と會社の不成立

株式會社設立無効の判決後の法律關係

株主名簿に就て

株式會社の設立無効を論ず

株式會社發起人論

現物出資論

發起人の意義

株式會社財産の意義を論じて

商法第一七四條第二項に及ぶ

株式會社設立費用の負擔者

株式會社資本の概念

株式會社募集設立の場合に

原口 亮平〔會計〕	六六二	二
猪股 淇清〔辯協〕	六六二	三
水口 吉藏〔國國〕	六六五	六
田中耕太郎〔法協〕	六六五	一八八
佐藤 雄能〔東經〕	六六五	一八八
岡村 玄治〔志林〕	六七二	三
齋藤 巖〔新聞〕	六七二	一三九
佐藤 雄能〔東經〕	六七二	一四四
松本 丞治〔新聞〕	六八二	一四九
西本辰之助〔三學〕	六八二	一四九
猪股 淇清〔辯協〕	六八二	一九一
津田 進〔法記〕	六八二	一九
持田 訣〔辯協〕	六八二	一九
豊原 清作〔辯協〕	六八二	一九
岡田 誠一〔經究〕	六八二	一九

於ける物的出資は發起人に限る力

有價物出資者が金錢拂込を爲し得べき範圍

發起人の利益として現物出資を論ず

續株式會社發起人論

設立經過中の株式會社に就て

所謂會社設立無効判決の確定したる場合に於ける發起人の責任を論ず

株式會社定款の記載事項

勞務出資を論ず

勞務出資に就きて

出資の目的物を論ず

株式會社の設立

發起人論

株式會社の現物出資に就て

株式引受の性質(法律的概念に對する根本問題)

株主名簿記載の効力

株主に對する發起人の責任

堀江專一郎〔辯協〕	六〇二	二五	八
江口 繁〔辯協〕	六二二	二六	一
橋本 良平〔商事〕	六二二	二一	一
西本辰之助〔法研〕	六二二	二一	四
石田文次郎〔國經〕	六二二	二二	五
大西 利夫〔辯協〕	六二二	二二	七
佐藤 雄能〔會計〕	六二二	二二	七
中村 茂男〔商事〕	六二二	二二	六
太田 哲三〔計理〕	六二二	二二	一四
下野直太郎〔商研〕	六二二	二二	三
佐藤 雄能〔會計〕	六二二	二二	三
佐藤 有恭〔新聞〕	六二二	二二	一五
中川十一郎〔法新〕	六二二	二二	一九
西本辰之助〔法研〕	六二二	二二	一
水口 吉藏〔法治〕	六二二	二二	一〇
猪股 淇清〔法公〕	六二二	二二	四

株式會社の準備基金を論ず

少數株主權論

利益配當請求權に付て

定款に定めなき場合に於ける利益配當の標準

準備金利用の方法

配當金支拂請求權に就て

新株式が事業年度中途に於て拂込を爲したる場合には日割を以て利益配當を爲すべきや

商法第一九六條に所謂開業の意義

商法第一九六條に所謂開業の意義

株式會社の虛偽計算

株式を見よ

株主總會を見よ

取締役を見よ

監査役を見よ

参照準備金。利益配當。

本野 一郎〔法協〕	四七二	三
アルダム〔内外〕	四七二	三
鈴木雄次郎〔新聞〕	四七二	二七
片山 義勝〔新報〕	四七二	一七
和仁 貞吉〔志林〕	四七二	二一
岡野敬次郎〔新報〕	四七二	一九
松本 丞治〔評論〕	四七二	一
高窪喜八郎〔評論〕	四七二	一
猪股 淇清〔新聞〕	四七二	一九
毛戸 勝元〔法記〕	四七二	一
桑田 熊藏〔新報〕	四七二	一



商法第一九六條に於ける開業の意義に付て	松本 丞治〔法記〕大三四 二號
商法第一九六條第一項に所謂開業の意義を論ず	志田錚太郎〔法記〕大三四 二
第一九四條に於ける利益の意義	烏賀陽然良〔京法〕大四一〇 五
商法第一九六條の開業の意義に付て	岸 清一〔辯協〕大四一九 一九五
商法上株式會社の利益に關する疑點	太田 哲三〔會計〕大六一 三三四
少數株主の本質を論ず	烏賀陽然良〔新報〕大六二七 三
建設利息の不當配當を受けたる株主に對する會社債權者の權利存否	田中耕太郎〔新報〕大八二九 六
株式を以てする配當は所得であるか	舞出長五郎〔國家〕大八三三 二
株式會社の利益配當保證に就て	打田 傳吉〔辯協〕大九二四 七
會社の配當と賃價	佐藤 賢次〔計理〕大二〇 一 六
株式會社の爲めにする配當擔保契約	竹田 省〔法叢〕大二一七 二
利益金の動搖と配當率の決定	橋本 良平〔商事〕大二三 三 六
株式會社の決算	橋本 良平〔商事〕大二三 四 四

商法第一九四條第一項の法定準備金に就て	加島 五郎〔新聞〕大二三 一 二二二
株式會社の利益金に就て	吉川 義弘〔商事〕大四五 一
米國に於ける株式會社の行ふ利益配當に就て	吉川 義弘〔商事〕大四六 二
社 債	社債を見よ
定款の變更	參照  優先株。
株式會社資本の減少に就て一箇月を下らざる期間内の意義	岡野敬次郎〔新報〕大三三 五
資本増加の法律的説明	岡野敬次郎〔新報〕大三八 一
創立總會に於ける資本額變更の決議	片山 義勝〔新報〕大二一八 四
商法第二〇九條第四項の解釋	和仁 貞吉〔志林〕大四一〇 五
株主に配當すべき利益を以て爲したる株式の消却と資本との關係	和仁 貞吉〔志林〕大四一〇 九
各株主に付一株宛消却すへしとの決議の效力	西脇 晋〔志林〕大四一〇 三
株主に配當すべき利益を以て未拂込額ある株式を消却する場合の手續	和仁 貞吉〔志林〕大四一一 三
優先株主の優先權は均一な	

ることを要するや	和仁 貞吉〔志林〕大四二二 七號
資本減少論	横山勝太郎〔辯協〕大四三三 一三五
資本減少の登記期間	佐藤 雄能〔東經〕大四五六 一六六
拂込株金額減少	松本 丞治〔評論〕大二二 一
株式會社の資本増加を論ず	佐藤 雄能〔東經〕大五七三 一八五
株式會社の資本増加を論ず	竹田 省〔京法〕大六二二 四
株主に配當すべき利益を以て爲す株式消却は資本減少と爲るや	水口 吉藏〔會計〕大七三 五六
新株發行に因る株式會社資本増加論	入江眞太郎〔法協〕大七三六 六八
株式會社の資本増加に就て	猪股 洪清〔國國〕大七六 三
缺損填補の方法としての拂込株金額の減少	泉田吉次郎〔新聞〕大七一 一四二
合併に因る株式會社資本増加の登録税に就て	毛戸 勝元〔新聞〕大七一 一三六
資本減少方法の一例	佐藤 雄能〔東經〕大七七 一九四
商法第二〇九條に違反したる所謂特別決議の効力に就て	齋藤 巖〔新聞〕大八一 二〇六
株式會社の資本増加と新株の成立	梅 謙次郎〔志林〕大二〇三 一
合併に因る増資と優先株	近藤 民雄〔辯協〕大二二七 二
株式會社に於ける資本減少	

の原因	橋本 良平〔商事〕大二三 四
資本減少の方法	佐藤 雄能〔會計〕大二三 六
株式會社資本減少論	赤尾 元彦〔早法〕大二三 一
株式會社の整理復興と追加拂による優先株制度	眞野 毅〔法曹〕大二三 一
變態増資論	橋本 良平〔會計〕大二三 一
株式會社の資本減少に就て	松本 丞治〔民衆〕大二三 二
株式會社の減資	橋本 良平〔商事〕大二三 三
解散	高窪喜八郎〔新聞〕大四三九 一 四三九
株式會社合併に關する問題を論ず	森 作太郎〔新聞〕大四三九 一 三七九
合併に因りて消滅したる會社の株式に對する質權者の權利	岩田 宙造〔辯協〕大四四〇 一〇一
會社合併前の株式に對する質權	高窪喜八郎〔辯協〕大四四〇 一〇三
再び合併會社の株式に對する質權に就て	高窪喜八郎〔新聞〕大四三九 一 三三七
謂ゆる株式會社の事實上の合併を論ず	片山 義勝〔新報〕大四四〇 一七二
會社の合併と株主の權利	森 作太郎〔新聞〕大四四一 一 四七三
會社解散の際に於ける未拂込金に對する處置	花岡 敏夫〔新聞〕大四四一 一 七四七



【株式會社】 【株式合資會社】 【株式取引所】

裁判所の解散命令に付て合併に因る株式會社資本増加之登録税に就て	田中耕太郎 [志林] 大七二〇 一
會社の合併に因る株式併合に就て	毛戸 勝元 [新聞] 大七一三六 三
合併に因る増資と優先株	原 嘉道 [辯協] 大九二四 一
株式會社の合併に關する疑義	近藤 民雄 [辯協] 大九二七 二
株式會社の合併	三田 勝 [法曹] 大九三二 二
株式會社の解散	橋本 良平 [商事] 大九四五 一
株式會社の解散	橋本 良平 [商事] 大九四五 二
株式會社の解散	佐藤 雄能 [會計] 大九四六 四
株式會社清算の場合に於ける損益分配	岡野敬次郎 [志林] 四三六 五
株式會社が事業に着手したる後其設立の無効を發見したる場合に不すへき清算を論ず	志田鈿太郎 [法協] 四二六 四
株式會社破産後に於ける株金の拂込	加藤 正治 [志林] 四一〇 一〇
白紙委任状に因る代理權の效力と會社の清算	梅 謙次郎 [志林] 四一〇 二
一旦定めたる債權申出期間を清算進行上の都合に依	

り清算人に於て任意に延長短縮することを得るや株式會社の利益及び殘餘財産分配の割合を論ず  
株式會社の殘餘財産  
株式會社の清算に就て  
清算中の會社に就て  
株式會社の清算

和仁 貞吉 [志林] 四四二 一
毛戸 勝元 [京法] 四四三 五
佐藤 雄能 [東經] 大九六八 三
烏賀陽然良 [京法] 大九七〇 五
烏賀陽然良 [新報] 大九七二 三
佐藤 雄能 [會計] 大九七三 三

【株式合資會社】

株式合資會社を論ず  
株式合資會社存廢論

小澤 政許 [新報] 四三九 九
松波仁一郎 [新報] 四四一九 八

【株式取引所】

参照 株式。貨幣。恐慌。銀行。投機。取引所。

我國株式市場に於ける立會の方法  
株式取引所と金融市場との關係  
佛國巴里株式取引所の取引  
紐育株式取引所と金融市場  
株式相場高低の原因を論ず  
株式市場と經濟狀態

佐野 善作 [國經] 四四〇 三
北内 檜雄 [國經] 四四三 八
山室 宗文 [法協] 四四二 九
米澤 貞二 [日經] 四四四 一〇
遠藤竹次郎 [東經] 四四四 一〇

株式取引所改善策	奥田 吉郎 [國經] 四四四 一
歐米株式取引所の現況	神田 鑑藏 [洋經] 大九二二 六
株式取引所増資問題に關し	丹羽 豊 [東經] 大九三〇 七
教を戸田博士に請ふ	荒山 泰 [國經] 大九三三 四
指定落による株式取引所仲買人の建株損益調査方法	島本 得一 [會計] 大九三三 五
倫敦株式取引所の監督に就て	東田 藤吉 [國經] 大九三三 五
現物市場としての株式取引所	井上豊太郎 [新聞] 大九三三 一
株式取引所の計算整理方法及び仲買人の損益調査方法改良案	島本 得一 [會計] 大九三三 一
島本君の株式取引所の計算整理方法改良案に就て	小山正之助 [新聞] 大九三三 一
株式仲買人と小口落	松永 義雄 [辯協] 大九三三 一
紐育株式取引所の精算方法と我國取引所の小口落方法	島本 得一 [會計] 大九三三 一
株式相場	丹羽 豊 [國經] 大九三三 一
株式市場と金利と金融市場	左右田誠一 [銀研] 大九三三 三
株式取引二重市場問題の研究	島本 篤次 [商事] 大九三三 六

【株式取引所】 【株主總會】

紐育株式取引所に於ける新施設	井浦仙太郎 [商研] 大九三二 一
東京株式取引所の早受渡制度に就て	岡田 純夫 [商事] 大九三三 四
物産の定期取引と株式定期取引の本質的差異	向井 鹿松 [三學] 大九三三 二
新設紐育株式交換團	東田 藤吉 [商經] 大九三三 二
株式長期市場に於ける早受渡制度	北崎 進 [經商] 大九三三 二
株式取引限月復活論	山田敬太郎 [取引] 大九三三 一
株式取引所に於ける違約處分	渡邊 五郎 [金融] 大九三三 二
米、株の相場（取引）と法律	島本 得一 [商事] 大九三三 六
株式取引所に於ける早受渡制度に付て	原田鹿太郎 [民衆] 大九三三 四
長滿 欽司 [銀叢] 大九三三 四	
商法第一五六條の解釋及適用に就て	新井要太郎 [辯協] 四四五 六
株主總會決議事項の範圍に就て	三浦 雄城 [新聞] 四四六 一



【株主總會】

株式會社の總會決議の無効  
宣言を目的とする手續規  
定

富谷銈太郎 [志林] 四六  
年 五卷 四四號

商法第一六三條の適用に就  
て

富谷銈太郎 [明法] 四三六  
[法記] 四三六 一三九

商法第一六三條の解釋に就  
て

奥西市太郎 [新聞] 四三六  
鈴木雄次郎 [新聞] 四三六 二七四

少数株主權論

河西善太郎 [新聞] 四三六 三一九

株主總會招集の通知方法に  
關する判決に就て

森 作太郎 [新聞] 四三六 三三三

株主名簿に記載なき株主と  
株主總會招集の通知

志田鈿太郎 [國經] 四四〇 二

議決權に就て

一柳 貞吉 [新聞] 四四〇 四二二

株主名簿に記載なき株主の  
議決權に關する一柳君の  
所説を駁す

澤田 例外 [新聞] 四四〇 四二四

株主總會の招集を論ず

青木 徹二 [國經] 四四二 六

會社重役の議決權

高窪喜八郎 [辯協] 四四二 三

株主の議決數の制限に就て

黒澤 龍演 [東經] 四四二 一六〇〇

株主の議決權

竹田 省 [京法] 四九七 七

株式會社の臨時總會の權限  
を變更する佛一九一三年  
十一月二十二日の法律

毛戸 勝元 [京法] 六三九 五

株主總會決議無効の請求  
取締役の候補者たる株主の  
議決權を論ず

烏賀陽然良 [京法] 六三九 八〇

株式會社の新株募集手續調  
査の爲めにする株主總會  
は通常の決議方法に依る  
べきや

松波仁一郎 [新報] 六五二 二

少数株主權の本質を論ず

谷口 嘉雄 [新聞] 六五二 二九五

株主總會決議無効判決の効  
力

烏賀陽然良 [新報] 六六二 七

株式總會決議執行の時期を  
論ず

竹田 省 [京法] 六七三 四

株主の議決權を論ず

齊藤 巖 [新聞] 六七三 一三九一

株主總會招集の場所  
本店の所在地以外に開きた  
る株主總會と其決議の無  
効

烏賀陽然良 [國經] 六八二 七 四一五

株主總會招集地に關する學  
說

松井繁太郎 [新聞] 六八二 二〇〇三

本店所在地外に於ける株主  
總會

眞野 毅 [新聞] 六一一 一九六四

Y T 生 [新聞] 六一一 二〇四四

田中 豐 [法協] 六二四 三

田中 豐 [法協] 六二四 三

株式總會欺罔の犯罪に就て  
株式會社に於ける多數決原  
則の濫用

矢追 秀作 [法政] 六三二 八號

社債募集と株主總會の特別  
決議

田中 誠二 [法協] 六三三 四

株主の議決權に就て

烏賀陽然良 [イン] 六四一 八

商法第一六三條の三の擔保  
提供の請求

田中 誠二 [法協] 六四三 四

參照インフレーション。外國  
爲替。金。銀。銀行。金  
融。金輸出解禁。在外正  
貨。資本。商業。信用。  
貯蓄。物價。貿易。利子。

中村 武 [新報] 六五三 一

金銀本位論

添田 壽一 [國家] 四二二 二

兩金貨制論

濱田健次郎 [國家] 四二二 二

藩札處分を論ず (講演)

阪谷 芳郎 [國家] 四二二 二

貨幣史上の大珍事

阪谷 芳郎 [國家] 四二三 四

金札の發行を主張せし原因

由利 公正 [國家] 四二三 四

安政の貨幣事情

池部 駒勇 [國家] 四二六 七

銀貨問題 (講演)

志立鐵次郎 [國家] 四二七 八

貨幣の價格

池部 駒勇 [國家] 四二七 八

貨幣制度の改革を論ず

金井 延 [國家] 四三〇 一一

貨幣の定義に就て

村田 俊彦 [國家] 四三三 一四 一五

【株主總會】 【貨幣】



る批評に就て

正貨保留の價值如何

グレシヤムの法則に就て

銀貨の前途如何

カルタル、テラリーの骨子

拙著「貨幣と價值」に對す

る福田博士の批評に答ふ

自由鑄造に就て

貨幣法改正の結果に關する

桂首相及び武富時敏氏の

意見を論評す

指數と貨幣の購買力

ホアギユベールの貨幣論と

三浦梅園の貨幣論に就て

の愚考

賦除と貨幣の關係に就ての

愚考

通貨税と銀行税

アダム・スミスの貨幣學說

金貨の流通せざる金本位國

貨幣の價值を論ず

高橋日銀總裁の通貨と物價

論に就て

原稜 威雄 [國經] 四二 四卷 三號

河津 暹 [日經] 四四 三 四

山崎覺次郎 [國家] 四四 三 八

芝本善次郎 [洋經] 四四 一 四九

河田 嗣郎 [京法] 四四 四 三

左右田善一郎 [國經] 四四 七 一六

山崎覺次郎 [國家] 四四 二四 一

山崎覺次郎 [志林] 四四 二 四

財部 靜治 [京法] 四四 五 四

福田 德三 [國家] 四四 二四 六

福田 德三 [國家] 四四 二四 六

河津 暹 [國經] 四四 一〇 七

松崎 壽 [國經] 四四 二 一

山崎覺次郎 [法協] 四四 二九 七

山崎覺次郎 [日經] 四四 九 七

山崎覺次郎 [國家] 四四 二五 五

天野 爲之 [洋經] 四四 一 五九

貨幣の意義

金の國際移動

金産増加の貨幣上の惡影響

を除去する方法に就きて

正貨の危機

世界的物價騰貴に於ける金

と信用

貨幣の將來

貨幣の本質

貨幣價值に就きて

貨幣價值の不動に就て

日本に於ける貨幣の流通速

度

金貨國と銀貨國との間に於

ける爲替相場の變動と貿

易の消表

通貨膨脹、物價騰貴、生活

難の關係に就いて福田博

士の批評に答ふ

貨幣數量説と貨幣制度との

關係を論じて通貨の膨脹

と生活難との交渉に關す

る福田博士對河上教授の

論争に及ぶ

十龜 盛次 [國經] 大元 一三 一一

神戸 正雄 [京法] 大元 二八 二

神戸 正雄 [新報] 大元 二二 三

近澤 定吉 [日經] 大元 二四 四

戸田 海市 [京法] 大元 二八 三

神戸 正雄 [國經] 大元 二五 三

神戸 正雄 [三學] 大元 二七 一

神戸 正雄 [京法] 大元 二八 二

神戸 正雄 [京法] 大元 二八 三

河上 肇 [京法] 大元 二八 三

海老原竹之助 [國經] 大元 二四 一

河上 肇 [京法] 大元 二八 四

寺尾 隆一 [國經] 大元 二四 四

寺尾教授に答ふ

誤解されたる貨幣數量説

通貨膨脹、物價騰貴、生活

難の關係に就て(河上教

授の答へに答ふ)

再び寺尾教授に答ふ

通貨膨脹、物價騰貴、生活

難の關係に就て

貨幣の價值を調整せんとす

るフイツシャ教授の考

案に就て

フイ氏調整貨幣案の批評の

批評の批評

貨幣價值に就て神戸博士に

答ふ

貨幣と預金との關係に就き

て河上教授に答ふ

貨幣問題に就きて重ねて高

城教授に答ふ

三度び貨幣數量税と物價調

節策とに於けるフイツシ

ヤー氏の論理的矛盾を指

摘して河上教授の再答に

答ふ

河上 肇 [國經] 大元 二四 五

高城仙次郎 [國經] 大元 二四 五

寺尾 隆一 [國經] 大元 二四 六

河上 肇 [國經] 大元 二五 一

寺尾 隆一 [國經] 大元 二五 一

山崎覺次郎 [國家] 大元 二七 六

神戸 正雄 [國家] 大元 二七 八

高城仙次郎 [國家] 大元 二七 八

高城仙次郎 [日經] 大元 二七 九

神戸 正雄 [國家] 大元 二七 一〇

寺尾 隆一 [國經] 大元 二七 一

貨幣の價值に關して再び高

城教授に答ふ

寺尾教授の駁論に答ふ

貨幣價值に就きて神戸山崎

兩博士の反問に答ふ

河上學士の誤算と誤解と矛

盾

高城君に答ふ

高城ドクトルの數理上の矛

盾

寺尾氏に答ふ

河上學士に答ふ

高城氏の答文に就て

再び金貨の流通せざる金本

位國に就て

將來の貨幣

伊藤氏の新貨幣案に就て

理想的貨幣果して得らるべ

きや

憂慮すべき正貨問題

金と物價と貨銀

在外正貨と兌換制度

交戦國に於ける正貨在高

我兌換券の制度の危機

山崎覺次郎 [國家] 大元 二八 一

高城仙次郎 [國經] 大元 二六 三

高城仙次郎 [國家] 大元 二六 四

高城仙次郎 [京法] 大元 二九 七

河上 肇 [京法] 大元 二九 七

高田 保馬 [京法] 大元 二九 八

高城仙次郎 [國經] 大元 二七 三

高城仙次郎 [京法] 大元 二九 一〇

河上 肇 [京法] 大元 二四 二

山崎覺次郎 [法協] 大元 三三 四

伊藤増太郎 [國經] 大元 三三 一

海老原竹之助 [國經] 大元 三三 三

海老原竹之助 [國經] 大元 三三 四

堀切善兵衛 [財經] 大元 三三 九

近澤 定吉 [日經] 大元 三三 一

伊藤 欽亮 [財經] 大元 三三 二

伊藤 欽亮 [國經] 大元 三三 二

戸田 海市 [京法] 大元 三三 二

戸田 海市 [京法] 大元 三三 二



ベルナルド・ダヴンゾア

チの貨幣論

正貨準備問題に關する積極主義の誤謬

兌換停止の議

兌換制度の本体と變體

正貨補充問題と積極政策

國際貨幣制度論

通貨政策と歐洲大戰

正貨政策と爲替政策の矛盾を奈何

造幣局と其の職分

正貨と日本經濟

正貨の激増と其の利用

日貨排斥と其の善後策

排貨政策と經濟外交

金貨流出防止策

貨幣本質新説

不換紙幣論

利子論上の貨幣説

河上博士の資本の概念及利子論の貨幣説を讀む

續正貨蓄積論

小川博士の正貨蓄積論を讀

高橋誠一郎〔三學〕大三八九一〇

戸田 海市〔財經〕大三一

本多 精一〔財經〕大三一

堀江 歸一〔三學〕大三八

高城仙次郎〔三學〕大三八

青木 得三〔法協〕大三三

高島佐一郎〔國經〕大四一八

北崎 亡羊〔東經〕大四二一

三枝 茂智〔國家〕大四二九

尾上登太郎〔國家〕大四二九

加藤敬三郎〔財經〕大四二

中橋徳五郎〔財經〕大四二

蜷川 新〔外時〕大四三

尾上 利治〔國經〕大四九

松浦 要〔國經〕大四九

神戸 正雄〔京法〕大四〇

河上 肇〔商經〕大五〇

池田 實〔商經〕大五〇

小川郷太郎〔經叢〕大五三

戸田 海市〔經叢〕大五三

松崎 壽〔國經〕大五二〇

河上 肇〔經叢〕大五二

大野 辰見〔國經〕大五二

飯島 幡司〔國經〕大五二〇

作田 莊一〔經叢〕大五三

武富 時敏〔東經〕大五四

丸谷 喜市〔國經〕大六三

山崎覺次郎〔國家〕大六二

中村 茂男〔會計〕大六一

西村文太郎〔國國〕大六五

増井 幸雄〔三學〕大六二

戸田 海市〔經叢〕大六四

増井 幸雄〔三學〕大六二

代の經濟學説

「貨幣問答」を中心として

觀たるサー・キリアム・

ベチイの貨幣論

國民經濟に於ける貨幣の地

高橋誠一郎〔三學〕大六二

高橋誠一郎〔三學〕大六二

高橋誠一郎〔三學〕大六二

高橋誠一郎〔三學〕大六二

維新後に於ける通貨數量と物價

維新後に於ける通貨制度の概観

歐洲戰亂と通貨の減價

元文年度に於ける金銀貨改鑄

交戦國貨幣低落と其防止策

正貨の増加と物價騰貴の關係

貨幣の對外價值と其維持策

猫眼の如き政府の正貨政策

紙幣の減價に關するウヒテ

カゝ教授の分類に就て

貨幣辨濟力

不換紙幣流通の根據に就て

吉宗時代の貨幣問題及び米價問題

不換紙幣の價格に就て

不換紙幣流通の根據に就て

戸田博士の不換紙幣論を讀

みて

不換紙幣流通の根據に就て

三宅嘉十郎〔三學〕大五二〇

飯島 幡司〔國經〕大五三

飯島 幡司〔國經〕大五三

飯島 幡司〔國經〕大五三

飯島 幡司〔國經〕大五三

中村 孝也〔國國〕大五四

三宅嘉十郎〔三學〕大五二〇

三宅嘉十郎〔三學〕大五二〇

山崎覺次郎〔國家〕大五三〇

堀江 歸一〔財經〕大五三

山崎覺次郎〔國家〕大五三〇

尾上 利治〔國經〕大五二〇

作田 莊一〔經叢〕大五二

中村 孝也〔國國〕大五四

戸田 海市〔經叢〕大五二

戸田 海市〔經叢〕大五二

福田 徳三〔經叢〕大五三

安原 太郎〔國經〕大六二三

堀江 歸一〔三學〕大六二

左右田善一郎〔國家〕大六三

田中 金司〔國經〕大七二四

中村 孝也〔國國〕大七六

中村 孝也〔國國〕大七六

小林 武男〔三學〕大七三

山崎覺次郎〔國家〕大七三

藤田 元春〔經叢〕大七六

高城仙次郎〔三學〕大七二

高橋誠一郎〔三學〕大八二

松崎 壽〔商經〕大七一

堀内 泰吉〔國經〕大七二

堀江 歸一〔三學〕大七三

上田貞次郎〔財經〕大七五

氣賀 勘重〔財經〕大七五

舞出長五郎〔國家〕大七三

田中 金司〔國經〕大七二

田中 金司〔國經〕大七二

田中 金司〔國經〕大七二

田中 金司〔國經〕大七二

田中 金司〔國經〕大七二

田中 金司〔國經〕大七二

田中 金司〔國經〕大七二

田中 金司〔國經〕大七二

田中 金司〔國經〕大七二

田中 金司〔國經〕大七二

田中 金司〔國經〕大七二

田中 金司〔國經〕大七二

田中 金司〔國經〕大七二

田中 金司〔國經〕大七二

田中 金司〔國經〕大七二







紙幣の特質並に種類に就て	竹島富三郎〔商經〕六二	一年	二七
貨幣及び貨幣制度の發達	石濱 知行〔新報〕六一	三	四
貨幣中心の經濟學	大野 辰見〔商經〕六三	一	三九
戰後貨幣價值暴落問題に關する文獻	鈴木 平吉〔商研〕六二	一	一
信用貨幣の分類標準	竹島富三郎〔商經〕六一	一	二五
貨幣の効用に就て	渡邊孫一郎〔商研〕六一	一	三
貨幣の本質	増井 光藏〔國經〕六二	三	六
貨幣論上に於ける金屬主義と名目主義	宮田喜代藏〔國經〕六二	三	一
貨幣の「哲學」に就て	増井 光藏〔國經〕六二	三	一
世界の貨幣問題	平野 清〔國經〕六二	三	一
ヘルツフェルダの靜態貨幣價值説	増井 光藏〔國經〕六二	三	一
貨幣の價值	生島廣次郎〔國經〕六二	三	一
通貨收縮と金解禁及在外正貨準備廢止問題	三宅嘉十郎〔銀研〕六一	三	四
クナップ貨幣國定學說の研究方法	宮田喜代藏〔國經〕六一	三	六
貨幣購買力變動の豫測	高城仙次郎〔法研〕六一	一	四
貨幣の論理	山口正太郎〔我等〕六一	四	七
貨幣の價值	谷田 義一〔國經〕六二	三	一
マシーナルの貨幣信用及貿易論	平野 清〔商經〕六二	一	二
英國と金本位制回復	野瀬秀太郎〔銀研〕六二	四	七
貨幣價值と金利歩合	白井 廉久〔銀研〕六二	四	六
自由貨幣運動	河田 嗣郎〔經叢〕六二	二	三
銀貨鑄造益金の使途	神戸 正雄〔時經〕六二	一	九
世界的貨幣問題とカツセル	小川福太郎〔經叢〕六二	一	六
教授の學說	竹島富三郎〔商經〕六一	一	三
貨幣の概念の變遷に就て	高垣寅次郎〔商研〕六一	二	一
貨幣の成生と其形態の變遷	増地庸治郎〔商研〕六三	二	三
貨幣價值の變動と損益計算	小畑 茂夫〔商研〕六三	二	三
リーフマンの價格理論一斑並に貨幣の側よりする其變動	土方 成美〔經論〕六三	一	三
貨幣價值の成立と租稅の作用	平野 清〔國經〕六二	三	五
ゼノア會議と通貨並に信用問題	宮田喜代藏〔國經〕六二	三	四
貨幣の名目的概念	増井 光藏〔國經〕六二	三	五
エルスターの貨幣概念	下田 禮佐〔長彙〕六二	二	五
日貨排斥に就て	鈴木 平吉〔國經〕六二	三	一
マシーナルの貨幣論	片倉藤次郎〔商事〕六二	四	一
信用と通貨と物價	河津 暹〔經論〕六二	一	三
通貨と物價政策	加藤 和根〔銀叢〕六三	一	二
貨幣價值低落問題	蜷川 虎三〔經叢〕六二	一	七
兌換券と物價指數との關係	小畑 茂夫〔商研〕六三	二	三
貴金屬の貨幣商品たるに至る過程	松下 芳男〔法政〕六三	二	二
貨幣論上の限界効用説に就て	土方 成美〔經論〕六三	一	一
高垣教授に答ふ	左右田喜一郎〔商研〕六三	三	三
貨幣概念を中心として(土方教授並に坂西教授の批評に答ふ)	岩崎 博〔銀研〕六三	六	六
通貨問題の一考察	竹島富三郎〔商經〕六三	一	三五
通貨膨脹の意義と對策	三井 高陽〔三學〕六三	一	三五
勢州松坂に於ける銀札の沿革	小川郷太郎〔經叢〕六三	一	九
我國に於ける正貨の増減と金融繁閑との關係	作田 莊一〔經叢〕六三	一	九
世界の貨幣交通	下林 一生〔銀研〕六三	七	六
購買力の平價に就て	谷口彌五郎〔金融〕六三	一	二
國富論に現はれたる貨幣整理論	平野 清〔商經〕六三	一	三五
英國に於ける貨幣問題に關する二論争	高垣寅次郎〔商研〕六三	三	三
貨幣價值に關しての私論二題(左右田博士の所論を中心としたる Polemik に就て)	平野 清〔商經〕六三	一	三五
近時貨幣論考	平野 清〔商經〕六三	一	三五

クナップの貨幣國定學說に就て	宮田喜代藏〔商叢〕六二	一年	一
初期の貨幣學說に就いて	久保田明光〔國經〕六二	三	五
物價趨勢より見たる通貨問題	左右田誠一〔銀研〕六二	四	六
貨幣の法制的研究	今津 治助〔商研〕六三	二	三
貨幣問題より見たるアダム・スミス	山崎覺次郎〔經論〕六二	二	二
貨幣に關する若干の譬喩	山崎覺次郎〔經論〕六三	三	一
日本及英國に於ける幣制史上の一考察	平野 清〔國經〕六二	三	七
山崎博士と跛行本位	櫻田 助作〔洋經〕六三	一	二
跛行本位に就て	山崎覺次郎〔洋經〕六三	一	二
山崎博士の跛行本位に就て	櫻田 助作〔洋經〕六三	一	二
「跛行本位」問題に就て櫻田君に答ふ	山崎覺次郎〔洋經〕六三	一	二
ペンデイクセンの貨幣學說	大竹 虎雄〔法政〕六三	二	六
貨幣の對外價值と對内價值との關係を論ず	青木 得三〔國家〕六三	三	八
貨幣に關するカツセル教授の見解	橋爪 明男〔經論〕六三	三	二
貨幣起原の考察	中村 佐一〔法政〕六三	二	八
貨幣債權説に就て	橋爪 明男〔經論〕六三	三	一
經濟社會と貨幣概念	土方 成美〔社雜〕六三	一	二



外資輸入と通貨膨脹に就て	榊原 二郎 [銀研] 大三 年 卷 六 三 號
正貨減小對策に就て	榊原 二郎 [銀研] 大三 年 卷 六 四 號
キーンズの貨幣改革論	木村 重夫 [商經] 大三 年 卷 三 六 號
貨幣の價値の變動と會計問題	木村 彌藏 [會計] 大三一 年 卷 三 六 號
貨幣廢止論	中西 仁三 [經叢] 大三一 年 卷 六 號
名目派の貨幣論と貨幣の本質	中西 仁三 [經叢] 大三一 年 卷 二 三 號
キーンズの貨幣改革論を讀みて	平野 清 [銀研] 大三一 年 卷 二 號
貨幣の必然性	ヒルファイデグ [原雜] 大三一 年 卷 一 號
カッセル教授の金本位制復歸論	松崎 壽 [銀研] 大三一 年 卷 三 號
ギルドと幣制に就て	田中 忠夫 [國經] 大三一 年 卷 三 號
輓近金本位制に對する挑戰	アレン [商叢] 大三一 年 卷 一 號
金利引下論に於ける通貨論の誤謬	遠山 貞一 [銀研] 大三一 年 卷 四 號
金本位制の回復に就て	黒川 芳藏 [同論] 大三一 年 卷 一 號
世界的金本位復活問題	山下 春三 [銀研] 大三一 年 卷 六 號
經濟組織の發達と貨幣の職能	増井 光藏 [國經] 大三一 年 卷 二 號
仙臺通寶と琉球通寶	土屋 喬雄 [經論] 大三一 年 卷 三 號
圓價下落に就て國際投機の	

一考察	丹羽 豐 [銀叢] 大二三 年 卷 三 六 號
アダム・スミスの觀たる貨幣理論	高垣寅次郎 [商研] 大二三 年 卷 三 一 號
中世寺院法の貨幣說	山口正太郎 [我等] 大二三 年 卷 六 一 號
金貨本位制度に關する根本問題	堀江 歸一 [三學] 大二四 年 卷 一 九 號
兌換制度に關する疑問	堀江 歸一 [エコ] 大二四 年 卷 三 四 號
我國幣制改革論に對する堀江博士の所說	平野 清 [銀研] 大二四 年 卷 八 號
キーンズの「幣制改革論」購買力平價說批評	大内 兵衛 [原巴] 大二四 年 卷 一 八 號
フアイレン著「貨幣の循環速度」貨幣經濟の對象論並範疇論に關する研究」を讀みて	平野 清 [商經] 大二四 年 卷 一 三 九 號
徳川時代の通貨政策	本多 謙三 [商研] 大二四 年 卷 一 號
通貨の購買力と其測定	倉持 徳久 [經研] 大二四 年 卷 二 號
通貨と資金とを區別する理由	土方 成美 [社科] 大二四 年 卷 一 號
通貨政策に於ける算術と迷妄	高橋 龜吉 [銀研] 大二四 年 卷 三 號
通貨の價値の變動及び長期貸借の決済に就て	廣瀬圓一郎 [銀研] 大二四 年 卷 四 號
銀行と貨幣との關係	藤澤利喜太郎 [國家] 大二四 年 卷 三 九 號
	高宮 誠 [金融] 大二四 年 卷 九 號

貨幣數量說並に貨幣品質說を否定す

貨幣數量說並に貨幣品質說を否定す	勝田 貞次 [銀研] 大二四 年 卷 八 四 號
マーカントェリズムに於ける貨幣觀念の發展	高垣寅次郎 [商研] 大二四 年 卷 二 號
圓價下落は重大問題	武藤 山治 [洋經] 大二四 年 卷 一 二 九 號
シユムペーターの「貨幣理論基本方程式」に就て	徳重 伍介 [國經] 大二四 年 卷 四 號
貨幣經濟發展極致としての振替及支拂現象	谷田 義一 [國經] 大二四 年 卷 三 六 號
貨幣と價値	林 要 [同論] 大二四 年 卷 一 六 號
貨幣觀念の經濟學的社會學的意義	土田 杏村 [銀研] 大二四 年 卷 五 三 四 號
貨幣並に通貨の成立	土方 成美 [經研] 大二四 年 卷 三 三 號
貨幣價値の靜的考察	三宅鹿之助 [經研] 大二四 年 卷 三 三 號
貨幣及銀行兩主義の貨幣理論と銀行券發行制度	中西 仁三 [經研] 大二四 年 卷 二 號
貨幣指圖證說の主張と其批判	高垣寅次郎 [商研] 大二四 年 卷 三 號
再びキーンズの所謂 Managed currency に就て	平野 清 [商經] 大二四 年 卷 一 三 六 號
初期貨幣理論に現はれたる貨幣の實體觀と法律觀	谷田 義一 [國經] 大二四 年 卷 二 三 號
オウイン及び其一派の貨幣觀	赤神 良讓 [經商] 大二四 年 卷 一 二 號

鑄貨の起原と最古商業國の考證

鑄貨の起原と最古商業國の考證	勝矢劍太郎 [經商] 大二四 年 卷 七 號
勝矢學士の考證的批評に對して	赤神 良讓 [經商] 大二四 年 卷 八 號
信用と通貨とに關する一考察	土方 成美 [經研] 大二四 年 卷 二 號
Gold Standard 並 Managed currency 考	岩崎 博 [銀研] 大二四 年 卷 五 號
スミス以前に於ける貨幣價値論の二潮流	萩原吉太郎 [三學] 大二四 年 卷 一 九 號
現在不換紙幣問題	小島 淑郎 [銀叢] 大二四 年 卷 五 三 號
貨幣の價値と其否定	高垣寅次郎 [商研] 大二四 年 卷 三 三 號
金本位の復歸に對するカッセル教授の論文	青木 孝義 [法政] 大二四 年 卷 六 號
名目學說と貨幣制度改革	内藤 章 [商研] 大二四 年 卷 五 二 號
金本位制の回復の價値如何	鈴木 喜藏 [銀叢] 大二四 年 卷 二 號
正貨拂下の效果	成瀬 義春 [財經] 大二四 年 卷 五 五 號
カッセル教授購買力平價說に於ける一疑點	柴田三四治 [銀叢] 大二四 年 卷 二 號
貨幣購買力の意義と景氣の基調	勝田 貞次 [銀研] 大二四 年 卷 一 號
貨幣の對内及び對外價値の變動と貿易並びに爲替との關係を論ず	谷口 吉彦 [經叢] 大二四 年 卷 二 四 號



貨幣と物價との關係を論ず	勝田 貞次	〔銀研〕	大四年	九	四
銀行と通貨創設	越智 昌三	〔經叢〕	大四年	二	三
金貨本位へ復歸の經路	藤澤利喜太郎	〔國家〕	大四年	三九	二
通貨政策に就て	橋爪 明男	〔經論〕	大四年	四	一
金紙幣本位制	作田 莊一	〔經叢〕	大四年	二〇	一
不換紙幣と物價	高城仙次郎	〔三學〕	大四年	一九	一
貨幣法の改正は不可	菊川 早三	〔洋經〕	大四年	一三九	一
徳川時代に於ける惡貨濫造	瀧本 誠一	〔三學〕	大四年	一〇	一〇
の結果に就て	山内 一雄	〔銀研〕	大四年	八	六
金本位制復歸問題に就て	岩崎 博	〔銀研〕	大四年	九	三
金本位の將來に就て	川島清治郎	〔エコ〕	大四年	三	三
金本位制復歸の謬妄	遠山 貞一	〔銀研〕	大四年	八	四
通貨は多過ぎるか少な過ぎるか	春日井 薫	〔銀研〕	大四年	八	五
マッケンナア氏の金本位復	川村 環一	〔計理〕	大五年	一	二
舊問題	黒正 巖	〔社科〕	大五年	二	三四
金單本位論	橋爪 明男	〔經論〕	大五年	四	三
備前岡山の藩札	西村 真次	〔早商〕	大五年	二	一
リカアドオの貨幣理論と貨幣制度論	黒正 巖	〔經叢〕	大五年	三	五
貨幣の起源に關する考古學的及び土俗學的考察	田中 金司	〔國經〕	大五年	四〇	一二
藩札の濫發と農民の疲弊					
貨幣制度に於ける金の地位					

封建制度の崩潰、中央集權的國家出現の時代に於ける貨幣學說	高橋誠一郎	〔社科〕	大五年	二	五
貨幣價値と物價指數	森田 優三	〔國經〕	大五年	四〇	六
マーシャル教授の貨幣及價格論	土方 成美	〔社科〕	大五年	二	一
新貨幣の觀念と金融	川島清治郎	〔金融〕	大五年	三	一
我國に於ける正貨準備の維持と外債政策	土方 成美	〔經研〕	大五年	三	二
貨幣の起源に關する一考察	谷田 義一	〔國經〕	大五年	四〇	五六
金核本位制度	橋爪 明男	〔經研〕	大五年	三	二
兌換券流通高とコール歩合	高城仙次郎	〔銀研〕	大五年	一〇	三
アリストリーゾの貨幣論	高橋誠一郎	〔三學〕	大五年	一五	一
貨幣政策と物價安定論	安藝 國雄	〔商經〕	大五年	一	四
貨幣論の出發點に就て	中西 仁三	〔經研〕	大五年	三	一
物價と通貨の數量	土方 成美	〔經研〕	大五年	三	一
印度貨幣制度改革及其影響に就て(講演)	阪谷 芳郎	〔國家〕	大五年	七	七七
印度幣制改革始末抄録	向井 鹿松	〔三學〕	大五年	八	九〇
金爲替本位と印度通貨	堀江 歸一	〔三學〕	大五年	八	九〇
印度の貨幣並に金融制度に關する研究	堀江 歸一	〔三學〕	大五年	一〇	二

印度金貨史	海老原竹之助	〔國經〕	大五年	二〇	四
印度幣制に關する高島學士の所說に就て	海老原竹之助	〔國經〕	大五年	二〇	五六
海老原學士の批評の批評	高島佐一郎	〔國經〕	大五年	二〇	六
印度現時の金貨問題	海老原竹之助	〔國經〕	大五年	二〇	一六
再び印度の幣制に關する高島學士の所論を難す	海老原竹之助	〔國經〕	大五年	二二	六
近世印度通貨政策史論	徳重 伍介	〔亞經〕	大七	二二	二二
印度幣制上の二問題	海老原竹之助	〔商經〕	大八	一	一四
印度幣制委員報告を讀む	尾山 利治	〔國經〕	大九	二八	二二
銀價騰貴時代の印度通貨問題	堀江 歸一	〔三學〕	大一〇	一五	一
印度幣制に關するメルワンデーダラル氏の少數報告に於ける經過	尾山 利治	〔國經〕	大一〇	三〇	五六
印度幣制委員報告發表以後に於ける經過	尾山 利治	〔國經〕	大一〇	三二	一一
支那及印度兩替の實際	小林 四三	〔商事〕	大一二	三	四
印度の金爲替本位制に就て	利倉文之助	〔商事〕	大一二	六	二
印度の幣制を論ず	平野 清	〔商經〕	大一二	一	四〇
印度に於ける日貨排斥問題		〔商工〕	大一二	一	三
英倫金融市場と事變通貨の供給	堀江 歸一	〔三學〕	大一二	九	一五
英國兌換制度の將來	堀江 歸一	〔三學〕	大一二	一一	一

英國戰時貨幣政策に對する批評	三浦 武美	〔國經〕	大九年	二九	六
英佛兩國の金貨爭論	青木 得三	〔國知〕	大一二	三	五
英國に於ける貨幣問題に關する二論争	平野 清	〔商經〕	大一二	一	三五
日本及英國に於ける幣制史上の一考察	平野 清	〔國經〕	大一二	三七	二
英國の貨幣改革	堀江 歸一	〔エコ〕	大一二	三	一九
英國銀行の發行法と新貨幣制度の樹立	太田黒敏男	〔經商〕	大一二	四	二
英國金本位復歸の意義	田中 金司	〔國經〕	大一二	三九	三
英金貨本位制の報告書を讀む	堀江 歸一	〔エコ〕	大一二	三	一五
英國新金本位法と幣制改革論	中村 重夫	〔銀研〕	大一二	一〇	五
支那	根岸 信	〔國經〕	大一二	九	五六
清國貨幣改革難	大平 賢作	〔國經〕	大一二	九	一七
上海に於ける貴金屬及通貨の賣買習慣	淺井 虎夫	〔京法〕	大一二	〇	二
支那に於ける紙幣の起源に就て	個 一豫	〔日經〕	大一二	〇	二
清國の幣制に就て	吉野 作造	〔日經〕	大一二	〇	三
清國に於ける貨幣通用の實況					



清國の四國借款と幣制改革	山本唯三郎〔東經〕四四六三	一五六
清國幣制の改革如何	植松 考昭〔洋經〕四四四	一五六
支那上古の貨幣並に具に因める文字の研究	田崎 義介〔日經〕六二二	一五〇
支那貨幣事情	堀内 干城〔京法〕六三九	二
支那の貨幣制度及其沿革	〔資料〕六四一	一
支那に於ける日貨排斥の真相	山本唯三郎〔財産〕六四二	五
支那幣制改革論	作田 莊一〔亞經〕六六一	一
支那幣制改革問題の經過	只見 徹〔亞經〕六六一	一
支那上古の貨幣に就て	田中 忠夫〔亞經〕六六一	一
宋の理宗時代の貨幣	田中 忠夫〔亞經〕六六一	一
ワグネル氏の支那幣制改革案と其批評	三枝 茂智〔國家〕六六三	二
貨幣流通の現状	善生 永助〔財經〕六六六	二
支那の新補助貨幣に就て	黃 英 廣〔國經〕六六九	二
三國貨幣史論	田中 忠夫〔亞經〕六七二	三
最近支那幣制整理に關する公文	井上 翠〔亞經〕六七二	四
支那金本位制の實行に就て	作田 莊一〔亞經〕六七二	四
支那幣制改革の實行方法如何	善生 永助〔財經〕六七五	五
支那の紙幣改革に就て	村田 俊彦〔國家〕六七三	六
支那幣制改革雜記	堀江 歸一〔三學〕六七三	三
支那幣制改革問題	服部文四郎〔國經〕六八七	一五六
支那の幣制改革問題	河田 嗣郎〔經叢〕六七七	一五六
支那の金本位問題に就て	戸田 海市〔經叢〕六七七	一五六
支那の銀貨統一計畫	吉田 虎雄〔亞經〕六八三	二
支那の日貨排斥運動	戸田 海市〔經叢〕六九〇	二
遼代貨幣史論	田中 忠夫〔亞經〕六九四	三
北宋貨幣史論	田中 忠夫〔亞經〕六九四	三
銀元	清水 久行〔國經〕六九二	四
グイセリング氏の支那幣制改革意見と青島及關東州の貨幣制度	三枝 茂智〔國家〕六九三	四
上海兩と上海の通貨	池田 龍藏〔三學〕六九四	一
唐代貨幣史論	田中 忠夫〔國經〕七〇〇	一
南北朝貨幣史論	田中 忠夫〔國經〕七〇〇	一
北宋貨幣史論	田中 忠夫〔國經〕七〇〇	一
漢代貨幣史論	田中 忠夫〔國經〕七〇〇	一
支那の銀幣に就て	田中 忠夫〔亞經〕七〇〇	一
上海に於ける近時の貨幣及金融に就て	谷 喬木〔亞經〕七〇〇	一
短陌に就て	西山 榮久〔亞經〕七〇二	一
支那及印度兩替の實際	田中 忠夫〔亞經〕七〇二	一
莊票論	小林 四三〔商事〕七〇二	一
銀錠に就て	西山 榮久〔亞經〕七〇三	一
支那近代の貨貨に就て	田中 忠夫〔亞經〕七〇三	一
支那の紙幣に就て	田中 忠夫〔亞經〕七〇三	一

飛子に就いて	田中 忠夫〔國經〕六三三	三
支那に於ける日貨排斥運動	田中 忠夫〔亞經〕六三三	三
支那貨幣の進化に就て	田中 忠夫〔亞經〕六三三	三
錢莊の發行する莊票について	及川 恒忠〔三學〕六四一九	五
獨逸に於ける金貨準備	高島 誠一〔國經〕六四一八	二
戰爭と獨逸の金融及通貨政策	高島 誠一〔國經〕六四一八	二
獨逸に於ける貨幣價值下落の原因及之が救済策	今田 知二〔政治〕六八一	二
戰後獨逸の貨幣政策	山口正太郎〔商經〕六〇〇	二
獨逸貨幣の對内購買力	平野 清〔商經〕六一一	二
獨逸貨幣の對内購買力補遺	平野 清〔商經〕六一一	二
馬克相場の安定に關する國際委員會の提案を評す	高城仙次郎〔法研〕六三三	二
馬克安定策如何	青木 得三〔國知〕六三三	三
獨逸馬克下落の經過	山口 巖〔銀研〕六三三	三
獨逸馬克貨幣事情と獨逸の物價	神戸 正雄〔時經〕六二二	一
大戰勃發前後に於ける獨逸の兌換制度	松島 喜作〔銀叢〕六三二	一
獨逸國貨幣價値の安定を論ず	青木 得三〔金融〕六三一	一
マルクの下落と私法關係	小町谷操三〔志林〕六三二	二一〇
戰後獨逸の財政通貨及び富獨逸レンテン・バンク並にレンテン・マルクに就て	鈴木 平吉〔國經〕六三三	六
馬克の安定問題に於て現行の獨逸貨幣法	佐久間 勝〔保雜〕六三二	三〇三
獨逸の金本位制	宇都宮 鼎〔國家〕六三三	一〇
獨逸の通貨問題に就て	竹島富三郎〔商經〕六四一	四〇
佛蘭西銀行の紙幣發行制限擴張に就て	宮田喜代藏〔國經〕六四三	六
佛蘭西銀行の紙幣發行制限擴張に就て	宇都宮 鼎〔國家〕六四三	九
佛蘭西の戰時紙幣發行	堀江 歸一〔國經〕四三九	一
佛蘭西現行貨幣制度變遷を論ず	堀江 歸一〔國經〕四三九	一
佛蘭西に於ける通貨と物價との關係	松崎 壽〔國家〕六三二	二
英佛兩國の金貨爭論	松崎 壽〔國經〕六四一	四
米國に於ける應急通貨の發行並に回收	青木 得三〔國知〕六三三	三
米國の金準備問題	十龜 盛次〔日經〕六四一	九
北米合衆國の通貨制度	三宅嘉十郎〔三學〕六六一	七
米國貨幣制度發達史論	三宅嘉十郎〔三學〕六六一	七
米國舊準備制の缺陷と新準備	松崎 壽〔商經〕六七一	一



備制の組織及運用	奥田 勳〔銀研〕六三	海峽植民地幣制改革	内池 廉吉〔國經〕四九
一九一四年歐洲戰亂と金貨問題	宗像 久敬〔法協〕六三三	アルゼンタインの幣制顛末	笠間 泉雄〔國家〕四四
歐洲交戦國に於ける金貨匯藏と兌換停止	山崎覺次郎〔國家〕六四二	臺灣に於ける貨幣制度	菅 武時〔日經〕四四
歐洲諸國現時の紙幣に就て	山崎覺次郎〔國家〕六九三	膠州灣保護領貨幣制度	瀧波 正勝〔國家〕六四
北歐諸國の貨幣問題	平野 清〔商經〕六三	全米貨幣制度統一の計畫	堀江 歸一〔三學〕六五
歐洲現下の通貨問題と金歐洲に於ける通貨改革問題	青地玄三郎〔長策〕六三	全米貨幣統一案	河田 嗣郎〔經叢〕六五
露國紙幣問題	岩崎 博〔銀研〕六四	滿洲に於ける金貨普及問題	一宮房次郎〔財經〕六六
重大なる露國貨幣問題	野村 徹〔外時〕六八	滿洲洋票兌換問題	尾上 利治〔國經〕六六
誤れる過激派の貨幣經濟露國と其正金の運命	野村 徹〔國際〕六九	西伯利亞の通貨事情	肥田 啓造〔財經〕六九
勞農露國に於ける幣制改革問題	松野清次郎〔商經〕六九	滿洲の通貨と金建問題	西原 龜三〔東經〕六九
勞農露西亞の通貨と銀行業	柏田 忠一〔亞經〕七〇	青島の通貨並に金融	武田 和吉〔長策〕六九
戰時共產主義時代に於ける勞農露國通貨政策の歸趣	谷口 吉彦〔經叢〕七〇	埃國幣制安定經過概要	鈴木 平吉〔國經〕七〇
ロシアに於ける一九二四年の幣制改革	平野 清〔商經〕七〇	チエツコ國幣制改革問題	鈴木 平吉〔國經〕七〇
其 他	鈴木 平吉〔國經〕七〇	法の變遷の一例として見たるポーランド・マルグの下落問題	飯島 幡司〔國經〕七一
	波多野義熊〔亞經〕七一	貨幣數量說	
	宮田喜代藏〔商濟〕七一	通貨數量說に就て	
		貨幣數量說に就て	
		フイツシャー氏の新貨幣數量說	
		貨幣數量說に關する諸說	
		貨幣及び信用に關する數量說に就きて	

利子論上に於ける貨幣數量說

戰前の物價と貨幣數量說	高城仙次郎〔三學〕六六	本邦に於ける製紙業の趨勢	河東田經清〔東經〕四五
アンダンソン教授の貨幣數量說の反對論に就て	三浦 武美〔國經〕六八	支那に對する紙の販賣政策	河東田經清〔東經〕四五
貨幣數量說の研究	古屋 美真〔同論〕六九	日本産業發達の裏面II和洋製紙業	一知半解樓〔財經〕六四
Das Geld als Qualität	田中 金司〔國經〕七〇	戰後の製紙市場	足立 正〔洋經〕六五
ドイツ・ソヴィエトと貨幣數量說	山口 茂〔商研〕七一	紙	西村 生〔洋經〕六六
貨幣數量說の史的考察	Berliner〔經論〕七二	支那の外國紙需要	加藤 銀藏〔統集〕六七
需要供給論と貨幣數量說	長谷田泰三〔經論〕七三	本邦の製紙工業	藤原銀次郎〔財經〕六八
貨幣數量說に就て田中博士の教を乞ふ	萩原吉太郎〔三學〕七三	我が製紙業の現状と將來	吉川 元光〔經叢〕七〇
貨幣の數量に就て	山口 茂〔商研〕七四	舊岩國藩の制紙原料保護政策	穴水 要七〔財經〕七一
ウキザースの貨幣數量說	佐野 包治〔銀叢〕七四	我が製紙工業の大勢	
貨幣數量說並に貨幣品質說を否定す	山崎覺次郎〔經論〕七四		
數量說管見	小津 新一〔銀研〕七四		
	勝田 貞次〔銀研〕七四		
	平野 清〔商經〕七五		

紙

本邦西洋紙の需用と製紙業	水野 良高〔日經〕四〇	本邦硝子業の現状	赤沼孝四郎〔日經〕六四
製紙場に於ける職工待遇法	山内 正瞭〔國家〕四四	硝子製品	田中 忠夫〔資料〕六九
		支那硝子工業	瀨戸彌三次〔經商〕七一
		湖南省の硝子工業	西山 榮久〔亞經〕七三
		硝子保險に就て	
		米國硝子工場に於ける團體交渉	
		支那ガラス工業の既往と現在	



本邦硝子工業労働事情

吉田 寧 [社政] 大二三 一 卷 三四六號

【樺太】

樺太の漁業問題に関する研究

高橋 作衛 [國際] 四九 四 一〇

臺灣又は樺太に法律を施行する勅令の効力

長岡隆一郎 [法協] 四四二 二七 六

樺太に於けるライ麦販賣組合

川口順次郎 [東經] 大三七〇 一七七一

樺太國勢調査事務取扱規定

外交時報社 [統雜] 大八一 四〇二

樺太接壤地方の鮮支兩民族に就て

稻葉 岩吉 [亞經] 大一〇五 三

樺太と日本との歴史的關係

杉生 紘 [新聞] 大三一 一二三五

樺太に於ける法令の整理に就て

二宮 丁三 [亞經] 大一一四 九 三

樺太問題年表

庵崎 貞俊 [外時] 大一一五 三 五二

國際石油問題と北樺平利權の價值

庵崎 貞俊 [外時] 大一一五 三 五二

【假差押】

強制執行を見よ

【假處分】

強制執行を見よ

【カルウイン】

(John Calvin, 1509-1565)

産業史上に於けるカルウイン

藤谷光之助 [國經] 大六二三 二二三

カルピンの政治思想

今中 治磨 [國論] 大一一〇 一 六

宗教生活と經濟生活、カルウイニズムの英國經濟に及ぼせる影響について

笹森 建三 [商經] 大四四 六 一

【カルカー】

(Fritz von Calker, 1864-)

「完成」の思想(カルカーの法理論)

杉山 茂顯 [國家] 大一一五 九 一 一二

【カルテル】

參照||企業。トラスト。

カルテルの法律上の形式を決定するの困難

烏賀陽然良 [國經] 四三九 一 三

佛國に於けるカルテルの法律上の形式

烏賀陽然良 [國經] 四三九 一 五

企業家組合の起因及保護的關稅に對する其關係

氣賀 勘重 [國經] 四四〇 三 四四五

我國に於けるカルテル熱の來

水郷 生 [東經] 大四七一 一七二

物典

商業政策に於けるカルテルの地位

津村 秀松 [國家] 四四一 四 六號

カルテルとトラストの關係に就て

笠間 泉雄 [國家] 四四一 三 二二

カルテルとダンピング

海老原竹之助 [國經] 四四四 一〇 三

戰時に於けるカルテル運動

松田 知之 [外時] 大六二六 三〇八

獨逸に於ける強制カルテル問題

田中 金司 [國經] 大八二六 六

カルテル法律論

田中 誠二 [法協] 大一一四〇 一二

【カルナー】

(Joseph Karner)

カルナー「法律制度の社會的機能」(譯)

恒藤 恭 [我等] 大九二 一〇

【ガルニエ】

(Joseph Clemens Garnier, 1813-1881)

利子利息説上に於けるセニ

寺尾 隆一 [國家] 四四二 五 一〇

【革】

オルとガルニエ

本邦牛皮製革業の現在及將

來

皮革及び皮革製品

水郷 生 [東經] 大四七一 一七二

戦後の皮革市場

浦邊 襄夫 [洋經] 大五一 七四四

我が製革工業の將來

浦邊 襄夫 [財經] 大九七 二

【爲替】

參照||外國爲替。銀行。金融。

支那南洋貿易と爲替資金

山成 喬六 [財經] 大三一 一一

銀行内國爲替尻の操縦に就て

細井安太郎 [商經] 大五一 二

爲替貸借の原理を論ず

兒林百合松 [會計] 大六二 六

爲替資金の調達策に就きて

稻山 始 [東經] 大六七五 一九七

爲替貸借理論

中島 精二 [會計] 大七三 三

爲替貯金局より觀たる地方別金融

天岡 直嘉 [財經] 大八六 二〇

最近三年間に於ける爲替貯金業務の實況

天岡 直嘉 [財經] 大九七 九

買入外國爲替轉賣の整理法

木村秀太郎 [銀研] 大二〇 一

支店間爲替取引の本店集中計算制

横山千代材 [銀研] 大一一 三

爲替事務(内國)取扱手續

藤野 豊治 [銀研] 大一一 三

銀爲替取引法

古矢 岩雄 [銀研] 大一一 三

他店爲替尻拂込方法改良私案

岡上虎三郎 [銀研] 大二五 一







する安寧幸福増進事業に就て  
 英國小口保險戰時死亡率英國小口保險に對する批難と其改善計畫  
 簡易保險積立金の運用と社會事業  
 民間保險との分野を亂す簡保  
 羊頭苦肉の簡易保險  
 簡易保險積立金の運用狀況  
 簡易保險限度引上げ反對  
 簡易保險の保險料に就て  
 簡易保險の死亡表  
 簡易保險の改正保險料を評す  
 再度改正の簡易保險料を評す  
 簡易火災保險官營反對論  
 簡易年金保險

石坂 泰三〔保雜〕大七 一 二五  
 竹下 清松〔保雜〕大七 一 二六  
 竹下 清松〔保雜〕大九 一 二六  
 桑山 鐵男〔社政〕大二 一 一〇  
 矢野 恒太〔東經〕大〇 八 三 二〇八  
 北里製炭男〔東經〕大〇 八 三 二〇八  
 桑山 鐵男〔東經〕大〇 八 三 二〇八  
 志田鈿太郎〔東經〕大〇 八 三 二〇八  
 佐藤 保兒〔國經〕大 一 三 三  
 佐藤 保兒〔國經〕大 一 三 三  
 佐藤 保兒〔國經〕大 一 三 三  
 佐藤 保兒〔國經〕大 一 三 三  
 佐藤 保兒〔國經〕大 一 三 三  
 佐藤 保兒〔國經〕大 一 三 三  
 北澤 宥勝〔保評〕大 四 一 八  
 神戶 正雄〔時經〕大 五 一 四  
 參照 監獄。少年裁判所。少年犯罪。犯罪。不良少年。免囚保護。

論す(譯)  
 感化院の濫觴  
 感化事業の必要及効果を論す  
 感化事業  
 感化教育の施行法に就て  
 索彌生國に於ける感化救濟事業  
 感化事業に就て  
 斬新奇拔なる感化院  
 感化事業の分業的設備  
 精神病と感化事業  
 感化院巡り  
 階級的種別的感化院設立の必要を論す  
 英國に於ける感化事業  
 東京市の感化救濟事業  
 都市と感化事業  
 感化事業の實驗  
 教育上より見たる感化事業  
 英國の感化事業殊に其年少犯人取扱に就て  
 統計上より見たる感化救濟事業

城 數馬〔法協〕四二〇 五 三七  
 田中 太郎〔統集〕四三 一 二〇七  
 小河滋次郎〔志林〕四四 三 二二  
 留岡 幸助〔法協〕四五 二〇 九  
 小河滋次郎〔志林〕四四 九 二二  
 長谷川久一〔國家〕四四 二 二二  
 平沼騏一郎〔刑評〕四三 二 六  
 田中 太郎〔刑評〕四三 二 二  
 三宅 鑛一〔刑評〕四四 三 一  
 片山 國嘉〔刑評〕四四 三 四  
 池田 隆徳〔刑評〕四四 三 七八  
 小林 正金〔新報〕四五 二 一  
 平沼騏一郎〔法記〕四五 三 二  
 田中 太郎〔統集〕大 三 一 四〇  
 阪谷 芳郎〔新聞〕大 三 一 九五  
 留岡 幸助〔新聞〕大 三 一 九五  
 乙竹 岩造〔新聞〕大 三 一 九五  
 富田 山壽〔京法〕大 四 一〇 一〇  
 布川 孫市〔統集〕大 四 一 四二

【感化事業】

アツペール「感化院の制を

自然と感化事業  
 感化法に就て  
 獨逸刑法草案に現はれたる感化及保安の制度  
 感化院の内部より見たる不良少年教化事業  
 新時代の少年保護と感化事業

稻岡 幸助〔新聞〕大 四 一 一〇五  
 小河滋次郎〔法政〕大 七 一 五 三  
 花村 美樹〔朝司〕大 二 一 二二  
 川口 寛二〔統集〕大 二 一 二二  
 和田 一夫〔臺法〕大 二 一 二二  
 參照 企業。市營事業。事業。

【官業】

公業制度維持に關する意見  
 官營事業と私營事業  
 供給不足は獨占官業に於て最も甚だし  
 官業の價値に就て  
 減税及官業拂下の世論  
 非官業拂下論  
 公企業負擔に付て  
 官業整理と其の得失  
 官業整理の實績如何  
 官業整理と財政  
 官業事業の調査  
 官業論

山内 正瞭〔國家〕四四 一 二二  
 佐伯勝太郎〔東經〕四三 二 一五  
 谷奥 利吉〔洋經〕四四 一 五  
 馬場 鏡一〔新報〕大 〇 三 九  
 田島 錦治〔京協〕大 二 八 七  
 滿淵 實吉〔東經〕大 三 七 一七  
 美濃部達吉〔新報〕大 三 四 七  
 石渡 敏一〔財經〕大 四 二 八  
 橋本圭三郎〔財經〕大 四 二 八  
 小川郷太郎〔經叢〕大 四 一 三  
 澤 來太郎〔國經〕大 四 三 二〇  
 北崎 亡羊〔東經〕大 四 七 一八

【感化事業】 【官業】 【韓國】 【監獄】

公企業の特許  
 官業經營の財源に關する私案  
 官業問題に就きて  
 生産と營利の觀念に就て(附 福田博士の公企業論に關する疑問)  
 公業廢止論  
 明治初年の官營と金融

美濃部達吉〔新報〕大 五 二 六 三四  
 本多 精一〔財經〕大 六 四 一 六  
 神戶 正雄〔經叢〕大 六 四 一 四  
 瀬谷佐次郎〔同論〕大 九 一 三  
 伴野喜三郎〔臺法〕大 一〇 一 五 九  
 土方 成美〔經論〕大 一五 四 四

【監獄】

監獄の死亡  
 獄政論  
 監獄スタチスチック一斑  
 監獄論  
 監獄問題  
 監獄制度略論  
 監獄改良と刑法改正  
 監獄事業の大體  
 獨逸に於ける假出獄

今井 武夫〔スタ〕四二〇 一 一四  
 穂積 陳重〔國家〕四二 二 二二  
 觀堂 居士〔スタ〕四三 一 四八  
 石渡 敏一〔新報〕四四 一 八  
 小河滋次郎〔新報〕四五 二 二二  
 曲木 如長〔法記〕四五 二 九  
 長島鷲太郎〔國家〕四六 七 七  
 曲木 如長〔國家〕四七 八 八  
 小山 松吉〔法記〕四八 五 四五

【韓國】

朝鮮を見よ

【感化事業】 【官業】 【韓國】 【監獄】



刑法草案に對し監獄學上より觀察したる管見  
 獄制改正の前途  
 監獄の目的  
 日本に於ける監獄現時の實況  
 索國司法監獄署に就て  
 衛生上より觀察したる分房制  
 支那監獄の起原  
 支那監獄の起原を讀みて  
 獄制改良の著手に關して當局有司の注意すべき要件を論ず  
 監獄統計調査法  
 獄制に對する事蹟の一斑に就て  
 監獄外に於ける囚人の獄衣に就て  
 監獄統計に就て  
 普國監獄視察談  
 囚人の樂書  
 青年感化監獄の必要  
 清國の獄制

小河滋次郎	〔國家〕	三二	二二
小河滋次郎	〔國家〕	三三	二二
仲小路 廉	〔法記〕	三四	二二
和田千松郎	〔統雜〕	三四	一
小秋元三八吉	〔法政〕	三四	五
小秋元三八吉	〔法政〕	三五	六
田能村梅士	〔法協〕	三五	二
鈴木 宗吉	〔法協〕	三七	二
小河滋次郎	〔法政〕	四〇	一
高橋 二郎	〔統集〕	四〇	一
小河滋次郎	〔法協〕	四一	二
横山勝太郎	〔辯協〕	四一	二
花房直三郎	〔統集〕	四二	一
谷田 三郎	〔法記〕	四三	二
寺田 精一	〔刑評〕	四三	二
留岡 幸助	〔刑評〕	四三	二
小河滋次郎	〔刑評〕	四三	二

敢て全國の司獄官に訴ふ  
 獨逸國に於ける司法警察官と檢事との實務取扱上の關係及び檢事と司獄官との職務上の關係  
 獨房制の弊  
 忘れぬ獄中生活  
 コンコルド感化監獄の現況  
 獄中吟草  
 監獄改良私見  
 人種改良家の監獄觀  
 露西亞監獄の週囚一斑  
 出獄者と監獄の下附金  
 司獄官  
 囚人の最大危機  
 米國に於ける監獄制度  
 獄中生活  
 假出獄制度の實況  
 司獄官の感想(講演)  
 亞米利加の監獄改良策  
 監獄學の研究  
 未決囚の待遇を論ず  
 監獄最高政策の立場から  
 (監獄工業の刷新)

横山勝太郎	〔辯協〕	四三	一四	二四七
岡田 庄作	〔法記〕	四四	二	
石川三四郎	〔刑評〕	四四	三	
福田 英子	〔刑評〕	四四	三	
小鹽 高恒	〔刑評〕	四四	三	
栗原 亮一	〔刑評〕	四四	三	
山口 孤劍	〔刑評〕	四四	三	
海野 幸徳	〔刑評〕	四五	四	
吉田 知道	〔刑評〕	四五	四	
原 胤昭	〔新聞〕	大ニ	一	八三
花井 卓藏	〔辯協〕	大ニ	一	八八
泉二 新熊	〔評論〕	大四	三	二
田宮準一郎	〔國論〕	大七	六	二
宮本平八郎	〔辯協〕	大七	三	六
山岡萬之助	〔新聞〕	大七	一	四二七
花井 卓藏	〔新報〕	大八	二	九
泉二 新熊	〔新報〕	大九	三	〇
佐々木英夫	〔法政〕	大九	七	七
杉本 榮次	〔臺法〕	大一〇	五	一〇
寺崎 勝治	〔法政〕	大一〇	一八	二

接見禁止と飲食の差入禁止  
 監獄統計の現はれたる病者  
 監獄事業の教育的使命  
 監獄作業時間問題  
 監獄視察記  
 監獄制度改良私議  
 歐米に於ける少年裁判及監獄制度  
 國際監獄會議  
 拘禁者の自由研究  
 囚人と粗食  
 第九回國際監獄會議の議題  
 「監獄内の二十五年」を讀む  
 監獄見學の旅(國際刑務會議團の巡視旅行)

草野豹一郎	〔志林〕	大二〇	二二	二二
羽柴瑠之助	〔統集〕	大二〇	一	四八四
寺崎 勝治	〔法政〕	大二一	九	二
辻 敬助	〔臺法〕	大二一	六	六
中野 清	〔社政〕	大二一	一	九
緒方 清繼	〔臺法〕	大二二	七	二
笠井健太郎	〔朝司〕	大二三	三	二
正木 亮	〔志林〕	大二三	三	二
寺崎 勝治	〔臺法〕	大二三	八	二
夢 村	〔新聞〕	大二三	一	二二三
大塚 郷二	〔志林〕	大二四	二七	八
大森 洪太	〔法政〕	大四三	三	六八
大森 洪太	〔法曹〕	大四五	四	二二三

【監獄】  
 取締役及監査役の資格發生及消滅の時效を論じて大審院及東京地方裁判所の判決に及ぶ  
 取締役又は監査役と會社との關係に就て  
 例の誤を正す  
 取締役又は監査役と會社との關係に就て松本法學士の高教を仰ぐ  
 取締役又は監査役と會社との關係に付き片山君に答ふ  
 監査役豫選の當否に付て小數株主權論  
 監査役の任期を論じて之か法規の改正を求む  
 法人は會社の監査役に選任せらるゝことを得ざるや我國の監査役に就て  
 監査役の補員選舉に就て  
 監査役の任期に就て  
 株主の監査役選舉に就て  
 英國監査役  
 監査役の改善を望む  
 免許監査人設置說に就て

松本 丞治	〔法協〕	四三	二	二
岸本 辰雄	〔明法〕	四五	一	五五
岸本 辰雄	〔辯協〕	四五	一	五五
岸本 辰雄	〔新聞〕	四五	一	五五
片山 義勝	〔法協〕	四三	三	一
松本 丞治	〔法協〕	四三	三	三
渡邊 暢	〔新聞〕	四五	一	二〇四
鈴木雄次郎	〔新聞〕	四五	一	二七四
林 龍太郎	〔新聞〕	四五	一	四四〇
清瀬 一郎	〔京法〕	四五	一	八
鹿野清次郎	〔國經〕	四五	一	六
林 龍太郎	〔新聞〕	四五	一	四七六
角 利助	〔新聞〕	四五	一	四八〇
林 龍太郎	〔新聞〕	四五	一	五〇九
松波仁一郎	〔法協〕	四五	一	五〇九
高橋 義雄	〔東經〕	四五	一	四七六
河東田經濟	〔東經〕	四五	一	四七六



【監査役】 【管子】 【慣習法】

監査役制度改革の方法如何  
官選監査役の必要及公證人  
をして之に當らしむるの  
議

大越 盛徳〔東經〕四二六〇 一五三三

監査役の選任方法

倉場隼太郎〔新聞〕四四二 一五六一

株式會社の監査制度に就て

森 作太郎〔新聞〕四四二 一五五五

株式重役の刑罰

岡野敬次郎〔法協〕四三三 一四〇一

監査役制度の改正問題に付  
て

稲田周之助〔日經〕四四三 一四〇四

會社重役懲罰論

松本 丞治〔法協〕四三三 一四〇五

監査役問題に關する世論を  
評す

松波仁一郎〔京協〕四三三 一四〇九

株式會社監査役選舉の方法

高木祥二郎〔新聞〕四四三 一四一〇

商法改正と公認検査制度に  
就て

大原 信久〔新聞〕四四三 一四一〇

會社重役の任期に就きて

野村 嘉六〔新聞〕四四三 一四一〇

株式會社の重役の議決權

高窪喜八郎〔評論〕六九 一

監査役は虚偽の貸借對照表  
の公告に責を負ふ

松波仁一郎〔法記〕六二 二二九〇

帝國議會議員は保護會社重  
役たらしむべからざるか

稲田周之助〔日經〕六三 一五〇七

小數株主權の本質を論ず

鳥賀陽然良〔新報〕六六 二七

監査役制度の改善に就て

吉田 良三〔國經〕六九 二九

監査役たる株主は商法第一  
九八條の検査役選任の申  
請を爲し得るや

銀行重役の責任

廣瀬 正雄〔新聞〕六二〇 一八五八

會社重役の私財提供を論ず

松波仁一郎〔新聞〕六二二 一八七〇

松波博士の銀行重役の責任  
を讀みて偶感

松波仁一郎〔新聞〕六二二 一八七〇

監査役の制度改正に就て

高木友三郎〔新聞〕六二二 一八七四

監査役制度論

花岡 敏夫〔イソ〕六二五 一八七三

會社重役の責任について

濱田 徳海〔會計〕六三三 一八七五

管子の獨占政策

松本 丞治〔エコ〕六五四〇 一八七三

【慣習法】

慣習法起源諸説の批評

江木 衷〔法協〕四三三 一四一〇

慣習法の性質

一木喜徳郎〔法政〕四三三 一四一〇

慣習法を論じて民法商法に  
及ぶ

松本 重敏〔辯協〕四三三 一四一〇

慣習法の觀念に就て

岡 實〔志林〕四三三 一四一〇

慣習法の法力

島田 俊雄〔法政〕四三三 一四一〇

高橋博士の干渉の説を批駁  
す

千賀鶴太郎〔京法〕六三 一九

干渉論

立 作太郎〔國家〕六三 二九

他國の君位繼承事件と干渉

蜷川 新〔外時〕六四 三三

出兵と干渉

立 作太郎〔外時〕六七 三七

干渉と協力

立 作太郎〔外時〕六三 三九

【官制】

改正官制俸給令と既定歳出  
豫算と官制

長陵 學人〔新報〕四四 一六

官制制定權を論ず

小林丑三郎〔法政〕四三〇 一六

鎌倉室町兩幕府の官制に就  
て

鐵史樓主人〔新報〕四三三 一〇 二六

大寶令に見えたる官位の稱  
呼並に畫指について

中田 薫〔法協〕六三 三〇 一〇

【關稅】

輸出税金廢せざるべからず

黑板 勝美〔法協〕六八 三七 二二三

海關稅を論じて尾崎三良、  
前田正名二氏の妄を辯す

田口 卯吉〔國家〕四三五 六

通商條約と關稅制度

岩村 茂〔國家〕四三七 八 九二

關稅論

井上辰九郎〔國家〕四三八 九 四九

慣習法を論ず

石池音四郎〔京法〕四四〇 二 九號

南洋の土民間に於ける慣習  
法

菊池 武夫〔新報〕四四四 二 四

グミュール教授の慣習法論

山本美越乃〔京法〕六五 二二

【干渉】

國際干渉論

花井 卓藏〔新報〕四四 六 五九

國際法上干渉權の有無を論  
ず

長岡 春一〔法協〕四三三 一八 二

干渉を論ず

松原 一雄〔國家〕四三三 一七 二〇

干渉の定義並主權と國際法

松原 一雄〔國家〕四三三 一七 二〇

干渉の定義

立 作太郎〔國際〕四三三 二 二

モノロー主義と干渉との關  
係

蜷川 新〔國際〕四三三 二 二

外國の内亂に對する不干渉  
の義務

秋山雅之助〔志林〕四四二 一 一〇

外國の内亂の場合に於ける  
不干渉の義務並に新國家

有賀 長雄〔國家〕四四五 二六 二

又は新政府の承認

立 作太郎〔國家〕四四五 二六 三

外國の動亂と干渉

蜷川 新〔國際〕四四五 一〇 三四

干渉權及干渉の定義

蜷川 新〔國際〕六九 二二 二

【慣習法】 【干渉】 【官制】 【關稅】



日本海關稅論	三浦 頼道〔國家〕四二九	年卷	一〇二	一七
濠洲關稅事件	高橋 作衛〔外時〕四三三		五	一
關稅報復並關稅互惠を論ず	堀江 歸一〔國經〕四三九		一	一
關稅同盟	山崎四男六〔國家〕四三九		二〇	三
現行條約の不備と關稅定率法の改正	津村 秀松〔國經〕四三九		一	三
關稅定率法改正の要點	武田 英一〔國經〕四三九		一	五
我國の協定稅率を論じて條約改正に及ぶ	河津 暹〔日經〕四四〇		一	一
企業家組合の起因及保護的關稅に對する其關係	氣賀 勘重〔國經〕四四〇		三	甲五
關稅の改正及び內國稅の革新	加藤政之助〔日經〕四四〇		一	七
保護關稅と國民經濟	丹羽 實〔國經〕四四一		五	三
保護稅と國民福利	丹羽 豐〔國經〕四四一		五	四
帝國關稅政策論	丹羽 筑山〔東經〕四四二		六〇	五九
關稅制度上に於ける內國稅と戻說	津村 秀松〔國經〕四四二		六	一
復關稅率問題に關して森本駿君に答ふるの書	津村 秀松〔國經〕四四二		六	二
米穀輸入稅改正につきて	河津 暹〔志林〕四四二		一	一
農業關稅論	矢作 榮藏〔日經〕四四二		五	二
條約改正に關し複關稅率制	津村 秀松〔國經〕四四二		六	一
の利害を論ず	津村 秀松〔國經〕四四二		五	五
米穀輸入稅改正に就て	福島 平〔新報〕四四三		一	五
歐州關稅改革の現狀	小倉 和子〔三學〕四四三		一	五
諸大家の關稅改正意見を讀む	河津 暹〔日經〕四四三		五	八
現行通商條約の最惠國條款に依り本邦輸出品が外國に於て受くる關稅利益	水野 良高〔日經〕四四三		六	五
米及米關稅に關する統計調査	津村 秀松〔國經〕四四三		六	六
原產地證明	オツグ〔國家〕四四三		二	六
歐州諸國の關稅定率法及び關稅改革	大越 成徳〔東經〕四四三		五	七
チャンパーレン氏關稅政策	井上辰九郎〔東經〕四四三		五	七
關稅問題に付て	飯田 義一〔東經〕四四三		五	九
關稅發達の概觀	飯田 義一〔東經〕四四三		五	九
關稅改正の問題	津村 秀松〔國經〕四四二		七	二
來るべき條約改正に關する	稻田周之助〔新報〕四四二		一	〇
關稅法上の複稅率制度	田中 穂積〔國經〕四四二		七	五
輸入關稅の負擔者	松崎藏之助〔日經〕四四二		五	一
關稅問題の梗概	大西猪之助〔東經〕四四二		六	〇
報復關稅論				

殖民地關稅問題に付て	小林丑三郎〔東經〕四四二	年卷	六〇	一五
關稅同盟と自由貿易說	小林丑三郎〔東經〕四四二		六〇	一五
再び關稅同盟と自由貿易說に就て	小林丑三郎〔東經〕四四二		六〇	一五
關稅の内外に於ける利害の衝突	鹽澤 昌貞〔外時〕四四二		二	一
關稅問題に付て	天野 爲元〔洋經〕四四二		一	一
輸入品に對する內國課稅	安屋源次郎〔日經〕四四二		七	二
關稅改正と輸出貿易	河津 暹〔日經〕四四三		七	二
新關稅定率法第六條に就て	關 一〔日經〕四四三		七	三
關稅政策か社會政策か	河田 嗣郎〔國經〕四四三		八	二
關稅改革頭末	武田 英一〔國經〕四四三		八	五
誤解せられたる改正關稅定率	武田 英一〔國經〕四四三		九	一
關稅保護と萬國自由貿易大會	鹽澤 昌貞〔外時〕四四三		一〇	一〇
關稅同盟論	津村 秀松〔國經〕四四三		九	四
ベイン關稅法を論じて其改正問題に及ぶ	松井 啓介〔國經〕四四四		一	二
新通商條約と關稅改正	河津 暹〔國家〕四四四		二	二
關稅及廉賣地域	川上英一郎〔東經〕四四四		六	一
對英關稅問題の解決如何(河津博士の意見を讀む)	植松 考昭〔洋經〕四四四		一	五
米價の將來と米糧	河津 暹〔日經〕四四五		二	一
米價暴騰と米糧輸入稅の關係	莊田 秋村〔東經〕四四五		六	五
米糧關稅廢止論	小林丑三郎〔東經〕四四五		六	五
汽船輸入稅輕減の急務	山本唯三郎〔東經〕四四五		六	五
關稅法上の貨物	坪根 久松〔評論〕四四六		一	一
關稅政策(講演)	田尻稻次郎〔新報〕四四六		二	三
外米關稅廢止問題と議會	莊田 秋村〔東經〕四四六		二	七
米の供給と關稅	鈴木梅四郎〔財經〕四四六		三	一
獨逸と穀物關稅問題	阿部 秀助〔三學〕四四六		四	一
戰爭と關稅制度	阿部 秀助〔三學〕四四六		四	一
日本及支那に於ける關稅の史的觀察	田崎 仁義〔國經〕四四六		四	一
中歐關稅同盟論	松岡 均平〔國家〕四四五		三	〇
戰後の關稅政策	戶田 海市〔經叢〕四五二		二	六
禁輸及關稅に依る包圍攻撃	堀江 歸一〔三學〕四六一		一	四
殖民地の關稅制度を論ず	神戶 正雄〔經叢〕四六一		四	六
特惠關稅制度に就いて	渡邊 秀雄〔國家〕四六三		六	七
製鐵事業と保護關稅との關係	河津 暹〔國家〕四六三		七	七
我が製鐵事業と保護關稅の必要	今泉嘉一郎〔財經〕四六六		二	三
關稅警察事務と犯則の防止	今泉嘉一郎〔財經〕四六六		二	三
小麥定期取引と關稅問題	井出秀和太〔臺法〕四八一		三	六
	諸井 四郎〔財經〕四八〇		八	七



關稅改正要項	志立鐵次郎〔財經〕大〇八卷二〇號
生絲輸入稅撤廢問題	神戸 正雄〔時經〕大二九
米穀關稅免除延期の可否	河田 嗣郎〔エコ〕大二三
應急關稅政策の更正	神戸 正雄〔時經〕大二三
協定關稅の改訂	神戸 正雄〔時經〕大二三
奢侈品關稅の問題	半澤 耕貫〔社政〕大二三
外米關稅と内地米價	稻畑勝太郎〔エコ〕大二三
誤れる關稅政策	神坂靜太郎〔エコ〕大二三
綿絲關稅撤廢論の不合理	河田 嗣郎〔經叢〕大三一九
小麥及小麥粉關稅引上是非	小林 行昌〔國經〕大四三八
科學的關稅概論	垣内幸太郎〔エコ〕大四三
毛織物關稅の引上は不可	河田 嗣郎〔經叢〕大四二〇
米價と關稅との關係に就て	汪 榮 寶〔外時〕大四四二
關稅自主權收回の根據	今井 俊彦〔外時〕大四四一
關東州産品輸入稅免除法に就て	土方 成美〔經論〕大四四
贅澤品關稅の經濟社會に及ぼせる影響	菱沼 勇〔經研〕大四二
關稅の外國貿易に及ぼす影響に就て	青木 得三〔エコ〕大四三
わが關稅改正の目標	小林 行昌〔早商〕大四一
關稅と物價の關係	野村 次夫〔國經〕大四四
國際平和と關稅問題	三宅鹿之助〔經研〕大四五
砂糖關稅改正と本邦製糖業	
國際課稅の主義論争	神戸 正雄〔經叢〕大五三
我國の關稅	岸本誠二郎〔經研〕大五三
本邦關稅沿革と製鐵業	生松 淨〔經研〕大五三
本邦關稅沿革と其生産業に及ぼしたる影響	鈴木 武雄〔經研〕大五三
本邦綿絲關稅の沿革と紡績業	三宅鹿之助〔經研〕大五三
本邦穀物並に砂糖關稅の沿革	松下 芳男〔國家〕大五四〇
關稅政策と帝國主義	瀬川 次郎〔同論〕大五一
關稅と勞賃との關係について	神戸 正雄〔時經〕大五一
鐵鐵關稅引上問題	神戸 正雄〔時經〕大五一
關稅調査委員會の常設	神戸 正雄〔時經〕大五一
鐵鐵關稅に代るべき製鐵獎勵金	神戸 正雄〔時經〕大五一
印度綿製品關稅引上の可能性	神戸 正雄〔時經〕大五一
我國綿製品の海外に於ける關稅攻め	神戸 正雄〔時經〕大五一
印度の關稅改正と我對印貿易	町田 成美〔外時〕大五三
印度地方各州と關稅	國吉 省三〔亞經〕大六一

英領印度の關稅政策

獨逸の海運擴張と英國關稅改革	瀧谷 善一〔國經〕大二五
英國特惠關稅論	小西 虎雄〔國經〕四一五
英國關稅問題の狀態	丹羽 豐〔日經〕四一五
日英關稅問題に就て	河津 暹〔外時〕四一一
再び日英關稅問題を論ず	河津 暹〔日經〕四四三
日英關稅問題と我金市製鐵	谷奥 利吉〔洋經〕四四四
日英關稅問題に付帝國議會に期す	有賀 長雄〔外時〕四四四
英國特惠關稅問題	戸田 海市〔經叢〕大六五
英國特惠關稅制度の我國貿易に及ぼす影響を論ず	河津 暹〔國家〕大六三
英國の特惠關稅問題に就て	神戸 正雄〔外時〕大六二
大英帝國互惠關稅問題	瀧谷 善一〔國經〕大七二
最近に於ける英國の關稅政策	瀧谷 善一〔國經〕大七二
英國の關稅改革問題	堀江 歸一〔エコ〕大七一
近世英國關稅政策	島田 靜夫〔外時〕大四二
英國の絹物關稅	神戸 正雄〔時經〕大四一
關東州特惠關稅に就て	野添 孝生〔エコ〕大四三

關東州特惠關稅

支那關稅改正問題	吉田 虎雄〔日經〕大二四
支那關稅增徴問題	津村 秀松〔國經〕大二五
支那關稅改正と帝國	根岸 祐〔外時〕大二八
支那關稅改正問題と條約	及川 恒忠〔外時〕大三一
日本及支那に於ける關稅の史的觀察	田崎 仁義〔國經〕大四一
關稅の制度及其の變遷	善生 永助〔財經〕大六四
(經濟上の支那十一)	根岸 佑〔亞經〕大六一
支那關稅改正と産業保護	木村増太郎〔亞經〕大六一
支那の關稅改正問題	河津 暹〔國家〕大六三
支那引入と關稅改正問題	善生 永助〔財經〕大六四
日支貿易と關稅改正問題	阿部 秀助〔三學〕大六一
支那と關稅問題	馬場 義興〔財經〕大六四
支那關稅改正の要求を拒絕せよ	神戸 正雄〔經叢〕大六四
支那關稅引上と日本紡績業	河津 暹〔國家〕大六三
再び支那關稅問題を論ず	津村 秀松〔國經〕大六三
支那關稅問題と日本	河津 暹〔國家〕大六三
支那關稅引上反對意見書を讀む	河津 暹〔國家〕大六三
支那關稅問題と我對支貿易	稻山 始〔東經〕大六七
支那の裁釐加稅問題	木村増太郎〔經叢〕大六五



支那引入と支那關稅改正問題	神戶 正雄〔外時〕大六二五 二九七
支那關稅問題の側面觀	齋藤 良衛〔外時〕大六二五 三〇三
支那に於ける内國關稅	高柳松一郎〔國家〕大七三三 二四
支那輸入關稅改訂實施の影響	善生 永助〔財經〕大八六六 二
裁釐加稅の研究	吉田 虎雄〔亞經〕大九四四 三
支那關稅改訂と日本の立場	善生 永助〔財經〕大九〇八 二〇
支那の關稅改正に就て	末廣 重雄〔經叢〕六一一四 四
支那の關稅改正問題に就て	木村増太郎〔亞經〕六一一六 三
支那古來の關稅と現行關稅	大村 欣一〔亞經〕六一一六 四
支那關稅改正と日支經濟關係	高柳松一郎〔財經〕六一一九 一四
支那の裁釐加稅問題に就て	吉田 虎雄〔亞經〕六一一七 一
支那關稅の過去及び將來に就て	下田 禮佐〔商濟〕六一一四 二
支那關稅引上と其對策	〔資料〕六一一九 三
民國財政部農商部會呈關稅臨時研究會決議案に就て	宮脇賢之介〔亞經〕六一一八 一
支那關稅金貨徵收案	長岡 克曉〔亞經〕六一一八 三
支那關稅特別會議に就て	吉田 虎雄〔亞經〕六一一八 三
日支關稅問題	長永 義正〔財經〕六一一八 一七八
支那關稅の獨立問題	宮脇賢之介〔亞經〕六一一九 一
支那の關稅制度及び其改訂	
問題一斑	田崎 仁義〔長彙〕大四一五 一
關稅問題に對する支那民間の意嚮	堀内 干城〔外時〕大四四一 四九一
關稅會議と對支借疑整理問題	勝田 主計〔外時〕大四四一 四九二
來るべき支那關稅會議	稻原 勝治〔外時〕大四四一 四九三
支那の關稅改正と我が對策を論ず	木村増太郎〔亞經〕大四一九 四
關稅特別會議に就て	末廣 重雄〔經叢〕大四二二 五
關稅會議の極東討議院案	橋川 凌〔外時〕大四四一 五〇一
關稅會議と文の擡頭	後藤 新平〔外時〕大四四一 五〇二
支那の財政と關稅問題	河瀬 蘇北〔國知〕大四五九 九
關稅特別會議員集と其議題	西澤 英一〔財經〕大四二二 一七
支那關稅政策と日本	堀江 歸一〔エコ〕大四三三 一七
支那の關稅自主權	西澤 英一〔財經〕大四三三 一七
支那の關稅增徴と我國の利害	木村増太郎〔エコ〕大四三三 二〇
支那の關稅改正問題	神戶 正雄〔時經〕大四四一 三三
支那關稅會議と我國	神戶 正雄〔時經〕大四四一 三九
支那關稅問題と裁釐加稅問題	神戶 正雄〔時經〕大四四一 四二
支那關稅會議の經過	木村増太郎〔法集〕大四四一 一
支那關稅會議詳史	高柳松一郎〔外時〕大四五三 五〇六
	外交時報社 大四五三 五〇六

關稅特別會議と日本	末廣 重雄〔外時〕大五〇三 五〇七
支那關稅會議は如何に進む可きか	河瀬 蘇北〔外時〕大五〇五 五〇九
民國の更生と關稅會議	陳 覺生〔外時〕大五〇三 五二〇
支那關稅問題	根岸 信〔外時〕大五〇三 五二七
支那關稅問題	小林 行昌〔早商〕大五〇二 一
關稅會議と日本原案の撤回	西澤 英一〔財經〕大五〇三 四
對支關稅對策の變更	神戶 正雄〔時經〕大五〇三 四
支那關稅改正の影響	神戶 正雄〔時經〕大五〇三 四六
朝鮮	
朝鮮の關稅に就きて	神戶 正雄〔經叢〕五 四
朝鮮關稅定率令改訂意見	山内 勝雄〔亞經〕大七二 四
朝鮮關稅制度の改正に就て	河津 暹〔國家〕大七三三 四一五
獨逸	
獨逸に於ける關稅法改正の顛末	田中 穂積〔外時〕四四一 一一二
獨逸輸出税に就て	服部文四郎〔洋經〕四四二 一四八
羽二重に對する獨逸の關稅待遇	守屋源次郎〔日經〕四四四 八
獨逸の農業保護關稅と食料品自給力	河田 嗣郎〔國經〕大四一九 二二三
獨逸關稅政策の沿革	牧野 義智〔國國〕大七六 一
佛國に就て本邦產絹織物が	
歐洲產と異りたる關稅待遇を受くるに至りたる顛末	歐洲對米國關稅戰闘
佛國關稅の研究	米國輸入稅率改正に就て
米國	米國に於ける關稅改正
米國に於ける關稅改正の顛末	北米合衆國の關稅改正
北米合衆國の關稅改正	米國の新關稅法と通商諸國
米國の新關稅法と通商諸國	米國に於ける新關稅改革の概要
米國に於ける新關稅改革の概要	一九二一年亞米利加合衆國緊急關稅法制定
一九二一年亞米利加合衆國緊急關稅法制定	米國の新關稅法に就て
米國の新關稅法に就て	米國現行保護關稅法と其效果
米國現行保護關稅法と其效果	亞米利加合衆國關稅制度の發達
亞米利加合衆國關稅制度の發達	露國の關稅保護
露國の關稅保護	露國及極東露領の關稅政策
露國及極東露領の關稅政策	
	田崎 仁義〔長彙〕大四一五 一
	堀内 干城〔外時〕大四四一 四九一
	勝田 主計〔外時〕大四四一 四九二
	稻原 勝治〔外時〕大四四一 四九三
	木村増太郎〔亞經〕大四一九 四
	末廣 重雄〔經叢〕大四二二 五
	橋川 凌〔外時〕大四四一 五〇一
	後藤 新平〔外時〕大四四一 五〇二
	河瀬 蘇北〔國知〕大四五九 九
	西澤 英一〔財經〕大四二二 一七
	堀江 歸一〔エコ〕大四三三 一七
	西澤 英一〔財經〕大四三三 一七
	木村増太郎〔エコ〕大四三三 二〇
	神戶 正雄〔時經〕大四四一 三三
	神戶 正雄〔時經〕大四四一 三九
	神戶 正雄〔時經〕大四四一 四二
	木村増太郎〔法集〕大四四一 一
	高柳松一郎〔外時〕大四五三 五〇六
	外交時報社 大四五三 五〇六
	歐洲對米國關稅戰闘
	米國輸入稅率改正に就て
	米國に於ける關稅改正
	米國に於ける關稅改正の顛末
	北米合衆國の關稅改正
	米國の新關稅法と通商諸國
	米國に於ける新關稅改革の概要
	一九二一年亞米利加合衆國緊急關稅法制定
	米國の新關稅法に就て
	米國現行保護關稅法と其效果
	亞米利加合衆國關稅制度の發達
	露國の關稅保護
	露國及極東露領の關稅政策
	田崎 仁義〔長彙〕大四一五 一
	堀内 干城〔外時〕大四四一 四九一
	勝田 主計〔外時〕大四四一 四九二
	稻原 勝治〔外時〕大四四一 四九三
	木村増太郎〔亞經〕大四一九 四
	末廣 重雄〔經叢〕大四二二 五
	橋川 凌〔外時〕大四四一 五〇一
	後藤 新平〔外時〕大四四一 五〇二
	河瀬 蘇北〔國知〕大四五九 九
	西澤 英一〔財經〕大四二二 一七
	堀江 歸一〔エコ〕大四三三 一七
	西澤 英一〔財經〕大四三三 一七
	木村増太郎〔エコ〕大四三三 二〇
	神戶 正雄〔時經〕大四四一 三三
	神戶 正雄〔時經〕大四四一 三九
	神戶 正雄〔時經〕大四四一 四二
	木村増太郎〔法集〕大四四一 一
	高柳松一郎〔外時〕大四五三 五〇六
	外交時報社 大四五三 五〇六



【間接訴権】 債權・債権の效力を見よ

【官廳】 參照官吏。

李國官衙の實況 木場 貞長〔國家〕四二二 二  
官廳の觀念に關する管見 小原 新三〔法協〕四二五 二〇  
文部大臣權限論 櫻井熊太郎〔辯協〕四四〇 二二  
官廳の訴訟行爲 皮本 生成〔辯協〕六三二 一八四  
ベルナチツクの論文「人格の概念特に官廳の人格」の内容 田村 徳治〔京法〕六七三 六八

志士と問諫 淺 倫太郎〔新聞〕四三三 二二  
問諫に關する佛國の法規 石見 林生〔新報〕四二五 一  
宣傳と問諫 建部 遜吾〔外時〕六一五 四〇

【カンチロン】 (Richard Cantillon, 1680-1734)  
經濟學の發端 Richard Cantillon 福田敬太郎〔國經〕六九二 甲五

【姦通罪】

告訴の拋棄と強姦致傷罪 卜部喜太郎〔新報〕四三〇 七  
姦通罪と婚姻方式との關係 岩味 隆次〔新聞〕四三六 一  
を論ず 勝本勘三郎〔京法〕四四〇 二  
姦通に就て 加藤 弘之〔法協〕四四二 二六  
被教唆者の強姦致死罪に對する強姦教唆者の責任の根據 牧野 英一〔新報〕四四一 八

男爵加藤先生の姦通論を拜讀し民法八一三條刑法三五四條改正刑法一八四條に及ぶ 一瀬勇三郎〔新聞〕四四一 一  
支那法と姦罪 東川 徳治〔志林〕六六九 四  
新刑訴と姦通罪其他との關係 上内恒三郎〔臺法〕六一二 九

強姦致傷の罪と刑法第二〇七條との關係に就て 伊藤 三秋〔新聞〕六一一 二〇七  
姦淫成傷罪に就て 小齋甚治郎〔正義〕六四一 四

【ガンディー】 (Mohandas Karamchand Gandhi, 1869-)  
大聖ガンディーが事ども 村上源太郎〔社政〕六一一 一九  
ガンヂの非協英運動 鹿子木貞信〔外時〕六一三 四八

【鑑定】 證據を見よ

【カント】 (Immanuel Kant, 1724-1804)

カントの學說 戸水 寛人〔法協〕四三三 八九  
カントの國家論 上杉 慎吉〔法協〕四三七 三  
カント認識論と純理經濟學 左右田喜一郎〔國經〕六四九 五  
カント國家及法律哲學と論理形式主義經濟學 福田 徳三〔三學〕六七一 一  
自由民政及永久平和(カントの學說を評す) 稲田周之助〔新報〕六七二 八  
カントと軌近の社會主義 米田庄太郎〔經叢〕六七七 三六  
新カント派認識論と經濟學 山口正太郎〔商經〕六七二 二  
カント「法律學の形而上學的原理」の緒論 恒藤 恭〔同論〕六〇一 五  
カント契約的國際社會論 今中 次磨〔外時〕六一三 四九  
カントの政治思想 今中 次磨〔同論〕六一一 八  
カントの法理論 船田 享二〔法政〕六一二 一九九 二

【ガンディー】【鑑定】【カント】

カントの法律哲學に就いて カントに歸つて經濟學を論ず 上田 和夫〔法叢〕六三九 四一五

フオルレンダー「カントと社會主義」(譯) 船田 享二〔我等〕六三二 五  
國際平和思想より觀たるカントとウキルソン 神川 彦松〔國際〕六三三 三  
カントの國家論 關 榮吉〔社雜〕六三三 一

ザウアーの新カント派法理學辯護論 今川 赴夫〔國家〕六三三 三  
カントとフランス革命 船田 享二〔法政〕六三二 四  
カントの歴史哲學と社會哲學 柳澤 泰爾〔法治〕六三三 三  
人としてのカント 高橋 正彦〔國知〕六三三 四

カントの法理論 大谷 美隆〔法治〕六三三 三  
近世文化の哲學者としてのカント 岸 與詳〔長彙〕六三三 一  
カントの生涯とその著書 桑木 嚴翼〔社叢〕六三三 七  
カントの社會思想 松永 材〔社政〕六三三 一  
カントの理性道德と現代の社會思潮 兒玉 達童〔社政〕六三三 一

カントの「國際法」論 友枝 高彦〔社政〕六三三 一  
カントに至る平和思想の進 高橋 正彦〔國知〕六三三 四



展  
カントの法律哲學  
カントと人類の結合  
カント「判斷力批判」の問  
題と文化の目的性  
「純粹理性批判」に於ける  
ゲマインシャフト即ち相  
互作用の概念  
デボーリン「カントに於け  
る辯證法」(譯)  
福本 和夫「社科」大五 二 六

【關東州】

旅順威海衛に關する清英露  
獨の交渉  
浦潮斯徳と旅順及大連  
旅順口法權問題  
租借權の性質と關東州の租  
借地  
國際地役を論じて滿州鐵道  
の布設權及關東州の租借  
地の法律上の性質に及ぶ  
獨逸帝國保護領たる膠州灣

柳澤 泰爾「法治」大二年 卷二 一〇二  
山下 博章「法政」大四年 二二 一〇四  
村瀬武比古「法治」大四年 四 二  
川村 豊郎「商研」大四年 五 二  
米田庄太郎「社雜」大四年 一 〇  
福本 和夫「社科」大五 二 六

制度の一二を説き我が關  
東州に及ぶ  
關東州に於ける我邦法權の  
發動  
清國領土の保全を研究して  
關東州租借地の法律上の  
性質に論及す  
日清戰爭後の露佛獨三國干  
渉、所謂 Carrigan 密約及  
び露國の旅大租借の真相  
に就て  
大連取引所建値問題  
旅大租借地問題と國民の決  
意  
支那に於ける租借地還附に  
ついて  
關東州還附論に就て  
遼東回收論の論理  
旅大還附の條件  
旅大問題と内外の謬論  
關東州租借地還附問題解決  
案  
旅大問題は華府會議失敗の  
結果也

江木 翼「國家」大九年 二〇 三  
川島 行司「新報」大四年 二八 二  
高橋 作衛「國際」大五年 一〇 七  
矢野 仁一「外時」大〇 三三 三九三  
善生 永助「財經」大〇 八 六  
蜷川 新「外時」大一年 三六 四四  
清水 泰次「外時」大二年 三六 四四五  
清水 泰次「國際」大二年 三三 三  
矢野 仁一「外時」大二年 三七 四六  
末廣 重雄「外時」大二年 三七 四六  
蜷川 新「外時」大二年 三七 四六  
青柳 篤恒「外時」大二年 三七 四六  
副島 道正「外時」大二年 三七 四六

三國干渉から露西亞の旅大  
租借まで(再び)  
虐げられつゝある關東州民  
關東州司法制度改善論  
關東州阿片令に就て科刑不  
當改正を要す  
關東州特惠關稅に就て  
關東州特惠關稅  
關東廳戶口調査(調査法)  
に就て

【關東大震災】

カントウダイシンサイ  
震災(大正十二年)を見よ  
Hermann Kantorowicz (Pseud.  
Cnaeus Flavius), 1877-  
参照||フラヴィウス。

【カントロヴィッツ】

カントロヴィッツの法律社會  
學  
カントロウキツチに於ける  
「社會學建設」への試み  
William Cunningham, 1849-1919  
田中 誠二「法協」大二年 九一〇  
酒井正三郎「社科」大四年 一 五

【カンニングガム】

William Cunningham, 1849-1919  
カンニングガム「自由貿易

【關東州】

【關東大震災】

【カントロヴィッツ】

【カンニングガム】

【カンパネルラ】

【官吏】

興廢史論(譯)  
カンニングガム博士逝く  
河上 肇「日經」大四年 一 四  
本庄榮治郎「經叢」大九年 一〇 一

【カンパネルラ】

(Tommaso Campanella, 1568-1639)  
トマツソ・カムパネルラの  
「日の都」  
高橋誠一郎「三學」大九年 四 四

【官吏】

英佛獨埃比較官吏法(殊に  
登術法)  
官吏の任命  
國家と官吏  
埃國文官統計  
官吏侮辱罪意見  
官吏の職務上の過失に因る  
賠償責任  
官吏の性質  
俸給論  
違法命令に對する官吏の責  
任  
何を官吏と謂ふか  
官吏の職務執行の際損害を

末岡 精一「法協」大〇 五 四四  
斯波淳六郎「法協」大〇 三 七 六六  
木場 貞長「國家」大四年 五 五七  
高橋 二郎「統集」大二年 一 三九  
花井 卓藏「新報」大九年 六 六八  
穂積 八東「新報」大〇 七 七  
渡邊清太郎「法政」大二年 二 一五  
山石 正文「新報」大二年 八 八四  
渡邊清太郎「法政」大二年 三 二三  
穂積 八東「法協」大三年 一八 二〇



受けたる者は其賠償を請求することを得るや若し得るとせば其相手方々何

副島 義一 [法政] 四三 四卷 四三二

竊罪者に對する國家賠償責任

岡田朝太郎 [國家] 四三三 一四 一六五  
[明法] 四三三 一 一三  
[新聞] 四三三 一 三六

任官の性質に關する學說を論ず

木澤 定夫 [明法] 四三四 一 三三二

國家は官吏の不法行為に對し民事上の責任ありや否や質問に答ふ

松波仁一郎 [法政] 四三四 五 五

無資格者を官吏に任用したる場合の處分を論ず

遠藤 源六 [國家] 四三四 一五 一七

官吏の民事上の責任

織田 萬 [内外] 四三五 一 一

官吏の觀念に關する管見

小原 新三 [法協] 四三五 二〇 五

懲戒及刑罰に就て

岡 實 [新報] 四三五 三 七

行政官吏服従の義務

清水 澄 [新報] 四三五 三 七

官吏責任論

清水 澄 [法協] 四三六 二 四

代理者の過失に因る國家の責任

シミュール [内外] 四三六 二 四

官吏の身元保證金

織田 萬 [内外] 四三六 二 五

會計法に依る保證金の性質

中山成太郎 [志林] 四三六 五 四

すべきか

官吏の任命は何れの時より其效力を生ずるか

佐々木惣一 [京法] 四三九 一 四  
岡松參太郎 四四

官吏の從順の義務

美濃部達吉 [法政] 四三九 一〇 七  
美濃部達吉 [法協] 四三九 二四 二

官吏か公權執行に當りて爲したる不法行為に因る官吏の責任

森 作太郎 [新聞] 四三九 一 三五  
一柳 貞吉 [新聞] 四三九 一 三五

官吏不法行為論

美濃部達吉 [志林] 四四〇 九 一四

官吏責任論

清水 澄 [法政] 四四〇 二 一三

官吏の任命に就て

大濱 隆 [新聞] 四四〇 一 四

官吏の品位に就て

島村他三郎 [志林] 四四一 一〇 一

同一人に對し二重になしたる官吏任命の效力

梅 謙次郎 [志林] 四四二 一〇 二

官吏の職務上の不法行為に基く民法上の賠償責任

江木 翼 [國家] 四四三 三 三

殖民地官吏の養成及任用

寛 克彦 [新報] 四四三 一八 六

官吏の本質を略説す

佐々木惣一 [辯協] 四四三 二 一三  
[新報] 四四三 一八 七

官吏と雇員

島村他三郎 [志林] 四四二 一〇 八

官吏服務紀律と公共小學校教員

遺族扶助料を受くるの權利に關する疑義

佐々木惣一 [國家] 四四三 二 一〇  
佐々木惣一 [新報] 四四三 一八 二

官吏の忠實の義務

佐々木惣一 [新報] 四四三 一八 二

官吏の忠實の義務  
官吏の俸給に付て  
獨逸國に於ける「無罪の逮捕者」に關する損害賠償法」の制度

清水 澄 [志林] 四三五 五 四  
島村他三郎 [新報] 四三七 一四 六  
副島 義一 [新報] 四三七 一四 七  
岡田朝太郎 [國家] 四三八 一九 一〇  
[志林] 四三八 一七 九  
ラドニツキ [法協] 四三八 二三 二

令限分の解釋と教授の言論  
官吏の忠實義務に就て  
外國人は之を官吏に任することを得るか

市村 光惠 [明學] 四三八 一 查

官吏公吏及議員の私心の效力

岩田 宙造 [志林] 四三九 八 二

裁判所書記か其保管に係る競落代金を費消したるときは國家は賠償の責を負ふや

谷田 三郎 [法記] 四三九 一六 二

國家か私人の利益を侵害したる場合に於ける賠償責任を論ず

美濃部達吉 [法協] 四三九 二四 二六  
美濃部達吉 [國家] 四三九 一九 三

Binchingの職務犯罪論  
官吏か職務違反の行為に因り他人に損害を加へたるときは民法不法行為の規定に從つて賠償の責に任

高窪喜八郎 [辯協] 四四二 三 一六  
馬場 鏌一 [明學] 四四二 一 一四  
清水 澄 [志林] 四四二 二 一

懲戒裁判制度  
官吏の俸給  
官吏法の制度に就き  
獨逸民法に於ける官吏の賠償義務

佐々木惣一 [國家] 四四二 三 一三  
キノール教授 [國家] 四四二 三 三  
美濃部達吉 [國家] 四四二 三 二  
高窪喜八郎 [辯協] 四四二 三 一六  
羽 山 [新聞] 四四二 一 六五  
末松借一郎 [國家] 四四二 一 八

官吏の不法行為に基く國家の責任  
外國人を日本官吏に任するを得るか  
懲戒裁判制度  
在韓文官の登用法論  
文官任用令の解釋に就て  
判事側より見たる文官任用令  
官吏登用試験と大學制度  
官吏としての黨人  
文官任用令問題  
無辜者に對する國家の賠償問題

近世の國家に於ける官僚の地位  
官吏の任用及其地位保障  
印度文官任用試験規則  
竊罪者に對する國家の賠償責任に就て

大場 茂馬 [新聞] 四四三 一 九四  
村田岩次郎 [三學] 四四三 九 四  
清水 澄 [法協] 四四三 三 五  
[國際] 四四三 三 八  
原 嘉道 [新聞] 四四五 一 一〇六



【官吏】

冤罪要償に法の存在を要せず  
誤判と國家の賠償責任  
大場茂馬氏の「誤判と國家の賠償責任論」は根底に誤あり

出納官吏の賠償責任  
官吏の待遇を論じて警察官の優遇問題に及ぶ

憲法と文官任用令  
文官の任用制度に就て  
政府に對する保證金の返還請求權の性質及其處分に就て

官吏の待遇を論ず  
官吏組合權に關する佛國の新法案  
無罪免訴の場合に於ける國家損害賠償論

清朝文官の任用について  
官吏職務時間改正案の立消に就て

文官任用の範圍  
傳令と躬行（行政整理より）

松本 重敏	〔新聞〕大五	一	二七
大場 茂馬	〔國家〕大五	四	九
松本 重敏	〔新聞〕大五	一	二七
田中 貢	〔法政〕大七	五	七八
小川郷太郎	〔法論〕大七	一	一四
松本 重敏	〔新聞〕大七	一	一四六
馬場 鏡一	〔國國〕大八	七	七
作間 耕逸	〔辯協〕大八	三	二
小川郷太郎	〔經叢〕大九	二	三
末松巖太郎	〔法協〕大〇	三	二
三上 英雄	〔新聞〕大〇	一	一九〇
清水 泰次	〔國家〕大二	三	七
天 寛子	〔新聞〕大三	一	三四九
船田 中	〔法政〕大四	三	九一一

一一〇

も急務は行政官吏の心得の改良  
判檢事對普通文官俸給令の制度比較論  
社會民主國家に於ける官吏法

文官任用令改正と裁判所書記の境遇

官吏生活の窮狀  
官吏の生活に就て  
官吏増俸の必要  
官吏社會の困難時代  
官吏増俸に伴ふ吾人の希望  
判任官生活の實狀  
獨逸高等官の生活費  
本邦に於ける官公吏教員及會社員の生活費

播磨 龍城	〔新聞〕大四	一	三五四
荒木 櫻洲	〔新聞〕大四	一	三九五
杉村章三郎	〔國家〕大五	四	五六
豐島 武夫	〔新聞〕大五	一	二五〇
三木 甫水	〔統雜〕大五	一	一四八
河合 利安	〔統集〕大五	一	二九九
瀧本 美夫	〔日經〕大五	一	三
瀧 臺水	〔東經〕大五	一	一四七
守屋源次郎	〔日經〕大五	一	六
沙見 三郎	〔經叢〕大九	一	〇
岡崎 文規	〔經叢〕大九	一	一六
神原 平八	〔統集〕大九	一	二二

キ部

【キイデルレン・ウエヒター】 (Kiderlen-Waechter, 1852-1912)

キイデルレン・ウエヒター 重徳 泰助 〔外時〕大二 一七 一九六

【生糸】 參照 織物。蠶業。繭絲。製絲。

一八八二年世界生絲出產統計  
本邦生絲一ヶ年の產額  
生絲貿易と製絲業者  
本邦生絲業の生産組織  
敢て生絲業者に共同販賣所の設置を勧告す

生絲相場の變動  
生絲相場及其品質  
生絲の直輸出と商館  
生絲相場管見  
如是生絲の前途  
生絲市場活躍の時期  
生絲貿易と取引所  
生絲貿易の危機  
生絲市場開戦後の失敗

本野 一郎	〔統集〕四五	一	二三
今井藤四郎	〔スタ〕四五	一	四八
瀧 臺水	〔東經〕四五	一	五三
男全 萬治	〔國經〕四五	一	五五
河東田經濟	〔東經〕四五	一	五〇
飯島千代太	〔日經〕四五	一	〇
飯島千代太	〔日經〕四五	一	一
河田以備三	〔日經〕四五	一	七
飯島千代太	〔日經〕四五	一	〇
河田以備三	〔日經〕四五	一	二
飯島千代太	〔日經〕四五	一	二
河田以備三	〔日經〕四五	一	三
飯島千代太	〔日經〕四五	一	三
飯島千代太	〔日經〕四五	一	〇
飯島千代太	〔日經〕四五	一	一七

【キイデルレン・ウエヒター】 【生絲】

生糸金融に就て  
我が生絲市場に對する希望  
本邦生絲の生産  
群馬縣生絲販賣組合の研究  
我が生絲貿易の前途如何  
生絲貿易の前途  
生絲輸入税撤廢問題  
議論の餘地なき生絲輸出港問題

生絲輸出港問題と農家の立場  
生絲金融の諸問題  
生絲問屋金融制度の改善傾向  
生糸融資拒絶問題  
生糸取引改善と共同市場問題

生絲金融の問題  
東西生絲市場優劣論  
我國の生絲貿易と其將來  
生絲輸出港の分散制に就て  
生絲業者の金融實務  
生絲の格付と清算取引の標準格

内藤 章	〔國經〕大五	二	六
上田貞次郎	〔財經〕大五	三	七
丹治 三郎	〔統集〕大五	一	七
上田貞次郎	〔國經〕大五	二	五
堀越善重郎	〔財經〕大八	六	八
堀越善重郎	〔財經〕大八	六	八
神戶 正雄	〔時經〕大二	一	九
池田 龍藏	〔エコ〕大三	一	七
河田 嗣郎	〔エコ〕大三	一	一八
太田 義繁	〔銀研〕大三	一	四
高山 武雄	〔銀研〕大三	一	六
池田 龍藏	〔エコ〕大三	一	七
一戸 正侯	〔エコ〕大三	一	九
神戶 正雄	〔時經〕大三	一	三
河上 福平	〔商經〕大三	一	三
大平 頼母	〔商經〕大三	一	三
高山 武雄	〔商事〕大四	一	一
須戸 勇	〔商事〕大四	一	一
井阪 孝	〔取引〕大四	一	一



【生絲】【ギールケ】【キーンズ】【歸化】

神戸生絲金融問題管見 高山 武雄〔銀叢〕六四一  
生絲清算市場の缺陷 河杉 信勇〔取引〕六二四  
輸出生絲市場論 太田卯之助〔商事〕六四一  
生絲相場の騰落 井坂 孝六〔取引〕六四一  
米國に於ける生絲賣買取引 頓戸 勇〔商事〕六四一

【ギールケ】 (Otto Friedrich von Gierke, 1841-1921)

ギルケー教授憲法論 小倉 和市〔三學〕四三三  
雇傭契約發展の史的考察 (ギールケの「雇傭契約の起原」に就て) 末川 博〔法叢〕六〇五  
ギールケ教授の永逝を聞き 牧野 英一〔志林〕六一二  
Otto Fr. von Gierke に就て 木村 龜二〔國家〕六一三  
概念 船田 享二〔法政〕六三二  
ギールケの有機體及び社會法の概念(グルキツチ) 能勢 克男〔同論〕六三三  
Gierke 目錄(ツツシ) 岩田 新〔商研〕六四一

【キーンズ】 (John Maynard Keynes, 1883-)

キーンズの貨幣改革論 木村 重夫〔商濟〕六三三  
キーンズの貨幣改革論を讀みて 平野 清〔銀研〕六三七  
再びキーンズの所謂 Man- and currency に就て 平野 清〔商經〕六四一  
キーンズの「幣制改革論」 大内 兵衛〔原巴〕六四一  
歸化學(講演) 三崎龜三助〔國家〕四二二  
英國人は日本に歸化することを得ざるか 松井慶四郎〔法協〕四四九  
歸化を論ず 米國歸化法に於ける日本人の排斥 山田福三郎〔明法〕四四五  
米國の歸化法に就て 山田 三良〔國家〕四四二  
川崎氏の米國新舊歸化法に就て 川崎巳之太郎〔新聞〕四四一  
山田博士の答論に就て 山田 三良〔新聞〕四四二  
日本人歸化權を論じて條約締結に及ぶ 川崎巳之太郎〔新聞〕四四一  
敵國民の歸化 米田 實〔國際〕四四三  
牧野 英一〔國際〕六五四

【機】

大工業と小工業との競争を論じて小發動機の經濟上に於ける効力に及ぶ 高野岩三郎〔國家〕四九〇  
機械を論ず 財部 靜治〔京法〕四四二  
器械と失職との關係を論ず 佐々木勝三郎〔日經〕六三二  
機械と道徳 植原悦二郎〔日經〕六三二  
電気機械製造業の設置 關口 眞靜〔洋經〕六五一  
機械率配賦法に於ける補充率に就て 中西 寅雄〔國家〕六〇三  
リカルドオの機械論 小泉 信三〔三學〕六〇五  
機械と勞賃との相互關係に就てのマルクスの見解 山本 勝市〔經叢〕六三九  
農業生産の機械化と其條件 河田 嗣郎〔エウ〕六三二  
機械生産の創生と其必要性に關するシスモンディ説 猪谷 善一〔商研〕六四一  
參照 貴族院。憲法。國會議員。衆議院。政治。選舉法。比例代表。

【議會】

帝國議會は立法の府なり 第七回臨時帝國議會 歐洲古代の國民總會 第十九世紀に於ける英國國會の發達 花井 卓藏〔新報〕四二五  
帝國議會の性質 佐脇 安文〔國家〕四二七  
社會代表 美濃部達吉〔新報〕四三三  
代表論 井上 密〔法政〕四三三  
帝國議會の國法上の性質 穂積 八東〔新報〕四三三  
議會の國法上の性質に關する一新説 横田千之助〔辯協〕四三三  
議會は國民の代表機關なり 美濃部達吉〔法政〕四三七  
代人關係と代表關係との區別 美濃部達吉〔國家〕四三七  
英國代議制度の發達 美濃部達吉〔明學〕四三九  
歐米各國の議院に就て 穂積 八東〔志林〕四三九  
國會と人民代表 林田龜太郎〔東經〕四三九  
社會道徳と議會政治 上杉 慎吉〔志林〕四四一  
立憲君主國に於ける議會の地位 莊田 秋村〔東經〕四四一  
第三十一議會の重要問題 村田岩次郎〔三學〕六二七  
法理上より觀たる第二臨時 本多 精一〔財經〕六三一  
會議 鶴澤 總明〔國國〕六三二

【機械】

ペンサム氏國會統御術(譯) 坂谷 芳郎〔國家〕四三〇  
衆議院は選舉人の全體を代表せず 本野 一郎〔國家〕四三三  
議院建築意見(講演) 金子堅太郎〔國家〕四三四



議會	植原悦二郎 [「國國」大 三二 卷二 六號]
第三十三議會小觀	吉川 義章 [「國國」大 三二 卷二 八號]
民意代表	上杉 慎吉 [「法協」大 三三 卷九 二]
軍國議會	今村力三郎 [「辯協」大 三三 卷九 二]
帝國議會に就て	清水 澄 [「新聞」大 四一 一〇〇三]
民意論	上杉 慎吉 [「法協」大 四三 卷五 五]
國會と憲法	上杉 慎吉 [「新報」大 四二 卷五 五]
國民意思及び民意代表	稲田周之助 [「新報」大 四二 卷五 六]
人民の代表に就て	佐藤丑次郎 [「京法」大 四二 卷二 二]
帝國議會に就て	清水 澄 [「新聞」大 四一 一〇〇七]
ハツチエツク教授の獨逸帝	
國議會論	村田岩次郎 [「三學」大 五二 卷一 一]
露國の議會	有川 治助 [「國家」大 五三 卷三 八]
議會の懲罰問題	高野 金重 [「辯協」大 六二 卷七 七]
國會開設勸諭煥發の事情	市村 光惠 [「法論」大 六二 卷一 一]
第三十九議會に於ける感想	小川郷太郎 [「法論」大 六二 卷一 一]
英帝國議會の進展	占部百太郎 [「三學」大 六二 卷二 九一〇]
平民政治家の議會觀	布施 辰治 [「新聞」大 六六 卷一 二三八]
國會論	松本 重敏 [「新聞」大 六六 卷一 二三八]
第四十議會觀	不破 清警 [「新聞」大 六七 卷一 二九八]
立憲政體に於ける帝國議會	松本 重敏 [「新聞」大 七一 卷一 二七〇]
と政府との關係	大山 郁夫 [「我等」大 八一 卷一 九]
現代議院政治の試金石	
現はれたる第四十三議會	大山 郁夫 [「我等」大 九二 卷一 八]
混合代表に就きて	小栗栖國道 [「法叢」大 〇五 卷一 一]
英國國會制度の起源	占部百太郎 [「三學」大 〇五 卷一 一]
英國會と種族會	占部百太郎 [「法研」大 二一 卷一 一]
英國會の眞意義	占部百太郎 [「法研」大 二一 卷一 一]
帝國議會の規制	稲田周之助 [「新報」大 二二 卷一 三]
ノルマン國會	占部百太郎 [「法研」大 二二 卷一 三]
ルソーとコールの議會否認論	今中 次磨 [「我等」大 二二 卷一 一]
議會と政府	不破 清警 [「新聞」大 二二 卷一 一]
帝國議會批判	稲田周之助 [「新報」大 二二 卷一 三]
帝國議會史前記	尾佐竹 猛 [「法治」大 二二 卷一 一]
アングロ・サクソン國會	占部百太郎 [「法研」大 二二 卷一 一]
内閣對議會關係の考察	高木 信威 [「新報」大 二二 卷一 三]
イルバート「英國議會政治」	
(譯)	
議會と國民の實生活	小山 基一 [「法政」大 二二 卷一 五九]
佛國の新傾向と通級議會	成瀬 義春 [「財經」大 二二 卷一 四]
議會制度の不信用と其改革	廣瀬 哲士 [「外時」大 二二 卷一 四九]
議會と大衆運動	板倉 卓造 [「法研」大 二二 卷一 三]
職能代表と國會の組織	エンゲルス [「マル」大 二二 卷一 二]
國會及び政黨の不信用	小野塚喜平次 [「國家」大 四二 卷一 一]
第五十一議會の趨勢觀	稲田周之助 [「新報」大 五二 卷一 五]
議會の組織	播磨 龍城 [「新聞」大 五二 卷一 二四九]
參照 貴族院。衆議院。選舉法。	

議院法第一五條の解釋	副嶋 義一 [「明學」明 五二 卷一 二六]
二院制度論	美濃部達吉 [「國家」明 七〇 卷二 二〇七]
二院制度と一院制度と孰れ	吉野 作造 [「國家」明 九二 卷二 三]
が立憲國の法制に適すべ	
さや其根據如何	鶴澤 總明 [「國家」明 九二 卷二 一]
議會の二院制論及其根據の	佐藤丑次郎 [「明學」明 九二 卷二 一]
概要	水野鍊太郎 [「國家」明 一〇三 卷二 二]
議會兩院制論	花井 卓藏 [「新聞」明 一〇三 卷二 五五]
上院對下院	清水 澄 [「新報」明 一〇三 卷二 七]
衆議院資格問題	村田岩次郎 [「三學」大 五二 卷二 三]
上下兩院の權衡	伊藤 龜雄 [「外時」大 五二 卷二 三]
貴衆兩院論	佐々木惣一 [「法叢」大 四二 卷二 一]
英國の衆議院	
第二院の問題	稲田周之助 [「新報」大 四二 卷二 二]
何を兩院制度の精神と謂ふ	
か	林田龜太郎 [「國家」明 三三 卷二 三]
議會の會議	有賀 長文 [「國家」明 三三 卷二 四]
議長の表決權を論ず	穂積 八東 [「新報」明 三七 卷二 七]
帝國議會事規則草案一斑	戸水 寛人 [「法協」明 三七 卷二 三]
(講演)	
契約と合議との區別	
多數決	小原 新三 [「國家」明 三三 卷二 一四六]
兩院協議會に關する法律上	
の疑義	
選舉法に所謂請負の意義	弦間照太郎 [「辯協」明 五二 卷一 五七]
貴衆兩院の協議會	丸山 長渡 [「新報」明 五二 卷一 三]
所謂解散の法理を難す	家 本 生 [「新聞」明 五二 卷一 一七五]
多數決	上杉 慎吉 [「法協」明 五二 卷一 一]
衆議院の解散を論ず	清水 澄 [「新報」明 五二 卷一 一]
議會の停會とは何ぞや	清水 澄 [「新報」明 五二 卷一 一]
解散後の議會は如何なる議	
會なるや	清水 澄 [「志林」明 五二 卷一 五]
議院規則に關する疑義一則	小原 新三 [「法政」明 九二 卷一 五]
議事の報告	佐々木惣一 [「法協」大 二二 卷一 四一五]
議事規則と議事妨害	上杉 慎吉 [「新報」大 二二 卷一 三]
臨時議會の召集に就て	馬場 鑣一 [「新報」大 二二 卷一 七]
帝國議會の召集開會會停	
會休會及衆議院の解散	上杉 慎吉 [「國家」大 三二 卷一 一〇]
議會無討論の原因	三浦鐵太郎 [「洋經」大 三二 卷一 六六五]
衆議院の解散に就て	清水 澄 [「新報」大 四二 卷一 二]
政府の提出案と調査書	工藤 重義 [「國家」大 六三 卷一 一]
議會の會議日數の繼續委員制	工藤 重義 [「國家」大 六三 卷一 二]
解散	上杉 慎吉 [「國家」大 六三 卷一 三]
第三五回議會解散の真相	植原悦二郎 [「國國」大 四二 卷一 二]
議會解散の一批判	大山 郁夫 [「我等」大 九二 卷一 四]
帝國議會停會の要件	稲田周之助 [「新報」大 五二 卷一 五]
停會の先例	花井 卓藏 [「新報」大 五二 卷一 五]



總決算に對する帝國議會審  
査權の範圍  
豫算議定額の範圍に就て  
軍備問題に對する議員の質  
問に對し政府は答辯の責  
務を有するや  
議會の請願書受領及送附の  
權  
帝國議會の決算審査權  
立法權と豫算議定權  
議會の與ふべき事後承諾の  
不成立  
議會の質問權  
佛國に於ける議會の豫算發  
案權濫用に就て  
帝國議會と財政監督權  
議會の質問權  
議會の質問權に關する列國  
制度の比較

岩波 一郎〔新報〕四七 四  
加來竹次郎〔法政〕四三 一  
山谷 道人〔新報〕四三 八  
美濃部達吉〔國家〕四三 二〇  
副島 義一〔明法〕四三 一  
穂積 八東〔新報〕四〇 一七  
清水 澄〔志林〕四一 一〇  
ラバンド〔國家〕四二 二三  
フェルリー〔日經〕四二 五  
稻田周之助〔新報〕四五 二六  
美濃部達吉〔國家〕四五 三〇  
美濃部達吉〔國家〕大六 三  
有賀 長雄〔外時〕四〇 一〇  
菊池 駒次〔志林〕四二 二

【機會均等】

機會均一とは何ぞや  
機會均等主義に就て

【期間】

滿洲に於ける機會均等問題  
に就て  
權力平均と機會均等  
經濟上にも門戸開放機會均  
等  
支那外交規範「機會均等」  
主義と「廿一箇條」の考  
察  
門戸開放機會均等論

鹽澤 昌貞〔外時〕四三 二  
寺尾 亨〔法協〕四四 九  
本多 精一〔財經〕大八 六  
塚本 毅〔外時〕大二 七  
丸山嘉八郎〔外時〕大二 七  
放野 充安〔新聞〕大五 一  
岡松參太郎〔新報〕大〇 三  
大場 茂馬〔新報〕四二 一  
西村勸之助〔新聞〕四四 一  
泉二 新熊〔法政〕大六 二  
岡田朝太郎〔法治〕大六 一  
大場 茂馬〔新報〕四二 一  
西村勸之助〔新聞〕四四 一  
泉二 新熊〔法政〕大六 二  
岡田朝太郎〔法治〕大六 一

【毀棄の罪】

我刑法の毀棄の罪及其詳論  
刑法二六一條の解釋に關し  
文展墨塗事件の判決を評  
論す  
器物毀棄罪を論ず  
毀棄罪の沿革

大場 茂馬〔新報〕四二 一  
西村勸之助〔新聞〕四四 一  
泉二 新熊〔法政〕大六 二  
岡田朝太郎〔法治〕大六 一

【機業】

機業  
織物を見よ

【企業】

參照ニカルテル。官業。金融。  
經營。事業。シンジケート。  
ト。トラスト。

企業心理論  
企業形態の變遷  
企業倫理論  
企業の意義  
英國に於ける企業市營の狀  
況  
企業聯合論  
滿韓の企業  
企業家組合の起因及保護的  
關稅に對する其關係  
米國の金融と事業  
企業聯合及び合同の輸出獎  
勵案  
企業家の社會的設備  
經營と企業の意義に就て  
企業及經營の意義に關する  
疑問  
企業界と公債借換

坂西 由藏〔國經〕四元 一  
河津 遜〔國家〕四三 二〇  
小澤愛次郎〔明學〕四〇 一  
氣賀 勘重〔國經〕四四 三  
山内 正瞭〔國家〕四〇 二  
關 一〔國經〕四二 四  
關 一〔國經〕四二 七  
關 一〔國經〕四三 九  
上田貞次郎〔國經〕四三 九  
黑澤 龍濱〔東經〕四三 一五

企業と經營

再び企業と經營との意義に  
就て  
企業の聯合及合同と勞働者  
の地位  
企業同盟に關する注目すべ  
き新立法  
企業資金の財源  
獨占企業の法律關係を論ず  
企業合同の經濟上に及ぼす  
影響を論ず  
企業家破綻の原因  
藝術の企業化に就て  
支那に於ける企業  
南洋貿易及企業  
中世企業史に關する研究  
大企業に於ける兼業の發達  
企業經營法と投機  
民族の企業化  
獨逸に於ける企業聯合の近  
況  
企業の危険と犯罪  
興業界發展の根本的方策  
企業者の本質

坂西 由藏〔國經〕四四 一〇  
關 一〔國經〕四四 二〇  
氣賀 勘重〔國經〕四四 二〇  
松岡 均平〔國家〕四四 二五  
山室 宗文〔國家〕四五 二六  
美濃部達吉〔法協〕四五 三〇  
海老原竹之助〔國經〕大元 一  
黑澤 和雄〔東經〕四五 六六  
岡田 重次〔國經〕大元 一三  
米澤 清治〔國家〕大元 二六  
松尾音次郎〔國經〕大元 二七  
阿部 秀助〔三學〕大元 二八  
氣賀 勘重〔三學〕大元 二八  
安道 虎吉〔日經〕大元 二九  
阿部 秀助〔三學〕大元 二九  
松崎 壽〔國家〕大元 二九  
市村 富久〔評論〕大元 二九  
二宮 基成〔日經〕大元 二九  
關 一〔國經〕大元 二九



【企業】

大企業と經濟調査機關	高垣寅次郎〔國經〕六四一九三六
工業的企業に於ける株式資本と株式發行相場	松崎 壽〔志林〕六四一七七一〇
企業合同に對する米國の新立法	渡邊 鐵藏〔法協〕六四三三九
企業の安全と準備金	渡邊 鐵藏〔國家〕六四二九二
企業の流動力並に我國大銀行の實際研究	湯川 宗戒〔國國〕六五〇四七
我事業界の缺陷と其救済問題	木村増太郎〔亞經〕六六一一
在支企業論	南 川〔法論〕六六一二
現代事業と人物の研究	渡邊 鐵藏〔新報〕六六二七
企業財産評價の原則を論ず	渡邊 鐵藏〔國家〕六六三三
企業財産の組織	原 信江〔東經〕六六五二九七
南洋企業の前途	富岡久次郎〔國家〕六七三二
銀行と企業金融	阿部 秀助〔三學〕六七三二〇
近世經濟史上に於ける企業家の地位	河合榮治郎〔國家〕六七三三
獨逸に於ける強制的企業合同	中西 次郎〔國家〕六八三三
最近企業統計の解剖	山口正太郎〔國經〕六八二七
現時の企業狀態と限界生産力説	吉田 良三〔國經〕六九二八
企業と原價計算	

社會主義者と企業者の職分	上田貞次郎〔國經〕六〇三〇
支那將來の企業と労働問題	前田幸太郎〔亞經〕六〇五五
商工業大經營の現狀と其經濟	高島佐一郎〔國經〕六〇三三
事業資金と資金銀行の發達	泉 俊秀〔銀研〕六〇三一
事業濫與と財界反動の善後策	善生 永助〔財經〕六〇三八
企業聯合の促進を高唱す	諸井 四郎〔財經〕六〇三八
企業組織の改善問題	石塚 英藏〔財經〕六〇三八
民衆事業と官僚事業	清水文之輔〔東經〕六〇八三
日支合併事業經營の要諦	小林陽之助〔財經〕六〇八二
企業の収益力を論ず	中西 寅雄〔國家〕六二二六
資本主義の成熟と企業者の地位	增井 光藏〔國經〕六二二三
企業統計學に就て	中瀬勝太郎〔會計〕六二一〇
企業評價論	中西 寅雄〔經論〕六二一一
事業整理の要諦	池田 龍藏〔エコ〕六二一一
企業豫算論より觀たる現物出資の一面	中村 茂男〔會計〕六二二三
企業財産の評價及會計損益	中村 茂男〔會計〕六二三五
企業豫算管理と銀行業	管谷 重平〔銀叢〕六二三四
企業としての農業	大内 武次〔經商〕六二三四
企業の發展と有價證券	福田敬太郎〔國經〕六二三五
企業に於ける危險負擔の數	

理的解説	津田 武二〔國經〕六三三六
事業經營の二大脅威	渡邊 廣重〔エコ〕六三三二
リイビツヒの法則と企業資産の釣合	中村 茂男〔會計〕六四一七
日支關係を中心として見たる支那企業並労働問題	前田幸太郎〔亞經〕六四一九
金融と事業	松崎 壽〔金融〕六四二五
企業能率の測定	西尾 清一〔會計〕六四二六
職業的企業家の成立と資本家との闘争	向井 鹿松〔三學〕六四一九
事業界の不安と金融界の混亂	越戸 佳三〔銀叢〕六四二五
市町村の混合企業に就て	小山田小七〔經叢〕六四二二
企業資金の供給と金融機關	宗像 久敬〔金融〕六四二二
本邦企業集權の現勢	
如何なる企業を國營とするか	永富守之助〔エコ〕六四二四
内地人の經營にかゝる在支企業を撤退せよ	山本順彌太〔エコ〕六四二四
對支企業家のとるべき態度	大倉喜八郎〔エコ〕六四二四
經濟單位としての企業	林 健二〔國經〕六四二四
ステインネス企業團の蹉跌	西尾 清一〔イン〕六四二五
近代産業秩序の下に於ける企業原理	油木 豊吉〔經論〕六四二五

【企業】 【飢饉】 【菊池武夫】 【期限】

企業金融機關の新陣容	後藤登喜男〔イン〕六五三三
企業經營者の服すべき道德的戒律の見地より科學的經營法を批判す	村本 福松〔商經〕六五三一
飢饉は衛生に大關係あり	杉 亨二〔スタ〕四二二
飢饉の豫備	杉 亨二〔スタ〕四二二
露國の飢饉	伊東 祐毅〔統集〕四五二
北支那の飢饉	戸田 海市〔經叢〕六九二一
支那飢饉の慘狀と救済策	善生 永助〔財經〕六九二一
ロシア大飢饉と其救済運動	森戸 辰男〔原バ〕六九二一
飢饉の話	佐野 學〔我等〕六九二二
故菊池博士と法學教育	石山 彌平〔辯協〕四四二
條件及期限	志田鈿太郎〔法政〕四三七
期限附法律行為の性質	富井 政章〔法協〕四三七
期限に就て	横田 秀雄〔國國〕六九二八



【奇災保險】

傷害保険を見よ

【技術】

参照一能率。

エコノミックスとテクニックス  
技術と経済  
工業の進歩及技術改良の前提たるべき職工の技能啓發に就きて

金井 延【新報】明三二  
神戸 正雄【國家】明三二

経済と技術  
近代産業組織と技術者の地位  
「工」及び「工的技术」

坂田 貞一【日経】四二  
増井 光藏【國経】六四  
舞出長五郎【國家】六六  
出井 盛之【我等】六一  
田崎 仁義【長彙】六四

【偽證の罪】

刑事に關する偽證罪の性質  
民事證人の偽證罪  
偽證囑託罪に就て  
實體事實に偶中する偽證罪

淺野豊三郎【明法】四三  
戸水 寛人【法協】四二  
渡邊 暢【新聞】明三

を論ず  
偽證囑託罪に關する大審院の判例を讀む  
偽證罪を論ず

岩味 隆次【新聞】明三  
横山勝太郎【辯協】四二  
江木 衷【辯協】六二

【雄本朗造】

故雄本博士の回想

牧野 英一【志林】六一

【汽船】

各國主要汽船會社財政一覽表

参照一海運。商船。造船。

キユナード汽船會社の現況  
モルガン汽船合同の過去及現在  
最近十箇年汽船業概觀  
外國汽船輸入に就て  
再び外國汽船の輸入に就て  
汽船の發達

渡邊水太郎【國経】明三  
渡邊水太郎【國経】明三  
渡邊水太郎【國経】四二  
倉田 庫太【國経】四四  
倉田 庫太【國経】四四  
小林俊太郎【法論】六七

【起訴】

公訴を見よ

【貴族】

参照一華族。

貴族の研究  
貴族小史  
古典的貴族主義と近代的貴族主義の崩壞  
私有財産制と貴族市民及勞働階級

松本潤一郎【日社】六八  
徳川 喜翰【法叢】六二  
長谷川 萬太郎【我等】六二  
長谷川 萬太郎【我等】六四

【貴族院】

参照一議會。

貴族院の組織を論ず  
貴族院の獨立  
貴族院論  
貴族院の選舉規則改正問題  
昨年來の英國上院の憲法問題

清水 澄【國家】明三  
穂積 八東【國家】明三  
稲田周之助【新報】四一  
美濃部達吉【國家】四二

英國上院の豫算拒否權  
英國上院問題  
英國の貴族院問題  
轉近の英國政界に於ける上院問題  
英國の上院問題  
貴族院の將來  
上院と豫算否決權  
伯子男爵議員の選舉

小野塚喜平次【法協】四三  
小野塚喜平次【國家】四三  
富井 政章【國家】四三  
莊田 秋村【東經】四三  
上杉 慎吉【新報】四二

【貴族】

貴族院の職分と構成  
貴族院論  
上院論  
英國貴族院の改造  
貴族院の組織につき考慮すべき條件  
貴族院改造論  
貴族院論  
各國憲法に於ける上院の地位

上杉 慎吉【法協】六二  
佐藤丑次郎【京法】六五  
水野鍊太郎【國家】六五  
占部百太郎【三學】六八

貴族院伯子男爵議員選舉規則

山崎又次郎【法研】六三

貴族院令の改正増補

稲田周之助【新報】六三

貴族院改造問題

稲田周之助【新報】六三

貴族院改造私見

徳川 義親【新聞】六三

貴族院自體の覺醒を待つ

森口 繁治【新聞】六三

貴族院改革の限度

上杉 慎吉【國家】六四

貴族院令改正案の修正權

森口 繁治【法叢】六四

貴族院改革の可能性

稲田周之助【新報】六四

見過し難き多額互選規則の缺陷と多額議員選舉に於ける現内閣及樞府の責任

原 夫治郎【新聞】六四



貴族院改革と勞資問題  
貴族院改革私見  
貴族院の改革  
貴族院改善私案要綱

五來 欣造【社政】大二四 一 卷五三  
齋藤 隆治【新聞】大二四 一 二三四  
石井 謹吾【新聞】大二四 一 二三五  
加藤順次郎【國家】大五〇 三

【喜多梅二郎】

喜多梅二郎君を悼む  
瀧川 幸辰【法叢】大八二 五

【寄託】

無貨委託に因りなきや  
無貨の受託者は委託物件に  
就き特別財産権を有する  
や否や  
高橋 捨六【法協】四二六 四  
富岡恒二郎【法協】四二六 四  
花岡 敬夫【辯協】四九〇 九  
吾孫子 勝【志林】四九〇 九  
松本 丞治【評論】大九一 一  
齋藤 巖【新聞】大三一 九  
小山正之助【新聞】大六一 一三五  
井上豊太郎【新聞】大七一 一三四  
井上豊太郎【辯協】大七三 一〇

無貨委託に因りなきや  
無貨の受託者は委託物件に  
就き特別財産権を有する  
や否や

高橋 捨六【法協】四二六 四  
富岡恒二郎【法協】四二六 四  
花岡 敬夫【辯協】四九〇 九  
吾孫子 勝【志林】四九〇 九  
松本 丞治【評論】大九一 一  
齋藤 巖【新聞】大三一 九  
小山正之助【新聞】大六一 一三五  
井上豊太郎【新聞】大七一 一三四  
井上豊太郎【辯協】大七三 一〇

高價品の意義に就きて  
物の保管の意義  
不可抗力の意義(商法第三  
五四條第一項の解釋)  
物上保證委託契約論  
委託玉の成否と其の報告  
解合の法性及解合の委託者  
に及ぼす效力  
委託玉の成否

富岡恒二郎【法協】四二六 四  
花岡 敬夫【辯協】四九〇 九  
吾孫子 勝【志林】四九〇 九  
松本 丞治【評論】大九一 一  
齋藤 巖【新聞】大三一 九  
小山正之助【新聞】大六一 一三五  
井上豊太郎【新聞】大七一 一三四  
井上豊太郎【辯協】大七三 一〇

委託玉の成否と其の報告  
解合の法性及解合の委託者  
に及ぼす效力  
委託玉の成否

井上豊太郎【新聞】大七一 一三四  
井上豊太郎【辯協】大七三 一〇

徒達

岩崎 卯一【社雜】大二五 一 卷三三  
【キトソン】(Arthur Kitson, 1860-)

貨幣問題に關するキトソン  
並にツイザアスの論争に  
就て

平野 清【國經】大二〇 三 六  
飯島 反鳥【日經】四四三 八 五九  
岡部菊太郎【東經】四四四 六 二二  
岡部菊太郎【東經】四四四 六 二二  
岡部菊太郎【東經】四四五 六 二二  
本庄榮治郎【京法】大三九 二 二

【絹】

吉川 興山【洋經】大五 一 七五  
岡部菊太郎【洋經】大八 一 一〇〇  
財部 静治【經叢】大九一 〇 二  
岡野菊太郎【東經】大九八 一 二〇八  
深澤甲子男【財經】大三一 二 二〇  
神戸 正雄【時經】大四 一 三五

國産として本邦絹工業  
絹業試験場設置論  
本邦絹業の動向  
本邦絹業の發達策  
絹布工場の設備及經營  
戰中戦後の米國絹業界と  
我蠶絲業

飯島 反鳥【日經】四四三 八 五九  
岡部菊太郎【東經】四四四 六 二二  
岡部菊太郎【東經】四四四 六 二二  
岡部菊太郎【東經】四四五 六 二二  
本庄榮治郎【京法】大三九 二 二

輸出絹業開發諸案  
絹に關する外國語  
輸出絹業革新論  
人絹の發達と其對策  
英國の絹物關稅

【義務】

權利及び義務を見よ

【キツチン】

キツチン「火災保險の原理」  
(譯)  
松本 高【保評】大二六 六 一  
【ギディングス】(Franklin Henry Giddings, 1855-)

【ギディングス】

ギディングス「近世社會學論」  
(譯)  
若宮卯之助【東經】四二五 一 三四九  
野村兼太郎【三學】大二五 一 三五  
小松聖太郎【國經】大二四 四  
不破 祐俊【法治】大二三 一 一五  
岩崎 卯一【社政】大四 一 一六

委託者の同一に關する錯誤  
受寄者の賠償義務と所有者  
に非ざる寄託者の請求  
寄託物返還請求權と消滅時  
效  
消費寄託論

井上豊太郎【新聞】大八一 一 二五九  
岡村 玄治【法記】大九三 五  
横田 俊夫【朝司】大三一 二 一  
吾孫子 勝【志林】大二三 五 四九

【キヤナン】

【キヤナン】(Edwin Cannan, 1861-)

カンナン教授の人口論  
キヤナンの富の概念に就き  
て  
全部效用と消費者餘剩(キヤ  
ナン)

伊藤 眞雄【商經】大五 一 二  
石川 興二【經叢】大九一〇 一 一三  
古屋 美貞【同論】大三一 一 二四

【キユウノ】

【キユウノ】(Heinrich Cunow, 1862-)

エアフルト綱領改正案に對  
するキユウノの批評

竹内 徳治【國家】大二〇 三五 三

【救済】

救済及其統計の概況  
救済事業の調査に就て  
救済調査會に就て  
救済事業の動機と其範圍  
救済事業の研究  
社會的救済と善導  
救済事業調査會の設置と我  
が社會政策

花房直三郎【統集】大五 一 四九  
神戸 正雄【經叢】大七七 二  
楠田 民藏【經叢】大七七 二  
生江 孝之【法政】大七二 五 一〇  
生江 孝之【法政】大七二 五 一〇  
長尾 景徳【臺法】大八三 三 二  
森戸 辰男【國家】大七三 八



【救済】【玖馬】【救貧】【給料】

明代の救済制度 清水 泰次〔経叢〕六〇二 九四號  
救済事業調査會の重要任務 高野岩三郎〔國家〕六七三 九

【玖馬】

玖馬、ポルトリコ、比律賓の殖民 東 讓三郎〔國際〕四四五 一〇六七

【救貧】

貧民救済策一斑附貧困豫防法

法

本邦窮民救助法の現況

救貧論

エルバールフェルト制度

救貧恤窮事業に就て

救貧法調査委員會報告と失業問題

窮民救助制の方針

萬國人道會議所觀望兒童救護一斑

エルバールフェルト救貧制度

戦亂と英國の救貧率

印度村落團體に於ける救貧

濱田健次郎〔國家〕四三三 四三三  
早川千吉郎〔國家〕四三六 四三六  
財部 靜治〔京法〕四三九 四三九  
神山 政良〔國家〕四四二 四四二  
黒澤 龍演〔東經〕四四三 四四三  
堀江 歸一〔三學〕四四三 四四三  
桑田 熊藏〔國家〕四四三 四四三  
眞木 喬〔刑評〕四四三 四四三  
堀江 歸一〔三學〕四四五 四四五  
〔國經〕四四一 四四一

【給料】

市町村立小學校教員俸給の現狀

給料支拂の根本方法

女子の給料勞賃に就きて

給料論

小學校教員俸給の國庫支辨

増俸の研究

俸給及賃銀制度の改善に就て

婦人の報酬

俸給賃銀並に物價調査の規

制度 扶養義務か救貧籍か 國事救貧の原理 エルバールフェルト式救貧制度を論ず 社會政策より見たる施療制度考 救貧策の前途 救貧立法促進感 神社救貧制度の一例 徳重 倍介〔亞經〕六六一 一  
財部 靜治〔經叢〕六七七 一  
財部 靜治〔經叢〕六七七 四六  
平竹 辰〔社政〕六〇一 九  
早田 正雄〔法政〕六二〇 五七  
賀川 豊彦〔辯協〕六三二 五七  
高山 和雄〔辯協〕六四二 九  
黒正 巖〔經叢〕六五三 二

準表に就て

【教育】

學校生徒の近視眼

學齡者の成長

小學教育に關する意見

教育と犯罪との關係

教育スタチスチックに就て

本邦教育の分配

教育統計論

徴兵と學生の關係(講演)

市立番町小學校生徒職業得點別

本邦初等教育の狀況

統計師範學校及一般の統計

研究

教育と犯罪との關係

市町村立小學校正教員の狀況

況

小學女生徒の健康の有様

小學校教員の健康の狀態

臺灣總督府直轄學校生徒父兄職業及年齡別

堀 英文〔國家〕六一三 九號

参照||社會教育。商業教育。少年文化。政治教育。農業教育。勞働者教育。

横山 雅男〔スタ〕四一九 五  
吳 秀三〔スタ〕四二〇 二〇  
渡邊 洪基〔國家〕四二二 二〇  
河合 利安〔スタ〕四二二 二六  
横山 雅男〔スタ〕四二三 二五  
横山 雅男〔スタ〕四二三 四六  
白井喜之作〔統雜〕四二五 七  
會我 祐準〔國家〕四二六 七

横山 雅男〔統雜〕四二七 九三  
岩井徳次郎〔統雜〕四二七 九三  
吳 文聰〔統集〕四二七 二〇  
和田千松郎〔統雜〕四二八 二〇

岩井徳次郎〔統雜〕四二八 二二  
寺田 勇吉〔統雜〕四二九 二二  
白井喜之作〔統雜〕四二九 二五

堀内 八郎〔統雜〕四三〇 二九

學生生徒健康上の狀況

教育統計一斑

學校兒童發育取調報告

市民の普通教育

國際學藝教育協會

教育統計大意

教育家と統計の關係

大學制度管見

本邦學齡兒童の歩合

半途退學者に就て

統計と教育

分限令の解釋と教授の言論

教育と統計との關係

市町村立小學校教員俸給の現狀

在內國外人教育の權利義務

學齡兒童就學歩合

日本現在の地位と教育方針

レックス博士所説犯罪と遺傳及び教育との關係

高等教育に關する謬見

犯罪と教育の關係

我國目下の社會問題

教育史上の自然主義

寺田 勇吉〔統雜〕四三〇 二二  
世良 太一〔統雜〕四三三 一四四  
三島 通良〔統雜〕四三三 一四四  
横山 雅男〔統集〕四三三 二〇一  
有賀 長雄〔外時〕四三三 二九  
寺田 勇吉〔統雜〕四三三 二九  
花房直三郎〔統雜〕四三三 一八六  
高根 義人〔内外〕四三五 一五  
岩井徳次郎〔統雜〕四三五 二〇五  
石川 帷安〔統雜〕四三七 二二三  
横山 雅男〔統雜〕四三七 二二三  
岡田朝太郎〔國家〕四三九 一〇  
横山 雅男〔統雜〕四三九 一〇

巖水 惠〔統集〕四三九 一〇  
中村 進午〔外時〕四四〇 二〇  
巖水 惠〔統集〕四四〇 二〇  
有賀 長雄〔外時〕四四二 二二  
ルイブグデル〔法協〕四四二 二六  
高木 信威〔日經〕四四二 二五  
武田 慧宏〔刑評〕四四三 二  
戸田 海市〔日經〕四四三 二  
石田新太郎〔三學〕四四三 三

巖水 惠〔統集〕四四二 二六  
戸田 海市〔京法〕四四三 五  
河田 嗣郎〔日經〕四四三 七  
山崎 繁樹〔三學〕四四二 七  
澤柳政太郎〔財經〕四四六 八  
小川郷太郎〔經叢〕四四三 六

堀 英文〔國家〕六〇三 三五  
芳賀 榮造〔社政〕六〇三 七



ブローダ「女子教育の将来」藤澤 穆〔日経〕四三 年 二  
 不良児の保護教育法 乙竹 岩造〔刑評〕四三 二  
 公務及自由業就中教育に關する有業者の死に就て 二階堂保別〔統雜〕四三 一  
 經濟上より見たる我教育 植松 考昭〔洋經〕四三 一  
 高等小學讀本と統計 横山 雅男〔統雜〕四三 一  
 高等小學校に於ける統計思想 横山 雅男〔統集〕四三 一  
 政治と教育 相原 介一〔國國〕六二 一  
 國民教育と宗教 鶴澤 總明〔國國〕六二 一  
 良心の自由と學問の獨立 松影 山人〔國國〕六三 二  
 教育界の紛擾問題 福田 徳三〔國國〕六三 二  
 學生と政治運動 田中 穂積〔財經〕六三 一  
 普通教育の刷新と經費問題 織田 萬〔京法〕六三 九  
 官吏登用試験と大學制度 鶴澤 總明〔國國〕六三 二  
 教育上の重要問題 田宮準一郎〔國國〕六三 二  
 新大學令に就て 吉田三市郎〔辯協〕六三 一八  
 京大問題 小林 良輔〔日社〕六三 一  
 學校兒童に於ける成績と服装との關係係數 プレゾドルフ「丁抹の庶民  
 高等學校より」(譯) 三浦 哲郎〔日社〕六三 一  
 横山 雅男〔統集〕六三 一  
 松田 義雄〔國國〕六四 三  
 政治と學生 三

學制問題に就て 富井 政章〔新聞〕六四 一〇四三  
 學制改革の急務 鶴澤 總明〔國國〕六四 三  
 青年教育問題と獨逸 田中 義一〔國國〕六四 三  
 大學令案に就て 鶴澤 總明〔國國〕六四 三  
 我國教育の根本問題(講演) 川合 貞一〔日社〕六四 三  
 教育と社會 吉田 熊次〔日社〕六四 二  
 社會學と教育學 小林 照朗〔日社〕六四 三  
 帝國教育の根本方針 日本社會學院 四  
 諸校學生入學年齡に關する 統計 四  
 戦後教育の根本方針(講演) 鈴木文太郎〔經叢〕六五 二  
 戦後教育の根本方針(講演) 下田 次郎〔日社〕六五 一  
 戦後教育の根本方針(講演) 小西 重直〔日社〕六五 一  
 戦後教育の根本方針(講演) 平沼 淑郎〔日社〕六五 一  
 戦後教育の根本方針(講演) 諸橋 徹次〔日社〕六五 一  
 帝國教育の根本方針について 建部 遜吾〔日社〕六五 一  
 戦後教育の豫想案 澤柳政太郎〔日社〕六五 一  
 教育制度の改正方針に就て 三浦 哲郎〔日社〕六五 一  
 帝國教育の主義と手續 江部 淳夫〔日社〕六五 一  
 教育界現状打破 山内雄太郎〔日社〕六五 一  
 徳教の基準について 岩井 龍海〔日社〕六五 一  
 智育の大方針について 諸橋 徹次〔日社〕六五 一  
 體育について 今井 時郎〔日社〕六五 一  
 帝國教育の根本方針 日本社會學院 四

補習教育義務の可否 財部 靜治〔經叢〕六五 年 三  
 開戦前後に於ける獨逸の青年教育並青年團の活動 二宮 治重〔國國〕六五 四  
 市町村財政と小學校費の負擔 本多 精一〔財政〕六五 三  
 手の器用と其修養 財部 靜治〔經叢〕六五 三  
 歐洲戦後の教育問題 水野鍊太郎〔法政〕六六 二  
 國定教科書に現はれたる法制問題の解説 市村 光惠〔法論〕六六 一  
 文教の源泉如何 鹽入 太輔〔辯協〕六六 二  
 小學校教員俸給の國庫支辨 澤柳政太郎〔財經〕六六 四  
 義務教育費國庫補助の方法及び程度 本多 精一〔財經〕六六 四  
 本邦の學事統計に就て 濱田 富吉〔統集〕六六 一  
 子弟の教養と經濟的考慮 稻山 始〔東經〕六六 一  
 教育家待遇問題 市村 光惠〔法論〕六七 一  
 職前工業専修學校生徒概況 原田 高博〔統雜〕六七 一  
 細民區兒童教育問題資料 朝倉 每人〔經叢〕六八 二  
 臨時教育會議の決議を讀む 中島 玉吉〔法叢〕六八 二  
 國民教育改良案 櫻根考五進〔我等〕六八 一  
 新學制異見 播磨 龍城〔新聞〕六八 一  
 同志社創立の回顧 ラルネツド〔政治〕六八 一  
 國民教育の普及程度 野村秀三郎〔統集〕六八 一  
 大學教授の研究の限界 佐々木惣一〔法叢〕六九 三

萬國學士院聯合會創立巴里會議 小野塚喜平次〔國家〕六九 四  
 教育者の生活難 高橋 正熊〔社政〕六九 一  
 生活調査を論ず(京都市小學校教員生計調査) 沙見 三郎〔經叢〕六九 二  
 夜間中學校設立の急務 安東 正臣〔新聞〕六九 一  
 夜間中學校制度設置の急務 安東 正臣〔新聞〕六九 一  
 京都市小學校教員生計調査 沙見 三郎〔經叢〕六九 二  
 教育勸語に就て(講演) 山岡萬之助〔法政〕六九 一  
 市町村教育費輕減問題 澤柳政太郎〔財經〕六九 一  
 實業補習教育に就いて 青柳 榮司〔日社〕六九 一  
 教育費用(講演) 澤柳政太郎〔日社〕六九 一  
 我國の初等及中等教育に於ける改善の新方面(講演) 林 博太郎〔日社〕六九 一  
 教育組織(講演) 佐々木吉三郎〔日社〕六九 一  
 我國教育問題管見(講演) 江部 淳夫〔日社〕六九 一  
 教育問題に就て(講演) 塚原 政次〔日社〕六九 一  
 我國の補習教育(講演) 十倉 精一〔日社〕六九 一  
 教育問題特に女子教育行政に就て(講演) 小林 照郎〔日社〕六九 一  
 實業補習教育の刷新に就て(講演) 伊藤 仁吉〔法政〕六九 一  
 我國教育制度の缺陷と其改善策 増島六一郎〔財經〕六九 一



小學教育費の研究	小山田小七	〔經叢〕六二〇	三
自由教育の制度的基礎	大山 郁夫	〔我等〕六二〇	三
勞働運動、政治運動、教育運動	高橋 正熊	〔社政〕六二〇	一〇
教育上の自由平等を論ず	廣川 捨吉	〔法政〕六二〇	二
大學生の一年間の學費	藤野 靖	〔經叢〕六二二	二
教育の國際化	下中彌三郎	〔國聯〕六二二	七
最近教育運動の基調と勞働者教育	中島久萬吉	〔社政〕六二二	一六
國定歴史讀本の解説	依田 豊	〔法政〕六二二	六九
大學の使命に對する青年の態度の變遷	大山 郁夫	〔我等〕六二二	五
應報威嚇から教育善導へ	寺崎 勝治	〔法政〕六二二	九
教育の社會性と國家性	大山 郁夫	〔我等〕六二三	一〇
對支研究と我中等教育	西山 榮久	〔亞經〕六二四	九
學校卒業生の就職難と生活難	田中 貢	〔社研〕六二四	一
九大事件起訴猶豫の批判	原 夫次郎	〔新聞〕六二四	一四四〇
教育制度の法律化に就て	播磨 龍城	〔新聞〕六二四	一四四六
支那南洋より觀た日本教育	後藤朝太郎	〔外時〕六二四	四四
小學教育に對する監督官廳の無理解	三浦鐵太郎	〔洋經〕六二四	一四九
教育の社會化	岩井 龍海	〔社研〕六二五	一
公民教育の施設に直而して	寺崎 勝治	〔法政〕六二五	三

教育の意義と學制改革の四綱領に就て	石川 興二	〔彥バ〕六二五	一
國家的教化と神話の創造	長谷川萬次郎	〔我等〕六二五	八
義務教育費の割當	神戸 正雄	〔時經〕六二五	一
獨逸に於ける大學と社會との交渉	川島金五郎	〔國家〕四四二	五
伯林大學事情	小島愛三郎	〔新聞〕六四一	一〇〇三
獨逸植民地の教育制度	岡崎 文規	〔經叢〕六三二	一七
戰後獨逸の大學生數	米田 實	〔國際〕四四二	八
學生隔離と米國憲法の保障	佐々木吉三郎	〔日社〕六七六	一三
米國に於ける社會改良と教育	中島 玉吉	〔法叢〕六八一	三
北米に於ける法科大學、米國教育界の危機	石川 文吾	〔新報〕六八二	九
アメリカに於ける成人教育	澤田 謙	〔社政〕六四一	一
佛蘭西の小學教育に就て	日高 眞實	〔國家〕四四五	六
一九〇一年字滿斯國教育統計調査法	相原 重政	〔統集〕四三三	一
清國國民教育の方針	青柳 篤恒	〔外時〕四四〇	一〇
普國未成年者保護教育法	黒澤 龍濱	〔法記〕四四一	一八
韓國人の教育			三

伊太利大學一班	寺田 四郎	〔國國〕六九八	八
英國の成人教育	菊池 勇夫	〔國家〕六九五	一

【教會法】 寺院法を見よ

【恐喝の罪】

被教唆者の欺罔取財罪に對する恐喝取財教唆者の責任	牧野 英一	〔新報〕四二八	三
脅迫と恐喝との區別及民法上の強迫との關係	牧野 英一	〔志林〕四二〇	八
恐喝罪の成立と被害の心理状態	泉二 新熊	〔新報〕四二九	一〇
恐喝取財に於ける不法の意義	川島 英晃	〔刑評〕四四五	四

【供給と需用】 需用と供給を見よ

【恐慌】 參照 金融。景氣。投機。失業。

商業社會の恐慌を説く	土子金四郎	〔國家〕四二二	二
------------	-------	---------	---

【教育】 【教會法】 【恐喝の罪】 【供給と需用】 【恐慌】

經濟恐慌論	神戸 正雄	〔内外〕四三六	一
避くべきは恐慌の聲なり	吉川 宗充	〔日經〕四四〇	一
最近の紐育恐慌の經過	瀧本 美夫	〔國經〕四四一	四
恐慌觀	熊崎 良	〔東經〕四四一	五
一九〇七年の恐慌	内池 廉吉	〔國經〕四四一	四
マクドナルド「最近米國五大恐慌通有の原因」(譯)	河田 嗣郎	〔日經〕四四一	二
紐育恐慌が日英の輸出貿易に及ぼせる影響	河田 嗣郎	〔日經〕四四一	三
スプリング「一九〇七年の米國恐慌」(譯)	鏡山 生	〔東經〕四四一	五
米國恐慌の際に於ける現金代替制	鹽田 環	〔國家〕四四二	三
一九〇七年の恐慌後の一年經濟恐慌に付て	瀧谷 善一	〔國經〕四四二	六
恐慌の原因	岩田 幸美	〔國家〕四四三	二
恐慌と利子歩合	インランド夫人	〔三學〕六二七	七
カウツキー「恐慌と資本家經濟」	高城仙次郎	〔三學〕六二七	七
目下の恐慌及び失業	柳田 民藏	〔我等〕六九二	八
恐慌の對策と銀行業者	戸田 海市	〔經叢〕六九二	〇
恐慌と勞働市場	大森 研造	〔經叢〕六九二	〇
西紀三十三年の經濟恐慌	河津 暹	〔國家〕六九三	四
恐慌論	高橋誠一郎	〔三學〕六九四	七
	河津 暹	〔新報〕六九三	一〇



【恐慌】【共済組合】【共産主義】

滞貨と恐慌	野崎 龍七〔洋經〕大九	青木 道〔國家〕四五
恐慌の必然性	堀 湖〔經究〕大〇	永井 亨〔國家〕六七
恐慌の原因に就て	松崎 壽〔國經〕大〇	永井 亨〔法協〕六七
恐慌に就ての一考察	川西 正鑑〔金融〕大二	芳賀 榮造〔社政〕大九
ヒルファアディングの「恐慌の原因」	友岡 久雄〔經研〕大四	野坂竹太郎〔保雜〕大〇
レーデラー教授の恐慌論	大森義太郎〔經論〕大四	澤田 謙〔社政〕大三
ヒルファアディングの恐慌の意義について	谷口 吉彦〔經叢〕大四	國際労働局〔社政〕大四
ヒルファアデンタル「恐慌の性質の變遷」(譯)	友岡 久雄〔法集〕大四	片山 早苗〔社政〕大五
恐慌と其對策	岩崎 靜也〔銀叢〕大五	中川與之助〔經叢〕大五
【共済組合】	參照生命保險。勞働組合。	參照個人主義。社會主義。ボルシェヴィズム。無政府主義。
共済會に就て	磯谷敬之助〔保雜〕三四	高橋誠一郎〔三學〕大八
帝國鐵道職員救済組合に就て	栗津 清亮〔保雜〕四〇	榑田 民藏〔經學〕大九
職工保護の要項(救済組合の組成)	栗津 清亮〔日經〕四一	
保險學理と救済組合	栗津 清亮〔志林〕四〇	
經濟上より見たる濟生會	星野 勉三〔三學〕四五	
官設共済組合制度の概要及批評	桑田 熊藏〔國經〕四五	
史觀	河上 肇〔社間〕大九	
獨逸共産主義者の暴動と其公判	宮本 英術〔法叢〕大八	
「共産宣言」の英譯本について	河上 肇〔經叢〕大二	
ウキリアム・モリスの共産主義	加田 哲二〔三學〕大二	
古代希臘に於ける共産主義的の革命	ベア ー〔我等〕大二	
原始基督教と共産主義的思想	三邊 金藏〔三學〕大二	
英國労働黨と共産主義	田中 貢〔經商〕大三	
共産の原理	恒藤 恭〔經叢〕大二	
「共産宣言」の一草稿たるエンゲルス稿「共産主義綱領」	福田 徳三〔商研〕大二	
無政府主義、共産主義、國家社會主義	小泉 信三〔財經〕大二	
スバルタに於ける共産主義	ベア ー〔我等〕大二	
エツセネ教團の共産主義	高橋誠一郎〔三學〕大二	
カウツキーの「修道院的共産主義」を讀む	小島 幸治〔三學〕大二	
共産社會の自存的形式と寄生的形式	恒藤 恭〔我等〕大三	
【共産主義】		

【共産主義】

ドイツ共産黨の現勢	露國共産黨と労働者教育(ジョッス)	英國に於ける労働黨と共産黨との關係	ドイツ島の原始共産制	共産主義の經濟的基礎に就て	共産黨インターナショナルの過去現在及未來	「共済宣言」剽竊問題	マルクス共産體の研究	露西亞の共産主義	獨逸共産黨の政策	二つの社會化綱領(プーリンの「共産黨綱領」とパウアーの「社會主義への道」とに現はれたる社會化諸方策の管見)	ケルン共産黨事件の真相	「共産黨宣言」前史の一齣	露國共産黨内訌の真相	支那反共産運動
上田 茂樹〔マル〕大三	西 雅雄〔マル〕大三	河上 肇〔經叢〕大三	伊藤 秀一〔三學〕大三	シノグイエフ〔マル〕大三	平井 新〔三學〕大四	石濱 智行〔社科〕大四	稻田周之助〔外時〕大四	稻垣 守克〔社政〕大四	岩城 忠一〔商論〕大五	嘉治 隆一〔我等〕大五	平井 新〔三學〕大五	茂森 唯士〔外時〕大五	高山 謙介〔外時〕大五	



行政

參照：營造物。官制。官廳。官吏。行政處分。行政整理。行政訴訟。行政法。警察。權限爭議。財政。訴願。政治。地方行政。都市。

行政科統計論	岡松 徑	〔統集〕四一五	一
行政及司法を論ず	奥田 義人	〔法協〕四一八	三
行政組織の一斑を論ず	富井 政章	〔法協〕四一九	四
行政學比較研究の必要を論ず	末岡 精一	〔國家〕四二〇	一
行政の目的及範圍	井上 毅	〔國家〕四二三	三
法治主義を論ず	穂積 八東	〔國家〕四二三	三
ブライツァク「裁判所及行政廳の權限に付主義上の區畫」(譯)	應 當 融	〔法記〕四二五	二
法治國の辯	冷 眼 子	〔新報〕四二六	三
内訓又は訓令の性質	式市 散人	〔新報〕四二九	六
法治行政	穂積 八東	〔新報〕四二九	六
行政區の名稱境界に關する私議	那珂 通世	〔國家〕四三〇	二
法治國の行政	江木 衷	〔新報〕四三〇	七
行政の觀念に關する管見	小原 新三	〔國家〕四三一	四
行政統計拾遺	花房直三郎	〔統集〕四三四	一
蘭領爪哇行政一斑	光岡 正彰	〔統集〕四三四	一
	岡 實	〔志林〕四三四	三

法治國の本義	菊池 武夫	〔新報〕四四二	二
行政の意義に就て	竹井耕一郎	〔國家〕四四二	一
モンテスキューの三權分立論	市村 光恵	〔内外〕四四二	二
國法学と財政學との關係	岡 實	〔志林〕四四五	五
權力分立論一斑	美濃部達吉	〔新報〕四四七	二
國家作用の區別	寛 克彦	〔新報〕四四七	二
訓令と服務命令	美濃部達吉	〔法政〕四四八	一
法治國の壓制	美濃部達吉	〔法政〕四四八	一
行政學の範圍及政治學との限界	菱谷 精吉	〔法政〕四四九	一
三權分立	一木喜徳郎	〔國家〕四四九	二
立法司法及行政の區別及其意義	佐々木惣一	〔新報〕四四九	二
自由行政と所謂「憲法上の大權」	美濃部達吉	〔明學〕四五〇	一
權力の分立	美濃部達吉	〔志林〕四五〇	九
國學作用と三權分立	穂積 八東	〔法協〕四五二	六
特別權力關係	佐々木惣一	〔京法〕四五三	三
特別の權力關係の性質に就て	一木喜徳郎	〔法協〕四五三	二
行政行為の性質及種類を論ず	美濃部達吉	〔志林〕四五二	一
立法、司法、及び行政	美濃部達吉	〔國家〕四五二	一
	上杉 慎吉	〔新報〕四五三	二

普魯西に於ける行政改革	井上 密	〔京法〕四四二	六
輿論政治と行政	村田岩次郎	〔三學〕四四四	九
立憲國に於ける行政、司法	植原悦二郎	〔國國〕四五四	九
立法三權の關係	松本 重敏	〔新聞〕四六一	二
立憲政體と立法司法及行政	美濃部達吉	〔法協〕四九六	九
行政行為の無効	財部 靜治	〔經義〕四九〇	四
諸國行政統計書梗概	蠟山 政道	〔國家〕六二七	二
行政の概念構成に於ける「技術」の意義	田村 徳治	〔法叢〕六二二	一
行政學の本領と法律學の使命とに關する人生觀的考察	鈴木 義男	〔社政〕六二四	一
社會行政の新領域	リード	〔都問〕六四一	六
新なる行政區劃の單位リジョン	宇治伊三助	〔法叢〕六五五	五
ヤストロツ「行政學とは何ぞや」	成瀬 義春	〔財經〕六五三	七
行政及財政組織の單純化	田部 芳	〔法協〕四四九	二
行政裁判所及司法裁判所の權限	石山 彌平	〔新報〕四三八	六
行政裁判所廢止論			

行政裁判所

參照：行政訴訟。

行政裁判所制度を概論して	清水 澄	〔内外〕四五五	一
改正法案に及ぶ	下部喜太郎	〔辯協〕四五〇	九
行政裁判所の改善問題に就て	水野鍊太郎	〔國家〕四五三	二
行政裁判所の權限に關する疑義	清水 澄	〔法協〕四五二	六
行政裁判所に就て	清水 澄	〔法協〕四五二	七
再び行政裁判所に就て	清水 澄	〔法協〕四五二	七
行政裁判所の權限擴張に就て	副島 義一	〔國家〕四五三	二
行政裁判所の存在目的	花岡 敏夫	〔辯協〕四五三	一
行政裁判所權限と所謂自由裁量問題	美濃部達吉	〔新報〕四五三	二
行政裁判所の再審制度に就て	元田 肇	〔新報〕四五二	二
行政裁判所評定官免官問題に就て	副島 義一	〔志林〕四五三	一
行政裁判所評定官免官問題に就て副島博士の説を駁す	清水 澄	〔志林〕四五三	四
行政裁判所評定官免官問題に關する清水博士の駁論を駁す	副島 義一	〔志林〕四五三	五



【行政裁判所】【強制執行】

行政裁判所と司法裁判所  
行政裁判所の権限擴張問題  
と投審制度問題  
行政裁判例と権限擴張の可  
否

【強制執行】

民事訴訟法第六編を讀む  
強制執行方法の變遷  
強制執行に於ける執達吏と  
執行債権者との法律關係  
に就て  
強制執行權の基礎  
實質的訴權と強制執行との  
關係  
強制履行及強制執行  
妻の同居義務と強制執行  
強制執行の優先主義及平等  
主義(對人信用制度の消  
長)  
執達者の賠償責任  
強制執行に依る權利保護條  
件一般

清水 澄 [法記] 六二二  
南部 皆治 [辯協] 六六二  
加藤 勝藏 [新聞] 六三三  
長島鷺太郎 [法協] 四二二  
吾孫子 勝 [新報] 四三三  
富谷銆太郎 [法記] 四三三  
加藤 正治 [新報] 四三三  
仁井田益太郎 [新報] 四二二  
雄本 朗造 [京法] 四二二  
寺崎 福彦 [新聞] 四二二  
雄本 朗造 [京法] 四二二  
伊藤 正介 [臺法] 四二二  
宮田龜之助 [辯協] 四二二

強制執行改正私議  
強制執行の要件

強制執行に就て  
假執行に關する諸國の法制  
を論ず  
外國判決の執行  
内國民事判決の内國に於け  
る效力  
公正證書の正本に就て  
公正證書の效力に就て  
新關席判決と職權的假執行  
の宣言  
確定判決の效力と執行文付  
與  
強制執行後に於ける承繼問  
題  
上告審に於ける假執行の宣  
告  
民事訴訟法第五〇一條第三  
號第二の欠席判決の意義  
控訴裁判所か第一審の本  
判決を是認したる場合に  
於ける強制執行の債務名  
義

橋本 廣督 [新聞] 六五  
錦 山生 [新報] 四七  
木村誠次郎 [志林] 四二二  
中村 進午 [新報] 四二二  
泉二 新熊 [新報] 四二二  
倉橋集太郎 [新聞] 四二二  
森 作太郎 [新聞] 四二二  
賤乃家學人 [新聞] 四二二  
竹田孝太郎 [新聞] 四二二  
頓宮悟一郎 [新聞] 四二二  
加藤 正治 [志林] 四二二  
板倉松太郎 [志林] 四二二  
伊藤 悌治 [新報] 四二二

韓國理事廳の判決は内地に  
於て執行せられ得るや  
假執行の宣言と判決  
脱退せる被告に對し執行を  
なす場合の執行文附與手  
續  
支拂命令送達後の債務者死  
亡と相續人に對する執行  
命令  
公正證書の作成に就て  
事實に吻合せざる公正證書  
の意義  
公正證書に依り執行文の附  
與を求め得べき者と給付  
の訴  
未成年者に爲されたる執行  
行為の通知  
公正證書不實記載と虚偽行  
爲  
社員の特分に對する執行と  
現行法の缺陷  
假執行免除の宣言に就て  
執行機關改造の急務  
公正證書に對する執行文附

清瀨 一郎 [法協] 四二二  
山田 正三 [京法] 四二二  
菅原 春二 [新報] 四二二  
前田直之助 [新報] 四二二  
豊原 清作 [辯協] 四二二  
齋藤 孝治 [新聞] 四二二  
細野 長良 [新報] 四二二  
細野 長良 [新報] 四二二  
藤波 元雄 [法記] 四二二  
眞野 毅 [辯協] 四二二  
小野村胤敏 [法政] 四二二  
山本 晴造 [新聞] 四二二

【強制執行】

與の時期に就て  
公正證書の執行力を論ず  
執行命令の送達に就て  
執行命令の送達に關する辯  
護士太田孝之助君の所論  
を讀みて  
民事訴訟法第五三六條に依  
る執達吏の命令に債務者  
應ぜざる場合  
執行文附與に關する一二の  
問題に就て  
債務名義に就て  
強制執行に對する救濟方法  
強制執行の停止命令に就て  
競賣手續の停止に就て  
民法第五四九條第一項末  
段に就て  
執行參加に關する疑義、附  
雇人の證人資格に就て  
再び民法第五四九條を論  
ず  
執行參加訴訟に就て  
請求に關する異議の訴の性  
質に就ての學說

河保川生 [新聞] 四二二  
山崎 行一 [新聞] 四二二  
太田孝之助 [新聞] 四二二  
八ヶ代義則 [新聞] 四二二  
前田直之助 [新報] 四二二  
喜頭 兵一 [朝司] 四二二  
山崎 行一 [新聞] 四二二  
三宅 長策 [新報] 四二二  
高橋 捨六 [新聞] 四二二  
古谷新太郎 [新聞] 四二二  
齋藤 覃次 [新聞] 四二二  
古谷新太郎 [新聞] 四二二  
高橋巳千治 [新聞] 四二二  
前田道之助 [明學] 四二二



【強制執行】

債務者占有中の第三者の所有物に對する強制執行に異議を申立ざりし第三者が執行完了後に爲す不當利得の主張

假執行の停止取消變更認可の當否に付ての判決

民訴第五四五條第三項の規定と訴の變更

第三者の執行異議の訴請求に對する異議の訴請求に關する異議と執行文附與に對する異議

強制執行停止命令の效力存續時期

民訴法第五〇一條第四號、第五四八條の規定に依る手續と強制執行

第三者の執行異議權と原因反對給付に繋る強制執行に對し異議の訴を以て反對給付が契約の本旨に適合せざることを主張するの可否

中込 宗造	〔新報〕四一八	九號
平井彦三郎	〔新聞〕四一	四八三
森 作太郎	〔新聞〕四三	六四三
仁井田益太郎	〔法協〕四四	二九
維本 朗造	〔新報〕大二三	一一二
岡村 玄治	〔志林〕大七二〇	六
阿部文二郎	〔新報〕大八二九	六
阿部文二郎	〔新報〕大八二九	九
伊藤 綱城	〔新聞〕大八	二〇〇四
阿部文二郎	〔新報〕大〇三	一一

執行命令に對する故障申立に基く辯論に於て當年者一方の關席したる場合と其裁判

民訴法第五四七條末項の受訴裁判所の裁判を提出すべき機關

執行異議事件の判決執行手續

轉付命令に就て送達前の債權轉付命令の效力に就て

債權の差押に就て恩給は差押ふべからず

取立命令と轉付命令の區別強制競賣の性質

保險金の差押に付きて不動産強制競賣の賣得金の配當に關し民事訴訟法は民法の規定に依り自然改正を受けたることを論ず

公權の差押に付て競落不動産の引渡命令に就て

前田直之助	〔新報〕六二三	六
前田直之助	〔新報〕六二三	二
小野 實雄	〔新聞〕大四	二四八
高木 豊三	〔法記〕四六	三
高木 豊三	〔法記〕四六	三
平山銓太郎	〔新報〕四六	三
高橋 覺	〔新報〕四七	四
錦 山 生	〔新報〕四七	四
本田 康直	〔法政〕四三	三
松岡 義正	〔法政〕四三	四
野村安次郎	〔新報〕四三	一〇
野村安次郎	〔新報〕四三	一〇
川島 龜夫	〔辯協〕四四	五
幽谷 居士	〔新聞〕四三	一
神尾 肇	〔新聞〕四三	一〇三

船舶の股份に對する強制執行に就て

取立命令に就て民訴第六四九條に就て

永代供地權は強制執行の目的とすることを得るや

ヘルツ「電話機及び郵便爲替金の差押に就て」(譯)

タシヤウ「郵便爲替金の差押に就て」(譯)

合資會社社員に對する債權執行に就て

土地明渡強制執行に於ける執達吏の職權

土地明渡強制執行に於ける家屋取毀命令の要否

判事野村定次君に答ふる相續人が相續登記を爲さざる不動産の競賣手續

不動産強制競賣開始決定に對しては抗告を爲すことを得ざる乎

裁判所書記の其保管に依る競落代金を費消したると

長谷川協輔	〔新聞〕四五	一〇三號
板倉松太郎	〔志林〕四五	一五
櫻 蔭	〔新聞〕四五	一五
長谷川菊太郎	〔新聞〕四五	一四九
平島 及平	〔法記〕四七	一四九
平島 及平	〔法記〕四七	一四九
平島 及平	〔法記〕四七	一四九
永易政次郎	〔新聞〕四六	一七二
中西惣三郎	〔新聞〕四六	一七六
野村 定次	〔新聞〕四六	一八一
中西惣三郎	〔新聞〕四六	一八五
森 作太郎	〔新聞〕四六	一九二
森 作太郎	〔新聞〕四六	一九二
森 作太郎	〔新聞〕四六	一九九

きは國家は賠償の責を負ふや

民訴第六八八項前競落人に對する不足額等請求權は何人在るや

差押假差押に關する補正私見

金鍊債權に對する數個の差押の間に於ける效力

轉付命令を論ず配當要求の時期と轉付命令との關係

民事訴訟法に依る競賣と競賣法による競賣との區別

市町村財産の差押建物を撤去し土地を明渡すべしとの判決の強制執行

勳章年金の差押に就て假差押を爲したる債權轉付命令を發することを

一個の債權に對して發せられたる數個の轉付命令が同時に送達せられたると

谷田 三郎	〔法記〕四九	二
村上亨三郎	〔新聞〕四九	一三七〇
池水 浩光	〔新聞〕四九	一三六三
齋藤 覃次	〔新聞〕四九	一三六九
梅 謙次郎	〔志林〕四九	九
前田直之助	〔明學〕四〇	一二六
板倉松太郎	〔志林〕四一〇	三
板倉松太郎	〔志林〕四一〇	三
平井彦三郎	〔新聞〕四一	四八〇
守谷富之助	〔新聞〕四一	五〇三
岩本勇次郎	〔志林〕四二	六

【強制執行】



【強制執行】

きの効力  
民事訴訟法第七三四條の意  
義  
公吏の俸給権は全部差押へらるべきものなるか  
有體動産差押の効力を論ず  
清國に於ける執行の効力に就て  
言渡を爲さざる決定と送達前の執行に就て  
作爲及不作爲債権の強制執行  
債権に對する強制執行と最近大審院の判例  
讓渡禁止の特約ある金銭債権と轉付命令  
民事訴訟法第七三六條の疑義  
差押の競合と轉付命令  
差押命令と移付命令とを同時に發することを得る乎  
俸給費に對する強制執行所謂將來の收入に對する轉付命令  
板倉松太郎〔志林〕四二二 七  
岩本勇次郎〔志林〕四二二 一〇  
川手 忠義〔新聞〕四二二 一五九  
法叢 學人〔新聞〕四三三 一六八  
光井 深〔新聞〕四三三 一六四  
雲外 居士〔新聞〕四三三 一六六  
石坂香四郎〔京法〕四四六 三  
横田 秀雄〔志林〕四四一 一六  
前田直之助〔新報〕四四二 七  
武川 佳海〔新聞〕四四四 一七〇  
齋藤 巖〔新聞〕四四五 一七七  
齋藤 巖〔新聞〕四五五 一七〇  
板倉松太郎〔志林〕四五五 一六  
天野宗太郎〔新聞〕四五五 一八九

債権は二重に差押ふることを得るや  
財産権に對する強制執行に關する主要問題  
執行停止命令ありたる債務名義に基く再度の強制執行  
金鶏勳章の年金に對して轉付命令を發することを得る乎  
代替物と民法第七三二條の轉付命令  
過分なる數箇の不動産の差押  
銀行貸金契約に於ける擔保流用文句と債務者に對する強制執行及び債務者の破産  
民事第六二五條第二項と其手續  
照査手續の性質及び効力  
強制執行處分の當否と家資分散の宣告  
辨濟供託金に對する強制執行  
横田 秀雄〔評論〕六二二 七  
板倉松太郎〔志林〕六二五 九  
岩田 一郎〔新報〕六二三 二  
榎原周次郎〔新聞〕六二一 八九  
庄野 理一〔新聞〕六二一 八九  
加藤 正治〔志林〕六三六 七  
榎本 朗造〔京法〕六四一 八  
前田直之助〔新報〕六五二 三  
板倉松太郎〔志林〕六五二 一三  
加藤 正治〔志林〕六六九 三

行

供託金に對する債権差押の第三債務者に就て  
船舶に對する強制執行を論ず  
電話加入權に對する強制執行に就て  
有體動産に對する強制執行は何時終了するや(執達吏が競買代金を受取りたる時乎債権者が其交付を受けたる時乎)  
民事訴訟法第六二三條の法意  
動産の同時差押  
執行停止決定ありたる後に於ける照査債権者の差押手續履行の許否  
滞納處分に因る不動産差押の効力發生時期  
債権轉付命令と抵當權  
家屋明渡の執行と抵抗  
不動産引渡命令の効力  
眞下 五郎〔新聞〕六六二 一三四  
新田 繁永〔新聞〕六七二 二三四  
小町谷操三〔新報〕六八二 六  
作間 耕逸〔辯協〕六八三 七  
齋藤 巖〔新聞〕六八一 一五九  
阿部文二郎〔新報〕六九三 一  
片山 通夫〔法記〕六〇三 八  
吉田常次郎〔新報〕六〇三 一〇  
宿利 英治〔新報〕六一三 六  
崎元武兵衛〔臺法〕六一六 七  
前田直之助〔法政〕六二三 三  
田崎 浩久〔辯協〕六二九 二  
〔新報〕六二九 二  
〔法新〕六二九 二

執行保全

假差押の害  
假差押を論ず  
債権及不動産假差押に就て書損に因る假處分命令の更正  
假差押假處分に就て  
不動産假差押の効力に就て  
假處分の効力  
保證を立てしめて爲す假處分の取消に就て  
差押假差押に關する補正私見  
假處分執行の取消又は之を許さざるか  
假處分命令に對する不服は如何なる裁判所が管轄するか  
假處分執行の取消に就て本紙四六四號所載假處分執行取消申請事件の判決を評す  
假差押の効力  
期限の至らざる債権に付き  
鈴木 充美〔法協〕四五二 一〇  
八重洲閑人〔新報〕四五二 六  
飯田 半助〔新聞〕四五二 一  
梅 謙次郎〔志林〕四五二 四  
高橋 捨六〔新聞〕四五二 一  
森 作太郎〔新聞〕四五二 一  
根本仙三郎〔新聞〕四五二 一  
賤乃家學人〔新聞〕四五二 一  
池水 浩光〔新聞〕四五二 一  
平井彦三郎〔新聞〕四五二 一  
平井彦三郎〔新聞〕四五二 一  
平井彦三郎〔新聞〕四五二 一  
板倉松太郎〔志林〕四五二 一  
板倉松太郎〔志林〕四五二 一

【強制執行】



【強制執行】

假差押命令を發したる後  
裁判所が申立により債權  
者に對し本訴を提起すべ  
きことを命じたる場合に  
於ける訴の性質

假處分取消申立に對する違  
法の裁判と不服申立の方  
式に就て

假差押に付て所感を述べ  
假差押と配當要求の效力  
小作人の立稻假差押に就て  
假差押執行の防止を目的と  
する供託

假差押と假處分  
私訴假差押處分の許否  
不服の申立と假執行に關す  
る裁判

假差押又は假處分命令若は  
其執行と申請人の取消  
民事訴訟法第七四六條に所  
謂訴訟の意義に關する大  
審院の判決に就て

假差押又は假處分保證供託

中込 宗造〔新報〕四一九八號

大野 豹吾〔新聞〕四二一五九

一瀬房之助〔辯協〕四三二四一三九

前田直之助〔新報〕四四二二三

頓悟 道人〔新聞〕四四一七三

雄本 朗造〔京法〕大三九二二

淺野 謙二〔新聞〕大三一九七

大橋 誠一〔辯協〕大五二〇三

前田直之助〔新報〕大五二〇九八

阿部文二郎〔新報〕大六二七六

平井恒之助〔新聞〕大六一二二二

金の取戻に就て

假處分に關する取扱

假差押命令の管轄

本案か上告審に在る場合と

假差押の管轄

急迫なる場合に於ける假處

分命令の管轄に就て

急迫なる場合に於ける假處

分命令の管轄に就ての尾

高判事の所論を讀みて

執行保全手續の性質と立法

に就て

本案繫屬前の假差押に於け

る起訴命令と支拂命令の

送達

數裁判所管轄權を有する場

合に於て一裁判所の起訴

命令に依り(假差押に基

く)他の裁判所に其の事

件に關し起したる訴と假

差押との關係

敗訴と不法假差押の推定

現代の要求と假處分

不動産に對する假差押命令

齊藤 巖〔新聞〕大九二七二

前田直之助〔法記〕大〇三二

井上直三郎〔法叢〕大〇五二

阿部文二郎〔新報〕大〇三九

尾高 武治〔新聞〕大〇一八七三

石井 純一〔新聞〕大〇一八八〇

宮田龜之助〔法政〕大二二七三

前田直之助〔新報〕大二三三

前田直之助〔新報〕大三三三

多田 吉鍾〔朝司〕大二三三

寺崎 勝治〔法政〕大四三三

の執行に就て

【行政處分】

參照 公用徴收。

願届及許可認可

處分命令に對する新法語

執行罰に付て

行政の區域に於ける契約

公法上に於ける契約と合同

行為

便宜の原則

行政官廳が法律に基き與へ

たる免許は誤謬ありとし

て其官廳自ら之を取消し

又は訂正する權能ありや

自由行政と所謂「憲法上の

大權」

行政上の私法行為

行政處分の取消變更

行政處分の取消を論ず

行政犯の性質を論じて警察

犯に及ぶ

行政上の強制執行

默示の却下

渡邊 純〔朝司〕大五五卷六號

穂積 八東〔法協〕四三二五

倉知 鐵吉〔法協〕四三二五

副島 義一〔志林〕四三二七

スタンゲル〔法政〕四三二八

エリネツク〔志林〕四三二八

上杉 慎吉〔志林〕四三二七

鈴木 充美〔辯協〕四三九二〇

美濃部達吉〔志林〕四三九二

織田 萬〔新聞〕四四〇一

穂積 八東〔新報〕四四〇九

美濃部達吉〔新報〕四四〇九

佐々木惣一〔京法〕四四〇三

美濃部達吉〔國家〕四四〇三

織田 萬〔京法〕四四〇六

行政處分の成立及效力發生

行政裁判所の判決は違法の

行政處分を直接に取消變

更する效力ありや

公法上の契約を論ず

行政處分に對する救済を論

ず

行政處分の取附附行政行為

の觀念

執行罰

行政處分に就て

行政處分の無効及取消を論

ず

許可認可等の用語

行政執行法

行政處分の效力發生の時期

及確定の時期

行政法上の強制手段

公法上の金錢給付義務と其

の強制方法

行政處分と第三者殊に其の

行政訴訟提起の期間に就

清水 澄〔新報〕四四二一〇

太田 資時〔辯協〕四四二五

市村 光惠〔京法〕大二八二〇

中村徳重郎〔辯協〕大二七二七

佐々木惣一〔京法〕大四二〇

織田 萬〔京法〕大四二〇九

清水 澄〔新報〕大六二七

市村 光惠〔京法〕大六二二

織田 萬〔京法〕大六二二

市村 光惠〔法論〕大六一二二三

清水 澄〔新聞〕大七一四二二

田中 貢〔法政〕大八二六

織田 萬〔法叢〕大九三

宿利 英治〔新報〕大二三三



【行政整理】 【行政訴訟】

【行政整理】

参照 編輯更正。

行政整理の沿革  
 元員淘汰の方針  
 行政整理難  
 行政整理と我司法省  
 司法部の行政整理如何  
 行政整理と物價調節  
 行政整理と司法省  
 新行政整理案  
 司法省内部の行政整理には  
 供託局を廢止して貰ひた  
 い

【行政訴訟】

参照 行政裁判所。

シヨルシュ・アツベル「行政裁判論」(譯)  
 行政訴訟  
 行政裁判法典を論ず  
 今川法學士に質し併せて我  
 行政裁判法を論ず  
 民事と行政事件

訴訟と行政訴訟の成立  
 行政裁判法第二三條中裁決  
 なる文字に就て  
 行政訴訟に於ける對手  
 行政訴訟と訴訟との區別及  
 其關係  
 行政裁判及行政裁判に關す  
 る諸法案  
 行政裁判と訴訟との區別に  
 付て  
 行政裁判の缺點  
 行政裁判を論ず  
 行政裁判の確定力  
 獨逸の行政裁判制度  
 行政裁判の本質に就て  
 行政裁判法一斑  
 行政裁判再審法案に就て  
 行政裁判訴訟手續の改善策  
 獨逸行政裁判制度概要  
 行政裁判制度に關するシュ  
 ルツェンスタイン博士の  
 講話  
 行政裁判の効果を論じて神  
 戶裁判所の判決に及ぶ

- 倉知 鐵吉 [法協] 四三〇 二五 六
- 錦 城 [新報] 四三〇 七 七
- 江木 衷 [新報] 四三〇 七 七
- 長島鷺太郎 [法政] 四三三 四 三
- 織田 萬 [内外] 四三三 一 二
- 美濃部達吉 [志林] 四三三 六 六
- 石山 彌平 [辯協] 四三三 九 七
- 清水 澄 [法協] 四三三 二四 九
- 藤井 眞信 [法協] 四三三 二四 六
- 美濃部達吉 [國家] 四三三 二四 二
- 渡部 廉吉 [國家] 四三三 二四 二
- 美濃部達吉 [國家] 四三三 二四 二
- 石山 彌平 [辯協] 四三三 二四 二
- 石山 彌平 [辯協] 四三三 二四 二
- 渡邊 廉吉 [國家] 四三三 二四 二
- 渡邊 廉吉 [國家] 四三三 二四 二
- 太田 資時 [新聞] 四三三 一 二

【行政法】

参照 行政。

行政裁判改正之議  
 オ・ミユルラー氏行政裁判  
 論  
 營業稅課稅標準額の決定と  
 行政訴訟  
 行政裁判所の判決に對する  
 論評  
 行政裁判所の判決は違法の  
 行政處分を直接に取消變  
 更する效力ありや  
 行政裁判法論  
 行政裁判に就て  
 行政裁判法施行の必要  
 秩祿行政訴訟の疑義  
 行政裁判に就て  
 行政判決の參加人に對する  
 拘束力  
 行政裁判の觀念  
 行政處分と第三者殊に其の  
 行政訴訟提起の期間に就  
 て  
 行政裁判制度改正問題  
 行政訴訟事項の範圍

日本行政法を研究するの必  
 要及方法を論ず  
 憲法と行政法  
 行政法の研究に就て  
 行政法と公私法の接觸  
 行政法統一の必要  
 行政法に關する獨逸近著概  
 要  
 地方行政法規の效力  
 行政法學の將來  
 行政法の編別に就て  
 行政法總則に關する近時の  
 研究  
 美濃部博士著「日本行政法」  
 第三卷批評  
 海事行政法規概觀  
 拙著「日本行政法」上卷中  
 の誤謬に就て

- 金子堅太郎 [國家] 四三〇 五 四
- 劍西 學人 [新報] 四三〇 二 五
- 岡 實 [國家] 四三〇 二 六
- 織田 萬 [明學] 四三〇 一 八
- 織田 萬 [京法] 四三〇 一 三
- 美濃部達吉 [國家] 四三〇 二 八
- 山室 宗文 [法協] 四三〇 二 五
- 佐々木惣一 [京法] 四三〇 三 七
- 美濃部達吉 [新報] 四三〇 二 八
- 美濃部達吉 [新報] 四三〇 二 二
- 市村 光惠 [京法] 四三〇 二 二
- 村上 恭一 [海法] 四三〇 一 一
- 美濃部達吉 [國家] 四三〇 二 二

【行政訴訟】 【行政法】 【競争】



【競争】【供託】【共通法】【京都】

説を評す	小林丑三郎〔明法〕四六	一	六三	
自由競争に就て	藤本幸太郎〔國經〕四九	一	一	
専賣價格と競争價格の決定	下村壽一〔東經〕四一	一	一四六	
競争の弊	平田東助〔日經〕四一	三	六	
不正競争取締論	河津 暹〔日經〕四三	七	十九	
不正競争を論ず	戸田 海市〔國經〕四三	一	四一五	
匿名組合の營業者と競争禁止	松本 丞治〔新報〕四四	二	三	
不正競争法案の批評	伴 直之助〔東經〕四四	四	二二	
不正競争取締法論	玉木 三郎〔商經〕四五	一	二	
競争價格成立の理法を論ず	丸谷 喜市〔國經〕六七	二	二	
競争の公正に關する諸問題	東 晋太郎〔國經〕六〇	三	五	
自由競争と獨占	土方 成美〔經論〕六二	二	一	
獨占の制限と競争の永存	上山辨太郎〔商濟〕六三	三	一	
競争價格と獨占價格	土方 成美〔經論〕六三	二	二	
不正競争の制限に就て	田中 忠夫〔亞經〕六三	八	四	
クラアクの競争並に獨占理論	油本 豊吉〔經論〕六四	三	四	
自由競争の限界	宮本 英雄〔法叢〕六五	一五	六	
供託論	石坂晋四郎〔京法〕六二	八	九二	
假差押執行の防止を目的とする供託	維本 朗造〔京法〕六三	九	二	
供託の性質及其法律關係	維本 朗造〔京法〕六四	二〇	二二	
供託局の事務改善に就て	木 冠〔新聞〕六八	一	一九九	
供託法の改正に就て	川村 淳〔臺法〕六〇	一五	一〇	
日佛供託制度比較概論	松岡 邦〔新聞〕六〇	一	一八二	
一般供託局をして現實に供託物の取扱をなさしめられんことを望む	天 寛 子〔新聞〕六二	一	二二三	
供託局の存否に就て	天 寛 子〔新聞〕六三	一	二三〇	
共通法案に付て	松村真一郎〔志林〕六七	二〇	二	
共通法案に就て	山田 三良〔法協〕六七	二	四七	
共通法に就て	山田 三良〔法協〕六七	三	八七	
第四十議會に於ける共通案に關する政府委員の答辯	孫 兵 衛〔新聞〕六七	一	二四五	
觀	青 篤世〔朝司〕六一	一	六	
共通法上の地域に就て	豫審事件より見たる京都京都府の港灣	川崎 兼秀〔統雜〕六五	一	三三七
【京 都】	大 濱 隆〔新聞〕四三	一	六二八	
【京 都】	山 田 正三〔京法〕六二	八	二〇	
【京 都】	川 崎 兼秀〔統雜〕六五	一	三三七	

問	本庄榮治郎〔經叢〕六七	六	四
生活調査を論ず(京都市小學校教員生計調査)	沙見 三郎〔經叢〕六九	二	六
京都市小學校教員生計調査	沙見 三郎〔經叢〕六九	二	一
京都市に於ける家賃の統計的研究	岡崎 文規〔經叢〕六二	二七	五
京都五人組編制の年代	中田 薫〔國家〕六三	三	二
京都市共同組合の研究	吉川季治郎〔都問〕六五	二	二
【共 同 海 損】	海損を見よ		
【共 同 訴 訟】	訴訟當事者—共同訴訟を見よ		
【競 賣】	民事訴訟法に依る競賣と競賣法による競賣との區別	板倉松太郎〔志林〕四一	二〇
株式の競賣金額が滞納金額に満たざる場合と譲渡人の關係	片山 義勝〔新報〕四三	二〇	八
強制競賣の場合に於ける賣主と擔保責任	横田 秀雄〔新報〕四三	二〇	九
強制競賣の場合に於ける賣主と擔保責任	西川 一男〔新報〕四三	二〇	九
維納に於ける官設競賣所の組織に就て	横田 五郎〔法記〕四四	二	二
抵當不動産増價競賣に要する擔保提供の時期	松本 静史〔新聞〕六二	一	八四
抵當權の設定せられたる不動産の強制競賣と同地上永小作權	西村 孝三〔新聞〕六二	一	八九
競賣法に依る競賣の性質及び競賣開始の効力	維本 朗造〔京法〕六二	八	八
一個の不動産の一部に對する増價競賣の申立の適否	鈴木真一郎〔評論〕六五	四	二
不動産再競賣の場合に於ける不足額請求權者及請求權行使方法に關する判例及其批評を評論す	西村勸之助〔新聞〕六五	一	二八九
競落不動産の管理人は法定果實を收集する權利なきか	奥戸善之助〔新聞〕六六	一	三〇四
他人の物の競賣と不當利得者	白旗 文一〔新聞〕六九	一	二六七
民法第五六八條と競賣手續との關係	岡村 玄治〔志林〕六二	二	六
競落人の引受けざる競買權	寺井 晴逸〔臺法〕六〇	一五	二
増價競賣の請求及其申立	片山 通夫〔法記〕六二	三	三

【京都】【共同海損】【共同訴訟】【競賣】



【競賣】【脅迫の罪】【共犯】

競賣人の引受けざる不動産  
民事訴訟法第六編及競賣法  
改正私見  
伊藤 正介〔臺法〕大三 年 二七 卷 九 號  
久田 博人〔新聞〕大五 一 二五 五 九

【脅迫の罪】

脅迫と恐喝との區別及民法  
上の強迫との關係  
牧野 英一〔志林〕四一 二〇 八

【共犯】

正犯と從犯との區別  
教唆の教唆は刑法上如何に  
處分すべきや  
豊島 直通〔法政〕四三 四 三  
平沼駿一郎〔法政〕四三 五 五七  
ト部喜太郎〔新報〕四二 二 二二七  
池田 直江〔法政〕四二 七 四

從犯を論ず  
實行正犯と從犯との區別の  
標準並共犯の一人犯罪を  
中止したる場合の責任關  
係を論ず  
金子富次郎〔新報〕四二 三 二二二  
小崎 傳〔法政〕四二 八 四一七  
仲小路 廉〔新聞〕四二 一 四二  
岡田朝太郎〔法協〕四二 三 三

間接正犯、間接教唆犯及間  
接從犯  
泉二 新熊〔新報〕四二 五 八

間接教唆及間接從犯に就て  
責任共擔附因果關係の精神  
的連絡  
小崎 傳〔法政〕四二 九 九  
中西物三郎〔新聞〕四二 一 二七 四

強竊盜の爲に見張を爲す所  
爲は同罪の共同正犯なり  
や將た從犯なりや  
小崎 傳〔新報〕四二 二 二  
鷺尾 健治〔京法〕四二 一 九 二  
牧野 英一〔法政〕四二 二 二〇

共犯論  
共犯の處分に就て  
責任無能力者の行爲に對す  
る共犯ありや  
泉二 新熊〔法政〕四二 二 二二  
牧野 英一〔志林〕四二 二 二

不作爲犯と間接正犯  
被教唆者の強姦致死罪に對  
する強姦教唆者の責任の  
根據  
牧野 英一〔新報〕四二 一 八 三

豫め障礙を與ふることを期  
して犯罪を教唆したるも  
の處分  
共犯の基礎概念  
牧野 英一〔新報〕四二 一 八 五  
牧野 英一〔志林〕四二 一 四

間接正犯の成立時期及び間  
接正犯の成立に必要な  
犯意の存在時期  
賭博の見張行爲に付て  
共同正犯に就て  
小崎 傳〔新聞〕四二 一 四 七  
島 集〔新聞〕四二 一 五 二  
牧野 英一〔志林〕大六 九 一

共同正犯

共犯の從屬的性質に就て  
必要的共犯  
間接正犯の著手時期を論ず  
間接正犯の著手時期に就て  
五十嵐君の所説を駁す  
共同正犯と從犯との區別  
共犯の從屬的性質に就きて  
共謀と實行正犯  
共同正犯の觀念と大審院判  
例  
岡田 庄作〔國國〕大六 年 五 卷 五 號  
瀧川 幸辰〔京法〕大六 三 九  
瀧川 幸辰〔法叢〕大八 一 一  
五十嵐清太郎〔法政〕大八 二 二  
藤田 善嗣〔法政〕大八 六 四  
武田鬼十郎〔新報〕大九 三 二  
藪中 隆〔法政〕大九 七 九  
牧野 充安〔新聞〕大二〇 一 一九〇

共犯ある場合の追徴  
從犯の從屬性説を駁す  
共犯概論  
教唆犯の本質を論じて其效  
果に及ぶ  
強竊盜の見張と共同正犯(正  
犯と從犯との區別)  
助勢過失論  
或る共犯事件  
藤波 元雄〔法記〕大二三 一 四  
河村 靜水〔朝司〕大二 一 四  
鏡 一以〔朝司〕大二 一 五  
徳永 平次〔新聞〕大二 一 一九二七  
横田長次郎〔法政〕大二三 二 二  
宮本 英脩〔法叢〕大二三 二 四  
大濱 信泉〔早法〕大二三 三 一  
飯塚 敏夫〔法政〕大四 三 二〇

【共有】

共有權の意義  
中山成太郎〔法政〕四三 二 二四

【共犯】【共有】【漁業】

共有物の分割に就て  
共有物の競賣に關する判例  
を讀む  
共有者の持分の擔保に就て  
共有物の分割  
共有に就て  
共有者は單獨にて第三者に  
對し共有物に付所有權確  
認の訴を提起することを  
得るや  
共有及び持分  
共有物分割の訴の構成及び  
其の訴繫屬中共有權讓渡  
の效力  
伊藤 善人〔新聞〕四二 一 五  
梅 謙次郎〔志林〕四二 三 三  
杉山直次郎〔法政〕四二 九 一  
池田寅二郎〔法協〕四二 二 二  
横田 秀雄〔新報〕大二三 一

【漁業】

一八八三年佛國海洋漁業統  
計  
萬國公法上に於ける千島密  
獵問題  
英米國に於ける漁業問題  
白令海臘腸臘業に關する  
英米兩國の爭議  
相原 重政〔統集〕四三 一 一〇七  
稻垣滿次郎〔國家〕四二 七 八  
高橋 作衛〔國家〕四二 二 二二  
立作太郎〔國家〕四三 二 二〇



【漁業】 【漁業権】

白令海の漁業問題	高橋 作衛 [國際] 四九	漁業の統計其の他に就て	吳 文聰 [統雅] 六四
白令海鰵魚漁業問題	秋山雅之助 [國際] 四八	國際漁業警察	泉 哲 [三學] 六五
白令海海狗漁業問題の概要	秋山雅之助 [志林] 三八	本邦漁業に關する統計	加藤 銀藏 [統集] 六〇
樺太の漁業問題に關する研究	寺尾 亨 [法協] 四九	爆薬使用漁業に就て	元橋 曉太郎 [朝司] 六一
遠洋漁業と我外交	高橋 作衛 [國際] 四九	漁船の遭難に就て	鯉川 虎三 [經叢] 六三
鰵魚保護條約問題	片山 潜 [洋經] 四一	有望なる魚類繁殖事業	田中 穂穂 [洋經] 六三
海獸會議の結果に就て	米田 實 [國際] 四三	鯨漁業労働の季節的移動	遊佐 敏彦 [社政] 六三
トロール漁業問題に就て	道家 齊 [國際] 四〇	公有水面の性質より漁業權を論ず	公道 學人 [新報] 六三
海獸保護條約の目的	桑田 透一 [東經] 四三	公有水面に於ける漁業の爭訟に關する裁判管轄	岸 清一 [法政] 六三
汽船トロール漁業と海底電信	北原 多作 [外時] 四五	漁業權及漁業法	花井 卓藏 [新聞] 六三
漁業に就て	角 利一 [東經] 四五	漁業權侵害に對する救濟手段	島村他三郎 [志林] 六二
漁業論	米田奈良吉 [國際] 六二	漁業法第四條及第五八條の解釋に就て	佐々木文治 [新聞] 六二
本邦の漁業統計に就て	ユ・ベリエ [國際] 六二	漁業權假處分に就て大審院判例を論ず	山本 喜勇 [新聞] 六二
日本海獸獵業の發達	坪根 久松 [評論] 六二	漁業權の貸借登録に就て	板倉松太郎 [志林] 六二
トロール漁業に就いて	相原 重政 [統集] 六二	漁業權告示の效力如何	小林 俊三 [新聞] 六二
我トロール漁業の將來に就て	角 利一 [國家] 六二	漁業權を論ず	吉田 敬直 [法政] 六二
クレーメル「沿岸海の範圍と漁業權」	山本美越乃 [京法] 六二		
膠州灣の漁業	田中耕太郎 [法協] 六二		

【局外中立】

キョウガイヂウリツ 参照 戰時禁制品。戰爭。

國際公法先例(局外中立の部)	高橋 作衛 [法協] 四九	中立國逃入の交戦國軍艦	中村 進午 [志林] 六二
巴里宣言	戸水 寛人 [法政] 三三	マンジュール號武裝撤去を論ず	楫 水生 [明法] 六一
アラバマ號事件論	清水 有國 [新聞] 三二	日露開戦に於ける清國の國際法上の地位	有賀 長雄 [外時] 七三
アラバマ號事件論	山内 四郎 [新聞] 三二	清韓の局外中立問題	松原 一雄 [外時] 七七
中立國の權利義務	ハイルボルト [國家] 三二	船舶賣買と中立政府の義務	有賀 長雄 [外時] 七七
武裝中立	遠藤 源六 [法協] 三二	局外中立國船舶に關する露國の態度	松原 一雄 [外時] 七七
日本帝國の中立始末	高橋 作衛 [國際] 三一	清國中立法規の缺點	中村 進午 [外時] 七八
被擄中立船舶の船長	高橋 作衛 [志林] 四三	中立國船の擧沈	パナ ー [國際] 四四
巴里宣言の將來	松原 一雄 [法政] 四七	中立國留置者の裁判權	ホルランド [國際] 四四
巴里宣言の由來	松原 一雄 [新聞] 四七	ラブラデル教授の石炭供給拒絶論	中村 進午 [法政] 四九
石炭供給問題	高橋 清一 [國際] 三三	海上中立財産の過去現在を敘し巴里宣言に及ぶ	篠崎 昇 [法協] 四九
マンジュール號事件を論ず	鯉川 新 [新報] 四四	日露戰爭と中立法規	立 作太郎 [新報] 五〇
朝鮮國中立の價値	高橋 作衛 [國際] 四四	中立領海に於ける交戦國艦隊	高橋 作衛 [國際] 五〇
滿洲の永世中立を論ず	石山 彌平 [新報] 四四	中立義務の種類	ホルランド [國際] 五〇
マンジュール號事件論	高橋 作衛 [國際] 四四	中立に就て	立 作太郎 [法協] 五〇
中立國領水内に於ける交戦國の軍艦地位を論ず	佐分利貞男 [國際] 四六	各中立國二十四時間法	中村 進午 [内外] 五〇
二十四時間規則	高橋 作衛 [法協] 四六		
中立國の港灣並其沿海の利用に就て	松山得四郎 [法協] 四六		
日露戰爭と清國の局外中立	蜷川 新 [新報] 四六		

【局外中立】



【局外中立】 【極東】 【極東共和國】

不完全中立と局外中立	中村 進午	【國際】四九	四
中立國石炭供給問題	中村 進午	【法政】四三	六
國際法協令と中立	牧野 英一	【外時】四〇	三
永世中立國	松島 肇	【國際】四二	三
局外中立と第二回平和會議	立 作太郎	【法政】四二	二
日露戰爭中各國の局外中立	遠藤 源六	【國際】四一	五
武裝中立	遠藤 源六	【國際】四一	六
海戰に於ける中立國の權利義務を論ず	青木 得二	【國家】四三	七
永世中立國に就て	秋山雅之助	【志林】四一	九
第一回武裝中立の真相	高橋 作衛	【新報】四三	一
日本と局外中立	高橋 作衛	【國際】四四	九
歐洲の中央に忘れられたる中立國モレスネー	高橋 作衛	【新報】四四	一
中立領域の不可侵	立 作太郎	【新報】四二	七
中立領域の庇護を論じ第二回平和會議條約の一誤謬に及ぶ	立 作太郎	【新報】四二	一〇
永久中立國を論ず	立 作太郎	【法協】四三	四
局外中立の權利義務に關する英米間の爭議	立 作太郎	【外時】四三	二
歐洲に於ける永世中立點	泉 哲	【國家】四二	二
現戰爭に於ける中立領土の侵害問題	立 作太郎	【外時】四五	二

現戰爭に於ける中立國の無線電信	立 作太郎	【國家】四五	七
戰時中立の性質	立 作太郎	【國家】四五	一〇
現戰爭開始の際獨逸の白耳義に對する行動に就て	遠藤 源六	【國際】四五	一〇
戰爭と永世中立條約	牧野 義智	【國際】四五	二
航空機と中立國	小山精一郎	【國際】六七	四
中立國船中の郵便物の押收	立 作太郎	【國際】六七	四
國際組織計畫に於ける永世中立の問題	綠 蔭	【法政】六七	九
永世中立國の將來	泉 哲	【外時】六八	三
中立船内の敵貨と敵船内の中立貨	板倉 卓造	【三學】六八	一〇
局外中立規程の過去及び將來	稻田周之助	【新報】六三	七
Neutrality and International Law	松原 一雄	【國際】六五	三
極東共和國の出現	泉 哲	【外時】六九	三
極東共和國憲法正文	市村 光惠	【法叢】六一	八

【拒絶證書】

【虛無主義】

【希臘】

拒絶證書	手形	拒絶證書を見よ	一〇
虛無主義論	木村誠次郎	【志林】四三	二
希臘人の海外移住を論ず	鈴木 文治	【國家】四三	二
一九〇七年希臘國詮查斯の結果	高橋 二郎	【統集】四三	一
白耳義希臘及支那の現在の地位	蛭川 新	【國際】六六	五
希臘領域内に於ける金銀の増加	高橋誠一郎	【三學】六〇	一五
官軍對抗の希臘	神川 彦松	【外時】六五	二四
希臘の政局	米田 實	【國際】六九	二
希臘の政治組織	森 凱雄	【國際】六〇	九
希臘政局の動搖に就て	長瀬 風輔	【外時】六〇	三
近東形勢の一面(希臘の政治)	米田 實	【外時】六三	三
ギリシヤ政争管見	煙山專太郎	【早政】六五	一

【拒絶證書】 【虛無主義】 【希臘】

希土緊張の原因	長瀬 風輔	【外時】六三	二
希土緩和の真相	長瀬 風輔	【外時】六三	二
巴爾幹の政局と希臘	重徳 來助	【外時】六四	二
講和會議と希臘	米田 實	【外時】六八	二
近東の一大問題(希臘政局變動と外交關係)	米田 實	【國際】六〇	二
マケドニア問題の再燃	長瀬 風輔	【外時】六四	二
希臘人及羅馬人の政治思想	津島 壽一	【國家】四四	二
希臘詭辯學者の哲理及び國家論	寛 克彦	【法協】六二	三
希臘經濟思想の特質及び價值	舞出長五郎	【國家】六六	三
希臘に返りて	長谷川 萬太郎	【我等】六八	一
古代希臘に於ける國家理論	森口 繁治	【法論】六七	一
羅馬に於ける希臘思想の體系と其政治思想	今中 次彦	【同論】六九	一
ギリシヤ思想の體系とその政治思想の内容	今中 次彦	【同論】六九	一
希臘思想家の富に關する觀念	高橋誠一郎	【國經】六〇	二
希臘に於ける貨幣及び利子	高橋誠一郎	【國經】六〇	二



【希臘】【基督教】

學說	高橋誠一郎【三學】二〇二	三
希臘唯一の法曹テオフラストと希臘私法	寺田 四郎【國國】二〇九	七
古代希臘法制	寺田 四郎【國國】二〇九	七
希臘羅馬時代の同盟	牧野 義智【國際】二〇〇	〇
古代希臘及び羅馬に於ける經濟思想	關 未代策【國國】二〇九	二
古代希臘に於ける共產主義的革命	ベア ー【我等】二一四	三
希臘經濟思想概観	梅北 未初【商研】二二一	一
希臘思想の背景と經濟論の萌芽	谷口彌五郎【我等】二二五	五
希臘に於ける自然法の觀念	船田 亨二【法協】二二四	一
ヒシオドスの「エルガ」	高橋誠一郎【三學】二二八	八
古代希臘のデモクラシーと其國民性	三浦 新七【商研】二二五	二
希臘悲劇の基調	伊東勇太郎【長彙】二二五	二
希臘時代の金融業に就て	高野 忠雄【金融】二二七	八
古代希臘上期の詩歌中に現れたる社會狀態	高橋誠一郎【三學】二二〇	五
ギリシヤの奴隸制度	柳澤 泰爾【法治】二二五	六
【基督教】	井上 毅【國家】二二五	五
國際法と耶蘇教との關係	井上 毅【國家】二二五	五

支那人民の排外的精神殊に基督教に對する嫌惡な情は竟に變移するの途なき乎	矢野 仁一【外時】二五五	五
對米問題の難澁と日本基督教徒の責任	片山 潜【洋經】二五〇	〇
基督教と社會主義	暇鵬 隱史【東經】二五九	〇
基督教と法律問題	久 古【新聞】二四三	〇
舊約全書に現はれたる社會思想	高橋誠一郎【三學】二二七	一
佛教とキリスト教との異同	姉崎 正治【法政】二二四	八
支那の國教問題と基督教徒ケツレル僧正と其の「勞働問題及び基督教」	桑宗 騰藏【外時】二二五	七
道德生活に於ける教會の位置	高橋誠一郎【三學】二二二	一
基督教會と徵利問題	佐々木英夫【法政】二二七	一
舊約書中の律法	高橋誠一郎【三學】二二五	二
支那反基督教運動の一考察	石橋 智信【法協】二二〇	三
基督教文明の發展概論	清水 安三【我等】二二四	六
中世教會史要領	財部 靜治【經叢】二二四	六
原始基督教と共產主義的思想	佐々木英夫【法政】二二二	一

想	三邊 金藏【三學】二二七	一
加特力教の社會論者に就て	田島 錦治【經叢】二二六	三
原始基督教と社會問題	高橋誠一郎【三學】二二七	五
原始基督教の社會思想	高橋誠一郎【三學】二二七	八
米國に於ける基督教會と勞働運動	水上鐵次郎【社政】二二〇	三
加特力教經濟學の衰滅	高橋誠一郎【社政】二二三	四
加特力教徒と對米問題	稻畑勝太郎【外時】二二四	五
基督教の影響を受けたる社會思想	尾形 繁之【商經】二二四	一
舊約聖書の法律觀	穂積 重遠【民衆】二二二	六

中世 Guilds の文化史上に於ける意義	野村兼太郎【三學】二二四	四
ナショナル・ギルドと國家主權との關係に就て	中島 重【同論】二二九	一
ギルドの起原に就て	園 乾治【三學】二二五	一
ギルド制度の下に於ける産業組織	古賀 進【社政】二二〇	一
ギルド政策論	土田 杏村【我等】二二四	一
英國の建築ギルド	松岡 尙義【社政】二二一	一
ギルドと管制に就て	田中 忠夫【國經】二二三	三
チュルゴのギルド解散令と水野越前守の間屋組合禁止令	瀧本 誠一【三學】二二九	二
歐洲に於ける中世ギルドの起源に就て	松崎 實次【商工】二二五	三

寄留法施行の結果と現住人口の調方	石川 惟安【統集】二四一	四〇八
戶籍法改正案及寄留法案に就て	山内確三郎【法記】二三四	三
【ギルド】	参照  組合。	
ギルドの起源に就て	石卷 良夫【國經】二二七	六
ナショナル教授の National Guilds 評論梗概	三邊 金藏【三學】二八三	二

【ギルド社會主義】	参照  社會主義。勞働組合。	
集散主義及サンデカリズム批評としてのギルドドンシヤリズム	小泉 信三【國家】二六三	五
ベンチーの組合社會主義論	河田 嗣郎【經叢】二八九	一
ギルドドンシアリズムの社會學的考察	高田 保馬【政治】二八一	二

【基督教】【寄留法】【ギルド】【ギルド社會主義】



【ギルド社会主義】【金】

ギルド社会主義の國家觀	加田 忠臣	〔三學〕大九二四	二二三
再論 Guild Socialism	小泉 信三	〔三學〕大九二四	二二四
ギルト社会主義者の「價格」及び「地代」觀	津田 武二	〔國經〕大〇三〇	一
ギルドノーシアリズムの職能聯邦國	中島 重	〔同論〕大〇	一
組合社会主義に對するウイザアスの批評	三邊 金藏	〔三學〕大〇二五	七
ギルド社会主義の批評	上田貞次郎	〔我等〕大二	一
ベア「ギルド社会主義の起源と本質」(譯)	小泉 鐵	〔我等〕大二	一
ギルド社会主義に對するウエツプ氏の批評	平木 泰治	〔商研〕大〇	一
ギルド・ソーシャリズム二ケ年間の實驗	高橋 正熊	〔社政〕大二	一
ギルド社会主義者の銀行管理論	上田貞次郎	〔財經〕大三二	二

【金】

金銀比價變動の一影響	金井 延	〔法協〕四七三	四
從一四九三年至一九〇〇年 貴金屬史	小塚 貞義	〔統集〕四七五	一
金銀比價の變動を目的とす			二五〇

る數種の考案に就て	山崎覺次郎	〔國家〕四七三	一八
上海に於ける貴金屬及通貨の賣買習慣	大平 賢作	〔國經〕四七九	一
金産額と物價との關係	瀧谷 善一	〔國經〕四七	一
倫敦市場と貴金屬の集散	君島 一郎	〔國家〕四三二	一〇
地金銀の市場に就て(講演)	田中鐵三郎	〔國家〕大二二七	三
我邦に於ける金及銀の産額に就て	小野英二郎	〔國家〕大二二七	八
金銀に關する一般的統計	相原 重政	〔統集〕大三	一
金地金の價格騰貴に就て	三枝 茂智	〔統集〕大四	一
金地金の價格騰貴に就て	河上 肇	〔經叢〕大六五	一
河上博士及び福田博士の論文を讀みて	山崎覺次郎	〔國家〕大六三	一
國際間の金の移動の停止金の將來	戶田 海市	〔經叢〕大七六	一
希臘領域内に於ける金銀の增加	植野 勳	〔經究〕大〇	一
瑞典の金排除政策	高橋誠一郎	〔三學〕大〇二五	二
金拂下價格引上の問題	松崎 壽	〔商經〕大三	一
金に對する一考察	神戸 正雄	〔時經〕大三	一
金價政策の變更を論ず	赤神 良讓	〔經商〕大二三	一
世界に於ける金及銀の生産	小川郷太郎	〔イソ〕大四	一

及消費

【銀】

貨幣制度に於ける金の地位	中川 友長	〔統集〕大二三	一
貨幣制度に於ける金の地位	田中 金司	〔國經〕大五四〇	一
金銀比價變動の一影響	金井 延	〔法協〕四七三	四
支那に於ける銀價低落の物價に及ぼす結果	多久米三郎	〔統集〕四七五	一
金銀比價の變動を目的とする數種の考案に就て	山崎覺次郎	〔國家〕四七三	一八
銀價騰貴の原因並に其影響	堀江 歸一	〔國經〕四四〇	二
銀價の前途如何	芝本善次郎	〔洋經〕四一	一
銀價の高低と對清貿易	海老原竹之助	〔國經〕大二二四	四
地金銀の市場に就て(講演)	小野英二郎	〔國家〕大二二七	八
我邦に於ける金及銀の産額に就て	相原 重政	〔統集〕大三	一
金銀に關する一般的統計	三枝 茂智	〔統集〕大四	一
銀に就て	尾上 利治	〔國經〕大六三	一
鴉片と銀	矢野 仁一	〔亞經〕大六一	一
英米政府の銀塊購入	門脇 龍雄	〔國經〕大七二	三
銀價に關する研究	小林 武雄	〔三學〕大七三	六
倫敦銀塊市場の研究	門脇 龍雄	〔國經〕大九二	三
支那に於ける銀の問題	善生 永助	〔財經〕大九七	五
銀價の前途と我が財界	梶原 仲治	〔東經〕大九八	二
支那の銀に就て	水田 淳亮	〔亞經〕大〇九	一

【金】【銀】【緊急狀態】【緊急命令】

銀の將來	高木友三郎	〔經究〕大〇	一
銀の現勢	中村三之丞	〔銀研〕大〇	一
希臘領域内に於ける金銀の增加	高橋誠一郎	〔三學〕大〇二五	二
對支貿易と銀塊相場	高木友三郎	〔經究〕大〇	一
最近數年間に於ける銀價の動搖	堀江 歸一	〔三學〕大〇二五	六
銀に就て	堀原 仲治	〔東經〕大〇八三	二〇八七
ビットマン條令と銀塊相場	山口 巖	〔商事〕大二	二
世界に於ける金及銀の生産及消費	中川 友長	〔統集〕大三	一
紐育銀塊市場の一斑	高山 武雄	〔銀叢〕大四	五
【緊急狀態】	參照犯罪—違法を見よ		
【緊急命令】	參照命令。立法。		
緊急勅令論	江木 衷	〔新報〕四四	一
緊急勅令の廢止	鹿野吾一郎	〔國家〕四五	六
憲法上の疑義二則	一木喜徳郎	〔法協〕四〇	一五
穂積博士の憲法上の疑義に	穂積 八束	〔國家〕四三	一四



【緊急命令】

就て	上野 真正〔國家〕四三 年卷 一六五	緊急命令は議會の不承諾に依りて當然其效力を失ふものなりや否やを論ず	美濃部達吉〔新報〕四元 一六
得るや	島田 俊雄〔法協〕四三 一八	法律に代るの勅令の議會承諾前の廢止	美濃部達吉〔志林〕四元 八
岩田宙造君に答ふ	島田 俊雄〔法協〕四三 一八	緊急命令の廢止及提出に關する實例と學說	穂積 八東〔新報〕四元 一六
緊急勅令に事後承諾を與ふるを非とする説	花井 卓藏〔新報〕四三 一〇 一三	緊急命令の起原を論ず	上杉 慎吉〔法政〕四元 一〇
緊急勅令に關する疑義及私見	會根虎之助〔法協〕四四 一九	緊急勅令の廢止を論じ非常大權命令及豫算との關係に及ぶ	水野鍊太郎〔法協〕四元 二四
法律に代るべき命令	江村忠之助〔法協〕四四 一九	に就て	美濃部達吉〔國家〕四元 二〇
憲法第八條第一項に依り法律規定を變更又は廢止する勅令を發し之を帝國議會に提出し承諾を得ざる爲め其將來に效力なきことを公布したるときは元の法律復た行はるべきや	副島 義一〔法政〕四四 五 五三	法律を廢したる緊急勅令	井上 密〔法政〕四元 一〇 四一五
緊急命令論	清水 澄〔内外〕四元 二 三	帝國議會に提出するを要せざる緊急勅令有り得べきや	清水 澄〔志林〕四元 一〇
選舉取締に關する緊急勅令の發布は憲法違反なり	吉見謹三郎〔新聞〕四元 一 二四	緊急勅令を論ず	副島 義一〔法協〕四三 二八
緊急勅令に就て	清水 澄〔明學〕四元 一 六		清水 澄〔法協〕四三 二八
緊急命令の承諾	上杉 慎吉〔志林〕四元 七 一〇		
緊急勅令を以て議會承諾前の緊急勅令を廢止するは			

憲法第八條の緊急勅令に付て

帝國憲法第八條緊急勅令發布の要件につきて	清水 澄〔新報〕大八 二九 八號	日本銀行課稅論に就て	阪谷 芳郎〔國家〕四三 七 七二
再び緊急勅令につきて	清水 澄〔新報〕大八 二九 二	銀行とは何ぞや	土子金四郎〔國家〕四三 七 七六
緊急勅令の提出	清水 澄〔新報〕大九 三 五	銀行及資本家の國民的義務	山崎覺次郎〔法協〕四三 八 八
緊急勅令論(大正十二年十月十七日貴族院に於て)	稲田周之助〔新報〕大三 三 二	兌換券制限外發行法を論ず	三倉 滋〔京法〕四元 一 三
緊急勅令の效力	花井 卓藏〔新報〕大三 四 三	外國通貨銀行金融に關する要報	堀江 歸一〔國經〕四元 一 三
	稲田周之助〔新報〕大三 四 五	銀行の資本金に就て	堀江 歸一〔國經〕四元 一 三
		國際銀行業の將來	山崎覺次郎〔法協〕四三 四 四
		日本興業銀行改正法と商法	藤本怒一郎〔國經〕四元 一 六
		銀行正貨準備論	高橋 繁三〔法協〕四元 二 七
		兌換券制限外發行法を論ず	山内 正助〔國家〕四元 二 〇 八
		保證準備制限擴張論	堀江 歸一〔國經〕四元 三 三
		中央銀行増資論	堀江 歸一〔國經〕四元 三 三
		保證準備發行力擴張の議を排す	堀江 歸一〔國經〕四元 三 四
		我國の兌換券制度及其運用	無名氏〔日經〕四元 二 四
		理想的支那の標準に關する提議を論じて金屬本位論に及ぶ	戶田 海市〔京法〕四元 二 四一五
		銀行組織	佐野 善作〔國經〕四元 二 六
		保證準備擴張論を排す	山内 正助〔國家〕四元 二 一 一
		日本銀行見返り品制度	田中 穂積〔國經〕四元 四 一
		日獨中央銀行の制限外發行	字佐見美刀〔國經〕四元 四 四

【銀行】

【緊急命令】 【キング】 【キングスレー】 【銀行】

【キングスレー】

(Charles Kingsley, 1819-1875)

基督教社會主義者としてのキングスレー

横濱 禮吉〔三學〕大二 一六 一〇

參照 貸付。株式。株式取引所。貨幣。爲替。金融。金利。證券。信託。信用。貯蓄。銀行。手形交換所。取引所。農業信用。預金。利息。割引。

【キング】

(Gregory King, 1648-1712)

グレゴリー・キングの法規

戶田 海市〔京法〕大四 一〇 三

キングの法則と米麥價

河田 嗣郎〔經叢〕大六 四 五



に就て	山崎覺次郎〔國經〕四四一	五	銀行券の性質	菅 武時〔日經〕四四九	三
殖民銀行政策論	山内 正勝〔國家〕四四二	一〇	銀行の貸借對照表と其保證	宇佐美 力〔國經〕四四〇	五
移動銀行論	阿部 輝司〔國家〕四四三	一	債務問題	河津 暹〔國經〕四四一	一五
國際銀行論	加賀覺次郎〔國經〕四四三	六	通貨税と銀行税	服部文四郎〔國經〕四四二	五
手形交換所の銀行検査	武田 英一〔國經〕四四三	七	國際貿易と銀行	服部文四郎〔國經〕四四二	五
アプゾルハミットの財産及			銀行資本金の性質並に其運	服部文四郎〔國經〕四四二	六
外國銀行	副島 義一〔外時〕四四三	七	用法		
中央銀行の制限發行に就て	山崎覺次郎〔保評〕四四二	七	日本勸業銀行法第十七條に	松崎藏之助〔日經〕四四四	八
日本興業銀行と外資輸入	添田 壽一〔東經〕四四三	一〇	就て	山室 宗文〔國家〕四四二	九
商法第二六條第二項の改正	米澤 貞二〔日經〕四四三	八	銀行預金準備論	最近國際金融市場と日本銀	
と銀行業			行		
不動産抵當銀行の資本金に	上野 精一〔國家〕四四三	三	證券銀行論	服部文四郎〔外時〕四四四	一六
就て			兌換券の膨脹と兌換準備	服部 春一〔東經〕四四四	一六
勸業及農工銀行を土地抵當	横井 時敬〔日經〕四四三	六	中央銀行の正貨準備	服部文四郎〔日經〕四四五	三
銀行となすの不可を論ず	氣賀 勳重〔三學〕四四三	六	商業銀行と工業資金	山崎覺次郎〔法協〕四四五	三〇
銀行の投機的事業	米澤 貞二〔日經〕四四三	七	國民經濟上に於ける中央銀	松崎 壽一〔日經〕四四五	五
當下半期の銀行業	管 武時〔國家〕四四三	七	行の地位	服部文四郎〔志林〕四四五	一四
銀行券			銀行の預金債權に就て	平能 北堂〔新聞〕四四五	一七
日本銀行の營業年限延長に	山崎覺次郎〔法協〕四四五	九	平能北堂君の所論に就て	Y. T生〔新聞〕四四五	一七
就て	長島 毅〔新報〕四四五	一〇	銀行賣買の現象	黒澤 和雄〔東經〕四四五	一六
銀行間に於ける取引關係	堀江 敏郎〔新聞〕四四五	一〇	銀行員の不法行為の原因及	黒澤 和雄〔東經〕四四五	一六
日本銀行兌換銀行券發行稅	矢作 榮藏〔法協〕四四五	二四	防止		
法に就て			歐洲に於ける特異なる三種		
不動産銀行問題を論ず					

の銀行	小原喜三郎〔三學〕六	六	銀行の實際研究	渡邊 鐵藏〔國家〕六	二
保證準備發行額間接制限法			銀行支店網の利益と其普及	秋守常太郎〔洋經〕六	一
の得失	服部文四郎〔國經〕六	一三	難の理由	高野岩三郎〔統集〕六	一
動産銀行の債券	服部文四郎〔國經〕六	二四	本邦銀行業の集中に就て	細井安太郎〔商經〕六	一
東西銀行の基礎並に營業振	積 羽 生〔日經〕六	二四	銀行内國爲替尻の操縦に就	服部文四郎〔國經〕六	二
りに就て			て		
近世に於ける銀行の集中運	高島佐一郎〔三學〕六	二七	戰爭と兌換銀行券	小川郷太郎〔經叢〕六	三
動に就て			兌換券と物價と輸出入の關	三宅嘉十郎〔三學〕六	三
商業銀行の工業放資を論ず	松崎 壽一〔國經〕六	二五	係を論ず	一宮房次郎〔資料〕六	三
晝夜銀行に就て	黒澤 和雄〔東經〕六	二七	日支銀行法案概評	堀江 歸一〔三學〕六	三
生命保險業者と銀行業者と	岩間 六郎〔保評〕六	二六	船舶抵當銀行問題	服部文四郎〔國家〕六	三
の關係			日支銀行と滿洲銀行	眞下 五郎〔辯協〕六	三
銀行株を定取引に付するの	黒澤 和雄〔東經〕六	二七	兌換制度の停止と復興	本多 精一〔財經〕六	三
利弊			保證準備の内容及本位	板倉松太郎〔志林〕六	三
銀行財政の交錯點並に預金	高島佐一郎〔三學〕六	二八	貯蓄銀行取締役の責任	本多 精一〔財經〕六	三
組織への進展運動殊に米	岩田 宙造〔新聞〕六	二九	地方金融の改善と銀行組織	本多 精一〔財經〕六	三
國の聯合準備の新法に就			貯蓄銀行條例第六條の優先		
て			權の性質及其の執行方法		
無盡講と銀行條例	清水文之輔〔東經〕六	三〇	地方金融と銀行組織に關す		
保證準備制限を擴張すべき	高島佐一郎〔三學〕六	三〇	る補論		
六箇條	村田 俊彦〔國家〕六	三〇	工業金融の改善と日本興業		
銀行業と生命保險業			銀行		
日支銀行を論ず			地方銀行合同の急務		
企業の流動力並に我國大銀			銀行條例施行細則の改正が		



銀行簿記勘定科目の分類に及ぼせる影響	吉田 良三〔會計〕大六一年卷二號
銀行業の原價計算	松村 光三〔會計〕大六一年卷二號
銀行券發行の原理に就て	飯田靜次郎〔商經〕大六一一五
銀行の仕拂承諾勘定に就て	細井安次郎〔商經〕大六一一五
勸業農工銀行立法の精神	添田 壽一〔財經〕大六一一八
銀行類別の學理的根據	西村文太郎〔國國〕大六一五八
勸業農工銀行方法の精神に就て	佐伯 貴範〔財經〕大六一九
取引所と銀行との關係	河津 遷〔新報〕大六二七
勸業兩行合併と銀行制度	添田 壽一〔財經〕大六四三
日本銀行の見返品擴張を論ず	中村 茂男〔國國〕大六五三
保證準備擴張問題	原 信太郎〔東經〕大六六一九
地方銀行の破綻に就て	鶴澤 總明〔新聞〕大六一三〇
銀行條例施行細則を論ず	下野直太郎〔會計〕大六一三〇
銀行なる名辭の由來に就て	武藤 長藏〔國經〕大七一五
日本銀行保證準備擴張の議	大三輪宗良太郎〔財經〕大七一五
日銀保證準備擴張を難す	添田 壽一〔財經〕大七一五
普通銀行貸借對照表の公告	只見 徹〔亞經〕大七一五
保證準備擴張論と兌換券發行法の復古	服部文四郎〔國經〕大七二四
勸業銀行と農工銀行との合併問題	矢作 榮藏〔國家〕大七三三
日本銀行保證準備擴張の是非	本多 精一〔財經〕大七五二
勸業銀行と農工銀行との問題	河田 嗣郎〔經叢〕大七六二
銀行と企業金融	富田久次郎〔國家〕大七三三
勸業及農工銀行の合併に就て	戸田 海市〔經叢〕大七六四
日本銀行兌換券發行法の改善に就て	高岡 熊吉〔經叢〕大七七五
銀行會計上の新科目解説	細井安次郎〔商經〕大七一〇
發券銀行と預金銀行	飯田靜次郎〔商經〕大七一〇
銀行の工業化に就て	内藤 章〔國家〕大七三三
銀行業に於ける繰延資産と負債	大崎 範一〔會計〕大八六三
銀行會計組織の改善	兒林百合松〔會計〕大八五三
我國銀行取引改善の根本方針	三宅嘉十郎〔三學〕大八三三
銀行引受手形の流通	只見 徹〔亞經〕大八三三
我國の銀行と手形引受業務	松崎 壽〔國經〕大八二六
國際銀行聯盟の必要	山成 喬六〔財經〕大八二六
我國普通銀行の工業金融に就て	松崎 壽〔商經〕大八一三
再び銀行なる名辭の由來に就て	武藤 長藏〔國經〕大八二六

時代に逆行せる銀行恐慌の對策と銀行業者	岡部重一郎〔財經〕大九七卷五號
銀行業の對財界策	大森 研造〔經叢〕大九二〇
銀行の支拂承諾の内容に就て	竹内 常治〔東經〕大九八二〇七
我國銀行と貿易金融	三宅嘉十郎〔三學〕大九一四
近世銀行業の裏面	松崎 壽〔銀研〕大一一
銀行原價計算の研究	目白 隱士〔銀研〕大一一
銀行信用調査の科學的考察	木村秀太郎〔銀研〕大一一
事業資金と資金銀行の發達	勝田 貞次〔銀研〕大一一
銀行の本質に就きて	泉 俊秀〔銀行〕大一一
銀行資金發達概観	光山祐次郎〔銀研〕大一一
勸業兩銀行合併問題に就て	飯田靜次郎〔商經〕大一一
發券銀行の解放問題	青木 得三〔經究〕大一一
有意義なる勸業兩銀の合併	平野 清〔商經〕大一一
日本銀行と輸入超過	黒田 英雄〔東經〕大一一
勸業合併後の効果如何	今西 兼二〔東經〕大一一
東洋銀行設立の議	志村源太郎〔東經〕大一一
銀行簿記に關し初學者に與ふる書	後藤 新平〔外時〕大一一
信託業務と銀行業務の交渉	鈴木喜代助〔銀研〕大一一
銀行犯罪の實務的豫防法	榎並 越夫〔銀研〕大一一
私案カード式特別當座預金	水津木 清〔銀研〕大一一
印鑑	森向 寛二〔銀研〕大一一
銀行營業部の新組織ユニツト・システム	木村秀太郎〔銀研〕大一一
地方開發上より見たる銀行支店制度	青森 忠恕〔銀研〕大一一
銀行組織問題管見	遠山 貞一〔銀研〕大一一
萬國中央銀行の提案	鈴木 良雄〔三學〕大一一
銀行信用狀の研究	柄澤 信吉〔銀研〕大一一
銀行券の特質と其發行政策	松崎 壽〔銀研〕大一一
銀行三大機關設立論	遠山 貞一〔銀研〕大一一
銀行内の諸規定	藤城 敬二〔銀研〕大一一
我國に於けるビルブローカー銀行	紀 清市〔銀研〕大一一
銀行の兼業主義と專業主義	春日井 薫〔經商〕大一一
地方金融と勸業農工兩銀行の合同	志村源太郎〔財經〕大一一
事務取扱順序と所屬帳簿及傳票	鈴木喜代助〔銀研〕大一一
保險及び銀行事業の相互化に就て	栗津 清亮〔國經〕大一一
「銀行研究」の旅	中村三之丞〔銀研〕大一一
特殊銀行解放の必要	堀江 歸一〔銀研〕大一一
私論銀行發展策	田邊 實郎〔銀研〕大一一
當座勘定に於ける積數の算定	白井 廉久〔銀研〕大一一



グアンダーリップ氏の國際  
銀行案  
當座勘定解法  
實地銀行事務  
我國銀行經營の根本問題  
本邦地方銀行問題管見  
本邦貨幣銀行制度管見  
銀行に於ける守衛の立場  
交換所組合銀行の報告に就  
て  
分業主義か兼業主義か  
日銀兌換券發行高の季節的  
變動  
預金と準備金と貸出に關す  
る考察  
生糸機關銀行設立論  
出納係の組織  
證券銀行と兼營銀行  
銀行營業費に對する考察  
銀行の信用調査組織  
國際中央銀行論  
日本銀行國有論  
日銀制度改革の根本問題  
行員の技術的養成と人格的

松崎 壽	〔銀研〕	六二	二	三
木村秀太郎	〔國經〕	六二	三	四
紀 清市	〔銀研〕	六二	三	四
松崎 壽	〔銀研〕	六二	三	四
榎並 越夫	〔銀研〕	六二	二	四
平野 清	〔銀研〕	六二	三	五
守田 廣	〔銀研〕	六二	三	五
宮本 一郎	〔銀研〕	六二	三	五
篠崎 成二	〔銀研〕	六二	二	五
沙見 三郎	〔經叢〕	六二	一	五
木村秀太郎	〔銀研〕	六二	二	五
草島完太郎	〔銀研〕	六二	三	六
水津木 清	〔銀研〕	六二	二	六
松崎 壽	〔銀研〕	六二	二	六
遠藤 孝一	〔銀研〕	六二	二	六
寺澤進一郎	〔銀研〕	六二	二	六
清水文之輔	〔東經〕	六二	一	六
清水文之輔	〔東經〕	六二	一	六
平野 清	〔銀研〕	六二	一	六

養成  
傳票の改良方法に就て  
支拂準備金問題の考察  
銀行犯罪の考察と豫防の研  
究  
銀行の廣告と預金吸收策  
銀行と會計士の相互關係  
最近米國に於ける銀行論の  
新著  
銀行概念明定の必要を論ず  
金融機關の準備殊に銀行改  
善の要諦  
安田銀行大合同の財界に及  
す影響  
特殊銀行整理の標準  
當座元帳様式の研究  
保證準備擴張問題私見  
銀行會計に於ける支出勘定  
と原價計算  
銀行の債券發行について  
出入金額欄位置改良私案  
執務上より見たる組織改良  
の目標  
銀行代理事務獨立問題私見

川中 信他	〔銀研〕	六三	一	五
松川 隸治	〔銀研〕	六三	一	五
奥田 勤	〔銀叢〕	六三	一	五
伊藤由三郎	〔銀叢〕	六三	一	六
左右田誠一	〔銀研〕	六三	一	六
佐藤 壽吉	〔銀研〕	六三	一	五
平野 清	〔銀研〕	六三	一	四
松島 喜作	〔銀叢〕	六三	一	一
杉 程次郎	〔銀叢〕	六三	一	一
神戸 正雄	〔銀叢〕	六三	一	一
梶原 仲治	〔五三〕	六三	一	一
坂井 正	〔銀叢〕	六三	一	一
佐野 包治	〔銀叢〕	六三	一	一
藤谷 圓藏	〔銀研〕	六三	一	一
春日井 薫	〔經商〕	六三	一	二
松川 隸治	〔銀研〕	六三	一	二
松井 淳吉	〔銀研〕	六三	一	二
榎並 越夫	〔銀研〕	六三	一	二

銀行員たるべき資格  
銀行主要簿と其改善方法  
銀行の企業的性質を論ず  
普通銀行の經營方針と銀行  
政策  
工業銀行組織改善に對する  
考察  
爲替銀行本支店間計算制度  
に就て  
電信爲替と銀行の權利義務  
銀行券の制限と預金の制限  
金融機關の整備殊に銀行制  
度改善問題の要諦  
銀行合同及地方銀行協會設  
立論  
出納員に與へ併せて銀行關  
係者の一考を求む  
銀行検査制度に就て  
銀行の被害程度と財界の前  
途  
積銀破綻の真相と銀行改善  
の根本策  
財團金融と日本勸業銀行  
支店銀行制度に付て

川島 朝輝	〔銀研〕	六二	四	二
藤城 敬二	〔銀研〕	六二	四	二
石黒 武松	〔銀研〕	六二	五	二
細矢 祐治	〔銀研〕	六二	四	二
松島 喜作	〔銀研〕	六二	四	二
川中 信也	〔銀研〕	六二	四	二
妹尾 一雄	〔銀研〕	六二	五	二
奥田 勤	〔銀叢〕	六二	一	二
杉 程次郎	〔新聞〕	六二	三	三
榎並 越夫	〔銀研〕	六二	四	三
不遇 多生	〔銀研〕	六二	四	三
藤城 敬二	〔銀研〕	六二	五	三
福井 源一	〔銀研〕	六二	五	三
渡邊 仙南	〔銀研〕	六二	四	三
松崎 壽	〔銀研〕	六二	四	三
奥田 勤	〔銀叢〕	六二	一	三

銀行資金の一考察  
本邦普通銀行と外國爲替業  
務  
特殊銀行の不始末を如何に  
する  
銀行條例を改正すべし  
松崎教授著「銀行及金融」  
銀行會館なる名辭が二百年  
前支那に存せし事實の發  
見  
爲替書類の整理私案  
銀行用度品購入の數理的研  
究  
執務上より觀たる他店勘定  
元帳の様式  
我國銀行政策の缺陷  
銀行業整理問題  
殖民地銀行問題  
銀行信用狀の統一  
本邦金融組織と當面の銀行  
政策  
地方銀行と不動産金融  
災害防禦と銀行業務  
爲替銀行改善問題私見

左右田誠一	〔銀叢〕	六二	一	三
加藤 和根	〔銀叢〕	六二	一	三
堀江 歸一	〔エフ〕	六二	一	三
成瀬 義春	〔財經〕	六二	一	三
細井安次郎	〔銀研〕	六二	一	三
武藤 長藏	〔商濟〕	六二	一	三
江浦 艇作	〔銀叢〕	六二	一	三
二宮 皆太	〔銀研〕	六二	一	三
森田 桂山	〔銀研〕	六二	一	三
松崎 壽	〔銀研〕	六二	一	三
堀江 歸一	〔エフ〕	六二	一	三
山本美越乃	〔銀叢〕	六二	一	三
柄澤 信吉	〔銀研〕	六二	一	三
左右田誠一	〔銀研〕	六二	一	三
小池 充彦	〔銀叢〕	六二	一	三
松島 喜作	〔銀叢〕	六二	一	三
松崎 壽	〔銀研〕	六二	一	三



擔保商品調査の要諦	木原 三郎〔銀研〕六二	四卷	七號
本邦銀行帳簿式の創設者とその消息	瀬尾幸三郎〔銀研〕六二	四卷	七號
銀行員の智識養成に就て	川中 信他〔銀研〕六二	四卷	七號
銀行と保險會社との聯絡	荒木 秀一〔銀研〕六二	四卷	七號
平易なる銀行論	松島 喜作〔銀研〕六二	四卷	七號
地方銀行問題管見	榎並 越夫〔銀研〕六二	四卷	七號
救済問題と銀行及金融	横田 義夫〔銀叢〕六二	一	六
銀行の保證債務の本質に就て	石黒 武松〔銀研〕六二	四	六
銀行恐慌と銀行革命	神戸 正雄〔時經〕六二	一	六
銀行と黨弊(實は日銀改革問題)	神戸 正雄〔時經〕六二	一	七
信託會社と銀行	神戸 正雄〔時經〕六二	一	八
銀行監督問題	神戸 正雄〔時經〕六二	一	九
保證準備擴張と限外發行	神戸 正雄〔時經〕六二	一	一〇
銀行合同の氣運	神戸 正雄〔時經〕六二	一	一〇
銀行資本金制限の引上	神戸 正雄〔時經〕六二	一	一三
普通銀行に於ける黨争の弊	神戸 正雄〔時經〕六二	一	一三
シドニー・ウェッブの銀行國有論	松崎 壽〔商經〕六二	一	二九
銀行員の罪惡と部内突合法との關係	川村 環一〔計理〕六二	一	一四
銀行重役の兼業を禁ぜよ	清水文之輔〔東經〕六二	一	八五
我國銀行の破綻の原因	大館 堯壽〔洋經〕六二	一	一〇六
特殊銀行と普通銀行	松崎 壽〔商經〕六二	一	一〇六
銀行重役の責任	松波仁一郎〔新聞〕六二	一	一〇七
松波博士の銀行重役の責任を讀みて偶感	高木友三郎〔新聞〕六二	一	一一四
我國銀行業の鳥瞰的考察	石澤久五郎〔金融〕六二	一	一一四
震災と銀行文書	藤城 敬二〔銀研〕六二	一	一一六
營業報告書に就て	二宮 皆太〔銀研〕六二	一	一一七
振替票計算區分に就て	松川 隸治〔銀研〕六二	一	一一七
銀行保證業務の實際	妹尾 一雄〔銀研〕六二	一	一一七
銀行合同より銀行聯合へ	石卷 良夫〔銀研〕六二	一	一一七
經濟調査機關と銀行信用調査機關	高村 光次〔金融〕六二	一	一一一
銀行信用に關する一考案	五十子宇平〔金融〕六二	一	一一二
Confirmed irrevocable bankers credits	松永 義雄〔辯協〕六二	一	一一八
證券銀行を特設せよ	南波 禮吉〔エコ〕六二	一	一一二
銀行原價計算と經費の解剖	藤城 敬二〔銀研〕六二	一	一一七
銀行に於ける原價計算	太田 哲三〔金融〕六二	一	一一一
「銀行に於ける原價計算」に就て太田哲三氏の教を乞ふ	木村秀太郎〔金融〕六二	一	一一三
日銀發行制度改善と復興資金	松崎 壽〔銀研〕六二	一	一六

銀行とは何ぞや	中村 光次〔銀叢〕六二	二卷	二號
銀行と信託會社の關係	細矢 祐治〔銀研〕六二	六	二一五
銀行事務精査方法	三木 守〔銀研〕六二	七	三
銀行業に於ける原價計算	陶山誠太郎〔商經〕六二	一	三三
銀行の本質	多田 喜一〔銀研〕六二	七	三
今後の銀行界の趨勢	成瀬 正恭〔銀叢〕六二	三	三
一つの銀行理論	原 邦藏〔銀叢〕六二	三	三
フランスに於ける新刊銀行論書	橋爪 明男〔經論〕六二	二	三
企業豫算管理と銀行業	串本友三郎〔銀研〕六二	六	三
商人救済と債權銀行援助策	菅谷 重平〔銀叢〕六二	三	四
大陸銀行と英國銀行との差異に就て	正岡 勝男〔銀叢〕六二	二	四
銀行事業年度と其の名稱	小山 英次〔銀叢〕六二	三	四
送金案内に就て	高木 堅〔銀研〕六二	六	四
銀行の本質	小坂 珠城〔銀研〕六二	六	四
富豪經營銀行の株式組織化を論ず	多田 喜一〔銀研〕六二	七	四
銀行破綻研究	橋本 良平〔銀研〕六二	七	四
發行税廢止と銀行の合同	米山 英利〔銀叢〕六二	二	四
Confirmed bankers creditsに就て	鈴木 穆〔エコ〕六二	二	四
銀行分課制度の諸問題	竹内 恕平〔銀研〕六二	七	四一五
	藤城 敬二〔銀研〕六二	六	四五
出納係と計算係との連絡	松川 隸治〔銀研〕六二	六	五
銀行積立金の考察	奥田 勤〔銀研〕六二	六	五
地方銀行と信用調査組織	藤城 敬二〔銀研〕六二	七	五
吾財界の前途と銀行の任務	保井 猶造〔銀叢〕六二	三	五
銀行兼營と投資	竹内 恒吉〔銀叢〕六二	二	五
労働銀行の物典	河島 海雄〔銀叢〕六二	二	五
銀行の信用調査に就て	岩崎 靜也〔銀叢〕六二	二	五
工場財團抵當貸付手續	正岡 勝男〔銀叢〕六二	三	五
臺銀鮮銀の發行制度改善問題	松崎 壽〔銀研〕六二	三	六
行詰れる都合大銀行の實務	木村秀太郎〔銀叢〕六二	二	六
對策	勝田 貞次〔三學〕六二	一八	二
銀行業の公共性を論じ山崎博士の批評に答ふ	高柳松一郎〔銀叢〕六二	二	六
財界恢復と銀行業者	山田 五郎〔銀叢〕六二	二	六
貸金庫取扱の理論と實際	倉井 敏磨〔銀研〕六二	六	六
相續法上の留保と不動産抵當貸付	今村 幸男〔銀叢〕六二	三	六
銀行引受手形の發達を望む	神戸 正雄〔時經〕六二	一	二〇
銀行と保險との兼營	松崎 壽〔商經〕六二	一	三五
銀行と信託會社との關係	松崎 壽〔銀叢〕六二	二	三五
支拂承諾を論ず	稻坂 碯〔銀叢〕六二	二	三五
銀行と手形引受業者との關係	松崎 壽〔商經〕六二	一	三六



保證準備擴張論と金利問題 ギルド社會主義者の銀行管 理論	結城豊太郎〔エコ〕大三年 二二〇
保證準備擴張の是非	上田貞次郎〔財經〕大三一 一一二
銀行の取引擴張策	堀江 歸一〔エコ〕大二三 一一一
金融界の渦紋と銀行の安處 銀行監督の現状と銀行條例 改正の急務	マク・クレガー〔銀叢〕大二三 一〇六 伊庭 謙造〔銀研〕大二四 九一
銀行國有と獨立労働黨 銀行の人事行政と其運用 銀行の新經營法	木村秀太郎〔金融〕大二四 一一一 春日井 薫〔銀研〕大二四 九一 藤城 敬二〔銀研〕大二四 九一
銀行營業部の分課と其改善 銀行發展策と行員問題 銀行減配論(銀行業の裏面) 取立の技術的並に省察的要 義	藤城 敬二〔銀研〕大二四 九一 勝田 貞次〔銀研〕大二四 九一 目白 隱士〔銀研〕大二四 九一 松岡 都城〔銀研〕大二四 九一 山口正太郎〔銀研〕大二四 八八 松山 五葉〔銀叢〕大二四 五一
中世寺院法と銀行業 銀行兼營論 銀行預金の原價計算法に就 て	末松 留男〔銀研〕大二四 九一 中西 仁三〔經研〕大二四 二二
貨幣及銀行兩主義の貨幣理 論と銀行券發行制度 若干時論に關説されたる銀	

行論序説	高島佐一郎〔國經〕大二四 三九
銀行並に信託會社に對する 政策	堀江 歸一〔エコ〕大二四 三二
銀行問題短評	早川 清〔銀叢〕大二四 五二
銀行營業部の分課組織改良 案	勝田 貞次〔銀研〕大二四 八二
青年銀行員に對する希望 銀行減配問題と銀行監督の 革新	星野 行則〔銀叢〕大二四 五三 石卷 良夫〔銀研〕大二四 九二
當座振入制度の改良を論じ 併て各地組合銀行に望む 信用受授と銀行の責任 内外銀行金融鳥瞰 再燃したる銀行合同及極致 點	水野 淳二〔銀研〕大二四 八二 佐々木駒之助〔銀叢〕大二四 四二 山村 峻吉〔銀叢〕大二四 二六 松尾 藤平〔銀叢〕大二四 五二 本田 文雄〔銀叢〕大二四 五二
財界の不況と銀行政策 當座振込に就て小坂氏に質 す	水野 淳二〔銀研〕大二四 九二
當座振込に就て水野氏に答 ふ	小坂 珠城〔銀研〕大二四 九三
再び當座振込に關し小坂氏 に質す	水野 淳二〔銀研〕大二四 九四
當座振込に關する検討を評 す	岡上虎三郎〔銀研〕大二四 九五

銀行經營上原價計算の應用 に就て	桐生 梅吉〔銀叢〕大二四年 四〇六
家督相續による不動産擔保 貸越契約の承繼に就て	太田 義繁〔銀研〕大二四 八三
地方銀行と不動産の制限的 資金融	戸田 常造〔銀叢〕大二四 五三 小坂 珠城〔銀研〕大二四 八三 荒井 海一〔銀研〕大二四 九三
銀行の出張所制度に就て 日銀營業週報の見方 全銀行分課組織の基調 銀行業發展策と預金撥收問 題	勝田 貞次〔銀研〕大二四 九三 小坂 珠城〔銀研〕大二四 九三 越智 昌三〔經研〕大二四 三三 市川 修三〔銀叢〕大二四 四三 岡上虎三郎〔銀研〕大二四 八三 岡上虎三郎〔銀研〕大二四 九三 妹尾 一雄〔銀研〕大二四 八三 堀江 歸一〔エコ〕大二四 三三 榊原 二郎〔銀研〕大二四 八三 野口 作平〔銀叢〕大二四 四三 大田 孝平〔銀叢〕大二四 四三 須佐美芳男〔銀研〕大二四 四三 松崎 壽〔銀研〕大二四 四三 高宮 誠〔金融〕大二四 二九
銀行出張所の事務取扱方法 銀行と通貨創設 電話擔保の理論と其手續 支拂承諾に就て 再び仕拂承諾に就て 銀行に於ける保證業務に就て 保證準備擴張の説 保證準備擴張論 銀行の諸給與規定研究 銀行關係法律問題 銀行の信用と其利益 普通銀行の國際金融業務 銀行と貨幣との關係	

我國に於ける銀行集中の趨 勢と銀行政策に就て 特殊銀行整理の目標 爲替副報告再使用より起る 銀行犯罪豫防法 銀行に於ける代表役員組織 の運用と其效果 銀行發展策と貸付業務の改 善	黒川 芳藏〔同論〕大二四 一六 平野 清〔エコ〕大二四 三二 中山 茂樹〔銀叢〕大二四 四四 勝田 貞次〔銀研〕大二四 八四 勝田 貞次〔銀研〕大二四 九四
ブラットの「銀行破綻の原 因と其對策」 銀行に於ける貸金庫事務 當座入金票の本質と印紙稅 最近東京に於ける銀行勘定 銀行關係の稅制整理に就て 特殊銀行整理の前提 銀行の社會的考察 銀行の本質と金融組織の歸 趨	木村 祐雄〔銀研〕大二四 九四 藤城 敬二〔銀研〕大二四 九四 早川 四郎〔銀研〕大二四 八五 前田 薫一〔金融〕大二四 九二 岡田 純夫〔銀研〕大二四 九五 成瀬 義春〔財經〕大二四 一五 黒川 芳藏〔同論〕大二四 一八 勝田 貞次〔銀叢〕大二四 九五 末松 留男〔銀研〕大二四 九五 松崎 壽〔銀研〕大二四 九五 田中 金司〔國經〕大二四 三六
銀行と改正破産法に就て 銀行制度の改善難 銀行制度に於ける兼營主義 と分業主義との接近 信託預金と銀行定期預金の	



差異を論ず	武田貞之助	【新聞】大四年	二五九
日英商事銀行の對照	松尾 藤平	【銀叢】大二年	一〇
銀行制度の改善	高城仙次郎	【金融】大四年	二〇
普通銀行と不動産貸付	豊田久和保	【金融】大四年	二七
銀行合同論	宗像 久敬	【金融】大四年	二二
銀行組合法の制定を望む	石卷 良夫	【銀研】大四年	八
銀行の廣告法に就て	小西 次郎	【銀研】大四年	九八
手形貸付動産擔保貸付の擔保品保管方法を論ず	大森 繁治	【銀叢】大四年	五
銀行の減配勸告と協定勸行	神戸 正雄	【時經】大四年	一三
我國銀行界の病弊	神戸 正雄	【時經】大四年	一三
送金の事務的要諦	都上 城三	【銀叢】大五年	一五
銀行検査部實務誌	藤城 敬二	【銀研】大五年	一七
労働銀行運動	木村秀太郎	【銀叢】大五年	一三
銀行に於ける原價計算	三木 守	【銀研】大五年	一七
都下五大銀行損益計算	稻葉新三郎	【銀研】大五年	一〇
吾國商業銀行に適當なる信用調査方法	江崎 一造	【銀叢】大五年	六
近代的銀行機能と經濟社會吾が銀行生活	多田 喜一	【經研】大五年	三
我國銀行の支拂準備金問題	松山 五葉	【銀叢】大五年	六
銀行の活動寫真宣傳	相野 喜一	【銀研】大五年	二〇
	林田和二郎	【銀叢】大五年	六
			三
日銀保證準備制度について	井上辰九郎	【銀叢】大五年	六
歐洲諸國の發券銀行と幣制	鈴木 平吉	【國經】大五年	〇
銀行の固定貸付と其整理	堀江 歸一	【エコ】大五年	四
銀行破綻の救済策は銀行合同にあり	岩崎 博	【銀研】大五年	一〇
再割引依頼銀行の法律上の地位	妹尾 一雄	【銀研】大五年	一〇
銀行家の立場より見たる貸借對照表	長谷川忠平	【銀研】大五年	一〇
銀行業務の刷新	成瀬 義春	【財經】大五年	一三
銀行集中と銀行聯合	小西 次郎	【銀研】大五年	一〇
我國銀行取付原因の一斑	慌井 品三	【銀研】大五年	一〇
特別當座預金利息計算便法に就て	森下 武二	【銀叢】大五年	六
銀行員の福祿的施設	早川 隆次	【銀叢】大五年	六
「送金の事務的要諦」に關し都上氏の教を乞ふ	佐藤 正雄	【銀叢】大五年	六
銀行の記帳規定	松山 岩根	【銀研】大五年	一〇
特別當座預金照査事務に就て	中村 進午	【銀叢】大五年	六
金錢借託と定期預金	細矢 祐治	【銀研】大五年	一〇
銀行出張所原價計算の研究	竹田 英吉	【會計】大五年	一八
景氣循環と銀行	岩崎 勳	【銀叢】大五年	六
コール資金の移動と株式受			六

渡	岡田 純夫	【銀研】大五年	六
行員待遇の精神及方法	都上 城三	【銀叢】大五年	六
預金係と出納係	未吉 留男	【銀研】大五年	一〇
銀行合同の銀行經營及利潤に及ぼす影響	岩崎 博	【銀研】大五年	一〇
銀行國營論に就て	三上 太一	【銀研】大五年	一〇
普通銀行改善問題の要諦	松崎 壽	【銀研】大五年	一〇
特別預金通帖喪失無効廣告	松村 勝利	【銀研】大五年	一〇
銀行の本店支店及出張所に就て	武谷 成直	【銀研】大五年	一〇
貯蓄銀行法の供託制度	服部 末治	【銀研】大五年	一〇
日本銀行改善の問題	堀江 歸一	【エコ】大五年	一〇
日本銀行の兌換準備	堀江 歸一	【エコ】大五年	一〇
銀行制度の改善	堀江 歸一	【エコ】大五年	一〇
銀行社會化論	春日井 薫	【銀研】大五年	一〇
銀行と證券市場	菊本直次郎	【イン】大五年	一〇
獨逸式銀行簿記法	串本友三郎	【銀研】大五年	一〇
地方銀行の經營權	神戸 正雄	【時經】大五年	一〇
銀行合同	神戸 正雄	【時經】大五年	一〇
銀行合同と震災手形	神戸 正雄	【時經】大五年	一〇
英國銀行制度の缺點	山内 正暎	【新報】四五年	一六
英國銀行の利率引上策の實效	山崎覺次郎	【國家】四五年	一三
			一
英國兩國に於ける中央銀行問題	堀江 歸一	【國經】四五年	一七
英國銀行に關する研究	堀江 歸一	【三學】四五年	三
英國の銀行準備金問題	堀江 歸一	【三學】四五年	三
英國銀行の職務と組織	池島 誠三	【國家】四五年	二五
倫敦金融と外國銀行支店	高島佐一郎	【國經】大四年	一九
英國銀行經營の比較研究			一九
一九一四年八月に於ける倫敦金融市場と英國銀行			一九
英國銀行條例停止願末史料	飯島 幡司	【國經】大五年	二〇
英國貿易銀行設立計畫	飯島 幡司	【國經】大六年	三三
英國銀行條例改正論	堀江 歸一	【三學】大七年	三三
英國銀行の一般備員に就いて			三三
最近英國銀行界の趨勢	宿 瘤 子	【財經】大九年	七
英國銀行制度の革新に就て	小野 壽三	【銀研】大二年	二
英國に於ける銀行合同の趨勢と其特色	藤城 敬二	【銀研】大二年	二
英國銀行の兌換制度改善問題	堀江 歸一	【三學】大二年	二六
英國銀行の比較研究	松崎 壽	【銀研】大二年	三
英國銀行合同論	松島 喜作	【銀叢】大二年	一
英國銀行研究	十龜 盛次	【銀研】大三年	五
英國銀行準備金問題	北崎 進	【經商】大三年	二
	青地玄三郎	【長彙】大三年	二二
			二二



倫敦市場に於けるビルプロ ーカ業	池田 了實 [銀研] 大三 年 六 卷 三 號
大陸銀行と英國銀行との差 異に就て	小山 英次 [銀叢] 大二三 前田 惟一 [銀研] 大二三 松尾 藤平 [銀叢] 大二四 太田黒敏夫 [經商] 大二四
倫敦割引市場に就て	
日英商事銀行の對照	
英蘭銀行の發行法と新貨幣 制度の樹立	
支那に於ける外國銀行と其 改良	根岸 信 [國經] 四一 世古小次郎 [國經] 四三 村田 俊彦 [國家] 大四 三宅嘉十郎 [三學] 大五 一宮辰次郎 [財經] 大五
上海に於ける銀行組織	
日支銀行を論ず	
日支銀行法案概評	
日支銀行と滿洲銀行	
支那に於ける外國銀行の爲 替業務	木村増太郎 [亞經] 大七 木村増太郎 [亞經] 大七 善生 永助 [財經] 大八 及川 恒忠 [亞經] 大八
支那の錢莊	
支那新式銀行の發達	
錢莊の發達に就て	
銀行會館なる名辭が二百年 前支那に存せし事實の發 見	武藤 長藏 [商濟] 大二三

阪谷博士の朝鮮銀行監督權 論を駁す	黒澤 龍濱 [東經] 四四 六三 神戶 正雄 [時經] 大二三
鮮銀の改造	
臺銀鮮銀の發行制度改善問 題	松崎 壽 [銀研] 大二三 鈴木 穆 [エコ] 大二三
鮮銀不始末の眞因	
獨逸銀行界の集中的新傾向 日獨中央銀行の制限外發行 に就て	平尾 丹治 [國經] 四〇 山崎覺次郎 [國經] 四一 神戶 正雄 [京法] 四一
獨逸銀行事情一斑	
英獨兩國に於ける中央銀行 問題	堀江 歸一 [國經] 四二 神戶 正雄 [京法] 四二 林屋友次郎 [三學] 大三八 豐崎善三助 [財經] 大三一 十龜 盛之 [東經] 大三五 高島佐一郎 [國經] 大四九 宗像 久敬 [國家] 大四九 大矢和 昇 [三學] 大七三 棗田 藤吉 [商經] 大八一
獨逸に於ける地方團體共同 銀行の設立案	大森 研造 [經叢] 大九二〇
獨逸大銀行の發達	
獨逸の海外銀行政策比較	
獨逸大商事銀行の一端	
英獨銀行經營の比較研究	
獨逸帝國銀行の振替業務	
獨逸兼營銀行論	
戰時及戰後の獨逸銀行	
獨逸大銀行の取引所仲立業 に就きて	

英獨銀行の比較研究	松島 喜作 [銀叢] 大二 年 一 卷 二 號
獨逸に於ける銀行及信用組 織發達の概要	住吉 四郎 [銀叢] 大二三 中村三之丞 [銀研] 大二三 オーブスト [銀研] 大二三
獨逸銀行物語	
獨逸大銀行の組織部	
獨逸大銀行の商工業に對す る關係	須美 芳夫 [銀叢] 大二三 串本友三郎 [銀研] 大二三 堀江 歸一 [エコ] 大二三
獨逸に於ける銀行論の二名 篇と其著者	
獨逸の金融と中央銀行	
信用狀に關する獨逸銀行の 協定	濱野 壽 [銀研] 大二三 大森 研造 [經叢] 大二三 佐久間 勝 [保雜] 大二三
獨逸レンテン銀行に就て	
獨逸レンテン・バンク並に レンテン・マルクに就て	
獨逸に於ける銀行勘定の支 拂方法	須美 芳夫 [銀叢] 大二四 菅谷 重平 [銀研] 大二四 城戸 住三 [銀研] 大二四
獨逸に於ける農業金融銀行	
獨逸信用銀行の私經濟的研 究の資料	串本友三郎 [銀研] 大二四 串本友三郎 [銀研] 大二四
獨逸に於ける工業銀行の發 達	
獨逸に於ける銀行と工業と の關係	串本友三郎 [銀研] 大二四 串本友三郎 [銀研] 大二四

獨逸信用銀行の本質	串本友三郎 [銀叢] 大四五
獨逸に於ける銀行と商業と の關係	串本友三郎 [銀研] 大四五
獨逸帝國銀行の金券發行制 度	增井 光藏 [國經] 大四五
獨逸銀行業に於ける原價計 算問題	串本友三郎 [銀研] 大四五
最近獨逸に於ける Answer- LUD の問題	生島廣治郎 [銀叢] 大四五
佛蘭西銀行の紙幣發行制限 擴張に就て	堀江 歸一 [國經] 四九 豐崎善之助 [財經] 大三一
獨逸の海外銀行政策比較	
佛蘭西銀行の戰時方策に關 する研究	高島 誠一 [國家] 大四九 松崎 壽 [商經] 大六一
佛蘭西銀行特許延長と同行 及佛蘭西政府間の新協定	高島 誠一 [國經] 大七二
チエミナントの「佛伊の銀 行制度」	藤村 忠 [銀研] 大四九
佛蘭西に於ける銀行集中の 概観	小川福太郎 [商工] 大五一
米 國 米國銀行概畧	土子金四郎 [國家] 四三



紐育銀行の概況(講演)	土子金四郎〔國家〕四二四	二
米國中央銀行設立問題	松田 暢〔三學〕四三三	三
北米合衆國々立銀行券	山室 宗文〔國家〕四四二	五
米國投資銀行家協會の設立	丹羽 豊〔東經〕四五五	六
州立銀行の位置	武田 英一〔國經〕六二四	六
銀行財政の交錯點並に預金組織への進展運動殊に米國の聯合準備の新法に就て	高島佐一郎〔三學〕六三八	二
州立銀行論	十龜 盛次〔日經〕六三一	二
度改革法案論	飯島 幡司〔國經〕六三六	二
米國聯邦準備法の價值	高島佐一郎〔國經〕六三六	五
米國聯合準備條例	飯島 幡司〔國經〕六三七	一
米國銀行制度の新型	堀江 歸一〔三學〕六五〇	六
米國聯邦準備銀行の現在及將來	中村三之丞〔銀研〕六〇〇	一
合衆國に於ける非常座貸越主義の傾向	深山真之助〔銀研〕六一二	一
再論米國聯邦準備制度の運用	高島佐一郎〔國經〕六一三	一
米國銀行實務に關する新著	細井安次郎〔銀研〕六一三	六
米國に於ける割引改革の問題	松崎 壽〔國經〕六一三	一
聯邦準備銀行の割引歩合變動の效果	平野 清〔商經〕六一	二
北米合衆國聯邦準備制度	太田黒敏男〔經商〕六三	二
米國銀行經營の實際と學說	松崎 壽〔銀研〕六三	二
預金者の保護に關する米國の制度	松崎 壽〔國經〕六三	三
米國に於ける支店銀行制度と獨立銀行制度	勝田 貞次〔銀研〕六三	四
米國に於ける放資銀行	北村廣太郎〔銀叢〕六三	一
米國銀行組織の根本的精神	勝田 貞次〔銀研〕六三	四
米國銀行と内國爲替業務	勝田 貞次〔銀研〕六三	四
米國に於ける銀行信用制度の發達	スタイナー〔洋經〕六三	一
米國の聯邦農業銀行制度	春日井 薫〔銀研〕六三	六
米國銀行と信用調査部	小山 英次〔銀叢〕六三	二
米國労働銀行の發達	岩城 弘一〔銀研〕六三	六
米國割引市場の諸問題	岩崎 博〔銀研〕六三	七
米國銀行制度史論	奥田 勳〔銀叢〕六三	二
米國國立銀行制度史論	奥田 勳〔銀叢〕六三	二
米國國立銀行制度の缺陷	奥田 勳〔銀叢〕六三	二
聯邦準備制度の創設及組織	奥田 勳〔銀叢〕六三	二
米國銀行業研究	勝田 貞次〔金融〕六四	二
米國に於ける預金通貨制度の改革	奥田 勳〔銀研〕六四	九
聯邦準備銀行の割引歩合變動の效果	平野 清〔商經〕六一	二
北米合衆國聯邦準備制度	太田黒敏男〔經商〕六三	二
米國銀行經營の實際と學說	松崎 壽〔銀研〕六三	二
預金者の保護に關する米國の制度	松崎 壽〔國經〕六三	三
米國に於ける支店銀行制度と獨立銀行制度	勝田 貞次〔銀研〕六三	四
米國に於ける放資銀行	北村廣太郎〔銀叢〕六三	一
米國銀行組織の根本的精神	勝田 貞次〔銀研〕六三	四
米國銀行と内國爲替業務	勝田 貞次〔銀研〕六三	四
米國に於ける銀行信用制度の發達	スタイナー〔洋經〕六三	一
米國の聯邦農業銀行制度	春日井 薫〔銀研〕六三	六
米國銀行と信用調査部	小山 英次〔銀叢〕六三	二
米國労働銀行の發達	岩城 弘一〔銀研〕六三	六
米國割引市場の諸問題	岩崎 博〔銀研〕六三	七
米國銀行制度史論	奥田 勳〔銀叢〕六三	二
米國國立銀行制度史論	奥田 勳〔銀叢〕六三	二
米國國立銀行制度の缺陷	奥田 勳〔銀叢〕六三	二
聯邦準備制度の創設及組織	奥田 勳〔銀叢〕六三	二
米國銀行業研究	勝田 貞次〔金融〕六四	二
米國に於ける預金通貨制度の改革	奥田 勳〔銀研〕六四	九

米國銀行業の悲劇	三上 太一〔銀研〕六二四	九														
大戰後の聯邦準備銀行の機能	岩崎 博〔銀研〕六二四	九														
紐育に於ける銀行貸付業務の研究	岩崎 靜也〔銀叢〕六二四	四														
預金者の保護に關する米國の制度	太田黒敏男〔經商〕六二四	四														
聯邦準備制度史論	奥田 勳〔銀叢〕六二四	五														
米國労働組合の銀行經營に付て	岩崎 靜也〔銀叢〕六二四	五														
合衆國に於ける労働銀行の發達	陸奥國太郎〔銀研〕六二四	八														
米國聯邦準備銀行の割引政策	中村 重夫〔國家〕六二四	九														
米國に於ける労働組合の銀行經營運動	長岡保太郎〔社政〕六二四	一														
米國聯邦準備銀行と其の果進割引歩合	古坂 崑城〔經評〕六二四	一														
米國労働者運動の發達	金内 良輔〔金融〕六二四	二														
米國に於ける支店銀行問題	岩崎 博〔銀研〕六二四	一														
合衆國に於ける労働銀行に就いて	松岡 孝兒〔經叢〕六二四	三														
米國に於ける銀行支店設置問題	加藤 信夫〔國家〕六二四	三														
米國銀行界の面接しつゝある諸問題	岩崎 博〔銀研〕六二四	四														
聯邦準備制度の發展(米國銀行制度史論五節)	奥田 勳〔銀叢〕六二四	六														
米國に於ける銀行犯罪の實例	富井政治郎〔銀研〕六二四	七														
滿洲	滿洲特設銀行問題に就て	日支銀行と滿洲銀行	日滿合併滿洲中央銀行設立の急務	歐 羅 巴	歐洲戰時の中央銀行	戰後に於ける歐洲各中央銀行	歐洲に於ける銀行制度	露國銀行業一斑	勞農露西亞の通貨と銀行業	ロシアに於ける銀行の發達	其 他	奧匈銀行の外國爲替政策	瑞西の取引所及銀行	印度に於ける中央銀行問題		
岩崎 博〔銀研〕六二四	奥田 勳〔銀叢〕六二四	富井政治郎〔銀研〕六二四	岩崎 靜也〔銀叢〕六二四	堀江 歸一〔三學〕六二四	松野清次郎〔商經〕六二四	平野 清〔商經〕六二四	田中 九一〔金融〕六二四	久山寅一郎〔三學〕六二四	藤吉 藤吉〔商經〕六二四	海老原竹之助〔國經〕六二四	奥田 勳〔銀研〕六二四	奥田 勳〔銀叢〕六二四	奥田 勳〔銀叢〕六二四	奥田 勳〔銀叢〕六二四	奥田 勳〔銀叢〕六二四	奥田 勳〔銀叢〕六二四
九	六	七	四	二	三	一	三	三	一	一	三	三	三	三	三	三



埃甸銀行の破産及清算に就て  
南亞に於ける中央銀行設立  
加奈陀銀行制度の概要  
チエミナントの「佛伊の銀行制度」

- 青木 得三〔經究〕六〇一—一〇一
- 松崎 壽〔國經〕六〇三—六〇六
- 青木 一夫〔銀叢〕六四二—六四六
- 藤村 忠〔銀研〕六四九—六五一

【禁治産者】 參照能力。

禁治産者の行為の效力  
禁治産者の法律行為と後見人の同意  
法定代理人の同意を得て禁治産者が爲したる法律行為の效力

- 芳流 學人〔新報〕四九六—五〇〇
- 乾 政彦〔法協〕六三三—六三六

丁抹國禁治産制度と我法例の關係  
禁治産者の爲したる單に權利を得義務を免るべき行為と其取消  
禁治産宣告前心神喪失の常況に在る者に對する訴狀送達の效力

- 石坂音四郎〔志林〕六四一—六四二
- 謝花 寬濟〔新聞〕六七〇—六七三
- 長島 毅〔新報〕六九三—六九四
- 多田 吉鍾〔朝司〕六一一—六一二

【禁酒】 參照アルコール。酒。

禁酒と法律  
片山醫學博士の禁酒法案に就て  
米國禁酒法の經過  
禁酒論の根柢

- 海野 幸徳〔刑評〕四四五—四四八
- 牧野 英一〔法協〕六三三—六三二
- 大内 兵衛〔國家〕六八三—六八九
- 播磨 龍城〔新聞〕六三三—六三〇

【近東】 東方問題を見よ

參照外債。會社。貸附。株式。株式取引所。貨幣。爲替。銀行。金利。經濟。恐慌。公債。國際貸借。財政。資本。社債。商業。證券。信用。信用組合。投機。投資。物價。貿易。無盡。有價證券。

【金融】

金融政策  
金融に就て  
全國要地に於ける資金移動の調査  
郵便爲替貯金資金の運用  
外國通貨銀行金融に關する要報  
再び郵便爲替貯金資金の運用

- 岩村彌太郎〔國家〕四四二—四四五
- 服部文四郎〔外時〕四四四—四四九
- 井上準之助〔國家〕四五二—四五四
- 添田 壽一〔國家〕四五二—四五四
- 松崎 壽〔日經〕四五二—四五五
- 北崎 進〔東經〕四五五—四五三
- 池島 誠三〔日經〕四五二—四五八
- 神戸 正雄〔日經〕四五二—四五三
- 高島佐一郎〔國經〕六二二—六二五
- 小林丑三郎〔日經〕六二二—六二四
- 小島憲一郎〔日經〕六二二—六二四
- 服部文四郎〔日經〕六二二—六二四
- 池島 誠三〔日經〕六二二—六二四
- 小林丑三郎〔日經〕六二二—六二四
- 海老原竹之助〔日經〕六二二—六二七
- 松崎 壽〔日經〕六二二—六二八
- 坂本 陶一〔國經〕六三六—六三六
- 志村源太郎〔財經〕六三一—六三一
- 船尾榮太郎〔三學〕六三八—六二五
- 鹽澤 昌貞〔財經〕六三一—六三一

用を論ず

財界の集權的傾向  
經濟財政金融策  
日本金融市場に就て  
フアイナンシャを論ず  
國庫と金融機關  
戦後の金融  
財界現下の趨勢  
「現代金融史」を讀む  
外資輸入  
國際金融市場に於ける割引政策  
外資輸入に就て  
日本興業銀行と外資輸入  
金融と公債  
外資輸入に關する外人の意見  
見  
外資輸入に關する外人の意見

- 下村 宏〔國經〕四〇三—四〇六
- 松崎藏之助〔日經〕四〇二—四〇七
- 田尻稻次郎〔日經〕四〇一—四〇二
- 仁科真太郎〔國經〕四〇一—四〇二
- 關 一〔國經〕四〇一—四〇二
- 無名氏〔日經〕四〇一—四〇二
- 小林丑三郎〔明學〕四〇一—四〇二
- 山形 東根〔東經〕四〇一—四〇六
- 丹羽 筑山〔東經〕四〇一—四〇六
- 田中 榮〔國經〕四〇一—四〇三
- 服部文四郎〔外時〕四〇三—四〇三
- 河津 暹〔日經〕四〇三—四〇七
- 添田 壽一〔東經〕四〇三—四〇〇
- 阪田 實〔東經〕四〇三—四〇三
- ジエキマス〔洋經〕四〇一—四〇三
- プレストン〔洋經〕四〇一—四〇三
- 土方 久微〔洋經〕四〇一—四〇九
- 北内 楢雄〔國經〕四〇三—四〇六
- 溝淵 實吉〔東經〕四〇三—四〇六
- 服部 春一〔東經〕四〇三—四〇六

資金輸出論

最近國際金融市場と日本銀行  
工業資金の調達に付て  
工業資金の調達に付て  
商業銀行と工業資金  
低利資金の米價に及ぼせる影響如何  
在外資金に關する當局説明の矛盾  
地方金融に就きて  
金融界に於ける仲立人  
下層金融機關に就て  
金融の去來  
資金利用の說  
在外資金論  
近時の財政と金融  
工業資金問題  
瀧澤氏の稿本日本金融史論を讀む

- 岩村彌太郎〔國家〕四四二—四四五
- 服部文四郎〔外時〕四四四—四四九
- 井上準之助〔國家〕四五二—四五四
- 添田 壽一〔國家〕四五二—四五四
- 松崎 壽〔日經〕四五二—四五五
- 北崎 進〔東經〕四五五—四五三
- 池島 誠三〔日經〕四五二—四五八
- 神戸 正雄〔日經〕四五二—四五三
- 高島佐一郎〔國經〕六二二—六二五
- 小林丑三郎〔日經〕六二二—六二四
- 小島憲一郎〔日經〕六二二—六二四
- 服部文四郎〔日經〕六二二—六二四
- 池島 誠三〔日經〕六二二—六二四
- 小林丑三郎〔日經〕六二二—六二四
- 海老原竹之助〔日經〕六二二—六二七
- 松崎 壽〔日經〕六二二—六二八
- 坂本 陶一〔國經〕六三六—六三六
- 志村源太郎〔財經〕六三一—六三一
- 船尾榮太郎〔三學〕六三八—六二五
- 鹽澤 昌貞〔財經〕六三一—六三一



財界に對する我輩の希望 利子歩合に及ぼす外資輸入 の影響	勝田 主計 [日經] 大 三 年 卷 四 號
庶民金融に就て	高城仙次郎 [三學] 大 三 八 四
外資と戦争	志水 美英 [日經] 大 三 一 六 四
金融ツラスト論	服部文四郎 [國經] 大 二 一 七 一 一 六
戦時財界雜感	十龜 盛次 [國家] 大 二 三 八 六 一 二
金融調節策如何	志立鐵次郎 [財經] 大 三 一 九 九
最近の金融問題	添田 壽一 [財經] 大 三 一 九 九
金融の大勢と金利	谷村一太郎 [經叢] 大 五 一 一 一 六
戦時戦争と金融組織	添田 壽一 [財經] 大 四 二 三 三
金融機關としての無盡業	高島佐一郎 [國家] 大 四 二 九 三 五
戦後の我が金融	馬場 鏡一 [新報] 大 四 二 五 二
金融機關改善問題	小林丑三郎 [財經] 大 四 二 二 二
証券金融機關の將來	添田 壽一 [財經] 大 四 二 二 五
戦後世界の金融	丹羽 豊 [東經] 大 四 七 一 七 九 六
歐洲戦争と資金の關係	小川郷太郎 [經叢] 大 四 一 一 五
歐洲大戦と我國の財界	片山 潜 [洋經] 大 四 一 七 三 三
憂ふべき財界の傾向	長島 隆二 [國經] 大 四 三 九 一 〇
米價の調節と農民の金融問題	澁澤 榮一 [財經] 大 四 二 二 二
歐洲戦時に於ける米國の金融政策並に聯合準備金法の運用	山本美越乃 [京法] 大 四 一 〇 四
	堀江 歸一 [三學] 大 四 九 八

金融に及ぼす大戦亂の影響 對支經營と金融機關	向井 鹿松 [三學] 大 四 九 四 一 五
一九一四年末に當り金融の將來を憶ふ	添田 壽一 [財經] 大 四 二 九
一九一四年十一月戦時金融の前途	高島佐一郎 [三學] 大 四 九 四
金融調節の愚策	高島佐一郎 [三學] 大 四 九 六
工業金融について	堀江 歸一 [財經] 大 四 二 二 一
下層金融と國民性	山田 利淳 [東經] 大 四 七 一 八 〇 五
金利と金融との關係	神戸 正雄 [經叢] 大 四 一 二 二
再び金融と金利との關係に就て	渡邊 鐵藏 [國家] 大 五 三 〇 三
金融調節の効果如何	渡邊 鐵藏 [國家] 大 五 三 〇 四
金融界に於ける自然淘汰	伊藤 欽亮 [財經] 大 五 三 〇 五
金融市場に於ける市況の研究	十龜 盛次 [國經] 大 五 二 〇 二 一 〇
長期貸借と短期貸借	渡邊 鐵藏 [國家] 大 五 三 〇 六
金融情勢の逆轉	高城仙次郎 [三學] 大 五 一 〇 六
地方金融の改善と銀行組織	伊藤 欽亮 [財經] 大 五 三 〇 七
資金供給論	本多 精一 [財經] 大 五 三 〇 九
資金需用論	高城仙次郎 [三學] 大 五 一 〇 九
戦後の財界と覺悟	高城仙次郎 [三學] 大 五 一 〇 八
地方金融と銀行組織に關する補論	高橋 是清 [國經] 大 五 一 〇 一 〇
	本多 精一 [財經] 大 五 三 〇 一 〇

ウキザース氏の名著「國際金融」を讀む	飯島 幡司 [國經] 大 五 二 二 五 號
工業金融改良の點	佐伯 貴範 [財經] 大 五 二 二 二
農工業金融に關する補論	本多 精一 [財經] 大 五 二 二 二
倉庫と金融	清崎 昌雄 [三學] 大 三 〇 二 二
工業金融の改善と日本興業銀行	添田 壽一 [財經] 大 五 三 二 三
生絲金融に就て	内藤 章 [國經] 大 五 二 二 六
工業金融に就て	志立鐵次郎 [洋經] 大 五 一 〇 七 〇 〇
戦中戦争の世界財界	井上辰九郎 [洋經] 大 五 一 〇 七 〇 〇
米價調節を兼たる農家金融便法	木村貞二郎 [東經] 大 五 七 三 一 八 五
金融調節は景氣持續の要道	本多 精一 [財經] 大 六 四 一 一
過去一ケ年に於ける財政經濟の大勢	熊谷貞次郎 [國經] 大 六 五 二 二
金融系統論	服部文四郎 [國經] 大 六 三 二 一 三
本邦海外金融問題管見	飯島 幡司 [國經] 大 六 三 三 一 四
貿易に對する金融の改善	戸田 海市 [經叢] 大 六 四 五 五
金融政策に關する當面の諸問題	本多 精一 [財經] 大 六 四 七 七
不動産資金化と銀行系統	古島 安二 [財經] 大 六 四 一 一
地方金融改善の捷徑	若槻禮次郎 [財經] 大 六 四 二 二
爲替資金の調達策に就きて	稻山 始 [東經] 大 六 五 一 九 〇 七
戦後經濟準備と資金充實策	早川千吉郎 [財經] 大 七 五 三 三

小工業と金融	服部文四郎 [國經] 大 七 二 四 四 一 五
東洋に於ける日本の經濟上及び金融上の位置	井上準之助 [國家] 大 七 三 八 九
國際金融中心の移動と我國の地位	服部文四郎 [國經] 大 七 二 五 四
資金融通の性質と利子歩合との關係	高城仙次郎 [三學] 大 七 三 八 一 〇
外交と金融	小島 憲 [國經] 大 七 六 二 一
我國に於ける船舶金融	細矢 祐治 [日經] 大 八 二 六 一 一 四
暖簾と資金との關係	中川 精吉 [政治] 大 八 一 二 二
不動産金融の流通	志村源太郎 [財經] 大 八 六 四
爲替貯金局より觀たる地方金融	天岡 直嘉 [財經] 大 八 六 一 〇
我國普通銀行の工業金融に就て	松崎 壽 [商經] 大 八 一 一 三
滞貨と恐慌	野崎 龍七 [洋經] 大 九 一 九 九 一 二 五
本邦現時の金融狀態に關する考察	高島佐一郎 [國經] 大 九 二 九 四 六
我財界は逆轉せしか	佐藤 三郎 [國經] 大 九 八 五
財界の反動と工業上の對策	阪田 貞一 [財經] 大 九 七 五
金融市場の前途豫測	米山 梅吉 [財經] 大 九 七 三 二
財界動搖と金融機關の缺陷	阪谷 芳郎 [東經] 大 九 八 二 〇 六 三
銀價の前途と我が財界	梶原 仲治 [東經] 大 九 八 二 〇 六 九
銀行業の對財界策	竹内 常治 [東經] 大 九 八 三 二 〇 七



來年度豫算と財界の打撃  
戦後各國の貿易金融施設  
財界の前途と實業家の自覺  
財界の大勢と注目すべき重  
要事項  
財界の前途は平靜か  
今後の財界に就て  
財界今後の進路  
歐洲戦後財界の變化  
最近に於ける内外財界の推  
移  
物價の漸落と財界恢復期  
財界の前途と製粉界の豫想  
製絲金融論  
歐洲大戰後に於ける本邦金  
融市場の發達  
金融緩漫と財界の前途  
マネーマーケット論  
貿易金融に就て  
金融物價貸銀貿易考察  
整理期金融方針日本銀行  
金利引下不可  
經濟界と金融機關  
起業金融

濱口 雄幸	〔東經〕大九八三二〇七四	一	二
依田信太郎	〔銀研〕大〇一	一	二
小林丑三郎	〔東經〕大〇八三二〇八三	一	二
井上辰九郎	〔東經〕大〇八三二〇八〇	一	二
清水文之輔	〔東經〕大〇八三二〇七五	一	二
安田與四郎	〔洋經〕大〇一	一	二
安田與四郎	〔洋經〕大〇一	一	二
安田與四郎	〔洋經〕大〇一	一	二
小松 綠	〔東經〕大〇八三二〇八五	一	二
田中鐵三郎	〔經究〕大〇一	一	二
諸井 四郎	〔東經〕大〇八三二〇八二	一	二
諸井 四郎	〔財經〕大〇一	一	二
荒木 秀一	〔銀研〕大〇一	一	二
諸井誠二郎	〔經究〕大〇一	一	二
池田 謙三	〔東經〕大〇八三二〇七六	一	二
川口 西三	〔商濟〕大〇一	一	二
服部文四郎	〔國經〕大〇三〇	一	二
志立鐵次郎	〔財經〕大〇一	一	二
志立鐵次郎	〔財經〕大〇一	一	二
田中鐵三郎	〔經究〕大〇一	一	二
春日井 薫	〔國國〕大〇九	一	二

我が大經營化の金融的源泉  
我國金融市場の缺陷  
金融機關と事業會社との特  
殊關係  
我國金融界の缺陷  
金融季節を論ず  
我國銀行と貿易金融  
貿易金融機關設置の可否  
金融、金融市場及金融機關  
財界先見性に就て  
有價證券市場に於ける短期  
金融  
資金融通の性質と預金利子  
歩合  
地方金融と勸業農工兩銀行  
の合同  
金儲けの心理  
本邦水産金融問題  
財界前途に關する一考察  
農業金融と私考察  
信託讓渡と動産金融  
工場抵當及財團金融説論  
金融機關としての信託會社  
日米金融市場と市場利率

高島佐一郎	〔國經〕大〇三	一	二
河合 良成	〔經究〕大〇一	一	二
河津 遜	〔東經〕大〇八三二〇七六	一	二
河合 良成	〔新聞〕大〇一	一	二
松崎 壽	〔商經〕大〇一	一	二
松崎 壽	〔銀研〕大〇一	一	二
清水文之輔	〔東經〕大〇八三二〇九六	一	二
松崎 壽	〔商經〕大〇一	一	二
島村 彦郎	〔銀研〕大〇一	一	二
櫻田 勝三	〔銀研〕大〇一	一	二
白井 廉久	〔銀研〕大〇一	一	二
志村源太郎	〔財經〕大〇一	一	二
タウシツク	〔我等〕大〇一	一	二
細矢 祐治	〔銀研〕大〇一	一	二
植野 勳	〔銀研〕大〇一	一	二
中山政麻雄	〔銀研〕大〇一	一	二
細矢 祐治	〔商經〕大〇一	一	二
細矢 祐治	〔銀研〕大〇一	一	二
細矢 祐治	〔銀研〕大〇一	一	二
平野 清	〔銀研〕大〇一	一	二

貨幣又は金融に關する卑見  
の批評に對して  
金融機關の民衆化我金融  
機關改善案  
物價問題と金融收縮  
飯島幡司著「金融經濟講義」  
國際金融と國際貿易  
ゼノア會議と國際金融問題  
政府に對する確定債權と銀  
行資金の融通  
財界循環と金融の法則  
輸入貿易の金融問題  
本邦金融組織と當面の銀行  
政策  
株式市場と金利と金融市場  
會計と金融  
財界の循環性と金利政策に  
就て  
外資輸入と金融市場の影響  
如何  
財界復興促進策  
金融機關の整備殊に銀行改  
善の要諦  
救濟問題と銀行及金融

山崎覺次郎	〔經論〕大〇一	一	二
志立鐵次郎	〔財經〕大〇一	一	二
田宮準一郎	〔國國〕大〇一	一	二
增井 光藏	〔國經〕大〇一	一	二
服部文四郎	〔銀研〕大〇一	一	二
平野 清	〔銀研〕大〇一	一	二
藤城 敬二	〔銀研〕大〇一	一	二
勝田 貞次	〔銀研〕大〇一	一	二
清水文之輔	〔東經〕大〇一	一	二
左右田誠一	〔銀研〕大〇一	一	二
左右田誠一	〔銀研〕大〇一	一	二
太田 哲三	〔會計〕大〇一	一	二
左右田誠一	〔商事〕大〇一	一	二
左右田誠一	〔銀研〕大〇一	一	二
藤原銀次郎	〔エコ〕大〇一	一	二
杉 程次郎	〔銀叢〕大〇一	一	二
横田 義夫	〔銀叢〕大〇一	一	二

震災金融の諸問題  
震災金融に直面して  
金融の趨勢と中間景氣  
株式市價と金融及景氣との  
關係  
金融機關の整備殊に銀行制  
度改善問題の要諦  
當面の金融問題  
高島佐一郎著「金融經濟の  
諸問題」  
災害と金融  
震災後の復興と金融問題  
其後の金融方策と其效果  
外資輸入問題の考案  
小産業に對する金融  
モラトリアム撤廢後の財界  
循環の経路  
支拂猶豫令撤廢後の金融界  
推移  
安田銀行大合同の財界に及  
す影響  
後興資金の財源  
銀行の被害程度と財界の前

平野 清	〔資料〕大〇一	一	二
堀江 歸一	〔エコ〕大〇一	一	二
池田 龍藏	〔銀研〕大〇一	一	二
杉 程次郎	〔新報〕大〇一	一	二
神戶 正雄	〔時經〕大〇一	一	二
增井 光藏	〔國經〕大〇一	一	二
山口竹次郎	〔銀叢〕大〇一	一	二
吉田 眞一	〔銀叢〕大〇一	一	二
佐々木駒之助	〔銀叢〕大〇一	一	二
星野 行則	〔銀叢〕大〇一	一	二
神戶 正雄	〔時經〕大〇一	一	二
神戶 正雄	〔銀叢〕大〇一	一	二
木島陽太郎	〔銀叢〕大〇一	一	二
勝田 貞次	〔銀研〕大〇一	一	二
三宅嘉十郎	〔銀研〕大〇一	一	二
神戶 正雄	〔銀叢〕大〇一	一	二
松崎 壽	〔銀研〕大〇一	一	二



事業金融と證券市場	福井 源一〔銀研〕大三 五 三
財團金融と日本勸業銀行	松崎 壽〔商經〕大三 一 三
經營資本循環速度並に收支相殺點の測定	松崎 壽〔銀研〕大三 四 三
地方銀行と不動産金融	河谷 武夫〔商經〕大三 一 三〇
工業金融と兼營組織	小池 充彦〔銀叢〕大三 一 一五
工場抵當及財團金融貸借契約書案文例	松島 喜作〔銀叢〕大三 一 四
支拂猶豫令觀及向後の金融對策	細矢 祐治〔銀研〕大三 四 七
製糸資金論	三宅嘉十郎〔銀研〕大三 五 三
復興と外資輸入論	太田 義繁〔銀研〕大三 五 一
株式金融の研究	橋本 喜作〔銀叢〕大三 一 六
財界循環より觀たる震災財界の前途	荒木 秀一〔銀叢〕大三 一 一六
金融、金融市場及金融機關	勝田 貞次〔銀研〕大三 五 三
株式金融論	青木 誠一〔銀研〕大三 四 一
株式金融の方法及批判	荒木 秀一〔銀研〕大三 四 一
銀爲替と株式と金融	荒木 秀一〔銀叢〕大三 一 三
外資輸入計畫は何を語るか	丹羽 豊〔銀叢〕大三 一 三
悲しむべき外資輸入	成瀬 義春〔財經〕大三 一〇 一
帝都復興及商工業復興の金融對策	堀江 歸一〔エコ〕大三 一 七
	松崎 壽〔銀研〕大三 五 三

資本の流通と有價證券	福田敬太郎〔國經〕大三 二 三
松崎教授著「銀行及金融」	細井要次郎〔銀研〕大三 五 三
財界先見の認識論的基礎	勝田 貞次〔銀研〕大三 一 一
金融指導と預金協定	勝田 貞次〔金融〕大三 一 三
財界先見認識に就き福田教授の批評に答ふ	勝田 貞次〔銀研〕大三 六 四
景氣 動緩和策と金融組織	勝田 貞次〔銀研〕大三 七 四
財界金融と財界循環	福田敬太郎〔銀研〕大三 六 四
財界先見の基構に就て	勝田 貞次〔銀研〕大三 七 一
我國に於ける正貨の増減と金融繁閑との關係	小川福太郎〔經叢〕大三 一 九 六
世界の貨幣交通	作田 莊一〔經叢〕大三 一 九 四
元祿享保前後に於ける金融論	中村 孝也〔經商〕大三 三 八 九
世界金融市場の二大分野	平野 清〔エコ〕大三 二 三 三
我邦金融資本の趨勢	浦田 武雄〔マル〕大三 一 五 五
外債成立と金融	堀江 歸一〔エコ〕大三 二 五 一
財政々策と金融政策	土方 成美〔經研〕大三 一 一
金融資本の貿易政策	猪俣津南雄〔マル〕大三 一 八
低資の對支融通を中止せよ	長岡 克曉〔エコ〕大三 二 一〇
株式金融政策	荒木 秀一〔銀叢〕大三 一 一
工業金融研究の一方法	松島 喜作〔銀叢〕大三 一 一
金融會社及金融組合の本質	名和 聲〔金融〕大三 一 一
社會問題解決策としての金融	

融機關	大森 繁治〔銀叢〕大 二 四 二 卷 一 一 六 號
生絲問屋金融制度の改善傾向	高山 武雄〔銀研〕大三 六 六
金融經濟國策確立の急務	三宅嘉十郎〔銀研〕大三 六 五
現下金融の大勢と將來の對策	細矢 祐治〔銀研〕大三 七 五
金融統計と其の材料	石卷 良夫〔銀研〕大三 七 六
金融統計の種類と株式支那動亂と内地金融	石卷 良夫〔銀研〕大三 六 二
財界當面の對策と將來の對策	熊 順一〔金融〕大三 一 三
經濟復興資金の融通に就て	遠藤麟太郎〔銀叢〕大三 二 五
最近の貿易と物價と金融と	堀江 歡吉〔銀叢〕大三 二 四
株式金融とコールマネー	神戶 正雄〔時經〕大三 一 二七
輸出貿易助長金融政策	荒木 秀一〔銀叢〕大三 二 五
明治時代に於ける金融組織の發展	神戶 正雄〔時經〕大三 一 二〇
復興經濟途上の財政及金融	增井 光藏〔國經〕大三 二 六 三 五
經濟復興金融の理論と實際	細矢 祐治〔銀研〕大三 七 四 六
金融循環より見たる震災財界の前途	細矢 祐治〔銀研〕大三 六 一
金融問題或問	遠山 貞一〔銀研〕大三 六 一
吾財界の前途と銀行の任務	河津 達〔金融〕大三 二 一
財界復興と銀行業者	保井 猶造〔銀叢〕大三 三 五
	高柳松一郎〔銀叢〕大三 二 六

震災前後に於ける金融界の變化と其後の趨勢	山室 宗文〔銀叢〕大三 三 三
我金融の根本的疾患	渡邊 廣重〔エコ〕大三 二 九
蠶絲金融と倉庫關係	高山 武雄〔銀研〕大三 七 六
建築金融論	春日井 薰〔銀研〕大三 六 三
蠶糸低利資金觀	高山 武雄〔銀研〕大三 七 四
建築金融組合の研究	春日井 薰〔銀研〕大三 七 二 三
蠶糸金融策としての米資輸入問題	高山 武雄〔銀研〕大三 七 三
生絲金融の諸問題	太田 義繁〔銀研〕大三 六 四
原資金の調達に就て	高山 武雄〔銀研〕大三 六 四
生絲金融の問題	神戶 正雄〔時經〕大三 一 三
大震災と金融問題	杉 程次郎〔新報〕大三 二 二
復興事業と不動産金融	松崎 壽〔銀研〕大三 一 一
爲替問題と金融對策	平野 清一〔銀研〕大三 六 六
既設信用組合を無視せる小	松崎伊三郎〔洋經〕大三 一 一〇 六
商工資金の融通	平岡金兵衛〔銀研〕大三 六 五
不動産金融と地券制度	三宅嘉十郎〔銀研〕大三 七 三
ドーゾ案の實施と財界の前途	三宅嘉十郎〔銀研〕大三 七 三
外資輸入と通貨膨脹に就て	楠原 二郎〔銀研〕大三 六 三
爲替資金操縦に就て	大久保正喜〔銀研〕大三 七 三 四
財界復興に對する矛盾の要	



求	川口 西三〔商業〕大二三	五	一
輸出振興策と貿易金融	松崎 壽〔銀研〕大二三	七	四
對外金融政策	北崎 進〔經商〕大二三	三	四
金融資本現狀	山田幸太郎〔金融〕大二四	二	二
金融機關としての信託會社	大塚 良治〔金融〕大二四	一	三
地方銀行と不動産の制限的資金化	戸田 常造〔銀叢〕大四五	五	三
希臘時代の金融業に就て	高野 忠雄〔金融〕大四五	二	七八
爲替相場の理論と實際及び之が金融政策	服部文四郎〔早政〕大四五	一	一
財政整理の財界に及ぼす影響	結城豊太郎〔エコ〕大四五	三	六
財政と金融の改善	堀江 歸一〔エコ〕大四五	三	八
我國金融機關の發生及び其の發達	石澤久五郎〔金融〕大四五	二	七八
本邦株式金融市場の構成	加藤 和根〔銀叢〕大四五	四	二五
普通銀行の國際金融業務	松崎 壽〔銀研〕大四五	八	四
歐洲戰爭に基づく國際金融上の關係	堀江 歸一〔三學〕大四五	一	九
失業對策としての金融政策	佐倉 重夫〔社政〕大四五	一	五六
神戸生絲金融問題管見	高山 武雄〔銀叢〕大四五	四	一
商工金融と銀行支店制度の改善	藤城 敬二〔銀研〕大四五	八	四
水産資本融通問題	山本美越乃〔經叢〕大四五	二〇	一

内外銀行金融烏瞰	山本 峻吉〔銀叢〕大四五	四	二六
金融市場の意義	道家齊一郎〔金融〕大四五	二	二
土地及建物の金融に就て	都上 城三〔銀叢〕大四五	一	一六
金融組織上に於ける金準備の作用と効果	勝田 貞次〔銀叢〕大四五	四	五
季節的金融に關する調査	河村 重之〔金融〕大四五	二	三四
金融市場に對する郵便貯金の地位	平野 清〔金融〕大四五	二	四七
本年度蠶絲金融の特徴	平塚米治郎〔金融〕大四五	二	三
不動産金融に就て	高山 武雄〔銀研〕大四五	九	四
商工資金の移動量及其様式	大久保正喜〔銀研〕大四五	八	二
我が財界と圓價恢復の將來	都上 城三〔銀叢〕大四五	五	二
小賣業に於ける資金の廻轉率	山崎 靖純〔イ〕大四五	二	六
爲替恢復と財界循環	矢野 剛〔商事〕大四五	五	一
財界現狀と今後の景氣	丹羽 豊〔銀叢〕大四五	四	五
財界の前途に就て	梶原 仲治〔エコ〕大四五	三	五
通貨と資金とを區別する理由	濱岡 五雄〔銀叢〕大四五	四	一
好轉の見込なき財界の前途	高橋 龜吉〔銀研〕大四五	九	三
金融の繁栄と公社債募集市場との關係	藤原銀次郎〔エコ〕大四五	三	二〇
一般金融經濟と金銭信託政	吉田 繁吉〔銀叢〕大四五	四	四

策	細矢 祐治〔銀研〕大四五	八	三
天保十四年の御用金につき	幸田 成友〔商研〕大四五	五	二
企業資金の供給と金融機關	宗像 久敬〔金融〕大四五	二	八
都市下層金融制としての質屋考	岡野文之助〔都問〕大四五	一	七八
内國資本保護の商業政策的方法	菅谷 重平〔銀叢〕大四五	四	五
財界の不況と銀行政策	本田 文雄〔銀叢〕大四五	二	二
正貨現送と外資抑制	堀田 正由〔金融〕大四五	二	二
財界の現狀と其對策	佐藤富士雄〔銀叢〕大四五	五	四
資金の意味に就て	中村 重夫〔銀研〕大四五	八	六
輸出及工業組合と輸出金融	神戸 正雄〔時經〕大四五	一	三
自己資金と他人資本とに就て	中村 茂男〔會計〕大四五	一	一六
金融界の渦紋と銀行の安處	伊庭 謙造〔銀研〕大四五	九	一
民間外資抑制の暴舉	松永 安左衛門〔エコ〕大四五	三	三
金融界の現狀と前途	結城豊太郎〔エコ〕大四五	三	二
我觀金融機關	丹羽 豊〔金融〕大四五	二	二
事業界の不安と金融界の混亂	越戸 佳三〔銀叢〕大四五	五	六
金の現送と財界の動搖	丹羽 豊〔銀叢〕大四五	五	五
金融統計の大量觀察法	石卷 良夫〔銀研〕大四五	九	四
銀行の本質と金融組織の歸趨	勝田 貞次〔銀叢〕大四五	五	五

財界指導と金融作用	勝田 貞次〔銀叢〕大四五	九	一
金融と事業	松崎 壽〔金融〕大四五	二	五
企業金融機關の新陣容	緩藤登喜男〔イ〕大四五	三	三五
山片幡桃の二つの意見書について	土屋 喬雄〔國家〕大四五	四	二
財界整理の意味と政府當局者	高橋 龜吉〔銀研〕大四五	一〇	一
下期財界は尙不振	梶原 仲治〔エコ〕大四五	四	三
財界好轉の機運動く	鈴木 島吉〔銀叢〕大四五	六	一
財狀の豫測に就て	松尾 藤平〔銀叢〕大四五	六	五六
財界の將來とその對策	高木友三郎〔新聞〕大四五	一	二四九
財界好轉と金解禁問題	米山 梅吉〔エコ〕大四五	四	三
新貨幣の觀念と金融	川島清治郎〔金融〕大四五	三	一
債券市場と金融	神戸 正雄〔時經〕大四五	一	四五
金融界大觀	神戸 正雄〔時經〕大四五	一	四
死線に立つた日本	神戸 正雄〔時經〕大四五	一	四
金融問題短評	田中 一郎〔銀叢〕大四五	六	二六
金融問題短評	上村 照吉〔銀叢〕大四五	六	一五
本邦蠶絲金融の實際	高山 武雄〔銀叢〕大四五	六	二
農村振興と金融の改善	田尻 直人〔エコ〕大四五	四	五
金融資本網の健全性	向井 鹿松〔三學〕大四五	二〇	四
金融資本網の組織	向井 鹿松〔三學〕大四五	二〇	三
プロレタリアの金融機關	道家齊一郎〔金融〕大四五	三	一
金融制度の整理	堀江 歸一〔エコ〕大四五	四	八



明治初年の官營と金融	土方 成美〔經論〕大五	四卷	九
庶民金融改善の要	岩崎 尙夫〔エコ〕大五	四	四
金融業者と公共事業の新組織	フロンガム〔イン〕大五	三	一
金融機關としての信託會社	吉田 眞一〔銀叢〕大五	六	一
金融景氣の特色と其限界	橋本 生藏〔エコ〕大五	四	三
我國の證券金融制度に就て	岡田 純夫〔銀研〕大五	二〇	四
金融の實勢と預金利下問題	池田 成彬〔エコ〕大五	四	八
金融界の反動と社債の前途	後藤登喜男〔イン〕大五	三	六
金融緩漫の實體と其將來觀	山崎 靖純〔イン〕大五	三	二
財界推移と景氣の前途	井上辰太郎〔エコ〕大五	四	二
起業金融と信託會社	吳 文炳〔イン〕大五	三	一
映畫金融業務一斑	石卷 良夫〔銀研〕大五	二〇	六七
金融統計の本質	石卷 良夫〔銀研〕大五	二〇	三
紐育準備銀行の利上と世界の金融大勢	岩崎 博〔銀研〕大五	一〇	三
金融上の新傾 物價指數社債に就て	岩崎 博〔銀研〕大五	一〇	五
財界先見の一要素としての利潤限界	岩崎 博〔銀研〕大五	一〇	四
貿易企業上より觀たる輸出金融問題	上坂 西三〔銀研〕大五	二〇	一
外資輸入抑止の可否	松崎 壽〔銀研〕大五	二〇	一

印度金融市場論	十龜 盛次〔國經〕大三	二七	三四
印度の貨幣並に金融制度に關する研究	堀江 歸一〔三學〕大五	一〇	二
印度の金融と印度證券	堀江 歸一〔三學〕大六	二	三
印度に於ける外資輸入問題	田中 金司〔國經〕大五	四〇	四
英國金融市場の組織	池島 誠三〔國家〕四四	二五	一
倫敦金融と外國銀行支店	スポールデング〔三學〕大	二七	二
歐洲開戦後の倫敦金融市場	堀江 歸一〔三學〕大	三	八
歐洲戰爭中の倫敦金融市場	堀江 歸一〔三學〕大	三	九
歐洲戰亂勃發當時に於ける倫敦金融市場	增井 幸雄〔三學〕大	三八	一〇
開戦當時の倫敦金融市場	笠間 吳雄〔國家〕大	三八	三
一九一四年八月に於ける倫敦金融市場と英蘭銀行	山室 宗文〔國家〕大	二九	三四
歐洲戰亂と倫敦金融市場	堀江 歸一〔三學〕大	四	九
倫敦金融市場と事變通貨の供給	堀江 歸一〔三學〕大	四	九
恐慌後の倫敦金融市場に於ける種々の變態	堀江 歸一〔三學〕大	四	九
世界金融の中心として倫敦の地位	神戸 正雄〔經叢〕大	六	四
世界金融市場としての倫敦			

の將來	松野清次郎〔商經〕大	八	一	卷	二	號
戰後に於ける倫敦の金融上の地位	三浦 武美〔國經〕大	九	二	六	五	五
大戰當時の英國金融對策	吉田 繁吉〔銀叢〕大	三	一	五	五	五
倫敦金融市場論	須藤 文吉〔銀研〕大	三	四	七	七	五
倫敦並に紐育の金融的地位	平野 清〔商經〕大	三	一	三	三	三
大戰當の初に於ける倫敦金融市場の混亂	上道 光彦〔金融〕大	三	一	三	三	三
英國に於ける短期資金	濱野 壽〔銀研〕大	三	七	三	三	三
國際金融中心市場としての倫敦の地位	山室 宗文〔銀叢〕大	四	四	六	六	六
支那						
上海の金融機關	小島憲一郎〔日經〕大	四	二	七	三	三
歐洲戰亂後の支那財界	山本唯三郎〔財經〕大	四	二	九	九	九
長沙の金融	田中 忠夫〔亞經〕大	九	四	一	二	二
支那金融機關の現状	善生 永助〔財經〕大	九	七	三	四	四
支那の財界と中央財政	長岡 克曉〔亞經〕大	二	七	二	二	二
撥充に就て	田中 忠夫〔亞經〕大	三	八	一	一	一
上海に於ける金業交易所	福田敬太郎〔銀研〕大	三	七	五	五	五
支那の農業金融に就て	田中 忠夫〔銀研〕大	四	八	二	二	二
支那の庶民金融機關	木村賢太郎〔金融〕大	四	二	九	九	九
朝鮮						
朝鮮金融機關現狀	飯島 幡司〔國經〕大	五	二〇	三	三	三
朝鮮財界と債券發行に就て	野中 清〔イン〕大	四	一	三	三	三

獨逸						
獨逸の戰時財界及金融	獨逸金融上の動員	交戰第一年度の獨逸の金融及財政	獨逸の産業と金融機關	戰争と獨逸の金融及通貨政策	戰争と獨逸の金融市場	獨逸の金融と中央銀行
獨逸國に於ける建築金融制度	米國					
金融市場としての紐育の地位を論ず	米國の金融と事業	合衆國金融市場に於ける獨立國庫の地位	紐育金融市場に於ける利率の趨勢	米國の金權	紐育株式取引所と金融市場	歐洲戰亂と米國金融市場
英佛公債の成立と米國金融市場						
獨逸	獨逸	獨逸	獨逸	獨逸	獨逸	獨逸
ベンチキクス〔三學〕大	高島佐一郎〔國經〕大	高島 誠一〔國經〕大	高島 誠一〔國經〕大	高島 誠一〔國經〕大	高島 誠一〔國經〕大	高島 誠一〔國經〕大
四四	五二	七二	七二	七二	七二	七二
九	三	四	四	四	四	四
一〇	三	四	四	四	四	四
二	三	四	四	四	四	四
三	四	五	五	五	五	五
四	五	六	六	六	六	六
五	六	七	七	七	七	七
六	七	八	八	八	八	八
七	八	九	九	九	九	九
八	九	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇
九	一〇	一一	一一	一一	一一	一一
一〇	一一	一二	一二	一二	一二	一二
一一	一二	一三	一三	一三	一三	一三
一二	一三	一四	一四	一四	一四	一四
一三	一四	一五	一五	一五	一五	一五
一四	一五	一六	一六	一六	一六	一六
一五	一六	一七	一七	一七	一七	一七
一六	一七	一八	一八	一八	一八	一八
一七	一八	一九	一九	一九	一九	一九
一八	一九	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇
一九	二〇	二一	二一	二一	二一	二一
二〇	二一	二二	二二	二二	二二	二二
二一	二二	二三	二三	二三	二三	二三
二二	二三	二四	二四	二四	二四	二四
二三	二四	二五	二五	二五	二五	二五
二四	二五	二六	二六	二六	二六	二六
二五	二六	二七	二七	二七	二七	二七
二六	二七	二八	二八	二八	二八	二八
二七	二八	二九	二九	二九	二九	二九
二八	二九	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇
二九	三〇	三一	三一	三一	三一	三一
三〇	三一	三二	三二	三二	三二	三二
三一	三二	三三	三三	三三	三三	三三
三二	三三	三四	三四	三四	三四	三四
三三	三四	三五	三五	三五	三五	三五
三四	三五	三六	三六	三六	三六	三六
三三	三四	三五	三五	三五	三五	三五
三二	三三	三四	三四	三四	三四	三四
三一	三二	三三	三三	三三	三三	三三
三〇	三一	三二	三二	三二	三二	三二
二九	三〇	三一	三一	三一	三一	三一
二八	二九	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇
二七	二八	二九	二九	二九	二九	二九
二六	二七	二八	二八	二八	二八	二八
二五	二六	二七	二七	二七	二七	二七
二四	二五	二六	二六	二六	二六	二六
二三	二四	二五	二五	二五	二五	二五
二二	二三	二四	二四	二四	二四	二四
二一	二二	二三	二三	二三	二三	二三
二〇	二一	二二	二二	二二	二二	二二
一九	二〇	二一	二一	二一	二一	二一
一八	一九	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇
一七	一八	一九	一九	一九	一九	一九
一六	一七	一八	一八	一八	一八	一八
一五	一六	一七	一七	一七	一七	一七
一四	一五	一六	一六	一六	一六	一六
一三	一四	一五	一五	一五	一五	一五
一二	一三	一四	一四	一四	一四	一四
一一	一二	一三	一三	一三	一三	一三
一〇	一一	一二	一二	一二	一二	一二
九	一〇	一一	一一	一一	一一	一一
八	九	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇
七	八	九	九	九	九	九
六	七	八	八	八	八	八
五	六	七	七	七	七	七
四	五	六	六	六	六	六
三	四	五	五	五	五	五
二	三	四	四	四	四	四
一	二	三	三	三	三	三



【金融】【金輸出解禁】

米國金融界の新氣運
歐洲戦争と米國金融市場
米國戰時金融政策
一九二〇年米國財界の回顧
と其前途
米國の貿易金融施設とエツ
デ法
米國戦後の貿易金融會社
桑港震災時の金融状態
米國資本の輸出
上海に於ける近時の貨幣及
金融に就て
米國の金融商人と放資機關
倫敦並に紐育の金融的地位
米國に於ける金融の諸機關
米國の映書金融に就て
米國の金融政策
米國商業金融研究
米國太平洋岸大都市在留日
本人の金融機關
米國に於ける銀行國庫關係
の革新
露國金融界の三大勢力と二

雪堂生 [財經] 大五 年卷 三 八號
色部貢 [國家] 大六 三
大内兵衛 [國家] 大八 三
青木嗣夫 [經究] 大二 一
依田信太郎 [銀研] 大二 一
依田信太郎 [銀研] 大二 一
池田了實 [銀研] 大二 一
荒山泰次 [銀叢] 大二 一
西山榮久 [亞經] 大二 一
勝田貞次 [銀研] 大二 一
平野清 [商經] 大二 一
北村廣太郎 [銀叢] 大二 一
石卷良夫 [銀研] 大二 一
堀江歸一 [エコ] 大二 一
岩崎静也 [銀叢] 大二 一
小西次郎 [銀研] 大二 一
奥田勤 [銀研] 大五 一〇

大潮流
露國金融制度の變遷
勞農露國に於ける金融制度
の復活
其 他
東洋金融市場論要綱
埃太利の食物供給及金融

棗田藤吉 [商經] 大五 一
谷口吉彦 [經叢] 大五 三
谷口吉彦 [經叢] 大五 三
中村忠彰 [法政] 大七 一五
埃太利の食物供給及金融
參照||外國爲替、貨幣、金、金
融、在外正貨。
門脇龍雄 [國經] 大七 二四
三宅喜十郎 [銀研] 大二 三
加藤貞雄 [銀研] 大二 三
戸田海市 [經叢] 大二 一五
阪谷芳郎 [東經] 大二 八四
武藤山治 [財經] 大二 一〇
神戸正雄 [時經] 大二 一
勝田貞次 [銀研] 大二 七
高城仙次郎 [法研] 大二 三

正貨現送の尙早を論ず
圓價暴落と金輸出解禁論に
就て
現下尙金輸出解禁に適せず
藏相の金解禁反對論を中心
として
金の輸出禁止は亡國的政策
爲替安定と部分的金輸出解
禁
爲替政策と金輸出解禁問題
爲替恢復策としての金輸出
禁と兌換停止
所謂金解禁の悪影響
景氣の良否と金解禁問題
濱口藏相の變説改論(五十
議會に於ける金解禁問答)
金解禁問題不徹底
英國の金解禁問題に就て
二十世紀のマーカンテイリ
ズムと紀元千六百年代の
金自由輸出論
農相の金解禁亡國論
金輸出解禁論の科學的基礎
金解禁議案の論戰

三宅喜十郎 [銀研] 大三 年卷 六 四號
杉本正一 [銀叢] 大三 二
伊藤竹之助 [エコ] 大三 二
成瀬義春 [財經] 大三 一
武藤山治 [エコ] 大三 二
山室宗文 [エコ] 大三 二
松崎壽 [銀研] 大四 八
海老原竹之助 [銀研] 大四 八
成瀬義春 [財經] 大四 三
岡村透 [銀叢] 大四 一
成瀬義春 [財經] 大四 三
成瀬義春 [財經] 大四 三
前田董一 [金融] 大四 二
春日井薫 [經商] 大四 四
成瀬義春 [財經] 大四 三
春日井薫 [銀研] 大四 八
成瀬義春 [財經] 大四 三

金解禁非解禁問題の重點
英國の金輸出解禁
英國の金解禁とその影響
正貨現送と外資抑制
正貨の現送と外資輸入の制
限
我國金輸出解禁問題
英國の金輸出解禁と我國
爲替調節策と金輸出解禁問
題
正貨の現送と外資輸入の制
限
金輸出解禁論に就いて
金解禁に代るべき方策
財界好轉と金解禁問題
金輸出解禁の利弊と世論
銀の一部輸出解禁
先づ正貨現送を止めよ
最近の爲替相場恢復と金解
禁の時機

土方成美 [エコ] 大四 三
堀江歸一 [エコ] 大四 三
井上準之助 [エコ] 大四 三
堀田正由 [金融] 大四 二
神戸正雄 [時經] 大四 一
大館堯壽 [新報] 大四 三五
神戸正雄 [時經] 大四 一
松崎壽 [商經] 大四 一
神戸正雄 [時經] 大四 一
島田徳 [新報] 大五 二
成瀬義春 [財經] 大五 二
米山梅吉 [エコ] 大五 三
松崎壽 [銀研] 大五 一〇
神戸正雄 [時經] 大五 一
伊東四志 [洋經] 大五 一
古矢吉雄 [銀研] 大五 一〇

【金輸出解禁】【金利】

【金】 【金利】

銀行利率と市場利率との意

參照||銀行、金融、利子。



義疏に相互關係に就て 金利の物價に及ぼす影響 紐育金融市場に於ける利率 の趨勢	山崎覺次郎〔國家〕明元一九 山室 宗文〔法協〕四一、二六	河津 暹〔國家〕四二、二三 高田 勝雄〔國經〕四四、七 坂田 實〔洋經〕四四、一 植松 考昭〔洋經〕四三、一	正味利廻りに關する新説 日本銀行の利子政策に就て 本邦金利の將來 英國に於ける銀行利率と市 場利率	池島 誠三〔日經〕四四、一〇 佐藤 雄能〔東經〕四五、六五 服部文四郎〔日經〕六元、二 熊崎 良〔國經〕六三、七	借入金利子の決算方法 金利の趨勢	遊離資本と金利 利子歩合に及ぼす外資輸入 の影響	金融の大勢と金利 金利と金融との關係 再び金融と金利との關係に 就て	高城仙次郎〔三學〕六三、八 添田 壽一〔財經〕六四、二 渡邊 鐵藏〔國家〕六五、三〇 渡邊 鐵藏〔國家〕六五、三〇	金利と有價證券相場との關 係	渡邊 鐵藏〔國家〕六五、三〇 高城仙次郎〔三學〕六五、二〇 飯島 幡司〔國經〕六六、三 飯島 幡司〔國經〕六六、三 中島 精二〔會計〕六七、四	戰爭と金利 戰後英國の金利と對外放資 戰後の金利 商品の金利の取扱	飯島 幡司〔國經〕六六、三 飯島 幡司〔國經〕六六、三 中島 精二〔會計〕六七、四
--	---------------------------------	---	---	---	---------------------	--------------------------------	---	--	-------------------	---	--	---

資金融通の性質と利子歩合 との關係	高城仙次郎〔三學〕六七、三八、一〇 松崎 壽〔商經〕六九、一七	銀行利率と市場利率 爲替關係より見たる内國金 利	中山玖麻雄〔銀研〕六〇、一 志立鐵次郎〔財經〕六〇、八 荒木 秀一〔銀研〕六一、二 須藤 文吉〔銀研〕六一、二 平野 清〔銀研〕六一、二	整理期金融方針日本銀行 金利引下不可 コールの利子及運用 公社債の放資と利廻計算 日米銀行利率と割引政策 利子歩合論上に於ける信用 説	勝田 貞夫〔銀研〕六一、二 成瀬 義春〔財經〕六一、九	利下の必要ありや 財界の循環性と金利政策に 就て	左右田誠一〔商事〕六二、四 神戶 正雄〔時經〕六二、一	金利引下問題 金利の騰落と債券市價 金利變動の統計的研究 現時の金利引下問題 貨幣價值と金利歩合 利子歩合に就て	左右田誠一〔商事〕六二、四 神戶 正雄〔時經〕六二、一 白井 廉久〔銀研〕六三、四 山本恭次郎〔長策〕六三、二 神戶 正雄〔時經〕六三、一 左右田誠一〔銀研〕六三、五 谷口 吉彦〔經叢〕六三、一八	日本銀行の金利政策 金利と物價の關係に就いて 我國の金利は高きか 何故我國の金利は下らざるか 日銀利下と銀行の貸出政策 異論の餘地なき利下斷行 金利に關する諸相 我國の金利が米國より高き 理由	堀江 歸一〔エコ〕六四、三 土方 成美〔社料〕六四、一 高城仙次郎〔銀研〕六四、九 葛雄一郎〔金融〕六四、二 土方 成美〔エコ〕六四、三 井上辰九郎〔エコ〕六四、三 春木忠三郎〔銀研〕六四、五	預金利子の協定難 金利引下と産業振興策 我國の金利は如何にして引 下げ得るか 金利と物價との相關關係に 就て	高城仙次郎〔銀研〕六四、九 堀江 歸一〔エコ〕六四、三 松崎 壽〔銀研〕六四、九	利子歩合の季節的變動 日銀の利下 印度に於ける銀行利率の季 節的變動と其調節策 吾國金利の諸相とその統制 紐育準備銀行の利上と世界 の金融大勢	谷口 吉彦〔經叢〕六四、二 高城仙次郎〔銀研〕六四、九 神戶 正雄〔時經〕六四、一 平野 清〔商經〕六四、一 杉本 一雄〔銀叢〕六五、六 岩崎 博〔銀研〕六五、一〇	日本銀行の金利政策 金融の實勢と預金利下問題	堀江 歸一〔エコ〕六五、四 池田 成彬〔エコ〕六五、四
----------------------	------------------------------------	--------------------------------	--	---	--------------------------------	--------------------------------	--------------------------------	---	--	--	--	---	--	---	---	---------------------------	--------------------------------

金利引下論の誤謬 利子計算上の重要問題 金利問題の考察 金利引下論に於ける通貨論 の誤謬	松崎 壽〔銀研〕六三、六 荒木 秀一〔銀叢〕六三、三 小池 充彦〔銀叢〕六三、二	遠山 貞一〔銀研〕六三、六 堀江 歸一〔エコ〕六三、二 山成 喬六〔エコ〕六三、二	金利引下問題 我事業界と金利政策を如何 金利引下に關する諸説を評 す	松崎 壽〔銀研〕六三、七	米山 梅吉〔エコ〕六三、二 結城豊太郎〔エコ〕六三、二 成瀬 義春〔財經〕六三、二 三浦鐵太郎〔洋經〕六三、一 高橋 龜吉〔洋經〕六三、一 荒木 秀一〔銀叢〕六四、四 都 城 生〔銀叢〕六四、四 高城仙次郎〔銀研〕六四、八 蜷川 虎三〔經叢〕六四、二〇 松崎 壽〔銀研〕六四、八 小川郷太郎〔イ〕六四、一	信託會社の興起と金利の將 來 保證準備擴張論と金利問題 利下の可能性と危険性 我國の金利は何故に高きか 金利引下論の根據 利子計算上の重要問題 利率低下の合理的考察 日銀利下の可否を論ず 金利に關する一研究 日銀利下の斷行を評す 日本銀行の金利引下 日本銀行の公定歩合引下に 就て	杉 程次郎〔新報〕六四、三五 〔銀叢〕六四、四 六六
--	--	---	---	--------------	--	---	----------------------------------



【金利】

日銀歩合と市中歩合との關係  
 高城仙次郎〔銀研〕大二〇年 卷五 號五  
 大藏省提案の債券複利計算の可否  
 〔銀研〕大五〇 五十六  
 高城仙次郎〔銀研〕大五〇 六  
 金利と物價との關係  
 神戸 正雄〔時經〕大五一 四七  
 金利引下策の行詰

ク部

【クインスランド】

クインスランドに於ける労働仲裁裁判制度

岩下 堅造〔社政〕大二一年 卷三 號三

【クウレイ】

(Charles Horton Cooley, 1864-)

クーレイ教授

綿貫 哲雄〔社維〕大五一 二四

【區劃整理】

區劃整理震災地跡の土地建物全部移動法に就て  
 區劃整理批判  
 區劃整理に關する憲法違反問題と其の實行難  
 再び區劃整理に就て  
 區劃整理の缺陷  
 區劃整理と無産階級  
 區劃整理に關する一考案  
 土地區劃整理と法の悪用

復堂 生〔新聞〕大三一 二三三  
 小久江美代吉〔新聞〕大三一 二三九  
 復堂 生〔新聞〕大三一 二三三  
 小久江美代吉〔新聞〕大三一 二三六  
 木内傳之助〔新聞〕大三一 二三八  
 布施 辰治〔新聞〕大三一 二八五  
 武田鬼十郎〔新聞〕大三四 二三五  
 中山 利平〔新聞〕大三四 二三八

【クインスランド】

【クウレイ】 【區劃整理】 【苦汗制度】

【苦汗制度】

スウエツチングを論ず  
 スウエツチング・システムの經濟的機能に就て

財部 靜治〔京法〕四三九 一四一六  
 山内 正瞭〔新報〕四四〇 一七三

【藥】

富山の賣藥業  
 賣藥の本義及範圍  
 本邦輸出入の藥材、化學藥及製藥  
 富山賣藥業の經營

和田 一郎〔國家〕四四一 三三  
 窪田靜太郎〔法協〕大二三 七七八  
 加藤 銀藏〔統集〕大五一 三四七  
 猪谷 善一〔國經〕六二三 三五三

【グッドセル】

グッドセル教授の父權的家族制度の研究

渥美 鐵三〔我等〕大二四 一二

【工藤重義】

工藤法學博士の卒去

河津 暹〔國家〕大七三 三八

【クインスランド】

【クウレイ】 【區劃整理】 【苦汗制度】 【藥】 【グッドセル】 【工藤重義】



【クナップ】 (Georg Friedrich Knapp, 1842-)

クナップ貨幣國定學説の研究  
方法  
クナップの三分ノ一準備法  
觀  
クナップの貨幣國定學説に就て  
宮田喜代藏 [國經] 大二三 卷六 號六  
福定與四郎 [國家] 大二三 卷二 號二  
宮田喜代藏 [商叢] 大三一 卷一 號一

【クニース】 (Karl Gustav Adolf Knies, 1821-1898)

クニース氏の「獨立の學問としての統計學」を讀む  
高野岩三郎 [統雅] 四三七 卷一 號二 八四

【熊澤善山】

集義和來に現れたる熊澤善山の經濟學説  
河上 肇 [國家] 四四二 卷二 號一〇

【熊本】

熊本市職業調査と東京市勢調査  
横山 雅男 [統集] 四四一 卷一 號三 三三

舊熊本藩の郷土制度

大竹 虎雄 [農經] 大四一 卷一 號一  
參照 共濟組合、ギルド、

【組合】

産業組合、消費組合、  
信用組合、生産組合、  
農業組合、勞働組合、  
購買組合、

ルツオン [法協] 四七二 卷二 號二  
松崎藏之助 [法協] 四九二 卷二 號二

職業組合論  
商工組合の起源に關する諸説一斑

周代五家の組合

佛國に於ける組合の統計組合契約論

獨身者の組合運動

商工業組合の活動

支那の組合制度

組合の性質に就て

伊太利の組合運動

印度に於ける組合運動

支那の組合制度を論ず

獨逸の通信吏員組合

組合の分類に就ての考察

出荷組合の獎勵

蓄産組合の不法活動に對する救済方法

齋藤 巖 [新聞] 大三一 卷一 號三 三九

社團と組合

銀行組合法の制度を望む

組合法問題に於ける資本家の「危険思想」

西本辰之助 [法研] 大二四 卷四 號四

石卷 良夫 [銀研] 大二四 卷八 號六

楠田 民藏 [我等] 大二五 卷八 號二

【グミユール】 (Max Gmiih)  
グミユール教授の慣習法論  
岩田 新 [志林] 大九三 卷二 號二

【クラーク】 (John Bates Clark, 1847-)

資本觀念に關するクラーク教授の學説を評論す  
中川角太郎 [新報] 四四一 卷一 號七

クラーク教授の生産力説を難す  
五百旗頭真次郎 [國經] 大六三 卷二 號二

クラーク教授の資本の機能に就て  
金原賢之助 [三學] 大〇一 卷五 號六

利子説明の基礎に關するボエム・パヴェルクとクラークとの論争

クラークの資本觀

クラークの分配理論の研究

クラーク「經濟靜態及び動態」(譯)

林 要 [同論] 大二三 卷一 號三

金原賢之助 [三學] 大〇一 卷五 號八 九

高田 保馬 [國經] 大二三 卷四 號一

三宅鹿之助 [經研] 大二三 卷一 號一

クラークの競争並に獨占理論

油本 豊吉 [經論] 大二四 卷三 號四

【クラーク】 (John Maurice Clark, 1884-)  
J. M. Clark 教授の「經濟學社會化論」(譯)  
八木澤善次 [新報] 大二三 卷三 號三

【クラツベ】 (Hugo Krabbe, 1857-)  
クラツベの「近代國家觀」  
大山 郁夫 [我等] 大二三 卷六 號四 八

【クリーグスマン】 (Nikolaus Herrmann Hartwig Kriegsman, 1882-1914)  
富田 山壽 [京法] 大四一 卷〇 號七

【クリート】  
クリート問題の真相  
逸見 晋 [國際] 四四一 卷八 號二

最近クリート史  
有賀 長雄 [外時] 四四一 卷三 號二

【グリム】 (Jakob Ludwig Grimm, 1785-1863)

【クリーグスマン】

【クリート】

【グリム】

【クラーク】

【クラツベ】

【クリーグスマン】

【クリート】

【グリム】



【グリム】【グルウイツチ】【クルノー】【グレイ】【吳文聰】【クロース】  
 【グロース】【グロスマン】

二九四

ヤコブ・グリムと獨逸法 寺田 四郎〔國國〕大三二 卷五 號五

【グルウイツチ】(Georg Gurwitsch)

ギールケの有機體及び社會法の概念(グルキツチ) 能勢 克男〔同論〕大三一 一 二三

【クルノー】(Antoine Augustin Cournot, 1801-1877)

クルノー研究 平塚 壽郎〔國經〕大九二八 六  
 三つの著述を通じて見たる  
 オグユタン・クルノーの經濟學說 中山伊知郎〔商研〕大四五 五 二

【グレイ】(Henry M. Grey)

グレイ氏の著書ロイドの過去と現在を讀みて 藤本幸太郎〔商研〕大三二 一

【吳文聰】

吳副社長葬記 横山 雅男〔統雜〕大七一 三九〇  
 副社長吳文聰君を吊ふ 横山 雅男〔統雜〕大七一 三九一

評議員吳文聰君を悼む 横山 雅男〔統集〕大七一 四五一  
 故吳文聰君追憶學術講演會 故吳文聰先生を追慕す 細野 繁藏〔統雜〕大八一 三九四  
 親友吳君を思ふ 高橋 琢也〔統雜〕大八一 三九九  
 吳君を追懐す 平塚 二定郎〔統雜〕大八一 四〇一  
 吾郷の先輩吳氏を思ふ 松井 茂〔統雜〕大八一 四〇五  
 先輩吳文聰君を憶ふ 水科 七三郎〔統雜〕大八一 四〇七  
 統計界の先進吳君を憶ふ 和田 千松郎〔統雜〕大八一 四一〇

【クロース】(Benedetto Croce, 1866-)

ベネデットー・クロースの新哲學 江木 衷〔辯協〕大七三 一八一

【グロース】(Hans Gross, 1847-1915)

故ハンス・グロース教授 牧野 英一〔志林〕大五二八 六

【グロスマン】(Hermann Grossmann)

グロスマン「戦争と化學工業」(譯) 朴堂 學人〔財經〕大八七 六一三

【グロッチウス】(Hugo Grotius (de Groot), 1583-1645)

グロシウス氏以前に於ける國際法學者及グロシウス氏 花井 卓藏〔新報〕三九 卷六 六七  
 國際法の始祖ヒュウゴ・グロッチウス 高橋 作衛〔國際〕大九一 四  
 法及び戦争に關するグロッチウスの思想 井川 恭〔京法〕大七三 二一四  
 グロッチウスに於ける國際法と自然法との關係 横田 喜三郎〔國際〕大四二四 五  
 フーゴー・グロッチウス著「平戦法規論」の由來 穂積 陳重〔國際〕大四二四 五  
 國際法の始祖フーゴー・グロッチウス 山田 三良〔國際〕大四二四 五  
 グロシウスの幼青年時代 泉 哲〔國際〕大四二四 五  
 グロッチウス及び其名著「戦争及平和法規論」の國際法學上の地位 立 作太郎〔國際〕大四二四 五  
 グロッチウスの戦争觀に就て 松原 一雄〔國際〕大四二四 五  
 フーゴー・グロッチウス 市村 光恵〔法叢〕大四一四 四六  
 戦争及び平和法論に於ける

【グロッチウス】【黒田如水】【クロボトキン】【軍艦】

海洋自由論 板倉 卓造〔國際〕大四二四 五  
 グロッチウスを基點として 牧野 英一〔志林〕大四二七 六  
 グロッチウス著「平戦法規論」の版數に就て 山田 三良〔國際〕大四二四 六  
 グロッチウスの自由海洋論 立 作太郎〔國家〕大四二五 七

【黒田如水】

黒田如水の刑法觀 福本 日南〔刑評〕四四四 三 六

【クロボトキン】(Kniaz Peter Aleksievich Kravotkin, 1842-1921)

クロボトキンの史觀 田中 萃一郎〔三學〕大四二九 四  
 クロボトキンの社會思想の 森戸 辰男〔經學〕大九一 一  
 研究 森戸 辰男〔我等〕大九二 五  
 クロボトキンの生活の一面 ラツセル、クロボトキン兩氏の過激派觀 田邊 忠男〔財經〕大九七 一  
 クロボトキンの相互扶助說 森戸 辰男〔我等〕大九二 一  
 クロボトキンの「倫理學」 森戸 辰男〔我等〕大九二 一

【軍艦】

參照 商船 潛航艇。



【軍艦】 【軍國主義】 【軍事】

軍艦論	松波仁一郎 (國家) 四七九	卷八	五
私艦論	松波仁一郎 (國家) 四八九	卷八	五
軍艦論	高橋 作衛 (法協) 四九一	卷八	五
外國の港灣に於ける艦船及其乗員取締法	伊藤巳次郎 (外時) 四九二	卷八	五
國際關係に於ける海軍用船の地位	相良 維男 (國家) 四九五	卷八	五
外國水兵の犯罪	石渡 敏一 (法政) 四九五	卷八	五
軍艦論	遠藤 源六 (法政) 四九六	卷八	五
ベレールス氏軍艦本質論	中村 進午 (新報) 四九七	卷八	五
軍艦に非ざる公船の取扱	立 作太郎 (國際) 四九七	卷八	五
回航中の日進春日に就て	松原 一雄 (新報) 四九七	卷八	五
御用船論	松波仁一郎 (法協) 四九八	卷八	五
外國領水に於ける軍艦	立 作太郎 (國家) 四九八	卷八	五
軍艦の海難救助を論ず	松波仁一郎 (海法) 四九八	卷八	五

【軍國主義】

參照 軍備、軍備縮少、戰爭、平和。

獨逸大學に於ける軍國主義戰後に於ける軍國主義と民主主義	織田 萬 (京法) 六五二	卷五	一
米國の軍國主義化と日米間題の將來	戸田 海市 (經叢) 六六五	卷五	三
米國に於ける軍國主義と資本主義	秋山 襄 (辯協) 六六二	卷五	八
軍國主義及平和運動	森戸 辰男 (外時) 六六五	卷五	二九二
軍國主義の辯	稻田周之助 (新報) 六七二	卷五	七
國家主義、帝國主義、軍國主義、戰爭謳歌	卜部正太郎 (三學) 六七二	卷五	九
華府會議と平和主義對軍國主義	杉村陽太郎 (外時) 六八三	卷五	三九六
米國に徴して軍國主義を省察す	石川安次郎 (外時) 六八四	卷五	四一〇
Militarism in Japan	村瀨武比古 (法政) 六八一	卷五	一
軍國主義に就て	Matsunami (海法) 六一一	卷五	六
互助作用の支配と軍國組織の崩壞	佐野 學 (我等) 六一五	卷五	六
英國常備兵並に義勇兵人員の調査	長谷川萬次郎 (我等) 六四七	卷五	三

【軍事】

參照 海軍、軍備、軍備縮少、軍法會議、徵兵。

徵兵と學生の關係 (講演)	曾我 祐準 (國家) 四三六	卷七	七七
軍事統計	伊藤 祐毅 (統集) 四三三	卷七	七七
軍事統計	鶴澤 總明 (統雜) 四三三	卷七	七七
附萬國平和會議の前途	高橋 黎三 (國家) 四三三	卷七	七七
各地方に於ける軍事思想	横山 雅男 (統集) 四三三	卷七	七七
行政的武器使用に關する軍法	光岡 安藝 (國家) 四三三	卷七	七七
師團長が徵兵及召集事務に關し所管内町村長に對する訓令權	島村他三郎 (志林) 四二〇	卷七	八
軍隊と農業教育	矢作 榮藏 (國家) 四二〇	卷七	八
陸海軍刑法改正案に就て	磯部 四郎 (辯協) 四二〇	卷七	八
徵兵統計の話	横山 雅男 (統集) 四二〇	卷七	八
外交軍事財政の兼修	匿名 士 (國際) 四二二	卷七	六
軍隊の拘留權 (ツァーベルン事件の法律的觀察)	寺田 四郎 (國家) 四二二	卷七	九
三年兵役制批議	高田 保馬 (京法) 四二二	卷七	九
獨逸の軍閥と我國の軍閥	植原悦二郎 (國家) 四二三	卷七	一
軍隊教育 (講演)	山梨 半造 (日社) 四二三	卷七	一
獨逸陸軍將校の生計費	松嶺 仙史 (統雜) 四二三	卷七	一
陸軍衛生統計に就て	石黒 忠恵 (統雜) 四二三	卷七	一
尙武教育の必要	山川健太郎 (日社) 四二三	卷七	一

【軍事】

戰死者の孤兒に關する法律案	織田 萬 (京法) 六五二	卷五	一
英國の強制徵兵制度	卜部百太郎 (三學) 六五二	卷五	一
軍隊の解散と労働市場	黒木 三次 (國家) 六六三	卷五	一〇
戰時に於ける軍機と外交との關係	牧野 義智 (國際) 六七二	卷五	六
軍事救護法の制定に就て	潮 惠之輔 (法政) 六七二	卷五	六
誤れる憲兵廢止論	某辯護士 (新聞) 六八一	卷五	一九九
誤れる憲兵廢止論を駁す	菊の舎主人 (新聞) 六八一	卷五	二〇五
宋代に於ける兵制と社會政策	松井 等 (亞經) 六九四	卷五	二
歩兵一年半現役論	某 氏 (國家) 七〇三	卷五	三
軍機保護に關する臺灣法制	三好 一八 (臺法) 七〇三	卷五	一〇
海軍整理の根本方針	江木 翼 (財經) 七〇八	卷五	六
軍事行政組織の政治的考察	今中 次磨 (我等) 七一四	卷五	五
世界の軍事大勢	蜷川 新 (外時) 七二二	卷五	四
震災と外交及軍隊	建部 遷吾 (外時) 七二二	卷五	四
廢兵の再教育	小林鐵太郎 (社政) 七二三	卷五	三
軍制問題と世論の諸相	中尾 龍夫 (外時) 七二三	卷五	四
工場能率と在郷軍人の利用	成田 篤 (エゴ) 七二三	卷五	三
英國に於けるOTCの効果	伊丹 松雄 (外時) 七四四	卷五	四九〇
及現狀	伊丹 松雄 (外時) 七四四	卷五	四九〇
佛國に於ける軍事豫備教育	伊丹 松雄 (外時) 七四四	卷五	四九二
元帥停年制度論	荒木 櫻洲 (新聞) 七四四	卷五	二四五



軍人を起訴したる違法に對する非常上告の判決の主文

米國に於ける軍事教育

【軍事費】

軍費論  
物價騰貴は軍費の増加に原因す

軍事費辯護説

軍事費整理の一端に就て

軍債一千億圓

獨逸の軍費と軍事公債

軍縮剩餘金最善の使途

軍事費の見方に注意すべき要件

【軍需品】

軍事工業と民間工業との關係

歐洲交戦國の軍需品問題

兵器製造民營に就て

軍需品の製造と供給

平井彦三郎〔新報〕五三六  
堤隆〔法曹〕六五三

田島錦治〔明法〕四三六

莊田秋村〔東經〕四五五  
神戸正雄〔京法〕六二八

松原政一〔辯協〕六二七  
雪堂生〔財經〕六六四

津村秀松〔國經〕六六二  
武藤山治〔財經〕六一九

成田篤〔エコ〕六三二

升田憲元〔日經〕六三一  
稻田周之助〔日經〕六四一

大河内正敏〔財經〕六四二  
辻村楠造〔財經〕六四二

交戦國に於ける兵器問題  
露國軍需註文と粗製濫造  
戦時に於ける軍用金屬供給問題

米國民間兵器製造の現状

英國に於ける軍需品問題

軍器軍需品の製造と其の獎勵策

現戦争に於ける軍需品供給問題

軍需物件の購入方法

軍需工業動員法に就て

工業動員法の運用と軍需工業

大河内正敏〔財經〕六四二  
松崎伊三郎〔洋經〕六四一

松原行一〔財經〕六五三  
近藤兵三郎〔國國〕六五四

刑部齋〔國家〕六五二  
本多精一〔財經〕八五三

立作太郎〔國際〕六六五  
工藤重義〔國家〕六六三

榊田民藏〔經叢〕六七七  
辻村楠造〔財經〕六七五

志田鈿太郎〔法協〕四三二  
澤永太吉〔京法〕四元一

志田鈿太郎〔法協〕四三二  
澤永太吉〔京法〕四元一

志田鈿太郎〔法協〕四三二  
澤永太吉〔京法〕四元一

志田鈿太郎〔法協〕四三二  
澤永太吉〔京法〕四元一

志田鈿太郎〔法協〕四三二  
澤永太吉〔京法〕四元一

志田鈿太郎〔法協〕四三二  
澤永太吉〔京法〕四元一

志田鈿太郎〔法協〕四三二  
澤永太吉〔京法〕四元一

志田鈿太郎〔法協〕四三二  
澤永太吉〔京法〕四元一

【群馬】

群馬縣の製絲業  
群馬縣生絲販賣組合の研究

【軍備】

軍備擴張休止の萬國會議  
軍備擴張の大勢

豫算案と軍備擴張熱

米國の商業政策と軍備

軍備競争と其財源

太平洋上の國防問題

滿洲放棄乎軍備擴張乎

憲政上より見たる増師問題

軍備擴張と財政の危機

コミッション付の海軍擴張と國民經濟

軍備充實の意義

軍備、國防及國是の概念

軍備擴張と直接税の増收

無意義なる二個師團増設案

根本的軍備改良論

河田嗣郎〔經叢〕六八五  
上田貞次郎〔國經〕六七二

有賀長雄〔外時〕四三一  
植松考昭〔洋經〕四四一

瀧臺水〔東經〕四一七  
堀越善重郎〔東經〕四一七

稲田周之助〔日經〕六二二  
沼田照義〔國際〕六二二

三浦鐵太郎〔洋經〕六二二  
植原悦二郎〔國國〕六三二

八田祐二郎〔財經〕六三一  
高城仙太郎〔日經〕六三一

安田與四郎〔日經〕六三一  
西本國之輔〔國國〕六三二

田邊高雄〔三學〕六三八  
鎌田榮吉〔財經〕六三一

犬養毅〔國國〕六四三

【群馬】 【軍備】 【軍備縮少】

【クンツエ】

増師問題と大陸主義  
對外政策と増師問題

軍備競争と軍備制限

平和が因縁か日米海軍競争の狂愚

軍備とは國策の基幹

日米軍備の現状

世界の經濟と軍備

國際間に於ける猜疑心と軍備

太平洋防備問題

軍備充實と世界の大勢

歐米軍備競争の新勢

軍事費より觀た列國軍備

Protocol for the Pacific settlement of international disputes

民主政治と軍備標準法

經濟的軍備促進策

【軍備縮少】

平和會議と軍備制限問題

英獨軍備制限問題

生活難講究と軍備制限協商

蒼鷹樓主人〔財經〕六四二  
太田黒敏男〔國國〕六四三

神川彦松〔外時〕六七二  
志立鐵太郎〔財經〕六〇八

志立鐵太郎〔財經〕六〇八  
村田懋磨〔外時〕六〇七

後藤新平〔東經〕六一八  
三宅覺太郎〔外時〕六一五

松波仁一郎〔外時〕六一五  
蜷川新〔外時〕六一三

小山精一郎〔外時〕六一三  
成田篤〔エコ〕六三三

伊藤正徳〔財經〕六四二  
成田篤〔エコ〕六四三

大隈重信〔外時〕四四一  
末廣重雄〔京法〕四四二

莊田秋村〔東經〕四五五  
生活難講究と軍備制限協商

【クンツエ】

クンツエ氏の「ゲザンムト  
アクト」論に就て

聯邦國成立とクンツエ氏の  
共同行爲説

【クンツエ】 (Johannes Emil Kuntze)

クント「獨逸海外貿易發展  
策につきて」(譯)

河津暹〔日經〕四〇一

河津暹〔日經〕四〇一

河津暹〔日經〕四〇一

河津暹〔日經〕四〇一

河津暹〔日經〕四〇一

河津暹〔日經〕四〇一

河津暹〔日經〕四〇一

河津暹〔日經〕四〇一

河津暹〔日經〕四〇一

河津暹〔日經〕四〇一

河津暹〔日經〕四〇一

河津暹〔日經〕四〇一

河津暹〔日經〕四〇一

河津暹〔日經〕四〇一

河津暹〔日經〕四〇一

河津暹〔日經〕四〇一

河津暹〔日經〕四〇一

河津暹〔日經〕四〇一

河津暹〔日經〕四〇一

河津暹〔日經〕四〇一

河津暹〔日經〕四〇一

河津暹〔日經〕四〇一

河津暹〔日經〕四〇一

河津暹〔日經〕四〇一

河津暹〔日經〕四〇一

河津暹〔日經〕四〇一

河津暹〔日經〕四〇一

河津暹〔日經〕四〇一

河津暹〔日經〕四〇一

河津暹〔日經〕四〇一

河津暹〔日經〕四〇一



所謂華盛頓會議	稻原 勝治〔外時〕大六二五	三一
軍備競争と軍備制限	神川 彦松〔外時〕大七二八	三八
軍備縮少問題奈何	蜷川 新〔外時〕大八三〇	三六
國際聯盟と軍備制限問題	小山精一郎〔國際〕大九一九	二
國際聯盟と軍備制限	蜷川 新〔外時〕大九三三	三六
軍備縮少論	志立鐵次郎〔財經〕大〇一八	二
軍備制限の小觀	田川大吉郎〔國聯〕大〇一四	四
軍備縮少太平洋極東問題會議について	阪谷 芳郎〔國聯〕大〇一六	六
實業家の見たる軍備制限問題	武藤 山治〔財經〕大〇一八	六
軍備縮少會議に際し日本國民の覺醒を促す	尾崎 行雄〔國聯〕大〇一七	七
世界安定第一歩	志立鐵次郎〔財經〕大〇一八	七
太平洋會議と軍備問題	上杉 慎吉〔財經〕大〇一八	八
太平洋會議と帝國の態度	武富 時敏〔財經〕大〇一八	八
歡ぶ可き太平洋會議	志立鐵次郎〔財經〕大〇一八	八
軍備縮少と日本の將來	澁澤 榮一〔國聯〕大〇一八	八
太平洋會議と世界の民衆	陸奥 廣吉〔財經〕大〇一八	九
華盛頓會議に就て	辻村 楠造〔財經〕大〇一八	一〇
軍備制限と極東問題	田中幸一郎〔國國〕大〇一九	一一
華盛頓會議と米國の輿論	志立鐵次郎〔財經〕大〇一八	一二
軍備縮少會議の開幕		
經濟上より見たる軍備制限		

問題	瀧本 誠一〔東經〕大〇二〇八	二〇八
陸軍縮少と經濟問題	宮島清次郎〔東經〕大〇二〇八	二〇八
軍備擴張と物價關係	奥田 竹松〔東經〕大〇二〇八	二〇八
軍備縮少及太平洋並極東問題會議に就て	阪谷 芳郎〔東經〕大〇二〇八	二〇八
デナルムマンの解(軍備制限の要諦)	高橋 榮三〔國際〕大〇二〇七	二〇七
海洋の自由と軍備制限	小山精一郎〔國際〕大〇二〇七	二〇七
海軍協定案と日英米海軍力	村田 懋麿〔外時〕大〇二〇七	二〇七
國際的軍備制限問題の史的		
研究	伊藤 述史〔外時〕大〇二〇七	二〇七
所謂太平洋會議	江木 翼〔外時〕大〇二〇七	二〇七
軍備制限と太平洋會議の提		
案	稻原 勝治〔外時〕大〇二〇七	二〇七
軍備制限會議	松波仁一郎〔外時〕大〇二〇七	二〇七
太平洋會議と我國民の決心	副島 道正〔外時〕大〇二〇七	二〇七
華盛頓會議と英國	米田 實〔外時〕大〇二〇七	二〇七
華府會議觀	石川安次郎〔外時〕大〇二〇七	二〇七
軍備制限問題を中心として	村田 懋麿〔外時〕大〇二〇七	二〇七
軍備制限に就て	田中幸一郎〔外時〕大〇二〇七	二〇七
華府會議交渉上の失敗	高村 經德〔外時〕大〇二〇七	二〇七
支那の將來と太平洋會議	鷺尾正五郎〔外時〕大〇二〇七	二〇七
太平洋會議と軍備制限問題	小山精一郎〔外時〕大〇二〇七	二〇七
帝國の華盛頓會議對策	村田 懋麿〔外時〕大〇二〇七	二〇七

太平洋會議と日本	望月小太郎〔外時〕大〇三三四	四七
華盛頓會議を達觀す	建部 遜吾〔外時〕大〇三三四	四九
華盛頓會議を評す	田中幸一郎〔外時〕大〇三三四	四〇
華府會議は平和主義對軍國主義	石川安次郎〔外時〕大〇三三四	四〇
海軍協定案と日本	一海軍通〔外時〕大〇三三四	四〇
華盛頓會議評史	外交時報記者〔外時〕大〇三三四	四〇
華盛頓會議を嚴戒せよ	三宅覺太郎〔外時〕大〇三三四	四〇
國防の基準と軍備縮少限度	河野 恒吉〔財經〕大〇三三四	四一
陸軍半減論を提唱す	關 直彦〔財經〕大〇三三四	四一
軍備制限に關する條約	立 作太郎〔國際〕大〇三三四	四二
華府會議と日米	添田 壽一〔國聯〕大〇三三四	四二
ワシントン會議所感	林 毅陸〔國聯〕大〇三三四	四二
華府會議と移民問題	澁澤 榮一〔財經〕大〇三三四	四二
華府會議と戰時國際法	立 作太郎〔國際〕大〇三三四	四二
軍備縮少の根本方針	辻村 楠造〔財經〕大〇三三四	四二
ワシントン會議と其の後	澤田 節藏〔國聯〕大〇三三四	四二
海軍制限條約に於ける海	杉村陽太郎〔國際〕大〇三三四	四二
ワシントン會議に於ける海	堀 悌吉〔法政〕大〇三三四	四二
軍軍備制限(講演)		
海軍制限條約	末廣 重雄〔國際〕大〇三三四	四二
新太平洋四國協約		
支那から見た華府會議の功	清水 泰次〔外時〕大〇三三四	四三

華盛頓會議批判資料	田中幸一郎〔外時〕大〇三三四	四五
海軍制限と國民	安岡 秀夫〔外時〕大〇三三四	四五
華府會議の齟齬する支那の利益と不利益	矢野 仁一〔外時〕大〇三三四	四六
陸軍縮少問題に就て	惠美 孝三〔外時〕大〇三三四	四六
華盛頓會議の世界的失敗	建部 遜吾〔外時〕大〇三三四	四七
英佛の想敵關係と潛艇協定	伊藤 正徳〔外時〕大〇三三四	四八
四國協約の留保附批准	稻原 勝治〔外時〕大〇三三四	四九
華府會議に於ける支那の業績	檜崎 觀一〔外時〕大〇三三四	四九
我陸軍は果して縮少し得べきか	三宅覺太郎〔外時〕大〇三三四	四九
華府會議と我帝國	林 毅陸〔外時〕大〇三三四	四〇
華盛頓會議條約と世界の平和	泉 哲〔外時〕大〇三三四	四〇
軍備制限と米國海軍	松波仁一郎〔新聞〕大〇三三四	四〇
華府會議の功罪	添田 壽一〔東經〕大〇三三四	四〇
海軍比率協定の真相	小松 綠〔東經〕大〇三三四	四〇
加藤内閣と軍備縮少	末廣 重雄〔外時〕大〇三三四	四〇
軍縮論の不可解點	蜷川 新〔外時〕大〇三三四	四〇
四國條約と保留	江木 翼〔外時〕大〇三三四	四〇
再び四國條約について	江木 翼〔外時〕大〇三三四	四〇
江木氏の「四國條約論」を		



【軍備縮少】

讀む	平河 町人〔外時〕六一三六	四二
華府會議の積極政策	澤田 謙〔外時〕六一三六	四二
支那の軍備縮少問題	清水 泰次〔國際〕六三三	三七
帝國の前途と軍縮の真意義	末廣 重雄〔外時〕六三三	三七
震災後の軍縮論批判	三宅覺太郎〔外時〕六三三	三七
軍備縮少會議の再開に就て	泉 哲〔外時〕六三三	三七
第二海軍々縮會議と日本	森山 達枝〔外時〕六三三	三七
減師問題	神戸 正雄〔時經〕六三三	三七
世界の平和と軍縮會議	水野 廣徳〔國知〕六四五	四
一九二一、二年華府會議と	米田 實〔國知〕六四五	五
來るべき軍縮會議	成田 篤〔エコ〕六四三	六
各國海軍費と第二軍縮會議	伊藤 正徳〔財經〕六四三	六
華府會議に溢れた想敵觀念	武井 大助〔國家〕六四三	七八
海軍軍備制限條約の財政的		
意義		
安全保障問題に來るべき軍		
縮會議	三枝 茂智〔國知〕六四三	五
補助艦建造計畫問題	川島清治郎〔エコ〕六四三	三
姑息なる補助艦の一部承認	成田 篤〔エコ〕六四三	三
第二軍備縮少會議如何	稻田周之助〔外時〕六四三	四
第二軍縮會議に直面して	伊藤 三郎〔外時〕六四三	四
米國の軍備縮少外交	大島 高精〔外時〕六四三	四
列國海軍の配置と第二軍縮	成田 篤〔外時〕六四三	四
會議		

第二華府會議と日本の體面	岡本 剛〔外時〕六四四	四九〇
問題	稻原 勝治〔外時〕六四四	四九〇
第二軍縮會議を中心に	坂本 俊篤〔外時〕六四四	四九〇
佛國と華府會議	石丸 藤太〔外時〕六四四	四九八
列強の補助艦艇競争と日本		
平和議定書の末路と軍縮會		
議		
ロカルノ條約と軍縮問題	坂本 俊篤〔外時〕六四四	五〇一
補助艦問題の嚴正批判	坂本 俊篤〔外時〕六四四	五〇四
聯盟六星霜の軍縮運動	石丸 藤太〔外時〕六四四	五〇五
軍縮會議と日本	三枝 茂智〔國知〕六四五	一
補助艦建造と潜水艦廢止問	石丸 藤太〔國知〕六四五	六
題		
軍縮問題と日本	坂本 俊篤〔外時〕六四五	五〇六
暗礁上の補助艦問題	高木 信威〔外時〕六四五	五〇七
國際聯盟と軍備縮少	成田 篤〔外時〕六四五	五〇七
軍縮會議と日本の安全保障	奥野 七郎〔外時〕六四五	五〇九
問題	石丸 藤太〔外時〕六四五	五〇九
軍縮會議準備委員會の議題		
を評す	坂本 俊篤〔外時〕六四五	五〇九
軍縮會議と日本	町田 梓樓〔外時〕六四五	五〇五
軍縮豫備會議の收穫	坂本 俊篤〔外時〕六四五	五〇七
聯盟軍縮會議の根本觀	小林順一郎〔外時〕六四五	五〇七

【軍備制限】

軍備縮少を見よ

【軍法會議】

軍法會議の公開を論ず	松波仁一郎〔國家〕六三二八	三
軍法會議論	松波仁一郎〔志林〕六三二八	三
軍法會議と辯護權	松波仁一郎〔新報〕六三二四	四
海軍軍法會議と上訴權	松波仁一郎〔法協〕六三二三	七
軍法會議の文官判士論	松波仁一郎〔國家〕六三二八	八
軍法會議（講演）	花井 卓藏〔辯協〕六三二八	一八
海軍軍法會議の公開	松波仁一郎〔新聞〕六三二一	一八
軍法會議常設論	松波仁一郎〔國家〕六四二九	四
佛國軍法會議の裁判管轄權	寺田 四郎〔志林〕六五一八	六一
軍法會議の本質に就て	富山 單治〔法叢〕六〇六	三
軍法會議法に就て	志水小一郎〔新報〕六〇三	八九
軍法會議法の一瞥	田崎 治久〔新聞〕六〇一	一八九
獨逸人に對する佛國軍法會		
議の判決	鹽田 環〔志林〕六三二五	五
マインツ佛國軍法會議の判		
決	鹽田 環〔法協〕六三二四	七
獨逸に於ける軍法會議廢止	松永 義雄〔辯協〕六三二八	三

【軍備制限】



ケ部

刑

刑罰を見よ

【經】

【營】

參照||科學的管理法。企業。專業。

企業及經營の意義に關する疑問

經營と企業の意義に就て

企業と經營

再び企業と經營との意義に就て

事業經營の新勢と會計學

事業經營學に就て(講演)

日文共同經營論

經營權分配制度を論ず

獨逸に於ける經營の社會化に就て

我が大經營化の金融的源泉

獨逸に於ける經營協議會制度

上田 孝三(社政)大二〇一

關 一(國經)四四一〇

二宮 丁三(會計)大六二

志田 鈞太郎(保評)大七一

中橋 德五郎(法論)大七一

堀江 歸一(三學)大九一四

岡田 重次(國經)大〇三二

高島 佐一郎(國經)大〇三二

上田 孝三(社政)大二〇一

經營上より觀たる原價計算

經營學に於ける經營概念の

方法論的研究

伯林商科大學經營學研究室

の組織及經營

伯林商科大學經營學研究室

當期題材

會計より觀たる物價と經營

との關係に就て

經營組織に關する勞働立法

に就きて

市場經濟と經營經濟

石黒 武松(會計)大二二

杉村 廣藏(商研)大二二

平井 泰太郎(國經)大二三

平井 泰太郎(國經)大二三

原口 亮平(國經)大四三

森山 武市郎(法治)大四四

向井 鹿松(三學)大四一九

渡邊 洪基(統集)四二〇

植松 考昭(洋經)四四二

飯島 千代太(東經)四四三

植松 考昭(洋經)四四四

井上 辰五郎(日經)大三一

氣賀 勘重(三學)大四九

本多 精一(財經)大四二

池田 實(商經)大六一

【景氣】

商業不景氣回復論

好景氣は何れの時を以て來

るべき

日韓合邦と景氣恢復

不景氣の再來

不景氣の由來及び効果

不景氣は資本活用の好機

景氣循環論の一節

參照||恐慌。金融。經濟專業。

金融調節は景氣持續の要道

好景氣の反動と物價

不景氣來と失業問題

中間景氣の研究

景氣は何時回復するか

金融の趨勢と中間景氣

株式市價と金融及景氣との

關係

我國の景氣を刺戟する外部

事業

景氣循環による社會的弊害

の緩和策

景氣判斷と對策樹立の一材

料としての物價指數

不景氣の原因

不景氣と租稅

景氣變動緩和策と金融組織

景氣恢復の時期如何

不景氣策

貨幣購買力の意義と景氣の

基調

景氣の良否と金解禁問題

物價と景氣

生活線より見たる景氣現象

本多 精一(財經)大六四

神戶 正雄(經叢)大九一〇

宇都宮 治郎(社政)大二〇一

飯田 清三(銀研)大二三

山形 東根(東經)大二八四

堀江 歸一(エヨ)大二一

池田 龍藏(銀研)大二四

神戶 正雄(時經)大三一

池田 龍藏(三學)大二一七

村本 福松(商經)大二一

石橋 湛山(洋經)大一一〇

神戶 正雄(經叢)大二三

勝田 貞次(銀研)大三七

堀江 歸一(エヨ)大三一

神戶 正雄(時經)大三一

勝田 貞次(銀研)大四八

岡村 透(銀叢)大四四

岡田 喜三郎(銀叢)大四四

勝田 貞次(商事)大四五

景氣豫報の實現

景氣不景氣の循環に就て

今年の景氣

財界推移と景氣の前途

景氣回復の道程

金融景氣の特色と其限界

積極政策と景氣恢復

景氣循環と銀行

社會の改善と藝妓問題

藝妓見番の會計

經濟上に於ける強者と弱者

戰爭と經濟

經濟と法律

外交と經濟に關する實況並

學理

【藝妓】

參照||娼妓。

寺尾 亨(刑評)四四二

中西 新兵衛(會計)大一一〇

參照||海運。貨幣。恐慌。銀行。

金融。景氣。經濟學。經

濟政策。工業。交通。財政。

産業。資本。社會。商業。

信用。貯蓄。統計。農業。

物價。保險。貿易。

松崎 藏之助(志林)四三二

土子 金四郎(國家)四三二

添田 壽一(新報)四三九

金井 延(明法)四三四



法律と經濟	梅 謙次郎〔志林〕四三 年 卷 二五
エコノミックスとテクニックス	金井 延〔新報〕四五 二 一八三
技術と經濟	神戶 正雄〔國家〕四五 一六 一八三
經濟と經濟行爲の概念に關する誤謬	福田 德三〔國家〕四三 一七 二〇〇
穀價の高低と國民經濟	河津 暹〔法協〕四三 一七 二〇〇
經濟の本則と營利主義	福田 德三〔法政〕四三 一七 二〇〇
國民經濟の堅忍持久	金井 延〔法協〕四三 一七 二〇〇
經濟單位及經濟組織	山内 正勝〔新報〕四三 一七 二〇〇
自然と經濟との關係	石橋 五郎〔國經〕四三 一七 二〇〇
先づ國民經濟の基礎を鞏固にせよ	加納 久宜〔日經〕四三 一七 二〇〇
經濟と道德	河上 肇〔日經〕四三 一七 二〇〇
國民經濟發展の標的を論ず	河津 暹〔日經〕四三 一七 二〇〇
經濟的活動の道義的指揮	神戶 正雄〔日經〕四三 一七 二〇〇
權力と法律と經濟	松崎藏之助〔法協〕四三 一七 二〇〇
病的經濟論	前橋伊入郎〔明學〕四三 一七 二〇〇
國際經濟競争と我が國民經濟政策の大本	神戶 正雄〔京法〕四三 一七 二〇〇
經濟組織に關する研究	阿部 秀助〔志林〕四三 一七 二〇〇
法律と經濟との關係について	仁保 龜松〔京法〕四三 一七 二〇〇
「經濟十二論」梗概	河上 肇〔京法〕四三 一七 二〇〇
經濟範圍擴張の大勢	小林丑三郎〔東經〕四三 一七 二〇〇
經濟上に於ける人格の價值	河田 嗣郎〔日經〕四三 一七 二〇〇
地方經濟に就て	床次竹次郎〔三學〕四三 一七 二〇〇
經濟行爲の觀念	河上 肇〔國經〕四三 一七 二〇〇
經濟行爲の本質を論じて其の賤視せらるゝ所以に及ぶ	河上 肇〔國家〕四三 一七 二〇〇
社會主義と經濟	河上 肇〔國家〕四三 一七 二〇〇
Sozialismus, Sozialwirtschaft und Sozialpolitik	河上 肇〔國家〕四三 一七 二〇〇
社會主義、社會經濟及社會政策	河上 肇〔國家〕四三 一七 二〇〇
經濟生活の内容及基礎を論じて河上教授の教を乞ふ	河上 肇〔國家〕四三 一七 二〇〇
戰爭と財政及經濟	河上 肇〔國家〕四三 一七 二〇〇
經濟と道德の調和	河上 肇〔國家〕四三 一七 二〇〇
水力電氣と國民經濟との關係を論ず	河上 肇〔國家〕四三 一七 二〇〇
國民經濟上の杞憂	河上 肇〔國家〕四三 一七 二〇〇
經濟と倫理	河上 肇〔國家〕四三 一七 二〇〇
外國貿易と國民經濟の權衡	河上 肇〔國家〕四三 一七 二〇〇
經濟生活の要素	河上 肇〔國家〕四三 一七 二〇〇
盜賊と經濟	河上 肇〔國家〕四三 一七 二〇〇

經濟法律演習論	小川郷太郎〔京法〕大 二 八 九
經濟道德論	小林丑三郎〔東經〕大 二 八 九
續經濟道德論	大澤菊太郎〔東經〕大 二 八 九
支那古代に於ける法制經濟關係文字	後藤朝太郎〔國家〕大 二 八 九
經濟的努力論	堀切善兵衛〔三學〕大 二 八 九
經濟的進歩	米田庄太郎〔京法〕大 二 八 九
流行の心理と現代經濟生活商業學の意義と存在並に國民經濟に關する關係	熊崎 良〔國經〕大 二 八 九
經濟現象としての現戰役	安田與四郎〔日經〕大 二 八 九
經濟上の根本問題	添田 壽一〔財經〕大 二 八 九
經濟と道德との關係	田島 錦治〔京法〕大 二 八 九
經濟生活に對する國家の干渉	細井安次郎〔國經〕大 二 八 九
經濟生活論	鹽島 仁吉〔東經〕大 二 八 九
經濟と技術	增井 光藏〔國經〕大 二 八 九
基本的なる經濟的權利	米田庄太郎〔京法〕大 二 八 九
社會問題と經濟及び道德	山田 利淳〔東經〕大 二 八 九
經濟主義に就て	戸田 海市〔經叢〕大 二 八 九
危險分散主義の原則(合理	神戶 正雄〔經叢〕大 二 八 九
的經濟並生活の原則)	西 彦太郎〔經叢〕大 二 八 九
ライプチヒ大學の經濟演習	西 彦太郎〔經叢〕大 二 八 九
戰爭と經濟國家主義	楠田 民藏〔國家〕大 二 八 九
經濟雜話	田島 錦治〔經叢〕大 二 八 九
經濟漫錄	瀧本 誠一〔經叢〕大 二 八 九
區別さるべき經濟生活の二様式	丸谷 喜市〔國經〕大 二 八 九
經濟と技術	舞出長五郎〔國家〕大 二 八 九
國民經濟の基礎を擴大す可し	堀切善兵衛〔三學〕大 二 八 九
保險と經濟	小島昌太郎〔保雜〕大 二 八 九
經濟的行爲と道德的行爲との關係	田島 錦治〔經叢〕大 二 八 九
世界經濟の成立	作田 莊一〔亞經〕大 二 八 九
戰時經濟と「社會的最小限」	森戸 辰男〔國家〕大 二 八 九
經濟生活の意義	山口正太郎〔商經〕大 二 八 九
藝術と經濟	阿部 秀助〔三學〕大 二 八 九
經濟生活革新運動	河津 暹〔國家〕大 二 八 九
經濟道德の新解釋	石澤久五郎〔國經〕大 二 八 九
經濟循環期論	財部 靜治〔經叢〕大 二 八 九
經濟現象の定量的觀察	山口正太郎〔商經〕大 二 八 九
大經濟地域及小經濟地域	馬場 誠〔國經〕大 二 八 九
經濟生活の道德化	神戶 正雄〔經叢〕大 二 八 九
人格主義の立場に於ける經濟と人生の一考察	石川 興二〔經叢〕大 二 八 九



ゲセルの「自由經濟論」 論語に於ける經濟道德	園 乾治〔三學〕大九一四
經濟社會に對する史的考察 無自覺なる經濟生活	齋藤 要〔法政〕大九一七
古美術と經濟	淺野 研真〔法政〕大九一七
經濟單位の概念と其變遷	波多野 堯〔洋經〕大九一七
經濟生活の本質	黒田太久馬〔東經〕大九一七
經濟進歩の一面觀	伊藤 久秋〔商經〕大九一七
世界經濟の整理	大野 辰見〔商經〕大九一七
世界經濟の思想と其實況	平井常次郎〔商經〕大九一七
經濟生活と法律生活との矛盾	小林丑三郎〔商經〕大九一七
經濟道と經濟術	福田敬太郎〔國經〕大九一七
經濟力保存論	館田 謙吉〔商經〕大九一七
世界經濟の研究	作田 莊一〔經叢〕大九一七
支那史料に現はれたる日本 最古の經濟生活	河津 遼〔商經〕大九一七
我國經濟生活の諸特徴 ウキリアム・モリスの觀た る中世經濟生活	岡野文之助〔國聯〕大九一七
世界經濟上の諸問題	橋本 增吉〔亞經〕大九一七
現代經濟組織の社會哲學的 批判	堀 經夫〔經叢〕大九一七
	佐野 學〔我等〕大九一七
	加田 哲三〔三學〕大九一七
	堀江 歸一〔銀研〕大九一七
	納 武 津〔東經〕大九一七
社會及經濟	楠田 民藏〔我等〕大九一七
時局緊急の經濟關係諸勅令	神戶 正雄〔經叢〕大九一七
經濟と自然	大内 武次〔經商〕大九一七
經濟封鎖の研究	齋藤 春次〔新報〕大九一七
經濟行動と心理學	福富 一郎〔臺法〕大九一七
世界經濟と植民政策	長田 三郎〔商經〕大九一七
經濟社會の存立及其發達を 論ず	津田 武二〔國經〕大九一七
世界經濟と日米貿易	アボット〔東經〕大九一七
世界經濟の意義	作田 莊一〔經叢〕大九一七
經濟社會と貨幣概念	土方 成美〔社雜〕大九一七
國民經濟と世界經濟	財部 靜治〔經叢〕大九一七
經濟組織の發達と貨幣の職 能	增井 光藏〔國經〕大九一七
經濟現象の一考察	山口正太郎〔國經〕大九一七
經濟單位に關する考察	田中 俊彦〔長彙〕大九一七
經濟調査の理論と方法	松田 義雄〔國家〕大九一七
共同經濟	田中 貢〔經商〕大九一七
吾國古代の經濟生活	大内 武次〔經商〕大九一七
關東震災の對策と經濟生活 の様式	竹島富三郎〔商經〕大九一七
法律と經濟	竹井 廉〔新聞〕大九一七
儀式經濟	大内 武次〔經商〕大九一七

白人經濟對東洋經濟 宗教生活と經濟生活カルツ イニズムの英國經濟に及 ぼせる影響について	柏田 忠一〔亞經〕大九一七
倫理と經濟との關係	笹森 健三〔商經〕大九一七
法律及經濟の一元論的考察	財部 靜治〔經叢〕大九一七
經濟生活に於ける心理學的 應用	山内 正歐〔商研〕大九一七
經濟と社會	水上森太郎〔法治〕大九一七
「行動」の社會性と「經濟 行爲」の反社會性	岸本誠二郎〔經研〕大九一七
政治と經濟の改造	長谷川萬次郎〔我等〕大九一七
經濟危機の社會心理的觀察	小林丑三郎〔經商〕大九一七
國民經濟の國際化	川邊喜三郎〔社雜〕大九一七
經濟一斑	高柳松一郎〔國知〕大九一七
效用及び費用の概念と經濟 の概念	志村源太郎〔統集〕大九一七
カアバアの新經濟革命論	高木友三郎〔法集〕大九一七
經濟とは何ぞや	野村兼太郎〔我等〕大九一七
經濟の哲學的基礎	高田 保馬〔經研〕大九一七
國民經濟か世界經濟か	小林丑三郎〔經商〕大九一七
新經濟原則と新經濟生活	西 雅雄〔マル〕大九一七
經濟生活の基礎條件	勝田 貞次〔イン〕大九一七
南亮三郎著「最新學說流通	松下 芳男〔法政〕大九一七
經濟の原理	丸谷 喜市〔國經〕大九一七
經濟學は應用せられたる人 生學の結果	參照 價格、價值、貨幣、銀行、 金融、經濟、經濟政策、限界 效用、財產、財政、產業、資 本、資本主義、社會學、社會 主義、需要と供給、商業、 所得、消費、人口、信用、 生産、租稅、地代、賃銀、 統計、富、農業、貧困、物 價、分配、貿易、報酬漸減、 利益分配、利子、利潤、勞働 と資本、勞働及び勞働階級 (スミスの國富論に就ては「スミス 國富論」を参照)
經濟學並統計學を論ず	九谷 喜市〔國經〕大九一七
經濟學上人員學の應用	利美 利美〔統集〕大九一七
統計學と經濟學との關係	殖田直太郎〔統集〕大九一七
ボアソナー氏の經濟論を 評す	河合 利安〔スタ〕大九一七
現時日本に於ける經濟學の 地位を論じて所感を述ぶ	横山 雅男〔統集〕大九一七
經濟學研究の方法としての 統計	金井 延〔法協〕大九一七
	田島 錦治〔法協〕大九一七
	吳 文聰〔統雜〕大九一七



經濟學小史	岩政 憲三〔新報〕明三〇年 七卷 七五
ワグネル述獨逸諸大家の經濟學及社會主義	持地六三郎〔國家〕明三〇年 七卷 七三
經濟學の定義及分科に付て	高野岩三郎〔國家〕明三一〇年 八卷 一三六
經濟學の基本原理及其重要な所以を論ず	神戸 正雄〔國家〕明三二〇年 一七三
經濟の意義、種類を論じ吾國歷史上經濟階級の實際的活動に及ぶ	山内 正敏〔國家〕明三五〇年 二二〇
時勢と經濟學	金井 延〔志林〕明三六〇年 五〇〇
經濟理法を論ず	小林丑三郎〔明法〕明三六〇年 一五二
經濟學の根本問題に關し現代諸大家の學說を評して	河上 肇〔國家〕明三六〇年 一九八
自家の所見を述ぶ	福田 徳三〔國家〕明三六〇年 一九八
トマス・ダキノの經濟學說	和田垣謙三〔法政〕明三七〇年 八十二
經濟學の起原と其沿革に就て	山内 正敏〔志林〕明三八〇年 七三
經濟學の分類に就て	山内 正敏〔志林〕明三八〇年 七五
經濟基本論に對する疑義	山内 正敏〔新報〕明三九〇年 一五
經濟意義論の概要	松崎藏之助〔國經〕明三九〇年 一六
正統經濟學派及歴史經濟學派の經濟政策に對する關係に地位を論ず	
歴史並經濟學派と經濟的史	
獨逸經濟學派の趨勢	阿部 秀助〔志林〕明四〇〇年 九二六
諸經濟學派の經濟政策觀	高岡 熊雄〔國經〕明四〇〇年 二
經濟學者無用論及其批評	松崎藏之助〔日經〕明四〇〇年 一四
最新經濟學派殊に社會政策及社會主義の經濟政策に對する關係並に地位を論ず	河上 肇〔明學〕明四〇〇年 一四五
河上 肇〔日經〕明四〇〇年 一四五	
福田博士の「經濟學講義」集義和來に現れたる熊澤蕃	松崎藏之助〔國家〕明四〇〇年 二五
山内 正敏〔國家〕明四〇〇年 三六	
山の經濟學說	瀧本 美夫〔國經〕明四〇〇年 三六
經濟學史の研究に就て	河上 肇〔國家〕明四〇〇年 一〇
東洋經濟學の建設	阿部 秀助〔志林〕明四〇〇年 九二
英國經濟學界の近狀	山路 愛山〔日經〕明四〇〇年 一〇
中井竹山の草莽危言に於ける經濟學說	原島 茂〔國經〕明四〇〇年 四四
佛國經濟學界の近狀	松崎 壽〔國經〕明四〇〇年 五五
晚近伊太利經濟學の發達と斯學研究の新趨向	高木 二郎〔國經〕明四〇〇年 五五
經濟學參考書搜索指針	神戸 正雄〔京法〕明四〇〇年 三七八
アンシュレー教授の大學經濟科繁榮策に就て	神戸 正雄〔京法〕明四〇〇年 三三
經濟學史上の一奇觀	河上 肇〔京法〕明四〇〇年 一
	小川 節〔三學〕明四〇〇年 一

經濟原論の内容區分に付て	瀧本 美夫〔國經〕明三九〇年 七卷 一
經濟學の内容區分に關する瀧本君の論文に就ての疑點一	福田 徳三〔國經〕明四〇〇年 七二
歸納的眞理の價値の大小	河上 肇〔國經〕明四〇〇年 七二
經濟學研究法に就て福田博士に教を乞ふ	河上 肇〔國經〕明四〇〇年 七五
陽明學と經濟學	山路 愛山〔日經〕明四〇〇年 五五
經濟學上に法則なし	河上 肇〔日經〕明四〇〇年 五七
經濟學の基本觀念に關する管見	吉野 作造〔日經〕明四〇〇年 五九二
正統學派の功罪及び經濟學の現状	河上 肇〔日經〕明四〇〇年 五九二
法律學と經濟學の接觸點	山口 弘一〔國經〕明四〇〇年 八一
實際經濟政策に對する經濟學の意義	小泉 信三〔三學〕明四〇〇年 三
經濟學上の常規を論ず	財部 靜治〔新報〕明四〇〇年 三三五
我國經濟學界の急務	他島 誠三〔日經〕明四〇〇年 一〇五
經濟學と經濟法則	河上 肇〔國經〕明四〇〇年 一〇六
計理學と經濟學との關係に就て	佐野 善作〔日經〕明四〇〇年 九二
日英經濟思想の相違	大越 成徳〔東經〕明四〇〇年 一五九
ロンドン經濟政治學校講義	上田貞次郎〔國經〕明四〇〇年 二
目錄	
福田博士著「經濟學教科書」を讀む	寺尾 隆一〔國經〕明四五〇年 三
經濟學の原理に關する一疑點	稻田周之助〔日經〕明四五〇年 八
レオン・クラア及びピロザンヌ學派	高田 保馬〔國經〕大九〇年 五
經濟學上の法則と其研究法	瀧 正雄〔京法〕大二八〇年 一
左右田學士の「經濟法則の論理的性質」を讀む	高田 保馬〔京法〕大二八〇年 一四
福田博士に答ふ	瀧 正雄〔國經〕明四二〇年 一
獨逸最近の經濟學(講演)	阿部 秀助〔國家〕大二二七〇年 二
因はれたる經濟學	大西猪之助〔國經〕大二二四〇年 二五
「内外經濟名著」の刊行	河上 肇〔京法〕大二二八〇年 六
經濟學者と社會學者	山口鎌治郎〔國經〕大二三六〇年 二
徳川時代の經濟學說に就て(講演)	瀧本 誠一〔國家〕大三二八〇年 四
純理的國民經濟學の對象及根本概念	飯島 幡司〔國經〕大三二七〇年 四
十七、八世紀に於ける和蘭經濟學說	福田 徳三〔三學〕大三八〇年 四九
維新前の經濟書に就いて(講演)	内田 銀藏〔國家〕大三二八〇年 四六
經濟學の職分	作田 莊一〔國家〕大三二八〇年 六
世界經濟學の要求と其意義	阿部 秀助〔日社〕大三一〇〇年 一



經濟學に自然法ありや カント認識論と純理經濟學	飯島 幡司〔國經〕大四一九 左右田喜一郎〔國經〕大四一九	五
經濟學の三様式	安田與四郎〔日經〕大四一六 左右田喜一郎〔經叢〕大四一	八
經濟學認識論の若干問題	田島 錦治〔經叢〕大四一 大矢和 昇〔三學〕大四一	一一
孔孟の政治經濟說管見	大矢和 昇〔三學〕大四一	一一
經濟學の科學的性質の變遷	デヅキツド・ヒュームの經 濟學說	一二
經濟學に於ける法則の意義	福田 徳三〔經叢〕大五二 山口正太郎〔國經〕大五二	一三
瀧本誠一氏の草莽危言摘義 の解題に就て	山口正太郎〔國經〕大五二	一三
本多利明の經濟說	鈴木券太郎〔經叢〕大五三 本庄榮治郎〔經叢〕大五二	一六
ラッソー「ミール」學說の 研究	大塚金之助〔經叢〕大五三	一四
本多利明の經濟說に關し本 庄學士の教を乞ふ	福田 徳三〔經叢〕大五三	一
本多利明の經濟說に關し福 田博士の高教に答ふ	本庄榮治郎〔經叢〕大五三	二
神惟孝の事に就き鈴木券太 郎氏に答ふ	瀧本 誠一〔經叢〕大五三 高島佐一郎〔三學〕大五二	四
米國經濟學思潮の今昔	高島佐一郎〔三學〕大五二	四
所得を中心とする經濟理論 の結構	小泉 信三〔三學〕大五二	一〇
グレシャムの法則と徳川時 代の經濟學說	増井 幸雄〔三學〕大六一 高橋誠一郎〔三學〕大六一	一
フランソア・ケネーの經濟 論	高橋誠一郎〔三學〕大六一 米田庄太郎〔經叢〕大六一	一
經濟心理學の組織的研究	米田庄太郎〔經叢〕大六一	一五
「一經濟學者の第二思想」 を讀む	河上 肇〔經叢〕大六四	二
アーノルド・トインビーと 經濟學	武藤 長藏〔經叢〕大六四	三
沙翁の著書として誤傳せら れたる匿名代の經濟論	高橋誠一郎〔三學〕大六一 堀内 泰吉〔國經〕大六三	四
商業教育と經濟學	堀内 泰吉〔國經〕大六三	四
心理學者の經濟學觀	山口正太郎〔國經〕大六三	五
ムーア教授の經濟學說に就 て	矢野 貫城〔國經〕大六三	五
英國の産業革命當時と其後 に於ける經濟思想と産業 政策との關係	石澤久五郎〔國經〕大六三	五六
希臘經濟思想の特質及び價 値	舞出長五郎〔國家〕大六三 舞出長五郎〔國家〕大六三	八
經濟學史について	舞出長五郎〔國家〕大六三	一〇
サー・キリアム・ベチイの 國富論	高橋誠一郎〔三學〕大六一 西村文太郎〔國經〕大六六	一〇
天理學派論	西村文太郎〔國經〕大六六	一〇
カント國家及法律哲學と論	西村文太郎〔國經〕大六六	一〇

理形式主義經濟學	福田 徳三〔三學〕大七二	一三
經濟學に於ける論理主義と 心理主義	山口正太郎〔國經〕大七二	一
經濟原理四分法の辯	三邊 金藏〔三學〕大七二	一一
自然科學派經濟學	大西猪之介〔國經〕大七二	三六
純理論派經濟學の立脚點と 其限界	山口正太郎〔國經〕大七二 高島佐一郎〔國經〕大七二	四
名譯讀餘の感想	高島佐一郎〔國經〕大七二	四
徳川時代の經濟學說	本庄榮治郎〔經叢〕大七七	六
經濟學と社會的過程	舞出長五郎〔國家〕大七三	八
Tableau Economique(經濟表) の解説	三邊 金藏〔三學〕大七三	一一〇
クセノフオンの諸著に現は れたる經濟思想	高橋誠一郎〔三學〕大七三	三三
新カント派認識論と經濟學	山口正太郎〔商經〕大七一	三
徳川時代に於ける大阪の經 濟學說	瀧本 誠一〔商經〕大七一	九一〇
近世に於ける經濟思想の變 遷	高橋誠一郎〔我等〕大八一	三
經濟學部の分立	河津 進〔國家〕大八三	四
Ophéliméの極大を論ず	手塚 壽郎〔國經〕大八七	四
フキツシャー「世界改造と 經濟學者の任務」	三上 正毅〔國國〕大八七	五
國民經濟學と私經濟學との 關係	トオマス・ホップスの政治 哲學中に現はれたる經濟 學說	渡邊 鐵藏〔國家〕大八三
優生學と經濟學	高橋誠一郎〔三學〕大八三	七
ジョン・ロックの哲學と其 經濟學說との交渉	糸井 靖立〔國家〕大八三	七九
私經濟學の本質及其研究範 圍	高橋誠一郎〔三學〕大八三	八九
デザイド・ヒュームの經濟 學說	渡邊 鐵藏〔國家〕大八三	九二
私經濟學發達史	高橋誠一郎〔三學〕大八三	一一一
米國經濟學史略	渡邊 鐵藏〔國家〕大八三	一一三
意志の自由と經濟學	財部 靜治〔商經〕大八一	一五
第十八世紀英國經濟學の道	舞出長五郎〔經學〕大八一	一
德哲學的基礎	東 晋太郎〔國經〕大九二	一一
アウスピッツ・リーベン曲 線	手塚 壽郎〔國經〕大九二	二
大西教授著「伊太利亞の旅」 と「囚はれたる經濟學」	左右田喜一郎〔國經〕大九二	四
附福田博士著「經濟學研 究」合卷	石川 與二〔經叢〕大九二	四
經濟學不進歩の原因に就き て	石川 與二〔經叢〕大九二	四



Tactus 並に Caesar の記 録に對する一見解	津田 武二〔國經〕大九二八 五號
ラスキン・ムネラ・ブルツ エリホツプスの政治	大熊 信行〔國經〕大九二九 一一二
經濟學の發端 Richard Cant- illon	福田敬太郎〔國經〕大九二九 四一五
アンドリュウ・ヤラントンの 經濟論	高橋誠一郎〔三學〕大九二四 六
英國現代の經濟學者と社會 主義	三田村一郎〔經叢〕大九二二 六
東洋の經濟思想と荒政	小島 憲〔國國〕大九八六 一〇〇
フイヒテの經濟觀	阿部 秀助〔三學〕大九二四 二〇〇
フォルトレーの經濟論	山口正太郎〔商經〕大九二一 一九
ロオドベルトスの經濟學說 補遺	小泉 信三〔三學〕大〇一五 一三
社會法學派經濟學	伊藤 久秋〔商濟〕大〇一 一
リーフマン經濟原論の心理 的立脚地	山口正太郎〔國經〕大〇三〇 二
シュテフインガットの經濟哲 學の解説	山口正太郎〔同論〕大〇一 五
經濟學者と一社會主義者と の立會演說	河上 肇〔社問〕大〇一 二六
經濟的合理主義の基礎	福田敬太郎〔國經〕大〇三 二六
戦後の經濟思想	小林丑三郎〔社政〕大〇一 二〇

中世に於ける經濟思想 經濟學の革命	關 未代策〔國國〕大一〇 一一
牛津劍橋兩大學經濟學科新 課程	河上 肇〔經叢〕大一一 一五
古代希臘及び羅馬に於ける 經濟思想	北村 五良〔國經〕大二三 一
中世經濟思想史序論	關 未代策〔國國〕大一一〇 一
經濟哲學の概念と其の限界	向井 章〔法政〕大一一九 一四
經濟學界の發表數種	館田 謙吉〔經商〕大一一 一
Adam Smith 以前	小泉 信三〔我等〕大一一 一
經濟靜學觀	關 未代策〔經商〕大一一 一五
清教倫理的經濟思想	高田 保馬〔國經〕大一一 三三
アダム・スミスと經濟學	福田敬太郎〔國經〕大一一 三三
中世經濟思想の特色	河合榮治郎〔國家〕大一一 三六
ジェレミー・ベンサムと經 濟學	向井 章〔法政〕大一一 一九
サー・キリヤム・テンブル の經濟論	河合榮治郎〔經論〕大一一 一
ジェイ・エス・ミルと經濟 學の定義	高橋誠一郎〔三學〕大一一 二六
トウロブリアンド島人の原 始經濟學に就て(譯)	榎本 鏡治〔三學〕大一一 二六
經濟學の自然科學的基礎	石田秀一郎〔同論〕大一一 二七
リスト歴史派經濟學	上原 好咲〔三學〕大一一 二六
	山口正太郎〔經叢〕大一一 二五

原田法學士譯「ボリユー經 濟學原論」	小川福太郎〔經叢〕大一一 二五
現代經濟學の一面	加田 哲二〔財經〕大一一 二九
貨幣中心の經濟學	大野 辰見〔商經〕大一一 二九
心理學的經濟學說に關する 若干の考察	高垣寅次郎〔商研〕大一一 一
經濟學に於ける自然法則の 觀念(譯)	阿部 賢一〔同論〕大一一 八
經濟學史上のウイリアム タムソン(譯)	波多野 鼎〔同論〕大一一 九
ブラトリーの經濟思想	住谷 悦治〔同論〕大一一 九
歴史派經濟學と史學方法論	山口正太郎〔商經〕大一一 二六
アダム・スミスの經濟學	關 未代策〔經商〕大一一 二七
飯島樞司著「デイド修正經 濟學原論」を讀む	高島佐一郎〔國經〕大一一 三五
恒藤恭著「ジムメルの經濟 哲學」	増井 光藏〔國經〕大一一 三五
古典派、俗流、歴史派及マ ルクス派經濟學	ルクセンブルグ〔原雅〕大一一 一
タブーとしての近代經濟學 說	出井 盛之〔我等〕大一一 一五
歴史派經濟學發達の經路	山口正太郎〔經叢〕大一一 一七
リーダー教授の經濟學理 論上の結構	有澤 廣巳〔經論〕大一一 二

希臘經濟思想概観	梅北 末初〔商研〕大一一 二
經濟學史上のベツカリヤ	小川福太郎〔經叢〕大一一 二七
經濟學に於ける概念構成の 問題	李 永霖〔國經〕大一一 二四
經濟學及び社會思想の唯物 史觀概論	榎田 民藏〔我等〕大一一 二五
希臘思想の背景と經濟論の 萌芽	谷口彌五郎〔我等〕大一一 二五
クエイカの經濟思想	上田辰之助〔國經〕大一一 二四
カントに歸つて經濟學を論 ず	勝田 貞次〔三學〕大一一 二七
リカード經濟論文集の刊行	谷口 吉彦〔經叢〕大一一 二七
經濟原論と經濟政策	大内 武次〔經商〕大一一 二二
所謂經濟法學の出現に就て	竹井 廉〔志林〕大一一 二五
アダム・スミスと其後の佛蘭 西經濟學說	増井 幸雄〔三學〕大一一 二七
アダム・スミスの理論經濟學 概論	小島 信三〔三學〕大一一 二七
アダム・スミスの理論經濟學 體系に就て	松浦 要〔新報〕大一一 三三
經濟學の科學的性質と經濟 法則の意義	勝田 貞次〔三學〕大一一 二七
現代社會思潮と最近の經濟 思想	永井 亨〔社政〕大一一 三九



經濟學と統計學	郡 菊之助〔商叢〕大二 一 卷一 一號
リストの國民經濟學	古屋 美貞〔同論〕大二 一 二
經濟學の自然哲學的基礎 (ブルガコフ)	恒藤 恭〔同論〕大二 一 二
アダム・スミスのフイデオク ラート批評	村松恒一郎〔商研〕大二三 一
經濟現象に於ける權力關係	長谷川萬次郎〔原雜〕大二三 一
經濟學の基礎觀念	小林丑三郎〔經商〕大二三 一
ケネーの經濟表と唯物史觀 との交渉	榑田 民藏〔原雜〕大二三 一
スミスと浪漫派經濟學	山口正太郎〔經叢〕大二三 一八
和學者の經濟學說	瀧本 誠一〔三學〕大二三 一八
マルクスの經濟學說を克服 する唯一の方法	カウツキー〔原雜〕大二三 二
高橋龜吉著「經濟學の實際 知識」	山川 均〔マル〕大二三 一 九
ヘーゲルの哲學史とマルク スの經濟學史	久留間敏造〔原雜〕大二三 二
ラッサール經濟學說の研究	山口正太郎〔我等〕大二三 六
經濟學の再建と消費問題	柳澤 泰爾〔經商〕大二三 三
數理經濟學に於ける二つの 傾向と其の綜合の試みと に就て	中山伊知郎〔商研〕大二三 三
經濟學理の基調としての人	
性考察	東 晋太郎〔國經〕大二三 三六 三四
米國經濟學史上のケリーと 其の著述	武藤 長藏〔長彙〕大二三 四 四
經濟學諸概念の社會心理學 的考察	上原 好咲〔三學〕大二三 一八 五六
パウエル「社會主義經濟論 の一發展」	赤松五百磨〔我等〕大二三 六 六
經濟學方法論上の一疑問	土方 成美〔國家〕大二三 三六 七
作用經濟學と其構成法に就 て	勝田 貞次〔國經〕大二三 三七 六
西洋經濟思想の波日は國富 論出版の年を以て嚆矢と なすが如し	竹内 謙二〔國家〕大二三 三六 八
新經濟學の曙光	八木澤善次〔新報〕大二三 三四 八
エンゲルス「經濟學批判大 綱」(譯)	後藤 信夫〔我等〕大二三 六 八
J. M. Clark 「經濟學社會化 論」(譯)	八木澤善次〔新報〕大二三 三四 二〇
經濟靜態及び動態(クライク ゼノフオン經濟思想	林 要〔同論〕大二三 一 一三
二、三、の經濟學教科書に 就て	住谷 悦治〔同論〕大二三 一 一五
經濟學に於ける抽象的推理 の效用	大野 辰見〔商經〕大二三 一 三四
	小林 義雄〔商叢〕大二三 二 一

經濟學の發達	淡川 康一〔商叢〕大二三 二 卷一 一號
快樂主義經濟學說の心理的 基礎(特にゼレミー・ベ ンサムの學說を中心とし ての研究)	高垣寅次郎〔商研〕大二三 三 二
歴史派經濟學と社會政策	高橋誠一郎〔社政〕大二三 一 四〇
加特力教經濟學の衰滅	高橋誠一郎〔社政〕大二三 一 四〇
アインシュタイン相對性原理 と經濟法則の客觀性	二木 保幾〔社科〕大四 一 一
最近の巴里大學並に佛蘭西 經濟學界の一般	江藤 誠之〔國經〕大四 三六 二
理論經濟學の創始者として のリカルド	村松恒一郎〔商研〕大四 五 二
經濟學的認識の價值性質	杉村 廣藏〔商研〕大四 五 二
三つの著述を通じて見たる オグユタン クールノー の經濟學說	中山伊知郎〔商研〕大四 五 二
經濟靜態に就て	高田 保馬〔經研〕大四 二 二
經濟學批判の方法論	福本 和夫〔マル〕大四 三 一五
英國經濟學發展の一大觀	財部 靜治〔經叢〕大四 三 三
商書周書に見はれたる政治 經濟思想	田島 錦治〔經叢〕大四 二 二
徒然草に現はれたる經濟思 想	中村 信一〔法政〕大四 三 四
「マルクス經濟學大綱」を 讀む	西 雅雄〔マル〕大四 三 一
經濟哲學の二問題	[資料]大四 二 一 六
中井竹山の經濟思想	本庄榮治郎〔經研〕大四 二 一
自然的地理的環境の經濟學 的考察	伊藤 秀一〔三學〕大四 一九 七
ベルンシュタインの經濟形 態論	松下 芳男〔法政〕大四 三九 二
重農主義と國民經濟學の成 立	青木 孝義〔法政〕大四 三三 二
「國富論」以後	高橋誠一郎〔三學〕大四 一九 二
フイデオクラット經濟學に 顯はるゝ二つの思想動機 と其哲學的基礎	村松恒一郎〔商研〕大四 四 三
經濟概念の論理的前提に就 ての疑問	高垣寅次郎〔商研〕大四 四 二
大學としての政治學經濟學 の過去を顧みて政治經濟 學部の使命に及ぶ	高田 早苗〔早政〕大四 一 一
經濟學方法論概説	二木 保幾〔早政〕大四 一 一
新しい經濟學への一貢獻	出井 盛之〔早商〕大四 一 一
經濟學の基調としての社會 學に關する考察	小林 郁〔社雜〕大四 一 一四
經濟靜學と經濟動學との調	



和  
經濟學の發達  
マーシャル經濟思想に於ける綜合とその意義  
現代印度の經濟學  
通俗マルクス經濟學への一貢獻  
マルクス「經濟學批判」の腹案に就いて(譯)  
カツセル「理論的社會經濟學」の研究  
グスタフ・カツセル「經濟學根本思想」の一節  
經濟學の前提を爲す哲學心理學及社會學の諸條件と經濟學との關係  
軌近佛國に於ける社會主義經濟學說  
「大學」に見はれたる經濟思想  
「經濟學批判」の完成  
ケネー「經濟表の範式」に就て  
經濟學史上より見たる最近

喜多村利雄	〔商經〕	六二	四	一	卷	三七
淡川 康一	〔商叢〕	六二	五	三		
猪谷 善一	〔社科〕	六二	五	二		
出井 盛之	〔我等〕	六二	五	八		
北澤新太郎	〔我等〕	六二	五	八		
久留間敏造	〔原叢〕	六二	五	四		
高島佐一郎	〔國經〕	六二	五	四		
高木 壽一	〔三學〕	六二	五	二		
井關 孝雄	〔法政〕	六二	五	二		
關 未代策	〔經商〕	六二	五	二		
田島 錦治	〔經叢〕	六二	五	三		
西 雅雄	〔マル〕	六二	五	三		
三邊 金藏	〔三學〕	六二	五	二		

經濟學の地位  
「經濟學批判」の批判  
ケネーとアダム・スミス  
Le fait Socialの性質と經濟學の研究  
經濟學と統計學  
經濟學の倫理性  
經濟學文獻の邦譯二つ  
正統派經濟學に於ける人間性論  
社會生活の進化と經濟學  
經濟學の範圍及び研究方法  
チャップマンの經濟學觀

【經 濟 史】

ケイ  
ラクザの帳簿に現はれたる伊太利經濟史の一節  
ウグタリスの時代と其學說  
經濟未生已前の人類狀態  
日本經濟史研究の材料に就て  
經濟史の材料に就て  
室町時代の經濟史的事實の

大館 堯壽	〔新報〕	六二	五	三		四
西 雅雄	〔マル〕	六二	五	四		五
瀧本 誠一	〔三學〕	六二	五	二		六
松浦 要	〔新報〕	六二	五	三		六
郡 菊之助	〔統叢〕	六二	五	一		四七
高橋誠一郎	〔社政〕	六二	五	一		六七
岩崎 卯一	〔社叢〕	六二	五	一		二三
古屋 美貞	〔同論〕	六二	五	一		一九
酒井正三郎	〔商叢〕	六二	五	三		一
前馬 治一	〔商叢〕	六二	五	三		一
郡 菊之助	〔商叢〕	六二	五	三		一
參照	經濟、經濟學、經濟事情、經濟政策、産業、社會、法制史。(尙各國名を見よ)					
福田 徳三	〔國經〕	六二	五	三		六
河上 肇	〔國經〕	六二	五	六		二
内田 銀藏	〔國家〕	六二	五	三		十九
内田 銀藏	〔東經〕	六二	五	三		一九三

一端  
經濟發達階段の心理化  
拙著「經濟史總論」に就き  
松崎商學士の批判に答ふ  
日本經濟史料(室町時代記録の部)  
日本中世經濟史料  
支那古代の社會史經濟史と其研究補助學としての說文學  
日本經濟の發展  
經濟史觀の前九年後三年の役  
玉葉の經濟史的研究  
第十九世紀に於ける獨逸經濟發達の一斑  
ビュツヒアの經濟發達階段説は其獨創に非ず  
リストの經濟發達階段説に就て  
ヒルデブランドの經濟階段説に就て  
「ツエアギルド」の經濟史的研究

松本彦次郎	〔三學〕	六二	五	三	卷	三
米田庄太郎	〔國經〕	六二	五	三		三
内田 銀藏	〔國經〕	六二	五	三		五
松本彦次郎	〔三學〕	六二	五	七		一
松本彦次郎	〔三學〕	六二	五	七		一
田崎 仁義	〔國經〕	六二	五	一		六
石井 宗吉	〔國經〕	六二	五	一		二
松本彦次郎	〔三學〕	六二	五	八		六
松本彦次郎	〔三學〕	六二	五	八		一〇
高島佐一郎	〔三學〕	六二	五	九		十二
神戸 正雄	〔經叢〕	六二	五	三		三
本庄榮治郎	〔經叢〕	六二	五	四		四
本庄榮治郎	〔經叢〕	六二	五	五		五
津田 武二	〔國經〕	六二	五	二		五

ビュツヘルの經濟階段説に就て  
經濟史の研究に就て  
近刊の經濟史に關する三著述  
本庄法學士の「經濟史研究」  
歐米經濟史界の趨勢と其研究法  
竹越氏の日本經濟史に就て  
日本經濟史研究の必要と困難  
ロシヤ經濟史概説  
經濟史研究に就て  
エルンスト・フリードリッヒの經濟階段説  
經濟發達の常序に就きて  
カンニングハムの經濟史の立場  
經濟發達階段學說に對するゲオルグ・フォン・ペロウの批評  
日本の經濟史の特性  
經濟發達階段説の性質  
ヒルデブランドの階段説の

本庄榮治郎	〔經叢〕	六二	五	八		六
瀧本 誠一	〔三學〕	六二	五	八		二
本庄榮治郎	〔經叢〕	六二	五	九		二
内藤吉之助	〔國家〕	六二	五	四		七
木村 莊五	〔三學〕	六二	五	四		一〇
本庄榮治郎	〔經叢〕	六二	五	九		一
本庄榮治郎	〔經叢〕	六二	五	九		一
佐野 學	〔國家〕	六二	五	五		一
野村兼太郎	〔三學〕	六二	五	七		二
黒正 巖	〔經叢〕	六二	五	一		三
財部 静治	〔商經〕	六二	五	一		三
本位田祥男	〔經論〕	六二	五	一		一
土屋 喬雄	〔經論〕	六二	五	二		一
本庄榮治郎	〔經叢〕	六二	五	二		六
石田秀一郎	〔同論〕	六二	五	一		一四



立脚點に就て 本庄博士講筈大阪經濟史に就て	石田秀一郎〔同論〕大三一 卷一 一五號
原始黃金時代の回復 經濟史上に於ける宗教の地位	肥田昌三〔商經〕大三一 三四 石川三四郎〔我等〕大四七 三
商業史と經濟史 古代英國經濟史考斷片 世界經濟の成立過程 經濟の發達に就て(講演) Thomas More, Utopiaを通じて見たる當時の經濟狀態	石濱知行〔我等〕大四七 四 大野辰見〔商經〕大四一 三四〇 野村兼太郎〔三學〕大五二〇 一 作田莊一〔經叢〕大五三三 一四四 本庄榮治郎〔彥バ〕大五一 一
經濟史講話 經濟史の研究方法	本位田祥男〔經論〕大五四 四 田崎仁義〔長彙〕大五七 四四五 福本和夫〔社科〕大五二 五 參照：海運、貨幣、恐慌、競争、銀行、金融、景氣、經濟政策、工業、財政、產業、社會、商業、物價、貿易。(尙各國名を見よ)
【經濟事情】 カイザリジヨウ	
明治十年以後の我邦經濟事情 日獨經濟小觀 國際經濟競賣と我國民經濟	田口卯吉〔統集〕四三一 九四 田島錦治〔内外〕四五五 一
政策の大本 世界經濟上に於ける農業及工業の調和 經濟界の前途に就て 日本國民經濟の轉廻 本邦經濟界の趨向 經濟的海外膨脹論 伊藤公と財政經濟(講演) 水災の經濟界に及ぼす影響如何	神戸 正雄〔京法〕四四二 三 氣賀 勲重〔國經〕四四二 三 瀧 臺水〔東經〕四四二 五七四三 松崎藏之助〔國經〕四四二 七 米澤 貞二〔國經〕四四二 九 服部文四郎〔外時〕四四二 一三 澁澤 榮一〔國家〕四四二 二四 七 北崎 進〔東經〕四四二 一五五六 片岡 直温〔洋經〕四四二 一五七六
財政經濟の將來 ベルンに於ける經濟學會議に就て(講演) 經濟談 改元と經濟 經濟上の大日本主義 我國經濟の地位 明治大帝の崩御と經濟上の影響	阪谷 芳郎〔法協〕四四五 三〇 一 阪谷 芳郎〔新報〕四四五 三二 五 黒澤 龍濱〔東經〕四四五 六六 一六五八 植松 考昭〔洋經〕四四五 一 一六六三 高野岩三郎〔統集〕四四五 一 三七四 阪谷 芳郎〔日經〕大元 一一 一〇 安田與四郎〔洋經〕大元 一 一六二二 石橋 五郎〔國經〕大元 一 一六二二 早川千吉郎〔國家〕大元 一 二七 五 神戸 正雄〔京法〕大元 一 二八 六
國步艱難の秋なり(戦後の經濟界を論ず) 戰爭が齎せる經濟の混亂 歐洲交戰國の資本回収と日本經濟 世界的經濟戰爭 戦後の國際經濟戰爭と日本の地位 歐洲開戦の一周年に世界經濟の變動と日本地位 依然たる財政經濟上の懸案 財政經濟單位の國際競争 戰爭と經濟組織 歐洲大亂と本邦の經濟界 我國經濟界の將來 中歐經濟同盟に就て 戦後の經濟的革新 經濟界の現勢と潛勢と大勢 聯合國經濟同盟に對する我國の態度	河津 暹〔財經〕大四二 一 河田 嗣郎〔京法〕大四二〇 一 戸田 海市〔財經〕大四二 一 テリ 一〔國際〕大四二 四 本多 精一〔財經〕大四二 五 本多 精一〔財經〕大四二 八 本多 精一〔財經〕大四二 九 本多 精一〔財經〕大四二 一一 本多 精一〔法協〕大四二 一二 丹羽 豐〔東經〕大四二 一七 一八 田尻稻次郎〔財經〕大四二 一 小川郷太郎〔經叢〕大五二 二 阿部 秀助〔三學〕大五二 一五 本多 精一〔財經〕大五二 二 戸田 海市〔經叢〕大五三 三 本多 精一〔財經〕大五三 三 橋本圭三郎〔財經〕大五三 四 辻村 楠造〔財經〕大五三 四

戰爭と經濟 中央調查局建設の議 財政經濟問題の骨子 經濟的戰時準備有りや 大藏大臣の經濟觀を評す 我國經濟の實況 歐洲戰亂の經濟的教訓 バナマ運河の日本經濟上に及ぼす影響 戦後の經濟界に於けるの策 交戰國の軍費と戰時經濟 歐洲戰亂と我經濟界 大局上經濟的不利益にあらず 戦後に於ける日本の資本的獨立 歐洲戰爭の我經濟に及ぼす影響 歐洲大戰爭の經濟界に及ぼす影響如何 戰爭と經濟 閉却せられたる與國の要訣 經濟界の憂は歐洲戦後 戦後の經濟的變動	阪谷 芳郎〔國國〕大二一 卷六 號六 神戸 正雄〔日經〕大二二 七 本多 精一〔財經〕大三一 一 辻村 楠造〔日經〕大三一 六 高城仙次郎〔三學〕大三八 六 田尻稻次郎〔財經〕大三一 七 本多 精一〔財産〕大三一 八 堀 光龜〔新報〕大三四 八一九 本多 精一〔財經〕大三一 九 辻村 楠造〔財經〕大三一 九 井上辰九郎〔日經〕大三一 二〇 小池 國三〔日經〕大三一 二〇 堀江 歸一〔財經〕大三一 二二 戸田 海市〔京法〕大三九 二 稻田周之助〔日經〕大三一 一五 一二 落水居逸人〔東經〕大三七〇 四七六七 田中 穂積〔洋經〕大三一 六七二 本多 精一〔財經〕大四二 一 田尻稻次郎〔財經〕大四二 一
---	--



濟同盟  
戰時經濟論  
戰後に於ける世界の經濟戰  
聯合國經濟同盟論  
戰後の經濟戰に對する準備  
戰後經濟調査の要目に就て  
日支兩國の經濟關係  
排獨經濟聯合と日本の立脚地  
經濟問題と日本  
經濟界の前途如何  
米國の資本と日本の頭腦  
巴里經濟會議の決議に就て  
聯合國經濟同盟問題  
戰後の經濟競爭と我國の問

河津 暹	(財經)	大五三〇	三五
岡本兵太郎	(國家)	大五三〇	三五
阪谷 芳郎	(財經)	大五三〇	三五
河津 暹	(國家)	大五三〇	三五
神戸 正雄	(經叢)	大五三三	五六
本多 精一	(財經)	大五三三	五六
添田 壽一	(財經)	大五三三	五六
本多 精一	(財經)	大五三三	五六
神戶 正雄	(國際)	大五三四	五七
早川千吉郎	(財經)	大五三三	五八
雪 堂 生	(財經)	大五三三	五九
阪谷 芳郎	(財經)	大五三三	五九
戸田 海市	(外時)	大五三四	六〇
河津 暹	(外時)	大五三四	六〇
小林丑三郎	(東經)	大五三七	六一
辻村 楠造	(財經)	大五三七	六一
河田 嗣郎	(經叢)	大五三七	六一
熊谷貞次郎	(國經)	大五六五	六二
小川郷太郎	(經叢)	大五六五	六二
伊藤 欽亮	(財經)	大五六五	六二
内田 嘉吉	(財經)	大五六五	六二

日支經濟關係改善の骨子  
戰後の經濟準備に就て  
日米協定と日本の經濟  
經濟上の變態と其の調節策  
戰後の國際經濟同盟  
對敵經濟封鎖策の效果如何  
戰後の經濟と自給政策  
戰後經濟準備と資金充實策  
戰時經濟談  
我帝國の經濟活力に就て  
經濟調査機關再興の必要  
我國現下の經濟問題  
東洋に於ける日本の經濟上  
及び金融上の位置  
内外經濟界に及ぼす講和の  
影響  
戰後經濟と物價調節問題  
經濟的反動の趨向  
財政問題よりも經濟問題  
大戰の本邦經濟界に及ぼせ  
る影響の統計的觀察  
經濟界の將來に就いて  
憲法と財政經濟  
戰後の我が經濟的地位

本多 精一	(財經)	大六四四	六六
橋本圭三郎	(財經)	大六四四	六六
神戸 正雄	(經叢)	大六四五	六六
橋本圭三郎	(財經)	大六四五	六六
雪 堂 生	(財經)	大六四四	六六
山本源太郎	(東經)	大六六六	六六
田尻稻次郎	(財經)	大六七五	六六
早川千吉郎	(財經)	大六七五	六六
上田貞次郎	(保評)	大七七一	六六
岡 實	(國家)	大七三三	六六
志立鐵次郎	(財經)	大七三五	六六
橋本圭三郎	(財經)	大七三五	六六
井上準之助	(國家)	大七三三	六六
本多 精一	(財經)	大七五五	六六
添田 壽一	(財經)	大七五五	六六
氣賀 勘重	(三學)	大八一一	六六
橋本圭三郎	(財經)	大八一一	六六
原田作之助	(國經)	大八二七	六六
志立鐵次郎	(財經)	大八二七	六六
神戸 正雄	(經叢)	大八二八	六六
早川千吉郎	(財經)	大八二八	六六

講和會議に反映せる日本の  
經濟的地位  
今後の經濟に處する途  
世界の經濟事情と我が産業  
政策  
過去の五年と未來の五年  
經濟界不安の繼續  
經濟界の將來は樂觀か悲觀  
經濟界の推移と將來の準備  
新時代の經濟生活  
日獨今後に於ける經濟關係  
に就て  
經濟界と金融機關  
日本に於ける社會上及び經  
濟上の推移に就て  
思想問題と經濟問題との關  
係  
經濟界の前途と吾人の覺悟  
米國の世界不況救済論  
經濟界更新の急務と其政策  
經濟聯盟大會に就て  
理想主義より見たる經濟問  
題  
東亞經濟力樹立に關する私

本多 精一	(財經)	大八六六	六六
木村 雄次	(財經)	大八六六	六六
添田 壽一	(財經)	大八六六	六六
安田與四郎	(洋經)	大八六一	六六
戸田 海市	(經叢)	大九二二	六六
早川千吉郎	(財經)	大九二二	六六
井上準之助	(財經)	大九二二	六六
大隈 重信	(東經)	大九二二	六六
ゾル フ	(東經)	大九二二	六六
田中鐵三郎	(經究)	大九二二	六六
ジョーンス	(國經)	大九三二	六六
稻田周之助	(新報)	大九三二	六六
利田 豊治	(財經)	大九三八	六六
平沼 淑郎	(財經)	大九三八	六六
小林丑三郎	(財經)	大九三八	六六
福井 盛太	(辯協)	大九二五	六六
中込本治郎	(社政)	大九二五	六六

見  
複雑なる經濟界の現状  
東亞大陸策樹立の要  
世界の經濟問題概論  
海外經濟近情  
世界經濟の復活と獨逸賠償  
問題  
支那關稅改正と日支經濟關  
係  
國際經濟會議に就て  
國際經濟會議  
國際經濟戰と産業參謀本部  
世界の經濟と軍備  
經濟問題と國際爭議の關係  
經濟議會論  
我國經濟の將來  
國際日本Q政治及經濟  
復興事業と經濟界の現況  
經濟的豫見とその限界  
經濟的亡國論  
我國經濟發達の轉期  
新年の經濟界の景況と國民  
の社會的自覺  
内外經濟事情の研究

高橋 是清	(外時)	大九三四	四〇〇
箕浦 勝人	(東經)	大九三三	四〇〇
長尾 半平	(東經)	大九三三	四〇〇
志立鐵次郎	(財經)	大九二九	四〇〇
志立鐵次郎	(財經)	大九二九	四〇〇
中島久萬吉	(國聯)	大九二二	四〇〇
高柳松一郎	(財經)	大九二九	四〇〇
高岡 熊雄	(財經)	大九二九	四〇〇
諸井 四郎	(東經)	大九二二	四〇〇
後藤 新平	(外時)	大九二二	四〇〇
後藤 新平	(東經)	大九二二	四〇〇
清水文之輔	(東經)	大九二二	四〇〇
丸谷 喜市	(國經)	大九二二	四〇〇
小林丑三郎	(經商)	大九二二	四〇〇
岡 實	(國知)	大九二二	四〇〇
河田 嗣郎	(經叢)	大九二二	四〇〇
福田敬太郎	(國經)	大九二二	四〇〇
池田 龍藏	(エコ)	大九二二	四〇〇
瀧谷 善一	(エコ)	大九二二	四〇〇
神戸 正雄	(時經)	大九二二	四〇〇
藤谷 國藏	(商事)	大九二二	四〇〇



【經濟事情】

經濟封鎖の法律的概観	塚本 毅 (外時) 大二三	三二
明年度豫算と經濟社會	堀江 歸一 (エコ) 大二三	三八
經濟界の前途	神戶 正雄 (時經) 大二三	一八
經濟復興に關する諸研究	堀江 歸一 (資料) 大三〇	一
大正十三年の經濟社會	堀江 歸一 (エコ) 大三二	一一
我國經濟恢復に關する一二の考察	河津 暹 (經論) 大三三	二
經濟的豫見論について	福田敬太郎 (國經) 大三三	三
官役調査會の成績	伊藤 政行 (財經) 大三二	五
復興景氣と戰爭經濟學	津田 武二 (國經) 大三二	五
社會主義より見たる經濟狀態	濱島 覺成 (經商) 大三三	七
歐米諸國經濟調査機關の施設及批判	丹羽 豐 (資料) 大三〇	六
經濟的困難の彼方	中岡源一郎 (エコ) 大三二	三
刻下の經濟問題に關する考察	成田 篤 (エコ) 大三二	二
經濟難救治の根本主義と國民精神	伊藤米治郎 (外時) 大三四	四
世界經濟界に於ける日本の地位	神戶 正雄 (時經) 大三一	三
經濟界の根本的恢復案	神戶 正雄 (時經) 大三一	三
矛盾に充ちたる我經濟界	神戶 正雄 (時經) 大三一	三
我邦現時の經濟界の症狀、		

病源及療法	神戶 正雄 (時經) 大二三	二六
經濟的豫見の發達と目的	福田敬太郎 (國經) 大二三	三
ドーゾ案の國際經濟理論	增井 光藏 (國經) 大三四	三九
復興途上の世界經濟	森 賢吾 (國知) 大四五	九
内外經濟戰の一進一退	神戶 正雄 (時經) 大三四	三三
經濟界の現狀と國產愛用運動	神戶 正雄 (時經) 大三四	三五
貿易及對外經濟大觀	神戶 正雄 (時經) 大三四	三七
政變と經濟界	神戶 正雄 (時經) 大三四	三八
最近經濟界大觀	神戶 正雄 (時經) 大三四	四
先づ經濟的國是を進めよ	坂本 霞溪 (金融) 大四二	二
經濟戰線と外交	太田 正孝 (外時) 大四四	四八
本邦に於ける社會經濟組織の推移	高野岩三郎 (原雜) 大四五	一
高橋龜吉氏編「日本經濟の解剖」	生松 淨 (經研) 大五三	一
國際經濟會議の意義	平野英一郎 (外時) 大五三	五
最近三年の内外經濟問題	堀江 歸一 (エコ) 大五五	七
國際經濟會議に就て	大熊 眞 (國知) 大五六	一
經濟循環の統計的觀察	小林 新 (統集) 大五五	五
經濟界根柢	米山 梅吉 (經評) 大五五	二
經濟界の安定と振興	堀江 歸一 (エコ) 大五五	二
最近の經濟界	神戶 正雄 (時經) 大五五	四
貿易及爲替を中心としたる		

我經濟界

【經濟政策】

國家經濟獨立主義	倉知 鐵吉 (法政) 四五五	五六
經濟政策 (講演)	金子堅太郎 (國家) 四五五	一八
輸出入の超過と一國經濟政策	神戶 正雄 (國家) 四五五	一八
正統經濟學派及歷史經濟學派の經濟政策に對する關係並地位を論ず	松崎藏之助 (國經) 四九	一
經濟政策編纂	河上 肇 (日經) 四四〇	一
諸經濟學派の經濟政策觀	松崎藏之助 (日經) 四四〇	一
最新經濟學派殊に社會政策及社會主義の經濟政策に對する關係並地位を論ず	松崎藏之助 (國家) 四四〇	二
經濟政策と基礎觀念	關 一 (明學) 四四〇	二
國際經濟競賣と我國國民經濟政策の大本	神戶 正雄 (京法) 四四一	三
經濟政策の倫理的方面	筑山 生 (東經) 四四一	三
鐵血宰相の經濟政策を追想す	河津 暹 (日經) 四四一	三

【經濟事情】 【經濟政策】

經濟政策と所謂實際問題	松崎藏之助 (法協) 四四二	二七
經濟財政金融策	田尻稻次郎 (日經) 四四二	四
學者政策を論ずるの權威ありや	河上 肇 (京法) 四四三	四
實際經濟政策に對する經濟學の意義	小泉 信三 (三學) 四四三	三
立法事業と經濟政策	稻田周之助 (日經) 四四四	八
經濟政策の科學的性質	山本 祐作 (國家) 大二七	一〇
經濟政策上の緩急	氣賀 勸重 (國經) 大三一	一七
經濟政策と經濟的自由	氣賀 勸重 (三學) 大三八	一六
世界の大勢に適應するの道	仲小路 廉 (財經) 大三一	一八
經濟政策に對する私見	山本美越乃 (京法) 大三九	一一
經濟政策の意義に就て (山本大助教授の論文を讀む)	松崎 壽 (三學) 大四九	三
「經濟政策」の意義に於て	山本美越乃 (三學) 大四九	五
再び經濟政策の意義に就て	松崎 壽 (三學) 大四九	六
山本助教授に質す	山本美越乃 (三學) 大四九	九
「經濟政策」に關して再び	松崎 壽 (三學) 大四九	九
松崎壽氏に答ふ	松崎 壽 (三學) 大四九	一一
經濟政策に關する山本助教授の答辯に答ふ		



地方經濟振興策  
 經濟政策の基礎觀念  
 戰時經濟政策の批判  
 法律化しつゝある經濟政策  
 我が最高經濟政策と海運政策

堀切善兵衛〔三學〕大五二〇 卷六 六  
 松崎 壽〔志林〕大六一九 八  
 森戸 辰男〔國家〕大六三三 二  
 謝花 寬齋〔新聞〕大八一 一五七四

小島昌太郎〔經叢〕大九一一 三  
 武富 時敏〔財經〕大九七 七  
 小林丑三郎〔財經〕大〇八 六  
 瀧本 誠一〔亞經〕大二六 一  
 前田幸太郎〔亞經〕大二六 一  
 阪谷 芳郎〔財經〕大一九 五

高橋誠一郎〔三學〕大二一六 一〇  
 今西 兼二〔東經〕大二八四 二〇九  
 森山 小六〔東經〕大二八四 二〇七  
 大内 武次〔經商〕大二二 六  
 西川 喜一〔亞經〕大二八 三  
 上田貞次郎〔商研〕大二三 一  
 向井 鹿松〔三學〕大二一八 七  
 堀江 歸一〔エコ〕大二三 二  
 馬場 敬治〔經論〕大二三 二  
 堀江 歸一〔エコ〕大二三 二  
 阿部 賢一〔社科〕大二四 一

四大經濟的國策  
 危し微温的經濟政策  
 經濟原論と經濟政策  
 對支經濟政策の基調  
 アダム・スミスの經濟政策  
 經濟政策の極致  
 消極的經濟政策の意義  
 經濟政策學の對象、其成立の可能性及限界  
 對支經濟政策と日本  
 經濟政策定立上の條件

七イの經濟政策論  
 ヴイルブランド「經濟政策の根本思想」(譯)  
 普選と新經濟政策  
 新經濟政策とロシア勞働立法

增井 幸雄〔三學〕大四一九 八  
 中山伊知郎〔商研〕大二三 四  
 高橋 龜吉〔洋經〕大二四 一  
 末川 博〔經叢〕大五二三 六  
 上田貞次郎〔外時〕大五四三 五

對外經濟的國策樹立の急務  
 經濟地理學研究に對するグ  
 ルーベル博士の見解  
 經濟地理學研究に關するシ  
 ユミツドの見解

黒正 巖〔經叢〕大九一一 六  
 伊藤 秀一〔三學〕大五二〇 三

【經濟哲學】  
 ケイ ザイ テツ ガク  
 經濟學を見よ

【經濟統計】  
 ケイ ザイ トウ ケイ  
 ハウスホーフエル氏經濟生活のスタチスチック  
 經濟生活のスタチスチック  
 經濟スタチスチック論

吳 文聰〔スタ〕明四一 一  
 吳 文聰〔スタ〕明三三 一  
 吳 文聰〔スタ〕明三三 一

經濟統計の基本  
 經濟に關する統計の方法に就て

河合 利安〔統集〕明二八 卷一 二六九  
 花房直三郎〔統集〕明三三 一 二二七  
 道家齊一郎〔統集〕大四 一 四六七  
 中川 友吉〔統集〕大四 一 五三二  
 大内 武次〔經商〕大五 一 一

藤本博士著「經濟統計」と  
 卷川學士譯「經濟統計調  
 要」

郡 菊之助〔國經〕大五四〇 一

【警察】  
 ケイ サツ  
 參照||監獄。言論の自由。司法警察。新聞紙。犯罪。

警察司令權の監視を論ず  
 警察根本法を殺す勿れ  
 一八八九年伊國公安取締法  
 (保安警察法)  
 警察權の所有權に對する關係

久米 金彌〔國家〕明三〇 一 四  
 江木 衷〔新報〕明四一 一 一〇

阿成樓主人〔新報〕明三六 三 三二  
 森田 茂吉〔法協〕明三八 三 五  
 一木喜徳郎〔國家〕明三九 二 一〇七  
 松井 茂〔國家〕明三九 二 一〇九  
 渡邊清太郎〔法政〕明三三 四 四五  
 松井 茂〔法協〕明三三 四 四五  
 宮本平九郎〔志林〕明四三 三 二〇

法治の觀念より論及して學者の所謂警察の主義を排す

鮫島東四郎〔法政〕明四三 五 四三  
 副島 義一〔明法〕明三五 一 三六

警察の意義を論ず  
 營業の自由と警察權  
 警察作用並警察作用の分類  
 模倣性と豫防警察  
 警察權の限界  
 行政警察處分令行爲の根拠及限界  
 個人の自由に對する警察干渉權の限界  
 比較内務行政組織論  
 佛國に於ける無届社團の法律上の地位  
 出版と著作  
 社會と警察  
 地方警察とは何ぞや  
 獨逸の新結社法に就て  
 行政犯の性質を論じて警察犯に及ぶ  
 結社警察に就て  
 警察の觀念を論じて憲法第

岡 實〔新報〕明三五 二 二  
 島田 俊雄〔新報〕明三六 七 三七  
 穂積 陳重〔國家〕明三六 一 一九二  
 美濃部達吉〔新聞〕明三六 一 一九四  
 鮫島東四郎〔新聞〕明三六 一 一九六

泉二 新熊〔新報〕明三七 一 四  
 ボルンハック〔内外〕明三七 一 四  
 マル ガ〔法協〕明三九 二 四  
 佐々木惣一〔京法〕明四一 三 四六  
 留岡 幸助〔辯協〕明四一 二 二二  
 佐々木惣一〔明學〕明四一 二 二四  
 佐々木惣一〔京法〕明四三 四 二  
 佐々木惣一〔京法〕明四三 四 二  
 織田 萬〔京法〕明四三 五 一



【警察】

九條に依る獨立命令權の範圍に及ぶ

朝鮮の内務行政殊に警察行政に就て

朝鮮警察の今昔

警察許可の限界

朝鮮警察の今昔

農村と警察

警察の觀念

殖民地警察の特質

警察の觀念を論ず

警察許可の限界を論ず

警察官の抜劍

國際警察權

女巡查

英國法制上警察權の限界

極東と國際警察權

第一回國際司法警察會議

警視廳の探偵犬の無能なるを喜ぶ

警察制度の改善を望む

國際行政警察

美濃部達吉〔志林〕<sup>四年</sup>三二六

松井 茂〔國家〕<sup>四三</sup>二二

松井 茂〔法記〕<sup>四四</sup>二二

市村 光惠〔京法〕<sup>四五</sup>七一

松井 茂〔刑評〕<sup>四四</sup>三六七

横井 時敬〔日經〕<sup>四五</sup>一一

美濃部達吉〔法協〕<sup>大元</sup>三〇

對馬郁之進〔京法〕<sup>大元</sup>七九

美濃部達吉〔評論〕<sup>大元</sup>一

美濃部達吉〔法協〕<sup>大二三</sup>三

美濃部達吉〔新報〕<sup>大二三</sup>八二

美濃部達吉〔新報〕<sup>大二三</sup>四

泉 哲〔國際〕<sup>大二三</sup>四

タイ ト〔國國〕<sup>大二三</sup>九一〇

丸山 鶴吉〔新聞〕<sup>大二三</sup>九一八

村田岩次郎〔三學〕<sup>大四</sup>九一

泉 哲〔國國〕<sup>大四</sup>三

牧野 英一〔志林〕<sup>大四</sup>一七

鈴木富士彌〔辯協〕<sup>大四</sup>一九六

今井力三郎〔新聞〕<sup>大四</sup>一〇三

泉 哲〔國際〕<sup>大五</sup>一五二

都市の警察自治を論ず

米大陸に於ける國際警察

チロン「國際團體と警察」

(譯)

警察行政に就て

警視廳制度の改正に就て

朝鮮警察の沿革

新警察を要求す

所謂高等警察に就て

警察許可の限界

警視廳の裸體畫取締問題

官吏の待遇を論じて警察官

の優遇問題に及ぶ

社會と警察力(講演)

警察官の觀念及服制

社會と警察

勞働爭議に對する警察權行使の範圍

頌曆取締法

警察行政に就て

警察の軍隊化に就て

警察署の人事相談所は憲法違反なるや否

風俗警察に就いて

村田岩次郎〔三學〕<sup>大五</sup>一〇五

泉 哲〔國際〕<sup>大五</sup>一四七

東 讓三郎〔國際〕<sup>大五</sup>一四〇

清水 澄〔新聞〕<sup>大五</sup>一五二

中野勇治郎〔新聞〕<sup>大五</sup>一五八

對馬郁之進〔京法〕<sup>大五</sup>一七九

工藤 日東〔辯協〕<sup>大六</sup>一一

水野鍊太郎〔法政〕<sup>大六</sup>一四

市村 光惠〔法論〕<sup>大六</sup>一七

布施 辰治〔新聞〕<sup>大六</sup>一三七

小川郷太郎〔法論〕<sup>大七</sup>一四

松井 茂〔日社〕<sup>大七</sup>一〇

對馬郁之進〔法叢〕<sup>大七</sup>一〇

松井 等〔社政〕<sup>大七</sup>一七

谷 健太郎〔新聞〕<sup>大七</sup>一八七

石原雅二郎〔法政〕<sup>大七</sup>一九

荒木 櫻洲〔新聞〕<sup>大七</sup>一九七

山口鹿太郎〔新聞〕<sup>大七</sup>二〇三

松倉慶三郎〔新聞〕<sup>大七</sup>二〇三

市村 光惠〔法叢〕<sup>大七</sup>一九

警察制度の創設

繪畫彫刻と風俗警察

警察官の既決權を剝奪す可し

司法官と警察官の抗争に就て

羽翼を断たれた移動警察

監察機關を設くるの議

矛盾した警視廳官制の批判

警察の所屬は孰れが是乎

支那の警察制度

ケイ サツ ハン ショ バツ レイ

【警察犯處罰令】

警察犯處罰令及違警罰即決

例を評す

警察犯處罰令と即決例

行政犯の性質を論じて警察

犯に及ぶ

ケイ

【刑 事】

萬國刑事聯合會に就て

漢堡の國際刑事協會大會

尾佐竹 猛〔法曹〕<sup>大三年</sup>二二六

草野豹一郎〔新報〕<sup>大三年</sup>二二七

和光 未房〔法新〕<sup>大三年</sup>二二

荒木 櫻洲〔新聞〕<sup>大三年</sup>一三七

山川 道三〔新聞〕<sup>大三年</sup>一三三

播磨 龍城〔新聞〕<sup>大三年</sup>一三三

荒木 櫻洲〔新聞〕<sup>大四年</sup>一四三

荒木 櫻洲〔新聞〕<sup>大四年</sup>一四三

三田 勝〔法曹〕<sup>大五年</sup>一四五

石山 彌平〔辯協〕<sup>四四</sup>二二

川島 千司〔辯協〕<sup>四四</sup>二二

佐々木惣一〔京法〕<sup>四四</sup>二二

クルーゼン〔法政〕<sup>四三</sup>四

牧野 英一〔法協〕<sup>四三</sup>四

ケイ

【刑事社會學】

【刑事人類學】

【犯罪社會學を見よ】

【犯罪人類學を見よ】

【犯罪人類學を見よ】

刑事雜感

刑事雜說

最近刑事雜觀

刑事大檢舉論

刑事雜記

韓國刑事一斑

巡視せし地方刑事界の實況

泰西刑事界近狀

刑事雜感

臺灣刑事狀況

刑事論斷片

國際刑事學協會スイス部の復活

國際刑事學協會ドイツ部の第十八回會議の議題及び決議

國際刑事學協會の近況

國際刑事學協會獨逸部大會

刑事制度の一大缺陷

ケイ

【刑事社會學】

【刑事人類學】

【犯罪社會學を見よ】

【犯罪人類學を見よ】

伊谷龜太郎〔京法〕<sup>四四</sup>三二

勝本勘三郎〔志林〕<sup>四四</sup>二二三

富田 山壽〔京法〕<sup>四四</sup>四七〇

宮島 次郎〔辯協〕<sup>四四</sup>一三三

花井 卓藏〔刑評〕<sup>四四</sup>二

安住時太郎〔刑評〕<sup>四四</sup>二

河村讓三郎〔刑評〕<sup>四四</sup>二

小川 平吉〔刑評〕<sup>四四</sup>三

天野 徳也〔刑評〕<sup>四四</sup>三

手島兵次郎〔刑評〕<sup>四四</sup>三

岡田 庄作〔國國〕<sup>大七</sup>六二五

大喜多 光〔志林〕<sup>大三</sup>二五

大喜多 光〔志林〕<sup>大三</sup>二五

大塚 郷二〔志林〕<sup>大三</sup>二五

大塚 郷二〔志林〕<sup>大三</sup>二六

大塚 郷二〔志林〕<sup>大四</sup>二七

佐伯 復堂〔新聞〕<sup>大四</sup>一四四

ケイ

【犯罪社會學を見よ】

【犯罪人類學を見よ】

【犯罪人類學を見よ】

【警察】 【警察犯處罰令】 【刑事】 【刑事社會學】 【刑事人類學】



【刑事政策】

参照||感化事業。監獄。刑事統計。犯罪。免囚保護。

刑事政策	岡田朝太郎【明法】四三三
刑事政策に於ける二問題	菱谷 精吾【法協】四三三
刑事政策と労働問題	牧野 英一【志林】四三九
刑事政策の梗概	泉二 新熊【法記】四〇七
刑事政策學に就て	寺崎 勝治【新聞】四〇〇
刑事政策預言	菱谷 精吾【志林】四〇一
刑事政策大綱に就て	アムシユル【刑評】四〇一
刑事政策の強硬限度	菱谷 精吾【法政】四〇一
刑事政策の二大主義	大場 茂馬【刑評】四〇一
亞米利加の刑事政策	泉二 新熊【法記】四一九
刑事政策上の諸問題	牧野 英一【新聞】四〇一
刑事政策の要求の二三	勝本勘三郎【新報】四〇二
刑事政策上の三大姉妹事業	小山 温【刑評】四〇二
刑事政策大綱自序	大場 茂馬【新聞】四〇三
刑事政策に就て	卜部喜太郎【刑評】四〇三
刑事政策論の要領	大場 茂馬【新報】四〇三
死刑の刑事政策上の價值	吉田 知道【刑評】四〇四
朝鮮の刑政に就て	石山 彌平【辯協】四〇六
刑政研究会	牧野 英一【法協】四〇三
徳川時代の刑政	三上 參次【新聞】四〇三
支那往時の刑事政策一斑	不破 清警【新聞】四〇三

歐米に於ける刑事政策上の努力

刑事政策としての労働權	泉二 新熊【法記】四二五
刑事政策と保安處分	K I 生【新聞】四七一
佛教思想と刑事政策	長尾 景徳【臺法】四八三
刑事政策制度の概要	竹内 三郎【法政】四八六
刑事政策と精神病者	泉二 新熊【志林】四九三

【刑事訴訟】

刑事訴訟を論し朝野の學者及政治家に留意を望む	井本 常治【辯協】四三三
刑事訴訟の現状及其改善	佐藤 博愛【新報】四三三
刑事訴訟に關する意見	磯谷幸次郎【法記】四三三
幼年者に對する監督保護と刑事訴訟手續	泉二 新熊【法記】四二八
刑事訴訟の強制に關する獨逸國の立法問題	豊島 直通【法記】四三九
裁判公開主義	富田 山壽【志林】四二二
直接審理論	富田 山壽【京法】四三三
ビルクマイエル「刑事訴訟	富田 山壽【京法】四三三

参照|| 刑事訴訟法。刑事略式手續。抗告。公訴。控訴。公判。裁判。裁所。私訴。證據。上告。上訴。捜査。訴訟費用。辯護士。保釋。豫審。

訟の革新 (譯)

刑事訴訟	山岡萬之助【法記】四二二
刑事訴訟上の一大繁文縟禮	板倉松太郎【志林】四二二
刑事訴訟政策論	磯谷幸次郎【新報】四二二
刑事訴訟の終了	岡田 庄作【國國】四二二
刑事訴訟手續の併合	板倉松太郎【新報】四二二
刑事訴訟に於ける審判の範圍を論ず	林 頼三郎【新報】四二二
刑務官の眞使命	原 惣兵衛【法政】四二二
訴訟主體	後藤 文夫【臺法】四二二
代言人の地位	植村 俊平【新報】四二二
代言制の進化	穂積 陳重【法協】四二二
被告人論	鹽谷恒太郎【新報】四二二
被告人の辯護權	卜部喜太郎【新報】四二二
陳述禁止と忌避申請	信岡雄四郎【辯協】四二二
檢察と上官の關係	鳩山 和夫【辯協】四二二
刑事被告人の待遇	大石健太郎【新聞】四二二
辯護士の職務關係に就て	石山 彌平【新報】四二二
辯護權の縮少、人權の蹂躪	信岡雄四郎【志林】四二二
外國水兵の犯罪	石渡 敏一【法政】四二二
刑事裁判に於ける辯護人の位置	新井要太郎【辯協】四二二
國際司法共助に關する我國の現行制度	松田 道一【志林】四二二

辯護權の性質

刑事辯護論	豊島 直通【新報】四二二
心神喪失者に對する公訴と其裁判	富田 壽山【京法】四二二
刑事訴訟と被告人の當事者能力	大場 茂馬【新報】四二二
辯護人の任務	大場 茂馬【新報】四二二
刑事辯護の要訣	大場 茂馬【新報】四二二
刑事辯護論	鹽谷恒太郎【刑評】四二二
刑事訴訟に於ける人	高野 茂基【新聞】四二二
刑事辯護制の採用に就て	板倉松太郎【新報】四二二
辯護人の地位	石崎皆市郎【臺法】四二二
公設辯護人の制度に就て	尾佐竹 猛【法曹】四二二
資力なき刑事被告人の辯護	尾佐竹 猛【辯協】四二二
刑事訴訟法第四二條の解釋	津田 進【法政】四二二
より所謂假辯護届の効力に及ぶ	小野清一郎【志林】四二二
豫審判事受託判事は罰金の刑に該る被告人に對して拘引狀を發することを得	小野清一郎【社政】四二二
訴訟行爲	小田 寛【新聞】四二二
豫審判事受託判事は罰金の刑に該る被告人に對して拘引狀を發することを得	小田 寛【新聞】四二二



【刑事訴訟】

る乎	平佐榮太郎〔法協〕四三二六	四一五
保釋論	花井 卓藏〔辯協〕四三三	三七
刑事訴訟法の猶豫期間	信岡雄四郎〔志林〕四三四	三〇
裁判所は無罪の判決言渡後		
検事の控訴申立前保釋の		
決定を爲すを得るか	清家 宇吉〔新聞〕四三七	一九二
控訴期間中控訴提起前に於		
て第一審裁判所は保釋を		
許否するの権限なきか	平井彦太郎〔新聞〕四三六	一三六
保釋の取消權を論ず	川島 龜夫〔辯協〕四三六	七〇
ローメン「未決拘留の賠償」		
(譯)	竹山 三朗〔明學〕四四〇	一一五
現行犯の場合に於ける司法		
警察官の特別處分事件	豊島 直通〔新報〕四四二	一八
行刑猶豫の取消決定ありた		
るときは直ちに逮捕状を		
發することを得るか	出口 元久〔新聞〕四四二	一五九
檢事及司法警察官の爲す特		
別處分	大場 茂馬〔新報〕四四二	一九
刑事訴訟行爲の無効を論ず	富田 山壽〔志林〕四四二	二六三
刑事行爲に於ける條件觀念		
の一斑	板倉松太郎〔志林〕四四三	二
拘留の取消	富田 山壽〔京法〕四四四	一七
未決拘留に就て同僚に望む	山内 公允〔新聞〕四四五	一七四

三三三

令狀正本の意義に就て	溝淵 孝雄〔法記〕大二三	八
判事の自由裁量と上告裁判		
所の權限	天野 徳也〔辯協〕大二七	一七
刑事訴訟法上の里程の猶豫		
に就て	天野 敬一〔辯協〕大三六	一八三
訊問を爲さざる判事の拘留		
狀發布	林 頼三郎〔新報〕大四五	一〇
不合法なる正式裁判請求と		
不合法なる附帯犯審理決		
定	板倉松太郎〔志林〕大五八	五
豫審判事は自己に被告人を		
引渡すべく拘引狀の發布		
を管轄地外の豫審判事又		
は區裁判所判事に囑託す		
ることを得るか	平井彦三郎〔新聞〕大七	一四九
未決拘留論	飯島 莞爾〔新聞〕大八	一五九
刑事法上の期日及期間	津田 進〔新報〕大二三	八九
被告人召喚記載事項と召喚		
狀の効力	八太 茂〔新聞〕大二	二〇三
刑事時効の期間及起算點	津田 進〔法曹〕大二	一
刑事時効の中断及停止	津田 進〔法曹〕大二	一
刑事手續の改正を論ず	千賀 孝善〔法曹〕大三	一九
未決拘留を改善すべし	齋藤 巖〔新聞〕大三	一九七
刑事訴訟法の時に關する効		

力

未決拘留に關する法律に付	津田 進〔新報〕大四五	九
て		
ケイジ ソシヨウホウ		
【刑事訴訟法】		
刑事訴訟法の改正を論ず	北島 與吉〔法曹〕大五	四
改正刑事訴訟法草案に對す	豊島六一郎〔法政〕四三三	一九
る意見	栗原藤太郎〔新報〕四三四	二二五
刑事訴訟法と違警罪即決例	野村 嘉六〔新聞〕四三六	二二八
人權問題として刑事訴訟法		
の一部改正を絶叫す	佐々木清綱〔新聞〕四三六	一三九
刑事訴訟法の改正に付て	中川孝太郎〔法協〕四三七	九
刑事訴訟法の改正に就て	平沼騏一郎〔辯協〕四四一	三〇
個人識別法と刑事訴訟法の		
改正	大場 茂馬〔新報〕四四二	一八
刑事訴訟法改正漫言	富田 山壽〔京法〕四四二	一
刑事制度の變遷と刑事訴訟		
法の改正	鶴澤 總明〔新聞〕四四二	一五三
刑事改正私考	大演 隆〔新聞〕四四二	一五九
豊島學士著修正刑事訴訟法		
新論殊に其第三編第七章		
(訴訟行爲の性質及び効		

力

刑事訴訟法改正私儀	富田 山壽〔京法〕四四三	一五
刑事訴訟法改正私議	井本 常治〔辯協〕四四四	一五三
刑事訴訟法改正私議	川島 任司〔辯協〕四四四	一五五
刑事訴訟法改正私議	石川 彌平〔辯協〕四四四	一五六
刑事訴訟法改正私議	笠原文太郎〔辯協〕四四四	一五六
刑事訴訟法改正私議	平松 市藏〔辯協〕四四四	一五六
刑事訴訟法改正私議	新井要太郎〔辯協〕四四四	一五六
刑事訴訟法と直接審理主義	林 頼三郎〔新報〕大四五	一〇
刑事訴訟法改正案を評す	猪股 淇清〔辯協〕大五〇	一〇
刑事訴訟法改正案を評す	中川孝太郎〔新聞〕大五	一九三
刑事訴訟法改正案を評す	不破 清警〔新聞〕大五	一九五
刑事訴訟法改正案を評す	松本 重敏〔新聞〕大五	一九八
稿)を評す	雄本 朗造〔京法〕大六二	一
刑事訴訟法改正草案に就て	岡田 庄作〔國國〕大六五	一一
刑事訴訟法改正案の要旨	平沼騏一郎〔法記〕大六七	一三
刑事訴訟法改正案を評す	平沼騏一郎〔法協〕大六三	一六
刑事訴訟法改正の根本義	磯谷幸次郎〔新報〕大六七	二
刑事訴訟法改正案に對する	播磨辰治郎〔辯協〕大六二	二
私議	大澤 眞吉〔辯協〕大六二	二
刑事訴訟法改正案に就て	木村 尙達〔法政〕大六四	二七
刑事訴訟改正案に就て	宮本 英脩〔京法〕大六三	二五
刑事訴訟法改正案私議	新井要太郎〔辯協〕大六二	二七

【刑事訴訟】 【刑事訴訟法】



【刑事訴訟法】

刑事訴訟法改正の根本義と幕府の拷問制度	播磨 龍城〔國國〕大六五	三號
刑事訴訟法改正案と陪審制度	猪股 洪清〔國國〕大六五	四
噫検事訴訟法	岩田 唯雄〔國國〕大六五	四
法學に於ける訴訟法の地位	板倉松太郎〔法政〕大六四	七
刑事訴訟法改正案を讀む	岩井 尊文〔新聞〕大六	二〇八
刑事訴訟法改正案要旨	平沼騏一郎〔新聞〕大六	二二九
刑事訴訟法改正に就て	猪股 龍城〔新聞〕大六	二四七
刑事訴訟法改正案と陪審制度	猪股 洪清〔新聞〕大六	二五八
刑事訴訟法改正案の要旨	平沼騏一郎〔新聞〕大六	二七八
日本刑事訴訟法	谷田勝之助〔新聞〕大六	三〇〇
刑事訴訟法改正案に就て	富田 山壽〔法論〕大七	三二四
刑事訴訟法改正に就て	原 嘉道〔新聞〕大八	一四九
刑事訴訟法の規定の缺陷と其運用	林 頼三郎〔新聞〕大〇	一六三
彈劾主義と陪審制度	谷 健太郎〔辯協〕大九二	二
刑事訴訟法改正案成立の經過及要綱	林 頼三郎〔新報〕大二三	三
改正刑事訴訟法案に對する卑見	小齊甚治郎〔辯協〕大二二	三
改正刑事訴訟法に就て	八太 茂〔辯協〕大二二	五
刑事訴訟法改正の要旨	林 頼三郎〔臺法〕大二一	五七
改正刑事訴訟法の特質	岡田 庄作〔法治〕大一一	七八

新刑訴の姦通罪其の他との關係

刑事訴訟法案を評す	上田恒三郎〔臺法〕大二一	九
日本刑事訴訟法史論	大谷忠四郎〔新聞〕大一一	一九九
新刑事訴訟法の特徴	花井 卓藏〔新報〕大二三	一
新刑事訴訟法に關する特例	林 頼三郎〔新報〕大二三	一
新刑事訴訟法と告訴權の拋棄	三好 一八〔臺法〕大三八	二
刑事訴訟法史論	林 頼三郎〔新報〕大三三	五
新刑事訴訟法と新聞記事	花井 卓藏〔臺法〕大三八	六
新刑事訴訟法に就て	富岡 重雄〔法新〕大三	一五六
新刑事訴訟法の要綱	淺野豐三郎〔新聞〕大三	二〇三
新刑事訴訟法の實施に就て	林 頼三郎〔新聞〕大三	二〇六
新法實施の効果如何	齊藤 巖〔新聞〕大三	二〇九
日本新刑事訴訟法と獨逸新陪檢規定に就て	不破 清警〔新聞〕大三	二二五
刑事訴訟法の改善歎改惡歎	小南又一郎〔新聞〕大三	二二五
新刑事訴訟法の實績	播磨 龍城〔新聞〕大三一	二七〇
刑事訴訟法の解釋	岸井 辰雄〔辯協〕大四二	一
塊太利刑事訴訟法改正案に就て	板倉松太郎〔法政〕大四三	五
獨逸に於ける刑事訴訟法改正	山岡萬之助〔新聞〕四四	一六五

正の委員會決議の要領  
獨逸に於ける刑事訴訟法改正運動の經過並に其改正の主要點の一たる裁判所構成問題に對する草案規定の理由  
ドイツ新刑事訴訟法草案に就て

【刑事統計】

刑事統計報告	中川孝太郎〔法協〕四三	七號
佛國刑事統計の話	武田鬼十郎〔法記〕大六二	二
本邦民刑事統計に就て	小野清一郎〔志林〕大二二	六八
萬國統計會議決議刑事統計調査法	ケイ ジ トウ ケイ 参照 犯罪統計。	
獨逸帝國刑事裁判統計調査法	相原 重政〔統集〕四三七	二七五
伊國刑事統計の組織及刑事統計國際比較の困難に關するエル・ボジオ氏の報告	高橋 二郎〔統集〕四四一	三三三
刑事統計の研究と新刑法の運用	牧野 英一〔志林〕四四二	一

【藝術】

獨逸の刑事統計に就て	谷田 三郎〔刑評〕四四	二七
刑事統計の特質	光岡 安藝〔刑評〕四四	三八
藝術上の犯人	小杉 天外〔刑評〕四四	二
藝術の企業化に就て	岡田 重次〔國經〕大元	三
藝術と經濟	阿部 秀助〔三學〕大八一	一〇
文藝の官營	權田保之助〔國家〕大八三	六
勞働の藝術化	森戸 辰男〔國家〕大八三	一
ウキリアム・モリスの文明觀と藝術觀と勞働觀	河田 嗣郎〔經叢〕大九一	一
民衆藝術の一考察	横山 有策〔我等〕大一一	一
藝術と藝術的人生觀	大山 善男〔我等〕大一一	二
藝術と道德(講演)	石丸 悟平〔法政〕大一一	九
社會政策より見たる藝術	圓谷 弘〔法政〕大五二	二
刑事略式手續法論	岡田 庄作〔國國〕大二一	五七
刑事略式手續法論	篠崎 昇〔志林〕大二一	六七
刑事略式手續諸問題	豐島 直通〔法協〕大二三	九
刑事略式命令に就て	高木 國尙〔新聞〕大二一	八五
刑事略式手續法に就て	駒澤 辰明〔新聞〕大二一	八六

【刑事訴訟法】 【刑事統計】 【藝術】 【刑事略式手續】







の關係を論ず	横山勝太郎〔辯協〕大一一六	年卷	一七〇
執行猶豫の全廢と譴責刑の新設を提案す	長岡 熊雄〔新聞〕大一一		九二〇
刑の執行猶豫の條件として	牧野 英一〔志林〕大三一六		九
の禁酒	不破 清警〔新聞〕大三一		九二五
贊執行猶豫廢止論	山岡萬之助〔新報〕大四二五		六
執行猶豫言渡の取消と禁錮以上の處刑	山岡萬之助〔新聞〕大四一〇		一〇一〇
刑の執行猶豫に就て	大場 茂馬〔新報〕大六二七		九
刑の執行猶豫を論ず	東川 徳治〔京法〕大七一三		二
支那法と刑の執行猶豫	津田 進〔法記〕大八二九		二一
刑の執行猶豫を論ず	津田 進〔志林〕大八二二		四
上訴と刑の執行猶豫	島村他三郎〔新報〕大〇三二		四
刑の執行猶豫の言渡と免官處分との關係	ケイ		
【刑罰】	バツ		
參照  感化院。監獄。刑の執行猶豫。刑法。犯罪。			
ダルク氏行刑論抄譯	小山 松吉〔法記〕四二九		五九
行刑論	小河滋次郎〔法政〕四三		三八
コックス「刑罰の本領」	仲小路 廉〔法記〕四三〇		一〇四
(譯)	岡 實〔新報〕四三二		七
懲戒及刑罰に就て	岡 グラニエー〔新聞〕四三		七
刑罰に關する新學說に就て			
舜帝の刑法に於ける刑の發達	田能村梅士〔明法〕四三六		六二
刑の觀念に關する研究	鶴澤 總明〔辯協〕四三九		一〇九
刑期に關する所見一斑	菱谷 精吾〔法記〕四四〇		一〇九
國家刑罰權の目的	川島 仟司〔辯協〕四四〇		一〇九
刑罰權の真正基礎	フランク〔明學〕四四〇		一〇九
刑罰權の社會的基礎	樋口 秀雄〔明學〕四四〇		一〇九
性相學上の刑罰を論ず	播磨 龍城〔明學〕四四〇		一〇九
原始の刑罰觀念	鶴澤 總明〔明學〕四四〇		一〇九
課刑學に就て	ホイス〔新聞〕四四〇		一〇九
新刑法と刑罰個別論	牧野 英一〔法記〕四四〇		一〇九
刑罰權の觀念	松野 祐裔〔刑評〕四四〇		一〇九
應報刑論	鶴澤 總明〔刑評〕四四〇		一〇九
復讐刑論	鶴澤 總明〔刑評〕四四〇		一〇九
善良の風俗と目的刑	牧野 英一〔志林〕四四〇		一〇九
應報刑と保護刑	小竹 早雄〔國家〕四四〇		一〇九
年賀と目的刑主義	鞍 嶺子〔志林〕四四〇		一〇九
社會初期の刑罰	鶴澤 總明〔刑評〕四四〇		一〇九
刑罰の社會的效果に就て	樋口 秀雄〔刑評〕四四〇		一〇九
蒙古の刑罰	佐々木安五郎〔刑評〕四四〇		一〇九
刑罰論	レックス〔刑評〕四四〇		一〇九
倫理學者の觀たる刑の目的	藤井健治郎〔刑評〕四四〇		一〇九
刑の目的	横山勝太郎〔辯協〕四四〇		一〇九

性相學上犯罪及刑罰觀	播磨 龍城〔新聞〕四四〇		一〇九
刑罰の目的を論ず	岡田 庄作〔刑評〕四四〇		一〇九
性と刑	花井 卓藏〔辯協〕大元一六		一六九
刑罰の目的	大場 茂馬〔評論〕大元一		一
ブルク・マイヤー「ドクトル・ヨハン・テイレン氏論「刑法改正の主義第一刑罰の社會的任務刑罰組織」に就ての評論」(譯)	岡田 庄作〔志林〕大元二七		二二
刑罰と保安處分とに就て	牧野 英一〔志林〕大元二五		九
罪と罰	花井 卓藏〔新報〕大元二二		一〇
犯罪の主觀主義と刑罰の主觀主義	牧野 英一〔志林〕大元二五		一〇
性と刑	花井 卓藏〔國國〕大元一〇		一〇
法無ければ刑なし	武田鬼十郎〔法記〕大元二二		二二
取締と刑罰	市村 富久〔評論〕大元二二		二二
法なければ刑なしの原則	武田鬼十郎〔新報〕大元二二		二二
法なければ刑なしとの原則	武田鬼十郎〔新報〕大元二二		二二
と我刑法	武田鬼十郎〔新報〕大元二二		二二
刑罰法定主義	牧野 英一〔日社〕大元三一		四一五
刑罰の本義	十時 彌〔日社〕大元三一		四一五
目的刑主義者の主張する刑罰の絶對要素	武田鬼十郎〔新報〕大元二五		三
刑罰の觀念を明かにす	大場 茂馬〔新報〕大元二六		五
刑罰の效力	大場 茂馬〔新報〕大元二六		七
刑罰法上に於ける應報思想と目的觀念	木村 尚達〔法政〕大元二四		一
處罰論	大場 茂馬〔新報〕大元二七		一
處罰の意義及び研究	大場 茂馬〔法政〕大元二四		二
處罰者に對する「刑罰の能作」と「刑罰不感應の理」	谷本 弘二〔國國〕大元二五		五六
刑罰に類似する處分	大場 茂馬〔新報〕大元二七		六七
處罰條件と訴追條件	大場 茂馬〔國國〕大元二五		七
刑罰と保安處分とに就て	池田 重雄〔志林〕大元二九		二二
刑罰法上に於ける豫防思想	木村 尚達〔法記〕大元二七		一〇
罪刑の消滅を論ず	大場 茂馬〔國國〕大元二五		一〇
理想的刑罰	大場 茂馬〔國國〕大元二五		一〇
刑罰法令の遡及效及追及效を論ず	宮本 英脩〔京法〕大元二二		一
現代科學に於ける刑罰問題	南 勝治〔志林〕大元二〇		三六
嚴罰か寛罪か	泉田吉次郎〔新聞〕大元二七		一四七
臺灣人の刑罰感應性と刑量裁定との關係	上内恒三郎〔臺法〕大元二二		二五
罪刑法定主義の歴史的考察	瀧川 幸辰〔法叢〕大元二一		六
刑法の目的と刑罰の目的	杉本 榮次〔臺法〕大元二四		七
一般豫告の爲めの嚴罰論	齋藤 巖〔新聞〕大元二九		一六〇
決定論的應報刑の典型			



ルケルの決定論に就て)	瀧川 幸辰〔法叢〕大〇五	刑罰は必ずしも犯罪者に對するに非ず	松倉慶三郎〔新聞〕大三
ビルクマイヤー「刑罰と保	瀧川 幸辰〔法叢〕大〇五	ベンサムの功利主義的犯罪	永澤 邦男〔法研〕大四
全處分」	瀧川 幸辰〔法叢〕大〇五	及び刑罰觀	寺崎 勝治〔新報〕大四
刑罰の本質としての應報	瀧川 幸辰〔法叢〕大〇五	斷罪の資料としての行刑成	加藤 行吉〔法政〕大四
刑罰とは何ぞや	宮本 英脩〔法叢〕大二	續報告	小野清一郎〔志林〕大四
刑罰の統一の立場から	寺崎 勝治〔法政〕大二	支那古代の刑罰觀念に就て	松倉慶三郎〔新聞〕大四
刑罰の否定と教化的考察	千賀 孝善〔法記〕大二三	公刑罰の成立について	安東 禾村〔法新〕大五
行刑の結果報告に就て	寺崎 勝治〔法記〕大二三	刑罰の廢止と社會政策の振	中根 四郎〔新聞〕大五
家人奴婢の犯罪及び之に科	瀧川政次郎〔志林〕大二三	興	岩野 新平〔法記〕大五
せられたる刑罰	加藤 行吉〔辯協〕大二三	モリス「犯罪學の發達と	花岡 敏夫〔法協〕大二
支那古代の刑罰思想	塚原 太郎〔國知〕大二三	刑罰觀念の變遷」(譯)	花岡 敏夫〔法協〕大二
國際聯盟制度と刑罰制裁問	山名 壽三〔法政〕大二三	刑罰の適用	花岡 敏夫〔法協〕大二
題	松倉慶太郎〔新聞〕大二	法國輕減加重新法	花岡 敏夫〔法協〕大二
米國に於ける刑罰學發展の	松倉慶太郎〔新聞〕大二	酌量減輕と改正刑法草案	花岡 敏夫〔法協〕大二
傾向	松倉慶太郎〔新聞〕大二	伊庭想太郎被告事件を論し	花岡 敏夫〔法協〕大二
刑餘りありて教足らざるな	松倉慶太郎〔新聞〕大二	て酌量減輕の法廷に及ぶ	花岡 敏夫〔法協〕大二
さか	松倉慶太郎〔新聞〕大二	特別宥恕並罪様の列擧に付	花岡 敏夫〔法協〕大二
松倉辯護士の刑餘ありて教	松倉慶太郎〔新聞〕大二	て	花岡 敏夫〔法協〕大二
足らざるなきかを讀んで	松倉慶太郎〔新聞〕大二	關席判決と刑の期滿免除に	花岡 敏夫〔法協〕大二
刑罰は犯罪豫防の手段なり	松倉慶太郎〔新聞〕大二	付き平島氏に質す	花岡 敏夫〔法協〕大二
經驗に基く實地刑罰執行上	松倉慶太郎〔新聞〕大二	刑罰量定の標準と被告人の	花岡 敏夫〔法協〕大二
の提唱	松倉慶太郎〔新聞〕大二		花岡 敏夫〔法協〕大二
刑罰について	松倉慶太郎〔新聞〕大二		花岡 敏夫〔法協〕大二
刑罰の時代的變遷	松倉慶太郎〔新聞〕大二		花岡 敏夫〔法協〕大二

惡性及其特別關係	大場 茂馬〔法記〕四二	刑の執行の時効に就て	齊藤常三郎〔京法〕四三
民事刑事の一概觸問題	飯島 喬平〔法協〕四二	刑の裁量に就て	元田 肇〔刑評〕四三
刑罰の適用に就て	泉二 新熊〔法協〕四二	刑期の量定に對する批評に	平沼騏一郎〔刑評〕四三
量刑の標準と刑期の量定	大場 茂馬〔新報〕四二	就て	池田 直江〔辯協〕四三
舊刑法の刑と新刑法の刑と	大場 茂馬〔新報〕四二	過失犯の拘留と執行猶豫の	今村 正美〔新聞〕四三
の間に併合罪に屬する規	大場 茂馬〔新報〕四二	無視	今村 正美〔新聞〕四三
定を適用する場合	大場 茂馬〔新報〕四二	老年犯罪者に對する科刑に	今村 正美〔新聞〕四三
新刑法第五條削除論	大場 茂馬〔新報〕四二	就て	今村 正美〔新聞〕四三
新刑法第五條に就て	大場 茂馬〔新報〕四二	新舊刑法比照の結果輕き舊	今村 正美〔新聞〕四三
新刑法第六條と新舊刑法の	大場 茂馬〔新報〕四二	法を適用して懲役刑に處	今村 正美〔新聞〕四三
比照	大場 茂馬〔新報〕四二	する場合に新法時代の未	今村 正美〔新聞〕四三
刑法第六條新舊刑法の對照	大場 茂馬〔新報〕四二	決拘留を刑期に通算する	今村 正美〔新聞〕四三
に就て	大場 茂馬〔新報〕四二	ことを得るや	今村 正美〔新聞〕四三
親告罪に對する新舊二法の	大場 茂馬〔新報〕四二	刑の執行に關して余か所信	今村 正美〔新聞〕四三
比照	大場 茂馬〔新報〕四二	を述べ	今村 正美〔新聞〕四三
及川辯護士の所謂新刑法の	大場 茂馬〔新報〕四二	刑法第一四條の適用に就て	今村 正美〔新聞〕四三
疑義に就て	大場 茂馬〔新報〕四二	量刑標準の研究	今村 正美〔新聞〕四三
不動産を沒收することを得	大場 茂馬〔新報〕四二	刑の量定に就きて	今村 正美〔新聞〕四三
るか	大場 茂馬〔新報〕四二	懲役又は贖額二倍以下の罰	今村 正美〔新聞〕四三
未決拘留日數の通算に就て	大場 茂馬〔新報〕四二	金に處すべき場合に於て	今村 正美〔新聞〕四三
刑罰の裁量と賠償的分子	大場 茂馬〔新報〕四二	懲役刑を選択したるとき	今村 正美〔新聞〕四三
刑法第十九條の疑義	大場 茂馬〔新報〕四二	は贖額を判示するの必要	今村 正美〔新聞〕四三
刑の量定標準に關する大審	大場 茂馬〔新報〕四二	なきか	今村 正美〔新聞〕四三
院の判決を讀む	大場 茂馬〔新報〕四二	刑法、比照新舊、從輕處斷	今村 正美〔新聞〕四三



の規則に就て  
量刑の標準  
罪刑の減輕  
量刑の標準を論ず  
現行法に於ける自由刑の執行

岡田朝太郎〔法政〕大六二四	三
大場 茂馬〔法政〕大六二七	七
大場 茂馬〔新報〕大六二七	八
大場 茂馬〔國國〕大六五八	八
泉二 新熊〔新報〕大七二八	一
岡田朝太郎〔志林〕大七二〇	一
山岡萬之助〔法政〕大七一五	一
今井力三郎〔辯協〕大七三三	五
林 賴三郎〔新報〕大九三〇	九
泉二 新熊〔新報〕大九三〇	一〇
新保勘解人〔法政〕大一一三	二
鈴木 英男〔臺法〕大一一六	二
松本助太郎〔臺法〕大一一六	二
杉本 榮次〔臺法〕大一一六	五
泉二 新熊〔新報〕大一一三	一〇
永野 直〔臺法〕大一一六	一〇
新保勘解人〔新報〕大一一三	一〇
正木 亮〔志林〕大一一三	一〇
石橋 信〔新聞〕大一一三	一〇
正木 亮〔法政〕大一一三	二六
正木 亮〔法曹〕大一一三	二六

關東州阿片令に就て科刑不當改正を要す  
累進制度に關する考察  
刑の量定の基調  
刑罰の種類  
刑法第二七條に就ての意見  
過料の性質を論ず  
減死刑論  
死刑の沿革  
刑法改正案第一編第二章第一節に於て  
現行刑法中監視制度に就て  
監視制度に就て  
北米エルマイラ監獄に於ける不定期刑に就て  
監視期間の起算點に於て  
監視期間の起算點を論ず  
狩獵法と沒收に就て  
臺灣管刑例に就て  
小河氏著管刑論を讀む  
臺灣に於ける管刑處分例を評す  
酒類密造借用物件沒收の大

小野 實雄〔新聞〕大一一三四	一
正木 亮〔臺法〕大一一三五	一
泉二 新熊〔法曹〕大一一五	三
杜陵 山人〔新報〕大一一三	三
三宅 長策〔新報〕大一一三	三
長島鷲太郎〔新報〕大一一三	三
卜部喜太郎〔新報〕大一一三	五
名村 伸〔法協〕大一一九	三
藤本 充安〔法協〕大一一九	四
名村 伸〔新聞〕大一一九	四
小河滋次郎〔法政〕大一一五	四
小田幹治郎〔志林〕大一一五	四
平島直太郎〔志林〕大一一五	四
伊藤 喜八〔新聞〕大一一五	一〇七
小河滋太郎〔法協〕大一一三	四
鈴木 宗言〔法協〕大一一三	六
花井 卓藏〔辯協〕大一一三	八

審院判決に就て  
小河氏著管刑論を讀む  
主刑の一種としての監獄制度  
贓物の意義  
沒收刑執行に對する一大疑義  
不定期刑の制度に就て  
沒收刑に就て  
沒收の範圍に就て  
小崎先生の教を仰ぐ  
死刑に就て  
死刑の存廢に就て  
新刑法無期刑論  
死刑廢止論  
無期刑廢止論  
死刑廢止の實例  
死刑存廢論  
選擇刑とは何ぞや  
不定期刑に於て  
罰金、科料の徵收と詐害行為  
差別刑論

福田 一覺〔新聞〕大一一九	一
鈴木 宗言〔新聞〕大一一三	一
西山 廣業〔新聞〕大一一三	一
赤羽乙二郎〔新聞〕大一一三	一
奥戶善之助〔新聞〕大一一三	一
小河滋次郎〔法協〕大一一三	一
小崎 傳〔新聞〕大一一三	一
二木 清夫〔新聞〕大一一三	一
寺崎 勝治〔新聞〕大一一三	一
勝本勘三郎〔京法〕大一一三	一
勝本勘三郎〔志林〕大一一三	一
花井 卓藏〔新報〕大一一三	一
花井 卓藏〔新報〕大一一三	一
花井 卓藏〔辯協〕大一一三	一
小河滋次郎〔明學〕大一一三	一
野田 保規〔新聞〕大一一三	一
佐々木鐵藏〔新聞〕大一一三	一
牧野 英一〔志林〕大一一三	一
谷田勝之助〔新聞〕大一一三	一
鶴澤 總明〔刑評〕大一一三	一

私刑に就て  
沒收を論ず  
死刑小感  
選擇刑の性質を論ず  
沒收刑の性質及び效力  
沒收論  
拷問制度の沿革  
死刑の刑事政策上の價值  
刑法總則所謂沒收の目的物に就て  
死刑可否論  
刑法第一四條を適用すべき場合  
拷問の事實取調書の卷頭に辯ず(信州赤穂騷擾事件 檢舉の不法を論ずる也)  
再び拷問取調書の卷頭に題す  
三たび拷問取調書の卷頭に題す  
拷問取調の卷頭に辯ず  
拷問と刑事裁判  
差別刑論  
日本古代法の追放刑論

樋口 秀雄〔刑評〕大一一三	七
阿部文二郎〔刑評〕大一一三	二
花井 卓藏〔刑評〕大一一三	二
山中 靜次〔刑評〕大一一三	四
伊藤藤三郎〔刑評〕大一一三	七
津川彌三郎〔新聞〕大一一三	七
藤田 知治〔刑評〕大一一三	二
吉田 知道〔刑評〕大一一三	二
勝本勘三郎〔志林〕大一一三	九
寺田 四郎〔辯協〕大一一三	一八
淺野豊三郎〔新聞〕大一一三	一八
播磨 龍城〔新聞〕大一一三	一九
播磨 龍城〔新聞〕大一一三	一九
播磨 龍城〔新聞〕大一一三	一九
播磨 龍城〔新聞〕大一一三	一九
石山 彌平〔辯協〕大一一三	一九
鶴澤 總明〔國國〕大一一三	二
三浦 周行〔京法〕大一一三	二



死刑論	大場 茂馬〔新報〕大五二六	八	死刑廢止不可論	神田 終〔臺法〕大五二〇	四
自由刑論	大場 茂馬〔新報〕大五二六	九	象刑とは何ぞや	東川 徳治〔志林〕大五二八	五
譴責刑の歴史的發達	岡田 庄作〔志林〕大六一九	一三	月極め刑	大森 洪太〔新聞〕大五一	二四九
刑事訴訟法改正の根本義と幕府の拷問制度	播磨 龍城〔國國〕大六五	三	ケイ	參照 監獄。刑事訴訟法。刑の執行豫備。刑罰。治安維持法。犯罪。	
國民思想の上より觀たる極刑の弊害	太田 資時〔辯協〕大六二	三	ホウ		
明治初年の拷問制度と其弱點	播磨 龍城〔國國〕大六五	六	法	バルノステロ〔法協〕四二四	九
沒收を論ず	津田 進〔法記〕大六七	九	正を要する議	井上 毅〔國家〕四二四	五
沒收の效力を論ず	津田 進〔法記〕大六七	九	刑法改正私考	片山 國嘉〔法記〕四二八	五
死刑廢止論者の一典型	瀧川 幸辰〔法叢〕大八二	四	國際刑法一斑	寺尾 亨〔國家〕四二九	一〇六
答刑可否論	三好 一八〔臺法〕大八二	四	現行刑法解釋卑見	勝本勘三郎〔法協〕四三〇	一五
不定期刑とは何ぞ	泉二 新熊〔新報〕大八二	九	刑法草案に就て	横田 國臣〔法協〕四三一	一六
死刑拷問など(ベツカリアとナタレの見解に就て)	瀧川 幸辰〔法叢〕大九四	二	再び刑法全部改正の非を論ず	岸本 辰雄〔明法〕四三三	一五
民族待遇と答刑廢止	谷野 格〔臺法〕大一一五	一	富井博士の刑法改正案賛成	富井 政章〔新聞〕四三四	一八
無期刑論	花井 卓藏〔評論〕大一一〇	八	説を讀む	梅 謙次郎〔志林〕四三四	三
死刑に就ての雜筆	牧野 英一〔志林〕大一一〇	二	刑法改正案	飯田 宏作〔志林〕四三四	三
不定期刑と刑罰、保安處分の併用	豐島 直通〔法曹〕大一二二	三	刑法改正案に關する管見	鶴澤 總明〔新聞〕四三四	三
苦使といふ罰に就いて	瀧川 政次郎〔志林〕大一二二	二	改正刑法草案を難す	鶴澤 總明〔法政〕四三四	五
死刑廢止一考	高山 和雄〔辯協〕大一二二	二	清浦氏の刑法改正意見を讀む	岸本 辰雄〔新聞〕四三四	一八
差別刑論と獨逸新刑法草案	鶴澤 總明〔正義〕大一二二	三		富井 政章〔新聞〕四三四	一八

刑法非改正論の一節に付き	岡田朝太郎〔新聞〕四三四	一九	念に及ぶ	牧野 英一〔志林〕四四〇	九
岸本法律學士に質す	岡田朝太郎〔新聞〕四三四	一九	新刑法と裁判官	勝本勘三郎〔志林〕四四〇	九
刑法改正反對論	岡田朝太郎〔新聞〕四三四	二〇	刑法改正案批評	鶴澤 總明〔新聞〕四四〇	九
刑法非改正論を評す	岡田朝太郎〔新聞〕四三四	二〇	刑法改正案評論	藤澤茂十郎〔新聞〕四四〇	九
岡田學士に答へ併せて質す	岸本 辰雄〔新聞〕四三四	二二	新刑法に就て	河西 博文〔新聞〕四四〇	一〇
岡田君に	岡田朝太郎〔新聞〕四三四	二二	刑法上の新舊兩學派を評して改正刑法に及ぶ	勝本勘三郎〔新報〕四四一	一一
再び刑法改正順序に付き	岡田朝太郎〔新聞〕四三四	二二	刑法改正案理由	松本銀次郎〔法政〕四四二	一一
刑法改正に關する意見	河原榮次郎〔新聞〕四三四	二三	改正刑法管見	勝本勘三郎〔京法〕四四二	一三
刑法改正案第一七二條の兌換券に就て	岡田朝太郎〔新聞〕四三四	二五	新刑法と不成文刑法	大場 茂馬〔法政〕四四二	一七
刑法改正案を難す	鶴澤 總明〔新聞〕四三四	二五	新刑法の實施に就て(時事刑法觀)	小崎 傳〔法政〕四四二	二〇
刑法改正案に付て	岡田朝太郎〔明法〕四三五	三〇	新刑法に於ける罰刑法定主義	牧野 英一〔法協〕四四二	二六
刑法改正案と國際刑法	山口 弘一〔明法〕四三七	一	義	牧野 英一〔國家〕四四二	三三
犯罪進化和刑法の解釋	泉二 新熊〔法協〕四三八	九	新刑法實施に付て希望	今村恭太郎〔辯協〕四四二	三三
民法と刑法との關係	磯邊 四郎〔辯協〕四三九	一〇	國法上より觀たる新刑法	佐々木惣一〔京法〕四四二	三三
刑法改正案と海賊の處罰	山田 三良〔法協〕四三九	二二	改正刑法管見	勝本勘三郎〔京法〕四四二	三三
民法と刑法との關係	富田 山壽〔京法〕四三九	二二	刑法時事觀	牧野 英一〔法協〕四四二	二七
刑法改正案の要點	富井 政章〔新聞〕四四〇	三	刑法に就て	穂積 陳重〔刑評〕四四二	二
民法と刑法との關係	鳩山 秀夫〔志林〕四四〇	九	第十九世紀に於ける刑事立法の發達	リスト〔國家〕四四二	三
改正刑法の大體に付て	勝本勘三郎〔京法〕四四〇	二	現行刑法に於ける國際上の疑問	大場 茂馬〔國際〕四四二	八
民事責任と刑事責任との差異を論じて刑法の基礎觀					



新刑法の運用	三浦英五郎〔刑評〕四四二	一	三
舊刑律と新刑法	泉二 新熊〔法協〕四四二	二七	四
刑法の立法事業	横田 國臣〔刑評〕四四二	一	四
新刑法と時代思想	河上 肇〔日經〕四四二	五	一〇
刑法適用一斑を讀む	吉田平治郎〔新聞〕四四二	一	五
新刑法に就て	富井 政章〔東經〕四四二	五九	一四
世界最新の刑法草案	大場 茂馬〔新聞〕四四二	一	六
新刑法の例示規定に就て	宮島 次郎〔辯協〕四四二	一三	一四
新刑法と豫審	新井要太郎〔辯協〕四四二	一三	一七
刑法運用の一大變調	小山五郎一〔辯協〕四四二	一三	一三
新刑法の運用に就て	富井 政章〔刑評〕四四二	一	一
新刑法の効果	木名瀬禮助〔刑評〕四四二	一	一
刑法時事觀	牧野 英一〔法協〕四四二	一	一
松田前法相と刑法	菊池 武夫〔刑評〕四四二	一	一
老刑法と老犯人	花井 卓藏〔新報〕四四二	一〇	一
最近三大刑法案に就て	泉二 新熊〔志林〕四四二	一	一
刑法の經世觀	花井 卓藏〔新報〕四四二	一	一
刑事立法政策	勝本勘三郎〔新報〕四四二	一	一
刑事法の活用	卜部喜太郎〔新報〕四四二	一	一
加藤清正の法度書と新刑法	鈴木 天眼〔刑評〕四四二	一	一
の精神	池邊 義象〔京法〕四四二	一	一
大寶令の刑法			

刑法と慣習法	富田 山壽〔刑評〕四四二	一	二
刑法運用の現状	花井 卓藏〔新聞〕四四二	一	七
新刑法實施の結果に就て	谷田 三郎〔法記〕四四二	一	二
刑事立法の變遷に就て	勝本勘三郎〔志林〕四四二	一	四
刑法と正義觀念	大場 茂馬〔評論〕四四二	一	一
新刑法の主義	山岡萬之助〔法記〕四四二	一	一〇
刑法實施の効果	植松 金章〔辯協〕四四二	一	一七
ヨハン・テイレン氏論			
刑法改正の主義第一刑罰			
の社會的任務刑罰組織			
に就ての評論	岡田 庄作〔志林〕四四二	一	一
刑法と社會性の發展	天野 德也〔評論〕四四二	一	一
我刑法は最優良の刑法か最	大場 茂馬〔新報〕四四二	一	一
劣惡の刑法か	牧野 英一〔志林〕四四二	一	一
刑法の解釋方法に就て			
法なければ刑なしとの原則			
と我刑法	武田鬼十郎〔新報〕四四二	一	一
佛敎の正法律(二千五百年	花井 卓藏〔辯協〕四四二	一	一
前の法律特に刑法)			
刑法上に於ける目的思想に	武田鬼十郎〔新聞〕四四二	一	一
付て			

刑法の補助科學の教育	寺田 精一〔志林〕四四二	一	一
刑法に於ける主觀主義の演			
用と其の制限	牧野 英一〔志林〕四四二	一	一
我神代の刑法	澤田順次郎〔國國〕四四二	一	一
徳川刑法の論評	中田 薫〔志林〕四四二	一	一
世界の刑法	岡田朝太郎〔志林〕四四二	一	一
刑法に於ける危險性	山岡萬之助〔法政〕四四二	一	一
刑法の演習問題	小野清一郎〔志林〕四四二	一	一
戦前及戦後に於ける刑法の			
社會的任務	小野清一郎〔志林〕四四二	一	一
刑法の根本觀念	宮本 英脩〔法論〕四四二	一	一
不孝歟不幸歟道德刑法の根			
本問題	播磨 龍城〔新聞〕四四二	一	一
日本刑法の主義	不破 清警〔新聞〕四四二	一	一
羅馬尼一刑法學者の日本刑			
法評	寺田 四郎〔志林〕四四二	一	一
犯罪及び刑法の社會的及び			
進化的意義	牧野 英一〔志林〕四四二	一	一
刑法に於ける進化的精神	大塚 郷二〔志林〕四四二	一	一
刑法の目的と刑罰の目的	杉本 榮次〔臺法〕四四二	一	一
理論及實施に於ける民法及			
刑法	石崎皆一郎〔臺法〕四四二	一	一
刑事學の新思潮と新刑法を			
讀む	山本 龜市〔志林〕四四二	一	一

刑法の實證論的改正の企	牧野 英一〔法協〕四四二	一	二
刑法の解釋と主觀主義	牧野 英一〔志林〕四四二	一	一〇
刑事法に關する研究	鷗澤 總明〔辯協〕四四二	一	一七
刑法惡きか法官其人なき			
か	緒方 清繼〔臺法〕四四二	一	二
第四十五議會通過の新法律			
と刑法典	泉二 新熊〔法政〕四四二	一	一
刑法の改正に就て	岡田朝太郎〔法政〕四四二	一	一
刑法上の孝道觀	長岡 熊雄〔新聞〕四四二	一	一
刑法今後の趨勢に就て	草野 一郎〔新聞〕四四二	一	一
國家社會的共存生活の規準			
の爲否我が刑法の爲めに	播磨 龍城〔新聞〕四四二	一	一
科學の使命と刑法	安平 政吉〔法曹〕四四二	一	一
刑法に於ける社會防禦と階			
級防禦	大塚 春富〔辯協〕四四二	一	一
最近刑法上の諸問題	清水 鼎良〔法曹〕四四二	一	一
三箇の問題	牧野 英一〔志林〕四四二	一	一
本邦固有刑法の特色	泉二 新熊〔法新〕四四二	一	一
新理想主義刑法論の提唱	島田 武夫〔法新〕四四二	一	一
刑法に於ける正義	小野清一郎〔志林〕四四二	一	一
無政府主義と刑法	豊島 直通〔法曹〕四四二	一	一
小題三則	牧野 英一〔志林〕四四二	一	一
刑法一大改正評論	不破 清警〔新聞〕四四二	一	一
各國の刑法改正事業一瞥	小齋甚治郎〔正義〕四四二	一	一







時に關する刑法の施行力の  
範圍を論ず

刑法解釋の基礎及要點  
刑法第六條に付きて

刑 法 學

刑法進化主義

刑法學理の一新

刑法學理の一新

第八回萬國刑法學會記事

刑法學の施行の學說に就て

刑法新派の基礎を論ず

ベツカリアの經歷及其學說  
の概要

刑法上の新舊學派を評して

改正刑法に及ぶ

刑法理論に於ける舊派新派  
及び最新派となる今の通  
理

クラシツク學派の主張とゾ  
チオロヂツチエ學派の主  
張の異同

牧野助教授著「刑事學の新  
思潮と新刑法」を讀む

柿原 武雄〔法記〕	四五三	六
大場 茂馬〔新報〕	大九三	九
大場 茂馬〔法協〕	大九三〇	一〇
花村 美樹〔朝司〕	大二一	七
穂積 陳重〔法協〕	四二〇	五
富井 政章〔法協〕	四二四	九
富井 政章〔國家〕	四二四	五
富井 政章〔法記〕	四三〇	九
淺見倫太郎〔新聞〕	四三六	一
牧野 英一〔志林〕	四三七	六
古賀 廉造〔志林〕	四三八	八
勝本勘三郎〔新報〕	四四一	二
大場 茂馬〔新報〕	四四二	四
大場 茂馬〔法記〕	四四二	五
吉野 作造〔國家〕	四四三	八

刑事三學派に就て  
保護刑主義の代表者たるリ  
スト氏と應報刑主義の代  
表者たるビルクマイヤー  
氏と論争を批評して我刑  
法の規定に及ぶ

大場茂馬氏の刑法各論を讀  
む

刑 法 學

大場氏の刑法各論に對する  
某判事の論評を讀む

黒田如水の刑法觀

刑事舊學派の主張

泉二學士の日本刑法論の一  
節を讀む

刑法學及び其補助科學

刑法新派の要領及び之に對  
する評論

刑法俗論を讀む(附予の懺  
悔と冀望)

現代に於ける刑事法學の思  
潮に就て

憲法の精神と背馳する帝大  
教授法學士牧野英一君の  
刑法論

山岡萬之助〔法記〕	四四三	二
勝本勘三郎〔京法〕	四四三	五
在長野利事某〔新聞〕	四四三	一
本郷 藍七〔新聞〕	四四三	一
福本 日南〔刑評〕	四四三	三
山岡萬之助〔刑評〕	四四三	三
河井善太郎〔新聞〕	四四四	一
大場 茂馬〔評論〕	四四四	一
大場 茂馬〔法記〕	四四三	九
村瀬 孝文〔新報〕	四四三	九
原 夫次郎〔志林〕	四四三	一〇
天野 德也〔新聞〕	四四三	九

道義の準則と背馳する刑法  
論

最近十五年間に於ける刑法  
學の變遷

豫防主義を批評す(講演)

刑法學の任務及び方法

チエザレ・ベツカリアとト  
マンナタレ(刑法學の先  
驅者)

心理強制主義と意思の自由  
舊學派より見たる新學派ビ  
ルクマイヤー「リスト氏  
は刑法に何を殘すか」解  
說)

刑法法理と刑事政策

故獨外相ラテナウ氏の刑法  
未來觀

タルドの刑事社會學と刑法  
二人の刑法學者の思出

國際刑法協會の大會

刑法的觀察と私法的觀察

刑法各論の對象及び方法に  
就て

刑法主觀主義に對する疑惑

天野 德也〔新聞〕	大三	一
牧野 英一〔新聞〕	大四	一〇〇〇
大場 茂馬〔日社〕	大四	二三四
山根 要治〔志林〕	大八二	三
瀧川 幸辰〔法叢〕	大九四	一
瀧川 幸辰〔法叢〕	大九四	三
瀧川 幸辰〔法叢〕	大九四	一
岩井 尊文〔新聞〕	大二〇	一九八
宮本 英脩〔法叢〕	大二一	八
風早八十二〔國家〕	大二三	七
瀧川 幸辰〔法叢〕	大二三	一
大塚 郷二〔志林〕	大二四	七
島田 武夫〔法政〕	大二三	一
小野清一郎〔志林〕	大二五	三
坂本 英雄〔法曹〕	大二五	三六

【刑法施行法】

新刑法施行法第六條第一號  
の場合に併合の規定に依  
る理由

刑法施行法第六條の解釋

刑法施行法に就て

刑法施行法第八條と刑法第  
二一條との關係

果して刑法施行法の缺點な  
るか

刑法施行法第五八條につい  
て

刑法施行法第一九條により  
刑名を變更せられたる他  
の法律と新舊法の比照に  
付て

再び遠藤博士の垂教を仰ぐ

山内檢事の刑法施行法第一  
九條刑法第二五條に由る  
新舊法の比照に付ての論  
説を評す

遠藤 源吉〔新報〕	四四一	八
遠藤 源吉〔法政〕	四四一	八
淺野豊三郎〔新聞〕	四四一	九
遠藤 源六〔明學〕	四四一	一三
山内牧二郎〔新聞〕	四四一	九
山内牧二郎〔新聞〕	四四一	九
瓊浦 學人〔新聞〕	四四一	五〇九
山内牧二郎〔新聞〕	四四一	五〇九
山内牧二郎〔新聞〕	四四一	五〇九
山内牧二郎〔新聞〕	四四一	五〇九
鈴木 生〔新聞〕	四四一	五〇九